

# 性に関する指導の手引

\*\*\*令和5年3月改訂\*\*\*

和歌山県教育委員会



## はじめに

近年、情報化の進展に伴い、インターネット上で性に関する情報が氾濫するなど、児童生徒を取り巻く環境が大きく変化しており、性に関する現代的な課題についても、性感染症や人工妊娠中絶に加え、児童生徒が性犯罪・性暴力の被害者となる事件が増加しています。

このような状況を踏まえ、県教育委員会では、学校における性に関する指導を「生命（いのち）の教育」として重要な位置付けと捉え、児童生徒がいずれ直面する性に関する諸課題に対して正しい知識を習得するとともに、適切に意思決定や行動選択できる力を身に付けることを目的に、平成18年度に発行した「和歌山県性に関する指導の手引」の改訂を行いました。

改訂に当たっては、「性に関する指導の手引作成委員会」を設置し、本県のすべての子供たちが、自分を大切な存在であると認め、他人を思いやることができるようになることを願い、各委員から貴重な意見をいただきながら進めてまいりました。

本手引は、指導者の得手、不得手や経験に左右されることなく、すべての教職員が性に関する指導や対応ができるよう「基礎編」と「実践編」で構成しており、「基礎編」については指導や対応を行う教員が知っておくべき知識を掲載し、「実践編」については学習指導要領で示された内容に基づいて作成しています。

性に関する指導は、保健体育科教諭や養護教諭等特定の教員のみが行うものではなく、全教職員が共通認識を図り、学校教育活動全体を通じて推進していくものです。

各学校においては、本手引を活用し、学習指導要領に示されている内容をすべての児童生徒に確実に指導するとともに、家庭や関係機関等とも連携を図りながら、性に関する指導の充実に努めていただくようお願いします。

結びに、本手引の作成に当たり御尽力いただきました委員並びに関係の皆様へ深く感謝の意を表します。

令和5年3月

和歌山県教育委員会

## はじめに

### 基礎編

I	改訂の経緯	1
II	性をめぐる現状	
1	性感染症について コラム セクシャル・コンセント（性的同意）	2
2	妊娠・出産について コラム 晩婚化及び晩産化の進展	6
3	性被害・性暴力等について	10
4	性の多様性について コラム ICD-11では「性同一性障害がなくなる!？」	16
5	女性アスリートに関する課題	20
III	学習指導要領における性に関する指導の取扱い	
1	学習指導要領における位置付け	22
2	学習指導要領に基づく指導の工夫	27
IV	学校における性に関する指導の基本的な考え方	
1	性に関する指導の意義	28
2	性に関する指導において主に育成を目指す資質・能力	28
V	学校における性に関する指導の進め方	
1	学校における性に関する指導の推進体制	29
2	全体計画の作成	30
3	性に関する指導を進める上での留意点	32
4	外部講師を活用した性に関する指導の進め方	34
5	家庭・地域・関係機関との連携	36

### 実践編

#### 小学校

指導事例 1	第3学年	体育科	健康な生活	47
指導事例 2	第6学年	体育科	病気の予防	51
教科等横断的な指導の工夫				56
指導事例 3	第1学年	特別活動	せいけつな体	57
指導事例 4	第4学年	体育科	体の成長とわたし	60
教科等横断的な指導の工夫				67
指導事例 5①	第4学年	特別活動	こんにちはわたしたちの思春期（男女共通）	70
指導事例 5②	第4学年	特別活動	こんにちはわたしたちの思春期（男子編）	73
指導事例 5③	第4学年	特別活動	こんにちはわたしたちの思春期（女子編）	76
指導事例 6	第5学年	体育科	心の健康	79
教科等横断的な指導の工夫				83
指導事例 7	第6学年	特別活動	いろいろな性について知ろう	84
指導事例 8	第5学年	体育科	けがの防止	87
教科等横断的な指導の工夫				91
指導事例 9	第2学年	特別活動	自分の体を守ろう	92

中学校

指導事例 1 ①	第 1 学年	保健体育科	生殖に関わる機能の成熟	97
教科等横断的な指導の工夫				101
指導事例 2	第 1 学年	保健体育科	欲求やストレスへの対処と心の健康	103
教科等横断的な指導の工夫				110
指導事例 3	第 1 学年	特別活動	思春期の不安や悩み	111
指導事例 1 ②	第 1 学年	保健体育科	生殖に関わる機能の成熟	116
指導事例 4	第 2 学年	保健体育科	交通事故等による傷害の防止	120
教科等横断的な指導の工夫				124
指導事例 5	第 2 学年	特別活動	性情報への対応・性犯罪被害の防止	126
指導事例 6	第 3 学年	保健体育科	エイズ及び性感染症の予防	131
教科等横断的な指導の工夫				135
指導事例 7	第 3 学年	特別活動	自分らしく・共に生きる	136
教科等横断的な指導の工夫				140

高等学校

指導事例 1	第 1 学年	保健体育科	エイズ・性感染症	143
教科等横断的な指導の工夫				147
指導事例 2	第 3 学年	特別活動	多様な性について考えよう	148
指導事例 3	第 2 学年	保健体育科	思春期と健康	151
教科等横断的な指導の工夫				155
指導事例 4	第 1 学年	特別活動	よりよい人間関係について考えよう	156
指導事例 5	第 2 学年	特別活動	青年期の欲求と葛藤について話そう	162
指導事例 6	第 2 学年	保健体育科	結婚生活と健康	165
教科等横断的な指導の工夫				174
指導事例 7	第 3 学年	特別活動	生まれる生命について考える	177
指導事例 8	第 3 学年	特別活動	家族のかたちとこれからの人生	182
教科等横断的な指導の工夫				187

特別支援学校

【小学部】

指導事例 1	1 段階	体育科	からだをきれいにしよう	191
指導事例 2	3 段階	体育科	健康や体の変化について知ろう	194
指導事例 3	第 6 学年	特別の教科道徳	大切ないのち	200

【中学部】

指導事例 4	1 段階	保健体育科	思春期の心と体	202
指導事例 5	2 段階	職業・家庭科	家族・家庭生活を考えよう	205
指導事例 6		特別活動	心と体のお悩み相談	208

【高等部】

指導事例 7	1 段階	保健体育科	思春期と健康	211
指導事例 8	2 段階	保健体育科	生涯を通じる健康	214

関係機関	219
------	-----

Q & A	225
-------	-----

参考情報	231
------	-----



# 基礎編





# I 改訂の経緯

## 改訂の趣旨

近年、社会環境の変化や情報化社会の進展に伴い、児童生徒を取り巻く環境が大きく変化している。インターネット上には性に関する情報が氾濫し、様々な情報を容易に入手できるとともに、児童ポルノ事件の検挙件数は年々増加し、SNSに起因する児童買春・児童ポルノ被害児童は令和元年に過去最多となり、依然として高い水準で推移している。

また、若年層のエイズ及び性感染症や人工妊娠中絶も課題となっている。さらに、性的マイノリティへの指導については、学校生活を送る上で正しい理解に基づいて、児童生徒一人一人の心情等に配慮した個別の支援が必要となる。

平成29年及び平成30年に告示された学習指導要領においては、これからの社会を生き抜く児童生徒に求められる資質・能力が、「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱に整理された。また、それらを育成するために、教科等横断的な学習を充実することが求められていると示されている。

これらのことを踏まえ、性をめぐる現状や性に関する指導における重点的な内容、配慮すべき事項等を整理するとともに、三つの資質・能力に基づいた評価や教科等横断的な視点を記載し、平成18年度に発行した「性に関する指導の手引」を改訂することとした。

## 「性に関する指導の手引」の構成

本手引は第1章「基礎編」と第2章「実践編」の2章構成で作成した。

第1章では、教職員が知っておくべき知識として、性をめぐる現状を示した上で、学習指導要領における性に関する指導の取扱い、学校における性に関する指導の基本的な考え方及び全体計画の作成や家庭・地域・関係機関との連携、外部講師を活用した性に関する指導等進め方について示した。

第2章では、小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、特別支援学校における指導事例を示しており、保健体育科及び特別活動における指導事例のほか、教育課程に基づき、関連する教科における性に関する指導の視点を示した。

### <囲み枠解説>

#### ○第1章「基礎編」



学習指導要領



コラム

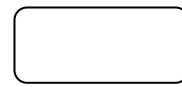


ポイント

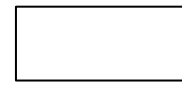
#### ○第2章「実践編」



学習指導要領



ねらい



発問

注) 本手引での小学校という表記には義務教育学校前期課程を、中学校という表記には義務教育学校後期課程を含む。

## II 性をめぐる現状

### 1 性感染症について

小学校：病原体が主な要因となって起こる病気の予防には、病原体が体に入るのを防ぐことや病原体に対する体の抵抗力を高めることが必要であること。

中学校：エイズの病原体はヒト免疫不全ウイルス（H I V）であり、その主な感染経路は性的接触であることから、感染を予防するためには性的接触をしないこと、コンドームを使うことなどが有効であることにも触れるようにする。

高等学校：エイズ及び性感染症についても、その原因及び予防のための個人の行動選択や社会の対策について理解できるようにする。

#### (1) 感染の特徴及び感染経路

性感染症とは、性行為によって感染した人の精液や膣分泌液の他、性器、泌尿器、肛門、口腔等の病原体や分泌液に直接接触することによって起こる感染症を指し、「S T I」（Sexuality Transmitted Infections）や「S T D」（Sexuality Transmitted Diseases）とも呼ばれています。性感染症の病原体（ウイルス、細菌、原虫等）は、主に感染した人の精液、膣分泌液などに存在します。

#### ○性感染症の特徴

★たった一度の性行為でも性感染症に感染する可能性があります。

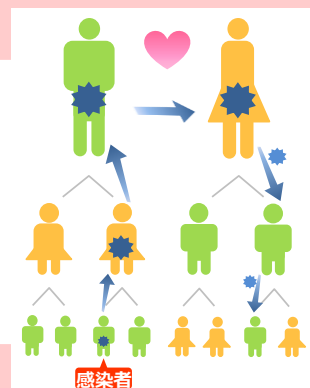
性感染症は、誰でも感染する可能性のある病気です。たった一度の性行為でも感染する可能性があるため、一人一人が予防を心がけ注意深く行動することが大切です。

★性感染症には無症状のものもあります。

性感染症に感染しても、自覚症状が軽かったり、なかったりすることがあります。そのため、感染した人が気付かないままパートナーに感染させてしまうこともあります。

#### ○ピンポン感染

カップルの片方が性感染症にかかった場合、性行為によってパートナーも感染している可能性があります。そのため、本人が治療して治っても、パートナーも治療しなければ、その後の性行為によって再び感染してしまいます。こうしたピンポン玉のやりとりのような繰り返しを防ぐため、どちらかが性感染症と診断され、治療を受けている間は性的接触を控え、二人同時に治療することが大切です。



#### ○垂直感染（母子感染）

垂直感染とは、病原体が母から子に伝播される感染様式のことです。

妊娠中に母親から胎児に胎盤を介して感染したり、分娩時に産道で感染したりすることを垂直感染といいます。このような母から子への感染を予防するために、妊娠時には性感染症の検査を受け、必要があれば治療や出産方法等について、主治医と相談する必要があります。

## (2) 性感染症の予防方法

- ★SAFE SEX（安全な性行為）：今は特定の相手しかいなくても、過去に他の人と性的接触があれば、過去のパートナーからの感染の可能性があります。保健所等で性感染症の検査をし、二人とも感染がないことを確かめておくことが大切です。
- ★SAFER SEX（より安全な性行為）：コンドームを正しく使うことが有効です。
- ★NO SEX（性行為をしない）：不特定多数や見知らぬ相手とは性行為をしないなど、ノーセックスも予防のための選択肢のひとつです。

性感染症は、コンドームを正しく使用することで感染のリスクをかなり減らすことができますが、何より最善の予防方法は、性生活の不明な人や複数のパートナーとの性的接触を避けることです。パートナーとの間だからこそ、コンドームや安全な性行為についてよく話し合うことが大切です。なお、ピルは性感染症の予防に有効ではありません。

## (3) 症状がある場合の対応

症状を認める場合や性感染症の不安がある場合は、速やかに医療機関（泌尿器科、婦人科、皮膚科、性病科等）を受診し、性感染症の原因となっている微生物を調べた上で、種類に応じた抗菌薬や抗ウイルス薬による治療を行う必要があります。2種類以上の性感染症に同時に感染している複合感染も比較的多くみられます。

保健所においても、匿名・無料でHIV等の検査を受けることができます。さらに、保健所では感染しているのではないかといった不安や正しい予防方法が知りたいなど、様々な相談に応じてくれます。

匿名による電話での相談も可能です。

## (4) 主な性感染症

### ○性器クラミジア感染症

性器クラミジア感染症は、女性では無症状である場合もあり、感染していることに気付かない事例も多い性感染症です。放置すると感染が拡大し、腹膜炎や不妊の原因ともなるため、早期発見と早期治療が重要です。クラミジアのり患率については、2002年にピークとなり、その後は減少傾向にあります。

### ○ヒトパピローマウイルス感染症（HPV）

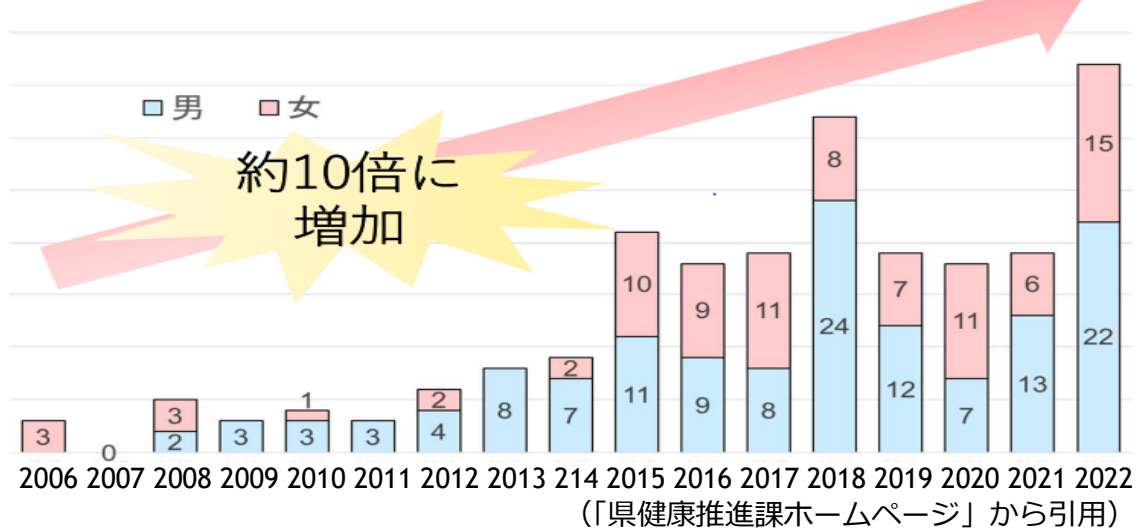
ヒトパピローマウイルス（HPV）感染症は、性経験のある女性であれば50%以上が生涯で一度は感染するとされている一般的なウイルスです。子宮頸がんを始め、肛門がん、膣がんなどのがんや尖圭コンジローマ等多くの病気の発生に関わっています。特に、近年、若い女性の子宮頸がんのり患が増えており、日本では、毎年、約1.1万人の女性がり患し、約2,800人の女性が死亡しています。

HPV感染症を防ぐワクチン（HPVワクチン）は、小学校6年生から高等学校1年生相当の女子を対象に、定期接種が行われています。

## ○梅毒

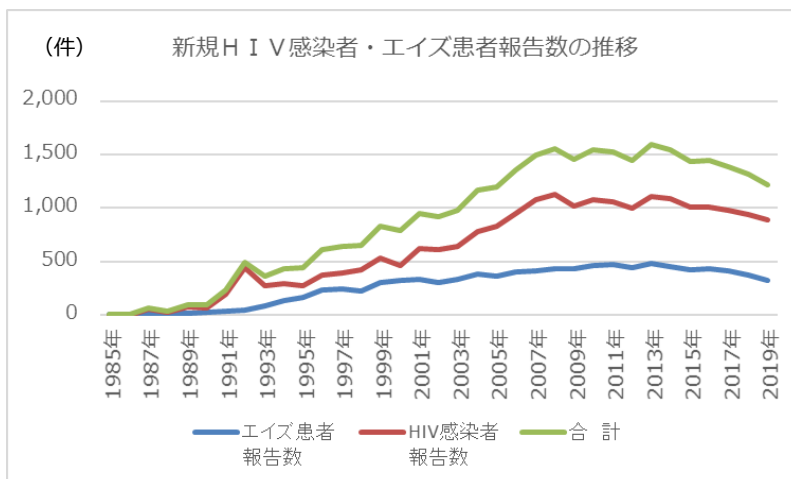
梅毒は過去の病気というイメージがあるかもしれませんが、2010年以降、日本においても感染者数は増加し続けており、中でも、女性は20代、男性は20～40代で多くなっています。感染の第一期には性器に硬い痛みの無いしこりができ、第二期には手足を中心とした全身に小さな赤い斑点が多数出てきます。進行すると様々な症状が出て、重大な後遺症を残すこともあります。梅毒は潜伏期間が長いので、感染の自覚がなく複数人と性行為を行うことで感染者を増やします。

和歌山県の年次別男女別梅毒届出数（2022.12月末まで）



## ○H I V感染

H I Vに感染した場合でも、エイズ発症までは外観上健康な人と変わりはありません。他の性感染症との複合感染から診断されることもあります。現在では、早期発見と適切な治療を続けることでコントロールできる病気になりましたが、未だに誤解や偏見、差別を受けることもあります。日本におけるH I V感染者・エイズ（A I D S）患者の新規報告者数は、2007年以降横ばいの傾向にあります。最近の傾向として、H I V感染者は20～30代の若い世代に多い状況であり、異性間での感染が増加しています。



※ エイズ（AIDS:Acquired Immuno Deficiency Syndrome、後天性免疫不全症候群）とは、HIV（ヒト免疫不全ウイルス）に感染し、治療が行われず、免疫不全という病気に至った状態である。

（「厚生労働省のホームページ」から引用）

## セクシュアル・コンセント（性的同意）

すべての性的な行為において確認されるべき同意をセクシュアル・コンセントといいます。性的な行為への参加には、互いの積極的な意思表示があることが大切です。

セクシュアル・コンセントについて学ぶことで、性的な関係において自分が傷付いたり、相手を傷付けたりせず、互いを尊重し合える関係を築くことができるようになります。

【性的同意における大切な3つのこと】

### ★「No」と言える環境が整っている。（非強制性）

「No」を示すと身の危険を感じる場合の「Yes」は同意を示したことにはなりません。どちらの選択肢も本人の意思で選べる状態が必要です。

### ★社会的地位や力関係に左右されない対等な関係である。（対等性）

関係性によって意思表示しにくい場合があるため、互いに十分な配慮が必要です。

### ★ひとつの行為への同意は他の行為への同意を意味しない。（非継続性）

その都度、行為の一つ一つに同意が必要です。また、途中で気持ちが変わることも尊重されることが大切です。

【セクシュアル・コンセントを尊重する意義】

### ★人間関係を見つめ直すきっかけになる。

同意について意識を向けることは自分と相手の意思の尊重につながります。知らないうちに大切な人を傷付けてしまうことがなくなり、信頼関係を深めることができます。

### ★性暴力の防止になる。

同意のない性的言動は性暴力です。社会全体で同意についての理解が深まると、性について正しい知識を持つ人が増え、性暴力の防止につながります。

### ★性的自己決定権を大切にできる。

自分の意思を尊重することで「自分の体は自分のもの」と大切に思うことができ、これは、妊娠・避妊・出産に関して自由な意思を持てることを指す「リプロダクティブヘルス・ライツ」の概念に通じています。性的な関係においても自分の意思で行為への参加を決めることができます。

### ★被害者への二次被害の防止につながる。

「被害にあわないために露出の高い服装や一人で夜道を歩くことを避けるべきだ」というのは、加害をした側の責任を問わない考えであり、傷付いている被害者に被害の責任を負わせる二次被害になります。その結果、被害者は社会的・心理的ダメージを負うことになります。加害者側の判断を議論することが根本的な解決につながります。

**同意のない性的言動は、すべて性暴力です。**

☞性暴力とは・・・

レイプ

セクシュアルハラスメント

SNS等での性的な嫌がらせ

露出

痴かん

盗撮

避妊具を使わない

**性暴力には、実際に身体に触れるものもあれば、そうでないものも含まれます。**

『あなたらしく大学生活を送るための方法 ～セクシュアル・コンセント・ハンドブック』  
(一般社団法人ちゃぶ台返し女子アクション制作)

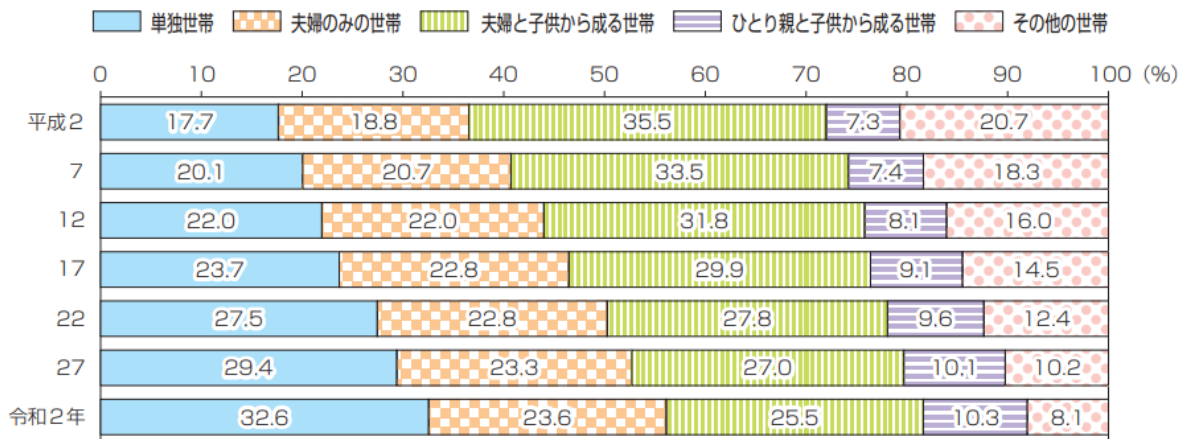
## 2 妊娠・出産について

小学校：体は、思春期になると次第に大人の体に近づき、体つきが変わったり、初経、精通などが起こったりすること、異性への関心が芽生えることについて理解する。  
 中学校：思春期には、内分泌の働きによって生殖に関わる機能が成熟すること。また、成熟に伴う変化に対応した適切な行動が必要となることについて理解する。  
 高等学校：受精、妊娠、出産とそれに伴う健康課題について理解するとともに、健康課題には年齢や生活習慣などが関わることについて理解する。また、家族計画の意義や人工妊娠中絶の心身への影響などについても理解する。

### (1) 妊娠・出産について

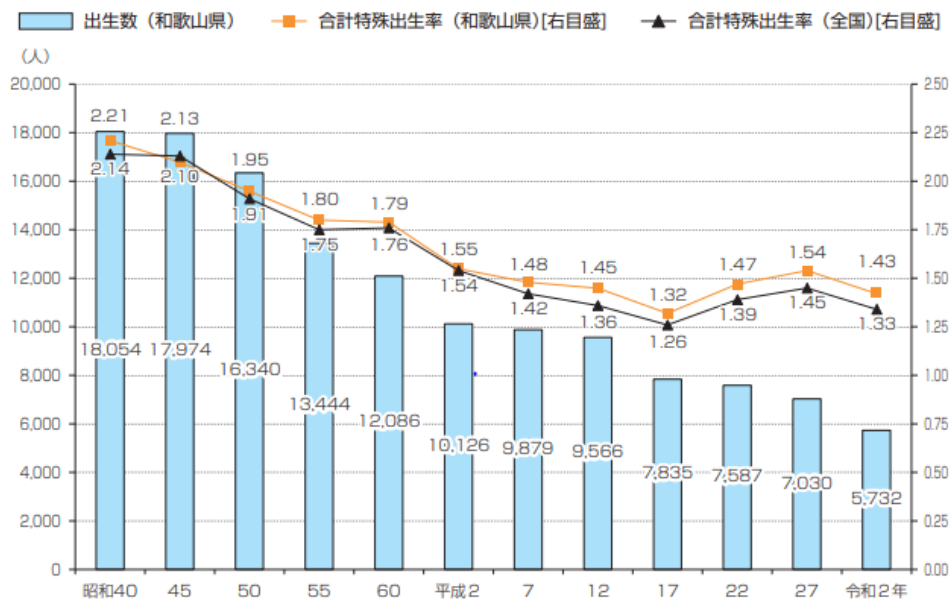
結婚や妊娠・出産は、その時期も含め、個人の自由な意志に基づいて決めることです。希望を実現するための選択肢や年齢による体の変化等について、正しい知識や情報に基づき、それぞれの家庭の事情、夫婦の年齢、健康状態、収入等を考慮し、自分たちが望んだ時に、望まれた子供を生むための家族計画を考えることが大切です。

一般世帯の家族類型別割合の推移（和歌山県）



資料：総務省「国勢調査」

出生数及び合計特殊出生率の推移（和歌山県・全国）



資料：厚生労働省「人口動態統計」

家族として妊娠・出産の準備ができていのかどうかということは子供の健康を守る上でも重要です。このような観点からは「避妊」が選択肢となることがあり、その方法としてはコンドームやピルが考慮されます。避妊に失敗した場合等には、医療機関を受診の上で、性交から服薬まで72時間を超えない間に内服薬で緊急的に避妊する方法が取られることもあります。緊急避妊ピルには、排卵を抑制する、排卵を遅らせる、受精を妨げる、子宮への受精卵の着床を阻止するなどの効果がありますが、着床が完了してからでは効力はなく、効果は100%ではありません。

## 晩婚化及び晩産化の進展

近年、女性の社会進出等を背景に、平均初婚年齢が高くなる晩婚化が進行しています。

日本人の平均初婚年齢は、2019年で、夫が31.2歳、妻が29.6歳となっており、1975年の夫が27.0歳、妻が24.7歳と比較すると、夫は4.2歳、妻は4.9歳上昇しています。それに伴い、第1子を出生した時の母親の平均年齢についても、2019年では30.7歳となっており、1975年と比較すると5.0歳上昇しています。

### (2) 人工妊娠中絶

人工妊娠中絶手術は母体保護法が適応される場合で、母体の健康を守るため、やむを得ず妊娠を中断しなければならない場合に行う手術です。人工妊娠中絶手術を受けることができるのは妊娠22週未満（21週6日）までですが、妊娠初期（12週未満）と、それ以降とでは手術方法が異なります。

人工妊娠中絶実施率は、近年、各年代で減少傾向ですが、最も多いのは20～24歳で12.2%（2020年度）であり、20歳未満の人工妊娠中絶実施率は2001年をピークに減少しています。妊娠した場合は出産するか、中絶するかを選択しかありません。人工妊娠中絶は心身の健康に様々な影響をもたらすことも少なくありませんが、特に20歳未満の出産については、学業を続けながらの養育となることもあるため、経済的なことも含め、負担が大きくなります。一方で、中絶の選択は、早期の判断が必要であること、母体へのダメージもあり得ること、そして何よりも尊い生命を失うことになり、本人の精神的な負担も大きくなります。

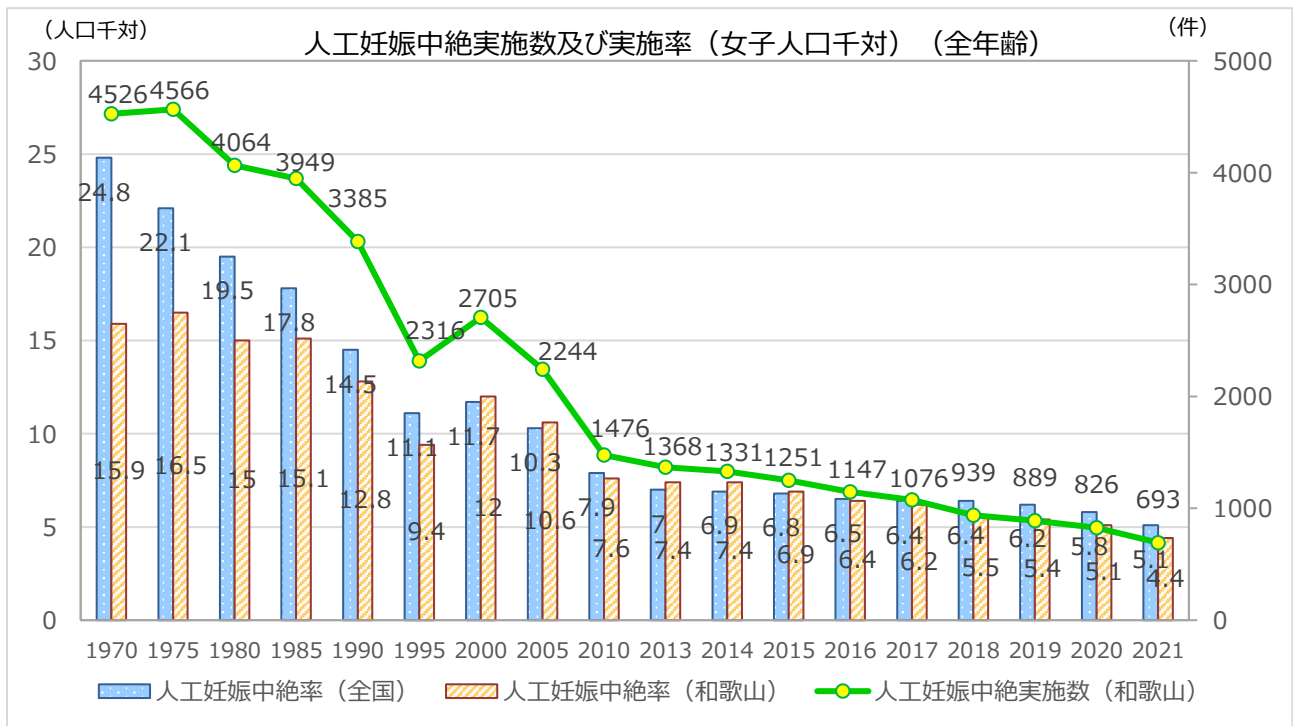
#### 人工妊娠中絶による影響

##### <身体面への影響>

中絶によってホルモンバランスが乱れ、月経不順や無月経等の月経異常が起こることがあります。また掻爬（そうは）や吸引は手探りで行うため、胎盤の一部が残ったり、まれに子宮を傷付けたりすることもあります。子宮や卵管が感染症等で炎症を起こすと、不妊症や子宮外妊娠の原因となることがあります。さらに子宮口を人工的に広げるため、流産や早産をしやすくなることもあります。妊娠中期の中絶では、子宮収縮剤の影響で子宮破裂を起こすこともあります。

##### <心理面への影響>

中絶した子供への罪悪感や後悔の気持ちが、長期間、ストレスとなって残る女性は少なくありません。また妊娠を知ってから中絶を選択するまでの期間に、パートナーとの気持ちの行き違い等から、男性不信に陥る女性もいます。こうした心の負担を積み重ねないためにも、妊娠を望まない場合には、しっかり避妊し、中絶を繰り返さないようにすることが大切です。



（厚生労働省「衛生行政報告例」から引用）

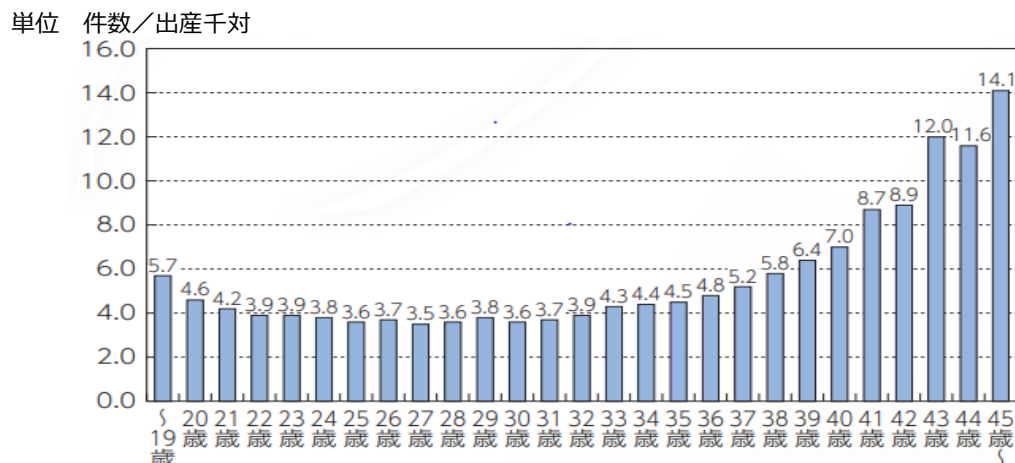
### （3）年齢と出産リスク

若年妊娠、高年妊娠ともに、以下のリスクがあるといわれています。

若年妊娠のリスク（10代の妊娠）	高年妊娠のリスク（35歳以上の妊娠）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 望まない妊娠</li> <li>・ 人工妊娠中絶の増加</li> <li>・ シングルマザー・未婚の増加</li> <li>・ 経済的・心理的不安</li> <li>・ 児童虐待リスクの増加</li> <li>・ 周産期死亡率の増加</li> <li>・ 低出生体重児の割合の増加</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 卵巣機能の低下（卵子数の減少、卵子の質の低下）</li> <li>・ 妊娠を阻害する疾患の合併（子宮内膜症、子宮筋腫等）</li> <li>・ 不妊治療の増加</li> <li>・ 流産率の増加</li> <li>・ 胎児異常の増加（染色体異常、胎児奇形等）</li> <li>・ 妊娠合併症の増加（妊娠糖尿病、前置胎盤等）</li> <li>・ 低出生体重児の割合の増加</li> <li>・ 帝王切開率の上昇</li> </ul>

年齢別に見た周産期死亡率によると、20歳未満や30代後半以降で高くなっています。周産期死亡率は、出産数（妊娠満22週以後の死産数に出生数を加えたもの）に対して、妊娠22週以降の死産数と生後一週間未満の新生児死亡数を加えたものを千対の率で表したものです。

年齢別にみた周産期死亡率（平成19～23年の平均値）



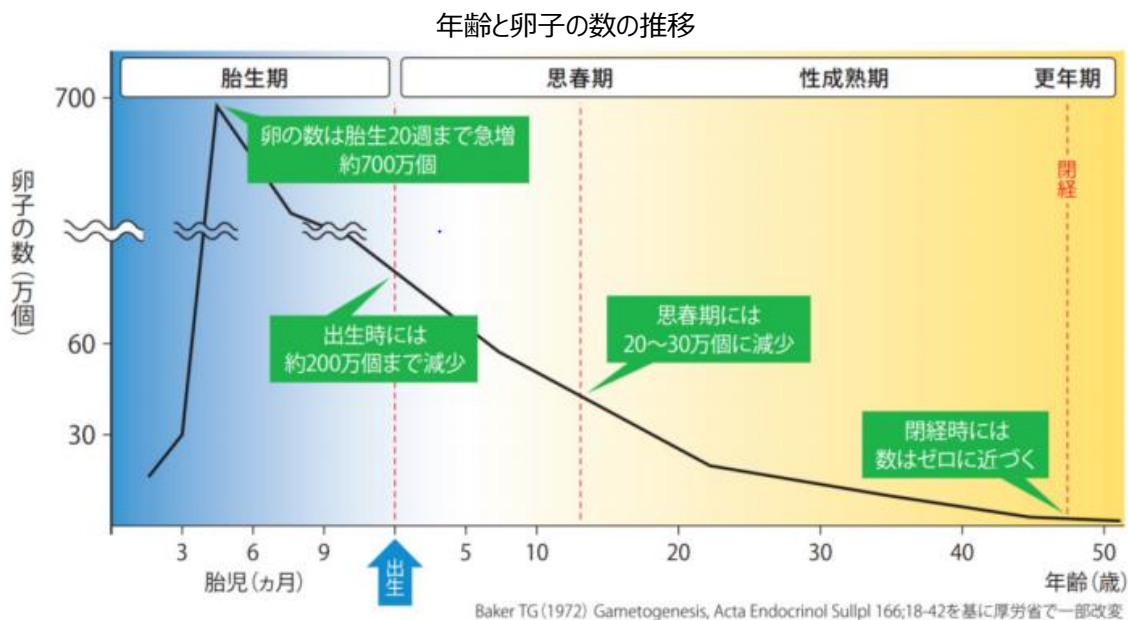
（「健康な生活を送るために（平成30年度版）【高校生用】」文部科学省から引用）



一方で、生殖年齢の男女が妊娠を希望し、ある一定の期間（一般的には一年間）、避妊することなく通常の性交を継続的に行っているにもかかわらず、妊娠の成立に至らない不妊症により、治療を受ける人も年々増加しています。不妊の原因は、男性側の原因が24%、女性側の原因が41%、男女両方の原因が24%、原因不明が11%といわれています。

医学的には男性、女性ともに妊娠・出産には適した年齢があることが指摘されており、年齢が高くなるほど妊娠する確率が下がることや、妊婦の年齢が高くなるほど自然流産率が高くなること、妊娠中の異常（産科合併症）の発症頻度が高くなること、胎児の染色体異常のリスクが高くなることなどが分かっています。

男性の精子は、思春期以降、日々数千万個ずつつくられますが、加齢による精巣機能低下に伴い、精液量、精子正常形態率、精子運動率が減少し、精子DNAの損傷の割合も上昇する。女性の卵子は、胎児のうち一生分がつくられ、出生後新たにつくられることはなく、加齢とともに数が減少するなどの理由により、おおむね30代後半以降になると妊娠しにくくなるといわれています。不妊に対する治療を受けても、女性の年齢が高いほど出産に至る可能性は低くなることが指摘されています。



このように、男性、女性ともに、年齢が上がると、妊娠・出産に関するリスクが上昇するとともに、妊娠しにくくなることが医学的にも明らかになってきています。

20代や30代は、仕事を始めたり、家庭を持ったり、社会の中で自分の役割が充実する重要な時期でもあります。一人一人が、妊娠・出産等に関する知識を持った上で、自分のライフプランを考え、適切な行動選択ができるようにすることが大切です。

文部科学省では、全国の公立高等学校における妊娠を理由とした退学等の実態を把握した上で、2018年3月に、妊娠した生徒への対応等について、各都道府県教育委員会等に対し通知を发出し、関係者間で十分に話し合い、母体の保護を最優先としつつ、教育上必要な配慮を行うべきこと、その際、生徒に学業継続の意思がある場合は、安易に退学処分や事実上の退学勧告等の対応を行わないという対応も十分に考えられること等を求めました。また、全国の生徒指導担当者を対象とした会議等において、この通知の趣旨を徹底するよう周知を図っています。

### 3 性被害・性暴力等について

子供の性被害は、児童買春、児童ポルノの製造等児童に性的な被害を与える犯罪行為や児童の性に着目した形態の営業に関連して行われる違法行為であり、「児童の性的搾取」とも呼ばれています。

性犯罪・性暴力を根絶していくためには、加害者にならない、被害者にならない、傍観者にならないための教育と啓発を行っていくことが必要です。そのためには、子供たちに、そして、社会に、①生命（いのち）の尊さや素晴らしさ、②自分を尊重し、大事にすること（被害者にならない）、③相手を尊重し、大事にすること（加害者にならない）、④一人一人が大事な存在であること（傍観者にならない）、のメッセージを強力に発信し続けることが重要です。

#### (1) 性犯罪・性暴力の特性

性犯罪・性暴力対策への取組の実施に当たっては、以下のような特性を十分に踏まえつつ、進めていくことが重要です。

- ・ 性犯罪・性暴力は、被害者の人としての尊厳を傷付け、心身に深刻な影響を与え、その後の生活にも甚大な影響を与えることが多いこと。レイプ被害者の半数程度がPTSDの症状を抱えるともいわれており、日常生活に深刻な影響を及ぼすこと。
- ・ 被害者が勇気を出して相談しても、二次的被害が生じ、被害を誰にも話さなくなり、社会が被害の深刻さに気付かず、無知、誤解、偏見がそのまま温存されるといった悪循環に陥っている場合があること。
- ・ 加害者の7～8割が顔見知りであるとの調査結果もあり、特に子供は、親、祖父母やきょうだい等の親族や、教師・コーチ、施設職員等、自分の生活を支えている人や友好的だと思っている人からの被害を受けたり、被害が継続することも多いところ、このような相手からの被害や、継続的な性被害を受けている最中である場合には、被害を他人には言えない状況があること。
- ・ 同じ加害者による類似の性犯罪
- ・ 性暴力事案が何度も繰り返される例が少ないこと。
- ・ 障害者が被害を受けやすい一方で、被害が潜在化しやすいという指摘があること。

#### (2) 学校等における教育や啓発の内容の充実

性犯罪・性暴力の加害者には、低年齢児を含め、子供を狙っている者もいます。また、実の父親や義理の父親等監護者や親族が加害者となる事例も多く、さらに、子供のうちはそれが性被害だと気付かず、年齢を重ねていくうちに気付き、被害後、時間が経過してから心理的に大きな傷を受ける場合があります。

本来、子供を性被害から守り、被害に遭った時に支えになるのは保護者や周囲の大人ですが、家庭内に加害者がいる場合や虐待等が生じている家庭もあり、親が子供に何をどのように教えれば良いかが分からない場合など、家庭がこの機能を十分に発揮できない場合もあります。子供が性被害に遭い、その被害が継続することが、その後の学業や就労を含め、人生に多大な負の影響を与えていることを考えれば、性暴力の加害者や被害者、傍観者のいずれにもならないよう、学校教育がより大きな役割を果たしていくことが求められます。また、被害に遭ったとしても、学業が継続できることも重要です。

## ○生命（いのち）の安全教育の推進

生命の尊さを学び生命を大切にできる教育、自分や相手、一人一人を尊重する教育に加えて、実際に被害に遭っている子供がいることから、有効な取組を行います。性暴力の加害者、被害者、傍観者にさせないため、就学前の教育や保育を含め、学校等において、地域の人材の協力や保護者等の理解を得ながら取組を行います。

### 発達の段階に応じた具体的な取組例

- ・ **幼児期や小学校低学年で**、被害に気付き予防できるよう、自分の身を守ることの重要性や嫌なことをされたら訴えることの必要性（例えば、水着で隠れる部分については、他人に見せない、触らせない、もし触られたら大人に言う、他人を触らないなど、発達の段階を踏まえ、分かりやすく指導する等）の指導を行う。
- ・ **小学校や中学校で**、不審者等についていかないなど、性犯罪も含む犯罪被害に遭わないための防犯指導を行う。
- ・ **小学校高学年や中学校で**、SNS等で知り合った人に会うこと、自分の裸の写真を撮る・撮らせる・送る・送らせることによる犯罪被害を含む危険、被害に遭った場合の対応などについて指導を行う。
- ・ **中学校や高等学校で**、いわゆる「デートDV」を教材として、親密な間柄でも、嫌なことは嫌と言う、相手が嫌と言うことはしない、という認識の醸成に向けた指導を行う。また、性被害に遭った場合の相談窓口（性暴力救援センター和歌山わかやま<sup>マイン</sup>mine、警察等）についても周知する。
- ・ **高等学校や大学等入学時のオリエンテーション等で**、レイプドラッグの危険性や相手の酩酊状態に乗じた性的行為の問題、セクシュアルハラスメントなどを周知する。また、被害に遭った場合の対応（通報、証拠保全等）や相談窓口についても周知する。
- ・ **障害のある児童生徒等について**、個々の障害の特性や程度等を踏まえた適切な指導を行う。

### (3) 学校等で相談を受ける体制の強化

児童生徒がSOSを出しやすくなるよう学校側で相談を受ける体制を強化するとともに、相談を受けた場合の教職員の対応についての研修の充実を図る必要があります。

#### 相談を受ける体制を強化する際の留意点

- ・ 親による性的虐待や児童生徒間における性暴力など性犯罪・性暴力の状況により必要な対応に違いがあること。
- ・ 子供から話を聞いた時の初動対応が重要であり、必要に応じて、速やかに聴取につなげるなど児童相談所、警察、検察等の関係機関との連携が有用であること。特に、学校での対応の中心となる学校の管理職、教諭、養護教諭等の関係教職員は、性被害の深刻さや加害児童生徒を含めた必要な対応について、研修等を通して正しく理解しておくこと。
- ・ 対応等に当たっては、「和歌山県子ども・女性・障害者相談センター」や警察、「性暴力救援センター和歌山わかやま<sup>マイン</sup>mine」等性犯罪・性暴力に知見のある関係機関の協力を得ることが有効であること。また、スクールカウンセラー等の知見を活用することも考えられること。
- ・ いわゆる非行や問題行動を起こしていると見られる子供について、その背景に虐待や性被害がある場合もあり、児童生徒の指導に当たってはそのような点も留意すること。

### 性暴力とは

自分が望まない性的行為です  
 同意のない、対等でない、強要された  
 性的行為はすべて性暴力です  
 性暴力はあなたに対する  
 著しい人権侵害であり犯罪行為です

### 性暴力を受けると

恐怖や不安で混乱した状態になったり  
 怒りや悲しみを感したり  
 自分が嫌いになったり  
 何も感じなかったり  
 何も考えられなくなったり  
 気持ちが落ち込んだり、記憶がなかったり  
 過呼吸になったり、物音に敏感になるなど  
 これらは性暴力を受けた多くの人に  
 よく見られる反応です

一人で悩んでいませんか

わかやまmine マイン にご相談ください

女性支援員が総合的支援を行います

性暴力救援センター和歌山  
 わかやまmine マイン  
 オフィス  
 073-444-0099

電話相談 24時間365日

(但し、22時～翌朝9時と年末年始は  
コールセンターでの対応となります)

面接相談 9:00～17:45

※要予約、土日・休日・年末年始を除く

※夜間、休日の緊急医療受診は、「わかやま  
mine(マイン)」まで来所できる方のみとなります。

性犯罪・性暴力被害者のための  
 ワンストップ支援センター はやくワンストップ  
 (全国共通短縮番号) #8891

その他の相談窓口

- ・和歌山県子ども・女性・障害者相談センター  
073-445-0793(女性相談)
- ・和歌山県男女共同参画センター「のいびる」  
073-435-5246
- ・和歌山県警察本部広報課  
#9110 (空線ダイヤル)  
073-432-0110
- ・性犯罪被害相談電話  
#8103 (ハートさん)

わかやまmine マイン に関するお問い合わせ  
 和歌山県子ども・女性・障害者相談センター  
 ・TEL 073-445-0793

・ホームページ [わかやまマイン](#)



※携帯電話をお持ちの方は左  
 のQRコードからもホーム  
 ページをご覧いただけます

性暴力救援センター和歌山  
 わかやまmine マイン

「私のからだは私のもの」  
 「私のこころは私のもの」

自分を大切にしながら心身の回復を  
 図ってほしいという思いから  
 わかやまmine(マイン)  
 と名付けました

### もし被害にあったら

「あなたは  
 何も悪くはありません」

ひとりで悩まず  
 わかやまmine マイン  
 に電話をください



女性支援員があなたのお話を伺います

相談することをためらわず  
 あなたの大切なからだ  
 あなたの将来のために  
 相談してください

一緒にあなたのからだと心の  
ケアについて考えましょう

相談してください

あなたからのお電話を待っています

### わかやまmine マイン にできること

#### ◎相談・医療

電話や面談による相談をお受けします

心身の状態に配慮しつつ、  
 相談者の同意のもとに協力してくれる  
 産婦人科医につなぎます

#### ◎支援のコーディネート

カウンセリングや法律相談等、  
 あなたに必要な支援を提供できる  
 関係機関・団体につなぎ、  
 連携して支援を行います

- ・和歌山県立医科大学附属病院
- ・協力医療機関
- ・和歌山県警察
- ・和歌山県臨床心理士会
- ・和歌山弁護士会
- ・法テラス和歌山
- ・和歌山県子ども・女性・障害者相談センター
- ・和歌山県精神保健福祉センター
- ・民間被害者支援団体等



### 家族・友人などが被害に あわれたら

家族が性暴力を受けたけど  
 どうしたらいいの  
 友人から相談を受けたけど  
 何て言えばいいの  
 話を聞いて相談を受けたあなたが  
 悩み続けたくないために

被害にあわれた方だけでなく  
 あなた自身がどうしていいかわからない  
 といった悩みも、相談してください

### 被害にあわれた方に 対しては

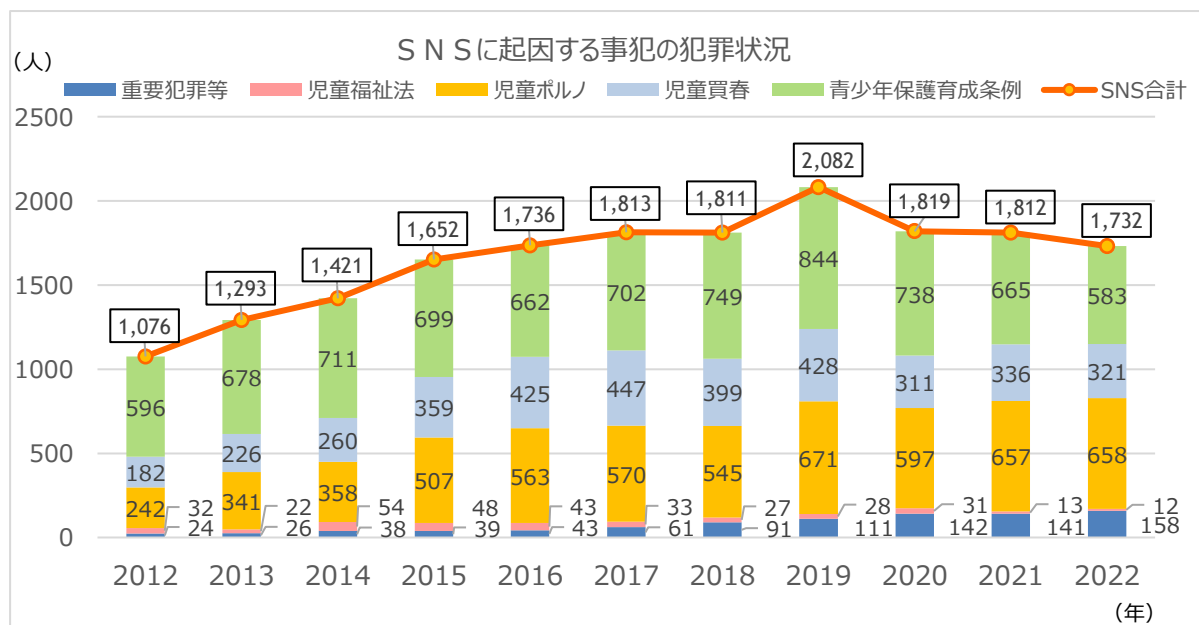
- ・話を否定したり、疑ったりしないでください
- ・決して被害者を責めず、「なぜ」「どうして」など問い詰めるような言い方をしないでください
- ・被害を軽くみたり、今の状況を否定するようなことは言わないでください
- ・安易な同調、励ましはしないでください
- ・話や行動を急がせしないでください



#### (4) 情報化の進展に伴う影響

インターネットやスマートフォン等の普及により、性に関する情報が氾濫し、様々な情報をいつでも容易に入手できるようになりました。しかし、その情報が必ずしも正しいとは限りません。これらの情報の中には、人間の性を興味本位に、しかも内容を誇張したり性の快楽性を強調して、性を快楽的、消費的なイメージで捉えさせているものも多くみられます。

また、インターネットやスマートフォンの普及は児童生徒の対人関係に大きな変化をもたらしており、インターネットを介して、不特定多数の人と交流することにより、児童生徒が被害に遭う事例も増加しています。2008年に「インターネット異性紹介事業を利用して児童を誘引する行為の規制等に関する法律（いわゆる「出会い系サイト規制法」）」が改正されたことに伴い、出会い系サイトに起因する被害に遭う子供は減少傾向にあります。その反面、SNSを介して被害に遭う児童生徒が急増しています。2019年に、SNS等を通じて児童買春や児童ポルノ等の被害に遭った児童生徒は、全国で過去最多の2,082人（前年比+271人）でした。



(「警察庁ホームページ」から引用)

さらに、2019年に、児童ポルノ事犯の自画撮り被害<sup>※1</sup>に遭った児童生徒は全国で584人（前年比+43人）であり、増加傾向にあります。そのうち、自画撮り被害に遭った児童生徒の約半数は中学生でした。一度流出した画像等は完全に削除することが困難で、取り返しのつかない被害につながってしまう場合もあります。

一方、知識が不十分なために児童生徒が加害者となることもあります。マスコミやインターネットからの情報の意義や価値について考えさせ、性情報を適切に取捨選択して自己の成長発達に役立てる能力を身に付けることが重要です。そのためにも、学校においては児童生徒に性に関する正しい知識を伝えていく必要があります。

※1：「自画撮り被害」とは、だまされたり、脅されたりして、子供が自分の裸を撮影させられた上、SNS等で送信させられる被害を指す。



## 4 性の多様性について

### (1) 性の多様性とは

#### ○ 性のあり方（セクシュアリティ）の構成要素

セクシュアリティには主に次の4つの要素があります。それぞれの要素の組み合わせは多様であることから、「性はグラデーション」といわれることもあります。

#### ○生物学的な性（身体の性）

性染色体（XY、XX等）、内・外性器の態様、性ステロイドホルモンのレベル等から生物学的な性が決定します。客観的な事実をもとに識別した場合の性です。

#### ○性自認（心の性）

自分の性をどのように認識しているのか、どのような性のアイデンティティを持っているかということです。多くの方は「心の性」と「身体の性」が一致しており、「身体の性」に違和感を持つことはありません。しかし、「心の性」と「身体の性」が一致せず、自身の身体への違和感を持つ人（トランスジェンダー）もいます。子供の頃に「心の性」と「身体の性」が一致していないと感じていたとしても、成長とともに感じなくなる人もいます。

#### ○性的指向（好きになる性）

どのような性別の人を好きになるかということです。同性を好きになる人もいれば、男性、女性どちらに対しても恋愛感情を抱かないという人もいます。人は、それぞれの性的指向を持っていますが、それは自然の感情であり、自分の意思で決めるものというよりは、成長とともに気付くものであるといえます。

#### <対応上の留意点>

思春期には第二性徴により、次第に身体が望まない性へと変化していくため、当事者はより強く苦痛や葛藤を感じます。「思春期の一時的なこと」、「一時の気の迷い」、「すぐに治る」などといった言葉掛けはしないでください。また、児童生徒等の性的指向を詮索したり、決めつけたりすることも、相手を傷付けることにつながる可能性があるため、多様な性が背景にある児童生徒等がいることを常に意識することが大切です。

#### ○社会的な性（性表現、性別役割）

後天的に身に付けていく性のことであり、言葉遣いや服装、振る舞い等、自分らしさが社会からどのような性別と捉えられているのかを「性表現」といいます。

性自認と混同されがちですが、性自認が女性だとしても、性表現が女性だとは限りません。

#### ○ 性的マイノリティ

性的マイノリティを指す用語として「LGBT」が広く認知されていますが、セクシュアリティは決して4種類だけではありません。「心の性」と「身体の性」が一致している異性愛者も含めた「みんな」が性について考えるべきだという視点を取り入れた「SOGIE

（性的指向Sexual Orientation、性自認Gender Identity、性表現Gender Expressionの頭文字）という性を捉える要素の概念を使って、一人一人の性の在り方の多様性と平等を伝えることが大切です。



L	レズビアン：女性の同性愛者（心の性が女性で恋愛対象も女性）	性的指向 を表す
G	ゲイ：男性の同性愛者（心の性が男性で恋愛対象も男性）	
B	バイセクシュアル：両性愛者（恋愛対象が男性にも女性にも向いている）	
T	トランスジェンダー：出生時と異なる性別で生きる人	性自認 を表す
Q	クエスチョニング：自分自身のセクシュアリティを決められない、分からない	

## ICD-11では「性同一性障害」がなくなる！？

WHO（世界保健機構）による「ICD-11」では、「精神疾患」の分類から性同一性障害が外れ、「性の健康に関する状態」という分類の中の「性別不合（仮訳）」という項目になりました。自身の肉体的な性と心の性が異なるといった性同一性障害は、長く障害や病気として扱われてきましたが、今回の改訂では、「性別不合」という名称になり、精神疾患や病気ではなく、ひとつの個人の状態であるという考えが示されました。

「性同一性障害」という用語は、ICDの改訂により使われなくなる予定です。

### (2) 学校における支援体制について

性的マイノリティとされる児童生徒の小学校、中学校及び高等学校等学齢期におけるいじめ被害率は58%であることが国内研究で示されており（LGBT当事者の意識調査「REACH Online 2016 for Sexual Minorities」：日高庸晴 2017）、教育現場では、現状を十分認識した上で、当事者の児童生徒等のことを念頭に置いて取組を進めなければなりません。

当事者の児童生徒がいるかもしれないという前提で、教職員が学校で性の多様性について取り組むことは、いじめ・不登校・自傷行為の発生を防ぐことになり、性的マイノリティとされる児童生徒の人生と命を守ることに直結します。

### いじめ被害・不登校・自傷行為 経験率（10代）

経験率	レズビアン	ゲイ	バイセクシュアル (女性)	バイセクシュアル (男性)	トランスジェンダー (FtM)	トランスジェンダー (MtF)
いじめ被害	34.8%	49.1%	42.1%	45.8%	58.3%	85.7%
不登校	30.4%	28.8%	31.6%	24.6%	58.3%	57.1%
自傷行為	47.8%	16.9%	42.1%	15.3%	50.0%	42.9%

（LGBT当事者の意識調査「REACH Online 2016 for Sexual Minorities」：日高庸晴 2017）

- 性的マイノリティとされる児童生徒の支援は、最初に相談（入学等に当たって児童生徒の保護者からなされた相談を含む。）を受けた者だけで抱え込むことなく、組織的に取り組むことが重要であり、学校内外に「サポートチーム」を作り、「支援委員会」（校内）やケース会議（校外）等を適時開催しながら対応を進めます。

- ・ 教職員等の間における情報共有に当たっては、児童生徒が自身のセクシュアリティを可能な限り秘匿しておきたい場合があること等に留意しつつ、一方で、学校として効果的な対応を進めるためには、教職員等の中で情報共有しチームで対応することは欠かせないことから、当事者である児童生徒やその保護者に対し、情報を共有する意図を十分に説明・相談し理解を得つつ、対応を進めます。
- ・ 画一的な対応を求める趣旨ではなく、個別の事例における学校や家庭の状況等に応じた取組を進める必要があります。

### (3) 学校生活の各場面での支援について

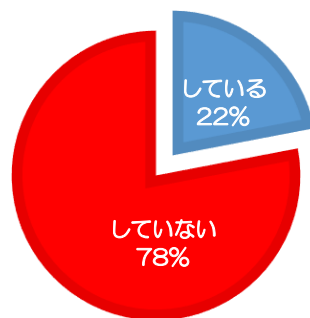
- ・ 学校における性的マイノリティとされる児童生徒への対応を行うに当たっては、「性同一性障害や性的指向・性自認に係る、児童生徒に対するきめ細かな対応等の実施について（教職員向け）」を参考とします。
- ・ 学校においては、性的マイノリティとされる児童生徒への配慮と、他の児童生徒への配慮との均衡を取りながら支援を進めることが重要です。
- ・ 性的マイノリティとされる児童生徒が求める支援は、当該児童生徒が有する違和感の強弱等に応じ様々であり、また、当該違和感は成長に従い減ずることも含め変動があり得るものとされていることから、学校として先入観をもたず、その時々の子どもの状況等に応じた支援を行うことが必要です。
- ・ 他の児童生徒や保護者との情報の共有は、当事者である児童生徒や保護者の意向等を踏まえ、個別の事情に応じて進める必要があります。
- ・ 医療機関等で診断がされない場合であっても、児童生徒の悩みや不安に寄り添い支援していく観点から、医療機関等との相談の状況、児童生徒や保護者の意向等を踏まえつつ、支援を行うことは可能です。

#### (4) 性的マイノリティとされる児童生徒に対する相談体制等の充実

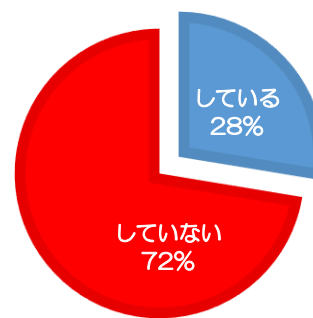
教職員としては、悩みや不安を抱える児童生徒の良き理解者となるよう努めることは当然であり、このような悩みや不安を受け止めることの必要性は、性的マイノリティとされる児童生徒全般に共通するものです。

性的マイノリティとされる児童生徒は、自身のそうした状態を秘匿しておきたい場合があること等を踏まえつつ、学校においては、日頃から児童生徒が相談しやすい環境を整えていくことが望まれています。このため、まず教職員自身が性的マイノリティ全般についての心ない言動を慎むとともに、ある児童生徒が、その戸籍上の性別に見られる服装や髪型等としていない場合、性的マイノリティを理由としている可能性を考慮し、そのことを一方的に否定したり揶揄したりしないこと等が考えられます。

教職員が児童生徒から相談を受けた際は、当該児童生徒からの信頼を踏まえつつ、まずは悩みや不安を聞く姿勢を示すことが重要となります。また、保護者が、子供の性的マイノリティに関する悩みや不安等を受容している場合は、学校と保護者が緊密に連携しながら支援を進めることが重要です。保護者が受容していない場合にあっては、学校における児童生徒の悩みや不安を軽減し問題行動の未然防止等を進めることを目的として、保護者と十分話し合い可能な支援を行っていくことが必要になります。



保護者へのカミングアウト



職場・学校でのカミングアウト

LGBT当事者の意識調査「REACH Online 2016 for Sexual Minorities」：日高庸晴2017)

#### ○ カミングアウトとアウティング

カミングアウト： 性的マイノリティであることを本人が告白すること。

アウティング： 本人の了承なく、その人の性的指向や性自認について暴露すること。

カミングアウトは、自分のセクシュアリティを受け入れ、肯定する過程でもあり、自分らしく生きていくための手段の一つです。中には、保護者が受け入れていない、保護者が性的マイノリティに対して偏見等を持っているなどの理由で、保護者には知られたくないが、友人や教職員にだけは分かっていたほしいという児童生徒等もいます。本人がカミングアウトを選択する際には、周りの児童生徒等との関係性や性の多様性への理解度等様々な要素を踏まえ、慎重に判断することが必要です。

当事者の児童生徒等が安心して学校生活を送るためには、カミングアウトの有無にかかわらず、自分のセクシュアリティの在り方についての秘密が守られることが何より大切です。本人が望まない形で秘密を他人に知られることは、それが悪意のないものであったとしても、その児童生徒等の心を大きく傷付けることとなります。このようなアウティングを起こさない、起こさせないよう、慎重に対応する必要があります。

## 5 女性アスリートに関する課題

成長期・思春期は、運動能力を向上させる絶好の時期であると同時に、心と身体が大きく育つ、人としても女性としても重要な時期です。女子中高生のアスリートにとっての身体づくりを考える際、運動部活動に励む生徒にとっても成長期の今をどう過ごすかが大切なポイントとなります。

運動・食事・休養のバランスが崩れると、身体には様々な症状が現れます。特に、運動量に対して食事の量が少ない時にエネルギー不足となり、月経不順による貧血や無月経、低骨密度による疲労骨折が発症する可能性が高くなります。そのため、アメリカスポーツ医学会においては、女性アスリートに見られる三主徴を「Low energy availability (利用可能エネルギー不足)」「視床下部性無月経」「骨粗しょう症」と定義しています。「女性アスリートの三主徴」は、継続的な激しい運動トレーニングが誘因となり、それぞれの症状が相互に関連して、健康な状態から女性の身体の諸機能に影響を及ぼすと考えられています。



女性アスリートの三主徴

運動性無月経は、これまでにあった月経が3か月以上停止した状態である「続発性無月経」のうち運動が原因と考えられるものをいいます。この運動性無月経は、女性アスリートの健康管理上重要な問題であり、その重症化や難治性が懸念されています。運動性無月経が発生する主な理由として、①Low energy availability、②精神的・身体的ストレス、③体重・体脂肪の減少、④ホルモン環境の変化等が考えられます。

国立スポーツ科学センター（JISS）において、国内トップレベルの女性アスリート683名を対象に実施したアンケート調査結果では、無月経を含む月経周期異常のあるアスリートは約40%を占めることがわかりました（図2）。うち、競技別に無月経の割合をみると、体操、新体操、フィギュアスケート等の競技で高く、次いで陸上（長距離）、トライアスロン競技の順となり、体脂肪率が低くなる傾向にある審美系や持久系競技種目において無月経者が多くみられました（図3）。

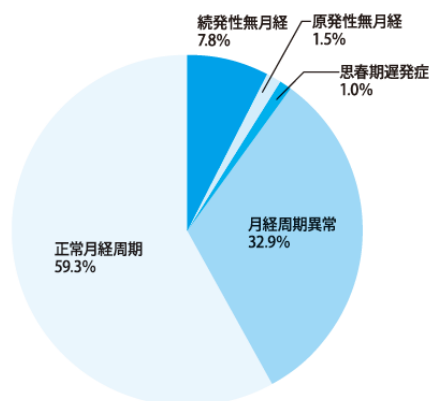


図2 国内トップアスリートの月経状態  
(能瀬ら, 2014より引用)

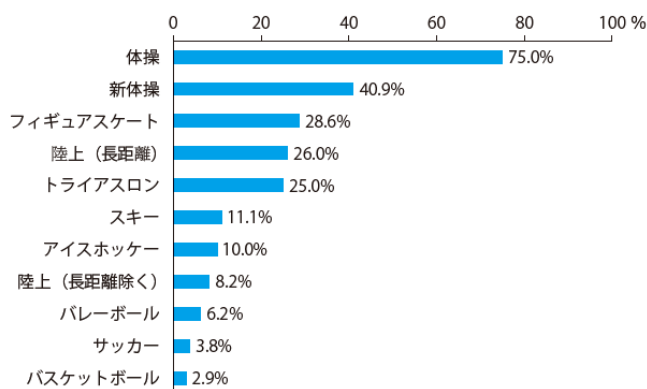
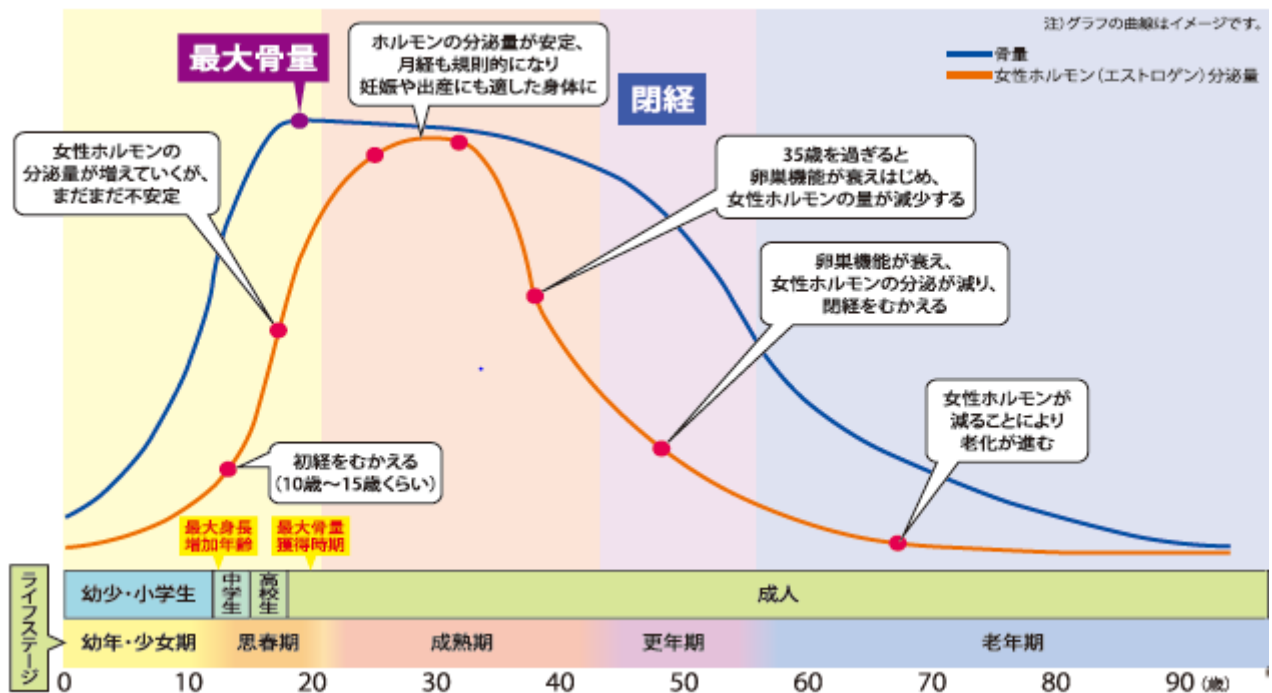


図3 競技別にみた無月経の割合  
(能瀬ら, 2014より引用改編)

○ 女性のライフステージと10代

女性のライフステージにおいては女性ホルモンの分泌が関係しており、女性ホルモンの分泌量と骨量は年齢で変化します。



女性ホルモンの分泌量は10代で急増し、20~30代でピークを迎えます。

骨量についても、成長期に増加し、18歳頃に最大骨量を迎えます。骨量を増やせるのは20歳頃までとされており、20歳以降に増やすことは難しいといわれているため、10代のうちにしっかりとした食事をとり、骨量を増やすことが大切です。

<指導者における留意事項>

○ 月経への理解

成長期の健康が生涯の健康につながります。発育・発達の個人差を踏まえたアスリートの体調管理に気を配り、特に成長期である10代の生活習慣が50年後の健康に影響することを知った上で指導することが大切です。女性として、将来的に月経異常による骨粗しょう症リスクが高くなり、妊娠しにくい状態になる可能性が否定できないことを理解するとともに、必要に応じて、保護者や産婦人科等専門機関と連携することも有効です。

○ 食事と睡眠サポート

アスリートの成長は「日々の食事」と「質の良い睡眠」への協力で応援してください。無月経や貧血などの症状に対しては、保護者の理解と協力を得た上で、しっかりとした食事によるエネルギー不足の解消が有効です。また、「睡眠時間が確保できているか」や「起床時に疲れが残っていないか」などの声を掛けることもサポートにつながります。

○ 心理的サポート

月経に伴う心理的変化は人それぞれです。思春期の身体の変化に悩む時や月経に伴う心身の不調に苦しんだ時に、周囲から理解を得られ、気軽に相談できる環境が身近にあることが非常に重要であり、児童生徒に寄り添うスタンスが大切です。

### Ⅲ 学習指導要領における性に関する指導の取扱い

#### 1 学習指導要領における位置付け

学校における性に関する指導は、学習指導要領に基づいて行うことが重要であり、児童生徒が性に関して正しく理解し、適切に行動をとれるようにすることを目的として、児童生徒の実態や課題に応じて、体育科、保健体育科及び特別活動をはじめとして、学校教育活動全体を通じて関連付けて指導することが大切です。

現在の性に関する指導の基本的な考え方は、平成 20 年 1 月の中央教育審議会答申によるところが大きくなっています。

(心身の成長発達についての正しい理解)

- 学校教育においては、何よりも子どもたちの心身の調和的発達を重視する必要があり、そのためには、子どもたちが心身の成長発達について正しく理解することが不可欠である。しかし、近年、性情報の氾濫など、子どもたちを取り巻く社会環境が大きく変化してきている。このため、特に、子どもたちが性に関して適切に理解し、行動することができるようにすることが課題となっている。また、若年層のエイズ及び性感染症や人工妊娠中絶も問題となっている。
- このため、学校全体で共通理解を図りつつ、体育科、保健体育科などの関連する教科、特別活動等において、発達の段階を踏まえ、心身の発育・発達と健康、性感染症等の予防などに関する知識を確実に身に付けること、生命の尊重や自己及び他者の個性を尊重するとともに、相手を思いやり、望ましい人間関係を構築することなどを重視し、相互に関連づけて指導することが重要である。  
また、家庭・地域との連携を推進し保護者や地域の理解を得ること、集団指導と個別指導の連携を密にして効果的に行うことが重要である。

この答申を踏まえ、平成 28 年 12 月の中央教育審議会答申では、(健康・安全・食に関する資質・能力)において学校における性に関する指導に関連して、次のことが示されています。

- 1. でも述べたように、とりわけ近年では、情報化社会の進展により、様々な健康情報や性・薬物等に関する情報の入手が容易になるなど、子供たちを取り巻く環境が大きく変化している。このため、子供たちが、健康情報や性に関する情報等を正しく選択して適切に行動できるようにするとともに、薬物乱用防止等を徹底することが課題となっている。
- こうした課題を乗り越え、生涯にわたって健康で安全な生活や健全な食生活を送ることができるよう、必要な情報を自ら収集し、適切な意思決定や行動選択を行うことができる力を子供たち一人一人に育むことが強く求められている。
- こうした健康・安全・食に関する資質・能力の具体的な内容は、別紙 4 のとおり整理できる。これらを教科等横断的な視点で育むことができるよう、教科等間相互の連携を図っていくことが重要である。学校保健計画や学校安全計画、食に関する指導の全体計画についても、資質・能力に関する整理を踏まえて作成・評価・改善し、地域や家庭とも連携・協働した実施体制を確保していくことが重要である。

さらに、学習指導要領及び解説では、性に関する指導に関連した内容について次のように示されています。

## (1) 総則

### 【小学校学習指導要領（平成29年3月）第1章 総則 第1の2（3）】

(3) 学校における体育・健康に関する指導を、児童の発達の段階を考慮して、学校の教育活動全体を通じて適切に行うことにより、健康で安全な生活と豊かなスポーツライフの実現を目指した教育の充実に努めること。特に、学校における食育の推進並びに体力の向上に関する指導、安全に関する指導及び心身の健康の保持増進に関する指導については、体育科、家庭科及び特別活動の時間はもとより、各教科、道徳科、外国語活動及び総合的な学習の時間などにおいてもそれぞれの特質に応じて適切に行うよう努めること。また、それらの指導を通して、家庭や地域社会との連携を図りながら、日常生活において適切な体育・健康に関する活動の実践を促し、生涯を通じて健康・安全で活力ある生活を送るための基礎が培われるよう配慮すること。

### 【小学校学習指導要領解説 総則編（平成29年7月）抜粋】

健康に関する指導については、児童が身近な生活における健康に関する知識を身に付けることや、必要な情報を自ら収集し、適切な意思決定や行動選択を行い、積極的に健康な生活を実践することのできる資質・能力を育成することが大切である。〈略〉

さらに、心身の健康の保持増進に関する指導においては、情報化社会の進展により、様々な健康情報や性・薬物等に関する情報の入手が容易になっていることなどから、児童が適切に行動できるようにする指導が一層重視されなければならない。なお、児童が心身の成長発達に関して適切に理解し、行動することができるようにする指導に当たっては、第1章総則第4の(1)に示す主に集団の場面で必要な指導や援助を行うガイダンスと一人一人が抱える課題に個別に対応した指導を行うカウンセリングの双方の観点から、学校の教育活動全体で共通理解を図り、家庭の理解を得ることに配慮するとともに、関連する教科等において、発達の段階を考慮して、指導することが重要である。

体育・健康に関する指導は、こうした指導を相互に関連させて行うことにより、生涯にわたり楽しく明るい生活を営むための基礎づくりを目指すものである。

したがって、その指導においては、体づくり運動や各種のスポーツ活動はもとより、保健や安全に関する指導、給食を含む食に関する指導などが重視されなければならない。このような体育・健康に関する指導は、体育科の時間だけではなく家庭科や特別活動のほか、関連の教科や道徳科、外国語活動及び総合的な学習の時間なども含めた学校の教育活動全体を通じて行うことによって、その一層の充実に努めることができる。

各学校において、体育・健康に関する指導を効果的に進めるためには、全国体力・運動能力、運動習慣等調査などを用いて児童の体力や健康状態等を的確に把握し、学校や地域の実態を踏まえて、それにふさわしい学校の全体計画を作成し、地域の関係機関・団体の協力を得つつ、計画的、継続的に指導することが重要である。

また、体育・健康に関する指導を通して、学校生活はもちろんのこと、家庭や地域社会における日常生活においても、自ら進んで運動を適切に実践する習慣を形成し、生涯を通じて運動に親しむための基礎を培うとともに、児童が積極的に心身の健康の保持増進を図っていく資質・能力を身に付け、生涯を通じて健康・安全で活力ある生活を送るための基礎が培われるよう配慮することが大切である。

【中学校学習指導要領（平成29年3月）第1章 総則 第1の2（3）】

(3) 学校における体育・健康に関する指導を、生徒の発達の段階を考慮して、学校の教育活動全体を通じて適切に行うことにより、健康で安全な生活と豊かなスポーツライフの実現を目指した教育の充実に努めること。特に、学校における食育の推進並びに体力の向上に関する指導、安全に関する指導及び心身の健康の保持増進に関する指導については、保健体育科、技術・家庭科及び特別活動の時間はもとより、各教科、道徳科及び総合的な学習の時間などにおいてもそれぞれの特質に応じて適切に行うよう努めること。また、それらの指導を通して、家庭や地域社会との連携を図りながら、日常生活において適切な体育・健康に関する活動の実践を促し、生涯を通じて健康・安全で活力ある生活を送るための基礎が培われるよう配慮すること。

【中学校学習指導要領解説 総則編（平成29年7月）抜粋】

健康に関する指導については、児童が身近な生活における健康に関する知識を身に付けることや、必要な情報を自ら収集し、適切な意思決定や行動選択を行い、積極的に健康な生活を実践することのできる資質・能力を育成することが大切である。〈略〉

さらに、心身の健康の保持増進に関する指導においては、情報化社会の進展により、様々な健康情報や性・薬物等に関する情報の入手が容易になっていることなどから、生徒が健康情報や性に関する情報等を正しく選択して適切に行動できるようにするとともに、薬物乱用防止等の指導が一層重視されなければならない。なお、生徒が心身の成長発達に関して適切に理解し、行動することができるようにする指導に当たっては、第1章総則第4の1（1）に示す主に集団の場面で必要な指導や援助を行うガイダンスと一人一人が抱える課題に個別に対応した指導を行うカウンセリングの双方の観点から、学校の教育活動全体で共通理解を図り、家庭の理解を得ることに配慮するとともに、関連する教科等において、発達の段階を考慮して、指導することが重要である。

体育・健康に関する指導は、こうした指導を相互に関連させて行うことにより、生涯にわたり楽しく明るい生活を営むための基礎づくりを目指すものである。

したがって、その指導においては、体づくり運動や各種のスポーツ活動はもとより、保健や安全に関する指導、給食を含む食に関する指導などが重視されなければならない。このような体育・健康に関する指導は、体育科の時間だけではなく家庭科や特別活動のほか、関連の教科や道徳科、外国語活動及び総合的な学習の時間なども含めた学校の教育活動全体を通じて行うことによって、その一層の充実に図ることができる。

各学校において、体育・健康に関する指導を効果的に進めるためには、全国体力・運動能力、運動習慣等調査などを用いて児童の体力や健康状態等を的確に把握し、学校や地域の実態を踏まえて、それにふさわしい学校の全体計画を作成し、地域の関係機関・団体の協力を得つつ、計画的、継続的に指導することが重要である。

また、体育・健康に関する指導を通して、学校生活はもちろんのこと、家庭や地域社会における日常生活においても、自ら進んで運動を適切に実践する習慣を形成し、生涯を通じて運動に親しむための基礎を培うとともに、児童が積極的に心身の健康の保持増進を図っていく資質・能力を身に付け、生涯を通じて健康・安全で活力ある生活を送るための基礎が培われるよう配慮することが大切である。

なお、中学校にあっては、教科担任制を原則としているために、体育・健康に関する指導が保健体育科担当の教師に任されてしまうおそれがある。しかし、体育・健康に関する指導は、学校の教育活動全体を通じて適切に行われるべきものであり、その効果を上げるためには、保健体育科担当の教師だけでなく、全教職員の理解と協力が得られるよう、学校の実態に応じて指導体制の工夫改善に努めるなど、組織的に進めていくことが大切である。



【高等学校学習指導要領（平成29年3月）第1章 総則 第1の2（3）】

(3) 学校における体育・健康に関する指導を、生徒の発達の段階を考慮して、学校の教育活動全体を通じて適切に行うことにより、健康で安全な生活と豊かなスポーツライフの実現を目指した教育の充実に努めること。特に、学校における食育の推進並びに体力の向上に関する指導、安全に関する指導及び心身の健康の保持増進に関する指導については、保健体育科、家庭科及び特別活動の時間はもとより、各教科・科目及び総合的な探究の時間などにおいてもそれぞれの特質に応じて適切に行うよう努めること。また、それらの指導を通して、家庭や地域社会との連携を図りながら、日常生活において適切な体育・健康に関する活動の実践を促し、生涯を通じて健康・安全で活力ある生活を送るための基礎が培われるよう配慮すること。

【高等学校学習指導要領解説 総則編（平成30年7月）抜粋】

健康に関する指導については、児童が身近な生活における健康に関する知識を身に付けることや、必要な情報を自ら収集し、適切な意思決定や行動選択を行い、積極的に健康な生活を実践することのできる資質・能力を育成することが大切である。〈略〉

さらに、心身の健康の保持増進に関する指導においては、情報化社会の進展により、様々な健康情報や性・薬物等に関する情報の入手が容易になっていることなどから、生徒が健康情報や性に関する情報等を正しく選択して適切に行動できるようにするとともに、薬物乱用防止等の指導が一層重視されなければならない。なお、生徒が心身の成長発達に関して適切に理解し、行動することができるようにする指導に当たっては、第1章総則第5款1（1）に示す主に集団の場面で必要な指導や援助を行うガイダンスと一人一人が抱える課題に個別に対応した指導を行うカウンセリングの双方の観点から、学校の教育活動全体で共通理解を図り、家庭の理解を得ることに配慮するとともに、関連する教科等において、発達の段階を考慮して、指導することが重要である。

したがって、その指導においては、体づくり運動や各種のスポーツ活動はもとより、保健や安全に関する指導、給食を含む食に関する指導などが重視されなければならない。このような体育・健康に関する指導は、保健体育科の時間だけではなく家庭科や特別活動のほか、関連の教科、総合的な探究の時間なども含めた学校の教育活動全体を通じて行うことによって、その一層の充実に努めることができる。

各学校において、体育・健康に関する指導を効果的に進めるためには、生徒の体力や健康状態等を的確に把握し、学校や地域の実態を踏まえて、それにふさわしい学校の全体計画を作成し、地域の関係機関・団体の協力を得つつ、計画的、継続的に指導することが重要である。

また、体育・健康に関する指導を通して、学校生活はもちろんのこと、家庭や地域社会における日常生活においても、自ら進んで運動を適切に実践する習慣を形成し、生涯を通じて運動に親しむための基礎を培うとともに、生徒が積極的に心身の健康の保持増進を図っていく資質・能力を身に付け、生涯を通じて健康・安全で活力ある生活を送るための基礎が培われるよう配慮することが大切である。

なお、高等学校にあつては、教科担任制を原則としているために、体育・健康に関する指導が保健体育科担当の教師に任されてしまうおそれがある。しかし、体育・健康に関する指導は、学校の教育活動全体を通じて適切に行われるべきものであり、その効果を上げるためには、保健体育科担当の教師だけでなく、全教職員の理解と協力が得られるよう、学校の実態に応じて指導体制の工夫改善に努めるなど、組織的に進めていくことが大切である。

## 指導上の配慮事項

性に関する指導を行うに当たっては、発達段階を踏まえること、学校全体で共通理解を図ること、家庭の理解を得ること等に配慮することが大切です。

## 児童生徒が身に付けるべき資質・能力

情報化社会の進展により、様々な性に関する情報の入手が容易になっていること等から、児童生徒が性に関する情報等を正しく選択して適切に行動できるようにするための指導が一層重視されます。児童生徒が発達の段階に応じて性に関する正しい知識を身に付けることができるようにするとともに、児童生徒が必要な情報を自ら収集し、適切な意思決定や行動選択を行い、健康な生活を実践することのできる資質・能力を育成することが大切です。

## 学校の教育活動全体を通じた指導

性に関する指導は、体育科・保健体育科の時間だけではなく、技術・家庭科、家庭科や特別活動のほか、関連の教科や道徳科、総合的な学習の時間・総合的な探究の時間等も含めた学校の教育活動全体を通じて行うことによって、一層の充実を図ることが大切です。

## 集団指導と個別指導

児童生徒が心身の成長・発達に関して正しく理解し、適切に行動することができるようにする指導に当たっては、個人差があることを踏まえ、すべてを集団指導で扱うのではなく、集団指導と個別指導とによって相互に補完することが重要です。

主に集団の場面で必要な指導や援助を行うガイダンスと一人一人が抱える課題に個別に対応した指導を行うカウンセリングの双方の観点から、学校の教育活動全体で共通理解を図り、家庭の理解を得ることに配慮することが大切です。

## 性に関する指導の全体計画の作成

性に関する指導を効果的に進めるためには、児童生徒の発達の段階や健康状態等を的確に把握した上で、学校や地域の実態を踏まえて、学校の全体計画を作成し、地域の関係機関等と連携を図り、全体計画に基づく指導を行います。

また、日々の授業において児童生徒の学習状況を評価し、その結果を児童生徒の学習や教師による指導の改善、学校全体としての教育課程の改善、校務分掌を含めた組織運営等の改善に生かす中で、学校全体として組織的かつ計画的に性に関する指導の充実を図ることが重要です。

## 2 学習指導要領に基づく指導の工夫

### (1) 性に関する指導を実施する上での配慮事項

- **学習指導要領に基づく指導**
- **指導に当たっては**
  - ① 児童生徒の発達の段階を踏まえること。
  - ② 学校全体で共通理解を図ること。
  - ③ 家庭・地域との連携を推進し、保護者や地域の理解を得ること。
- **集団指導と個別指導の連携を密にして効果的に行うこと。**

### (2) 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善

児童生徒の健康に関する資質・能力を育成するための学びの過程は、児童生徒の実態や課題等により様々ですが、次の視点等を踏まえて授業改善を行うことにより、育成を目指す資質・能力を育むことが大切です。

#### 「主体的な学び」の視点

「主体的な学び」は、健康の意義等を見直し、健康についての興味や関心を高め、課題の解決に向けて粘り強く自ら取り組み、それを考察するとともに学習を振り返り、課題を修正したり新たな課題を設定したりする学びの過程です。自他の健康の保持増進や回復を目指すための主体的な学習を重視します。

#### 「対話的な学び」の視点

「対話的な学び」は、健康についての課題の解決に向けて、児童生徒が他者（書物等を含む。）との対話を通して、自己の思考を広げ、深めていく学びの過程です。自他の健康についての課題の解決を目指して、協働的な学習を重視します。

#### 「深い学び」の視点

「深い学び」は、自他の健康についての課題を発見し、解決に向けて試行錯誤を重ねながら、思考を深め、よりよく解決する学びの過程です。自他の健康の保持増進を目指して、深い学びを重視します。

### (3) 教材や教育環境の充実

児童生徒の多様なニーズ、興味や関心を踏まえ、「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」を育成するためには、健康に関する課題解決的な学びの実現を目指し、教科書を含めた教材を工夫することが重要です。

また、児童生徒が生涯を通じて自他の健康課題に適切に対応できるようにする観点から、ICT機器も含め教育環境の整備等を行うことが重要です。

## IV 学校における性に関する指導の基本的な考え方

### 1 性に関する指導の意義

学校における性に関する指導は、児童生徒の人格の完成を目指す人間教育の一環であり、豊かな人間形成を目的に、生命尊重、人間尊重の精神に基づいて行われる教育です。

このため、性に関する指導は、人間の性を人格の基本的な部分として、生理的側面、心理的側面、社会的側面に加え、生命尊重から捉え、科学的知識を与えるとともに、児童生徒が、自ら考え、判断し、意思決定の能力を身に付け、望ましい行動をとれるよう総合的に指導することが大切です。

学校は、すべての児童生徒に対して、人間尊重や男女平等の精神の徹底を図り、性に関する基礎的・基本的な内容を、児童生徒の発達段階に即して正しく理解できるようにするとともに、同性や異性との人間関係や現在及び将来の生活において直面する性に関する諸課題に対して、適切な意思決定や行動選択ができるよう、計画的・継続的に指導する必要があります。

### 2 性に関する指導において主に育成を目指す資質・能力

知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 体の発育・発達や思春期の体の変化、生殖に関わる機能の成熟等について、発達の段階に応じて正しく理解する。また、性感染症について正しく理解し、予防や回復のための方法を習得する。</li><li>・ 心や精神機能の発達、自己形成について理解し、不安や悩みに適切に対処することができる。</li><li>・ 家族や社会の一員として必要な性に関する知識を習得するとともに、性に関する社会問題について理解する。</li></ul>
思考力、判断力、表現力等	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 正しい知識に基づいて性に関する課題の解決策を考え、よりよい方策を選択することができる。</li><li>・ 心身の成長発達に伴う悩みや課題に気づき、解決策を工夫して、健康の保持増進を図ることができる。</li><li>・ 周囲と関わりながら家族や社会の一員としての自己の役割を考えるとともに、直面する性の諸課題に対して適切な意思決定や行動選択ができる。</li></ul>
学びに向かう力、人間性等	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 自己の心身の成長発達を踏まえ、自己の性に対する認識を深め、課題を解決しながらよりよく生きていこうとする。</li><li>・ 人間尊重、男女平等の精神に基づいて、性別等にかかわらず、多様な生き方を尊重し、互いに協力し合って豊かな人間関係を築こうとする。</li></ul>

## V 学校における性に関する指導の進め方

### 1 学校における性に関する指導の推進体制

教育活動全体を通じて性に関する指導を行うためには、性に関する指導を推進するための校内体制を整備する必要があります。さらに、その組織が効果的に機能するためには、校務分掌への位置付けを適切にし、その果たすべき役割を明確にすることが大切です。

#### (1) 性に関する指導を推進するための組織の明確化

性に関する指導を推進するための組織は、学校の規模や性に関する指導の課題等に応じて、性に関する指導を推進するための組織を独立して設置したり、関連する機能を併せもつ分掌組織としたりすること等が考えられます。より効果的な組織運営が図られるようにするためには、校長、副校長、教頭、主幹教諭、保健主事、養護教諭、教育相談担当者、関係教科・学年の担当者等で幅広く構成することが大切です。

さらに、学校、家庭、地域が連携した性に関する指導を推進するとともに、性被害・性暴力等も含め、性に関する問題の発生防止と解決を図るため、校内の相談体制を整備し、地域の関係機関等の支援や協力のもと、校外組織と連携を図ることも大切です。

#### (2) 関係校務分掌組織との連絡・調整

性に関する指導が効果的かつ円滑に行われるよう、校長、副校長、教頭、主幹教諭、保健主事、養護教諭等は、関係校務分掌組織との連絡・調整を図ります。

特に、性に関する指導に直接関わりの深い校務分掌組織や教科等の担当教員との連携を図ることが大切です。

#### (3) 教職員の役割

学校において、性に関する指導を適切かつ円滑に進めるためには、全教職員がそれぞれの役割や相互の協力の必要性、連携の方法等について理解しておくことが不可欠です。学校の規模や実態等状況を踏まえて、職や分掌等に応じて、それぞれの役割を次のように捉え、性に関する指導の推進を図ることが大切です。

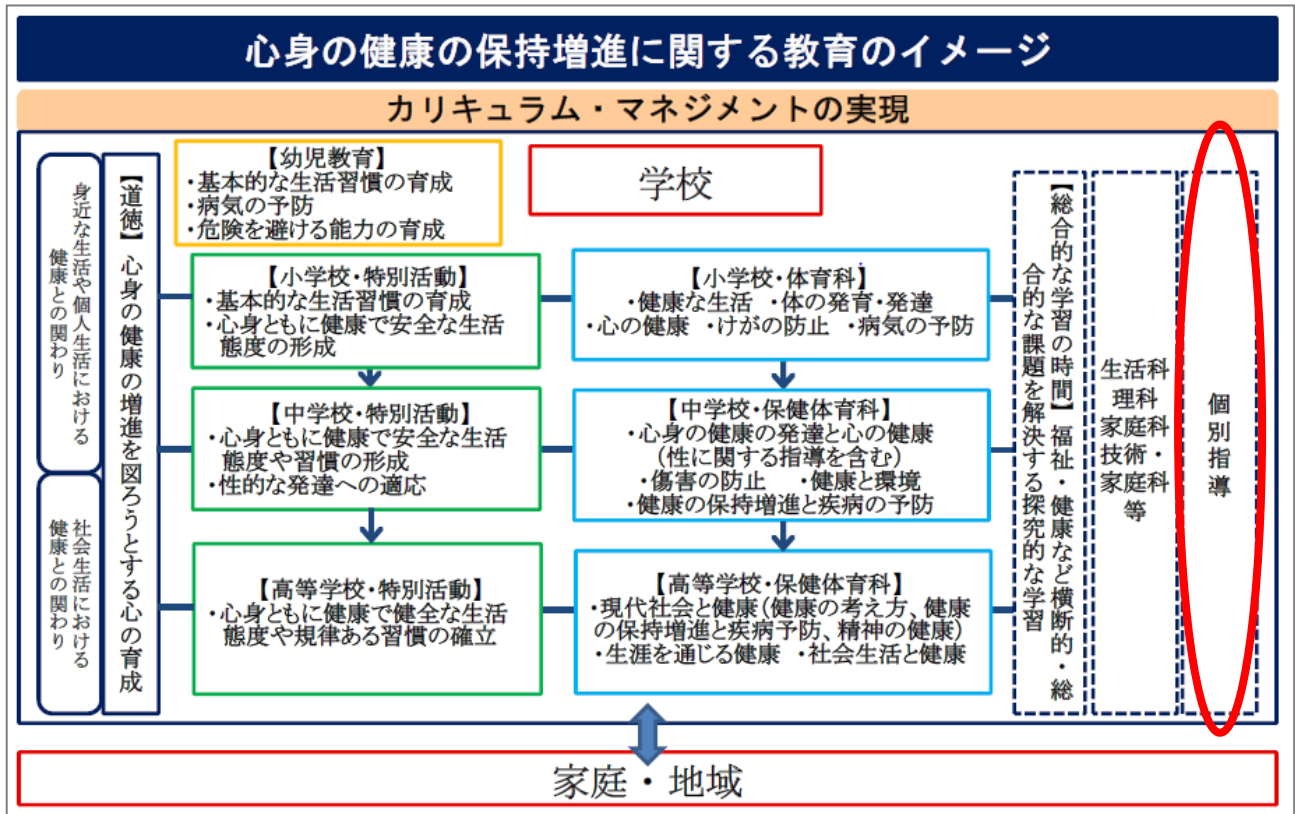
校長 副校長 教頭	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 管理職として学校全般の経営や運営に当たることから、性に関する指導の意義を十分に理解し、課題を把握した上で、学校としての性に関する指導の基本方針を明確にし、教育活動全体を通じて推進を図る。</li><li>・ 性に関する指導の全体計画を定め、その内容を確認するとともに、計画に基づいて行われる指導内容を指導計画等から把握し、教職員に対して適切に指導助言を行う。</li><li>・ 性に関する指導に効果的な教材・教具等を十分に把握し、適正な性に関する指導の推進に努める。</li><li>・ 家庭、地域、関係機関等との連携を図るための環境や条件等の整備を行うなど、校内体制を整備する。</li><li>・ 学校内において人間尊重や男女平等の精神が醸成され、教職員や児童生徒が互いに尊重し合うことができるような学校経営に努める。</li></ul>
-----------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

<p>主幹教諭 教務主任</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 性に関する指導の推進に向けて、指導計画の立案や他の教育活動との調整等を行う。また、性に関する指導の内容及び方法について指導助言を行う。</li> <li>・ 校内の関係分掌との連絡・調整を図り、性に関する指導に必要な機会の確保や校内研修を企画・運営するなどして、全教職員の指導力の向上を図る。</li> </ul>
<p>生徒指導主任 教育相談担当</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 児童生徒の性に関する意識や行動等の状況を的確に把握する。</li> <li>・ 児童生徒指導における性に関する指導の実施者として、集団指導や個別指導、相談活動等を通して、児童生徒の望ましい意識や態度の育成に努める。</li> <li>・ 性に関する問題行動等については、教職員の連携による指導や支援が適切に行われるよう努める。</li> </ul>
<p>保健主事</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学校保健計画に基づく学校保健活動を推進する中で、性に関する指導が適切に行われ、児童生徒の性の健康的な発達が促されるよう努める。</li> <li>・ 養護教諭と連携し、学校保健・安全委員会等を通じて、家庭や関係機関等と連携を図るとともに、性に関する情報等を児童生徒のみならず教職員や家庭・地域に提供する。</li> </ul>
<p>養護教諭</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 専門性を生かし、性に関する指導の全体計画立案や教職員の研修等に積極的に参画し、校内における性に関する指導の推進を支える。</li> <li>・ 保健室の機能を通じて得られた児童生徒の性に関わる様々な情報等を整理し、それらが学校全体で行われる性の指導や個別の指導に生かすことができるようにする。</li> <li>・ 健康相談において、児童生徒の様々な性に関する意識や問題等を把握し、その背景を分析するとともに、課題解決のための支援や関係者との連携に努める。</li> </ul>
<p>教科担任 学級担任</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 担当する教科や学級において、指導計画に基づいた指導を行う。担当する教科の性に関する内容の指導に当たっては、学校としての性に関する指導の方針やねらいに照らし、効果的な指導展開がなされるよう、創意工夫を重ねることが求められる。</li> <li>・ 学級経営では、学級の雰囲気や児童生徒の学校生活が、性に対する意識や行動の形成に大きく影響するものであることを理解し、人間尊重、男女平等等の性に関する指導の理念が具体化するよう努める。</li> </ul>
<p>その他 (外部講師)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学校において性に関する指導を実施する際、産婦人科医や助産師等の外部講師による授業を実施することは、学校としての指導のねらいを踏まえて行うことによって効果が高まる。外部講師を依頼する場合には、事前に十分な打合せを行う必要がある。</li> </ul>

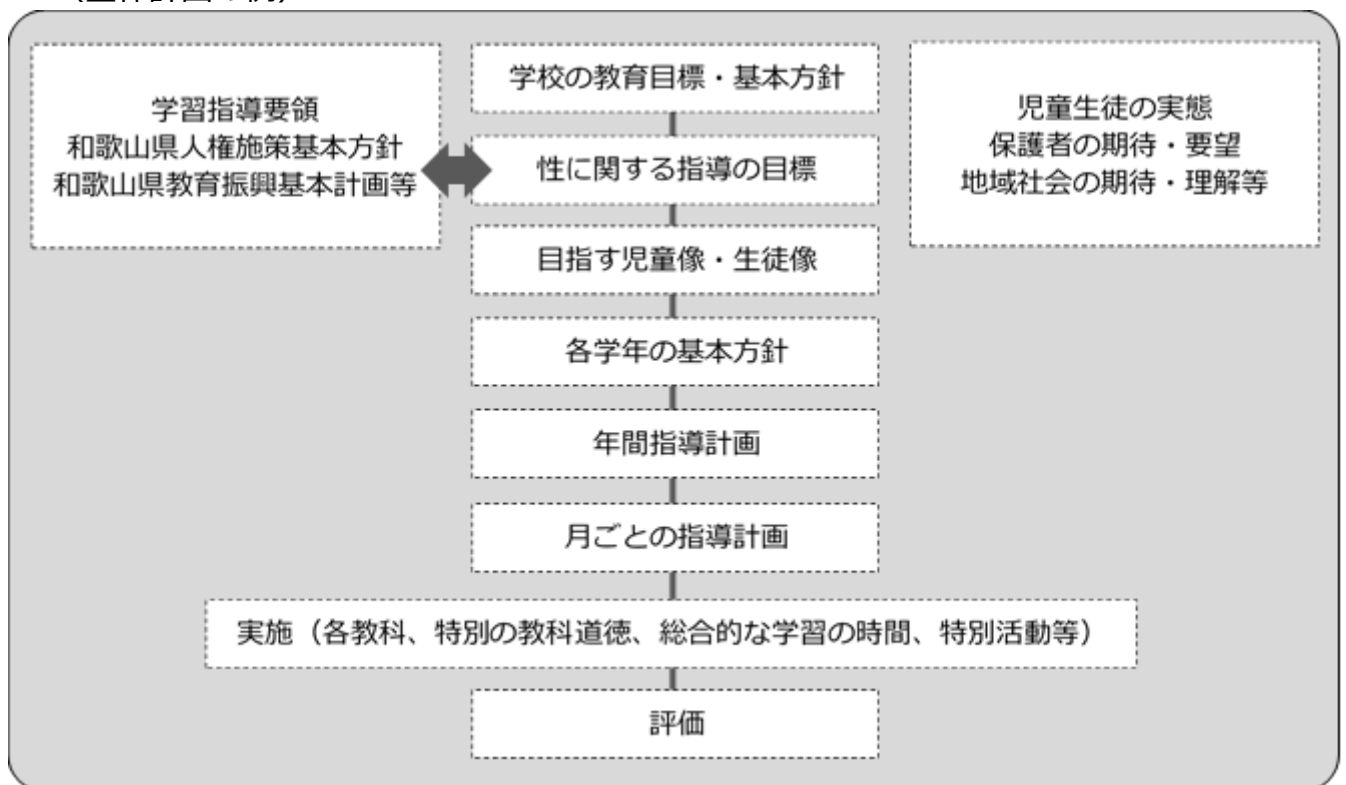
## 2 全体計画の作成

性に関する指導は、各教科、特別の教科 道徳、総合的な学習（探求）の時間及び特別活動等集団的な場面で行う指導や援助と、性に関する健康相談等において行う個別指導に大別されます。主に集団の場面で必要な指導や援助を行うガイダンスと、一人一人が抱える課題

に個別に対応した指導を行うカウンセリングの双方の観点から、学校の教育活動全体で共通理解を図ることが重要です。また、学校全体で共通理解を図るためには、カリキュラム・マネジメントの視点に立った教科等横断的な性に関する指導の全体計画や年間指導計画を作成することが必要です。



(全体計画の例)



### 3 性に関する指導を進める上での留意点

#### (1) 特別な配慮を必要とする児童生徒への指導

特別な配慮を要する児童生徒への指導について、学習指導要領には以下のように示されています。中学校、高等学校の学習指導要領においても、同様の内容が示されています。

【小学校学習指導要領（平成 29 年 3 月 第 1 章 総則 第 4 の 2 特別な配慮を必要とする児童への指導）】

#### **(1) 障害のある児童などへの指導**

ア 障害のある児童などについては、特別支援学校等の助言又は援助を活用しつつ、個々の児童の障害の状態等に応じた指導内容や指導方法の工夫を組織的かつ計画的に行うものとする。

イ 特別支援学級において実施する特別の教育課程については、次のとおり編成するものとする。

(ア) 障害による学習上又は生活上の困難を克服し自立を図るため、特別支援学校小学部・中学部学習指導要領第 7 章に示す自立活動を取り入れること。

(イ) 児童の障害の程度や学級の実態等を考慮の上、各教科の目標や内容を下学年の教科の目標や内容に替えたり、各教科を、知的障害者である児童に対する教育を行う特別支援学校の各教科に替えたりするなどして、実態に応じた教育課程を編成すること。

ウ 障害のある児童に対して、通級による指導を行い、特別の教育課程を編成する場合には、特別支援学校小学部・中学部学習指導要領第 7 章に示す自立活動の内容を参考とし、具体的な目標や内容を定め、指導を行うものとする。その際、効果的な指導が行われるよう、各教科等と通級による指導との関連を図るなど、教師間の連携に努めるものとする。

エ 障害のある児童などについては、家庭、地域及び医療や福祉、保健、労働等の業務を行う関係機関との連携を図り、長期的な視点で児童への教育的支援を行うために、個別の教育支援計画を作成し活用することに努めるとともに、各教科等の指導に当たって、個々の児童の実態を的確に把握し、個別の指導計画を作成し活用することに努めるものとする。特に、特別支援学級に在籍する児童や通級による指導を受ける児童については、個々の児童の実態を的確に把握し、個別の教育支援計画や個別の指導計画を作成し、効果的に活用するものとする。

#### **(2) 海外から帰国した児童などの学校生活への適応や、日本語の習得に困難のある児童に対する日本語指導**

ア 海外から帰国した児童などについては、学校生活への適応を図るとともに、外国における生活経験を生かすなどの適切な指導を行うものとする。

イ 日本語の習得に困難のある児童については、個々の児童の実態に応じた指導内容や指導方法の工夫を組織的かつ計画的に行うものとする。特に、通級による日本語指導については、教師間の連携に努め、指導についての計画を個別に作成することなどにより、効果的な指導に努めるものとする。

#### **(3) 不登校児童への配慮**

ア 不登校児童については、保護者や関係機関と連携を図り、心理や福祉の専門家の助言又は援助を得ながら、社会的自立を目指す観点から、個々の児童の実態に応じた情報の提供その他の必要な支援を行うものとする。

イ 相当の期間小学校を欠席し引き続き欠席すると認められる児童を対象として、文部科学大臣が認める特別の教育課程を編成する場合には、児童の実態に配慮した教育課程を編成するとともに、個別学習やグループ別学習など指導方法や指導体制の工夫改善に努めるものとする。



中学校では、これらに加えて以下に該当する生徒についても配慮が必要です。

【中学校学習指導要領（平成29年3月） 第1章 総則 第4の2 特別な配慮を必要とする生徒への指導】

#### (4) 学齢を経過した者への配慮

ア 夜間その他の特別の時間に授業を行う課程において学齢を経過した者を対象として特別の教育課程を編成する場合には、学齢を経過した者の年齢、経験又は勤労状況その他の実情を踏まえ、中学校教育の目的及び目標並びに第2章以下に示す各教科等の目標に照らして、中学校教育を通じて育成を目指す資質・能力を身に付けることができるようにするものとする。

イ 学齢を経過した者を教育する場合には、個別学習やグループ別学習など指導方法や指導体制の工夫改善に努めるものとする。

#### (2) 指導に当たっての留意点

- 学校が行う性に関する指導の目標や内容方法等について、教職員のみならず保護者に対しても理解と協力を求める必要があります。
- 性に関する指導に関して使用する用語は、必ずしもその意味が共通に理解されないままに使用されている状況が見られます。特に、新たな表記や外来語等については、その意味を確認して使用する必要があります。また、児童生徒の状況に応じて、表現方法に配慮して指導することが重要です。
- 児童生徒の身体的・精神的発達や性的成熟には個人差があり、性に関する情報の質や量にも差異があるため、個人差等に十分配慮する必要があります。児童生徒が自らの課題を解決しようとする学習にあっては、発達の段階に即した適切な情報を提供することが重要です。
- 性的指向・性自認や宗教等に配慮し、児童生徒や保護者の理解を得ながら支援を進めることが重要です。
- 性に関する指導においては、教職員と児童生徒及び保護者との信頼関係は不可欠であり、その確立に努める必要があります。

#### (3) 学習指導要領に示されていない内容を含む指導

在籍する児童生徒の状況から校長が判断し、学習指導要領に示されていない内容を指導する必要がある場合には、事前に学習指導案を保護者全員に説明し、保護者の理解を得た児童生徒を対象に個別指導（グループ等同時指導も可）を実施することが考えられます。

#### (4) 性に関する指導において使用する教材・教具についての考え方

性に関する指導では、教科等の内容を学習する目的で作成した教科書によって学習したり、教科書以外の教材が使用されたりします。学校において教科書以外の教材を使用するに当たっては、「学校における補助教材の適切な取扱いについて（平成27年3月4日付け26文科初第1257号）」を参考にしてください。

＜学校における補助教材の適切な取扱いについて（H27.3.4 付け通知）＞（抜粋）

1. 補助教材の使用について

（2）各学校においては、指導の効果を高めるため、地域や学校及び児童生徒の実態等に応じ、校長の責任の下、教育的見地からみて有益適切な補助教材を有効に活用することが重要であること。

2. 補助教材の内容及び取扱いに関する留意事項について

（1）学校における補助教材の使用の検討に当たっては、その内容及び取扱いに関し、特に以下の点に十分留意すること。

- ・ 教育基本法、学校教育法、学習指導要領等の趣旨に従っていること。
- ・ その使用される学年の児童生徒の心身の発達の段階に即していること。
- ・ 多様な見方や考え方のできる事柄、未確定な事柄を取り上げる場合には、特定の事柄を強調し過ぎたり、一面的な見解を十分な配慮なく取り上げたりするなど、特定の見方や考え方に偏った取扱いとならないこと。

（2）補助教材の購入に関して保護者等に経済的負担が生じる場合は、その負担が過重なものとならないよう留意すること。

4 外部講師を活用した性に関する指導の進め方

性に関する指導を実施する場合、関係機関や専門家等外部講師による専門的な知識に基づく指導や協力を得ることで、より効果的に進めることができます。また、そのためには、事前に指導内容や指導方法について、十分な打合せを行うこと、学校の性に関する指導の方針や児童生徒の実態について情報交換を行い、連携を深めておくことが大切です。

（1）外部講師を活用した性に関する指導の進め方の基本方針

① 講師の専門性が十分に生かされるよう工夫する。

地域や学校の実情に応じて、医師、助産師、保健師等それぞれの専門性が十分生かせるような指導の工夫を行い、教員と外部講師による十分な連携のもとに性に関する指導を行うことが大切です。

② 学校教育活動全体を通じた健康教育の一貫として行う。

保健体育科を中心に学校の実情に応じて教育活動全体を通じて適切に行うことが大切です。学級担任や教科担任、保健主事等が中心となって健康教育の一環として企画するものであり、必要に応じて、養護教諭と連携することも有効です。また、家庭や地域社会との連携を図りながら、生涯にわたって健康な生活を送るための基礎が培われるよう配慮する必要があります。なお、学校保健計画に位置付けるなどして計画的に実施することで、効果的な指導につながります。

③ 発達の段階を踏まえた指導を行う。

発達の段階を踏まえ、心身の発育・発達と健康、性感染症の予防等に関する知識を確実に身に付けることが大切です。その際、各校種のねらいを踏まえ、発達の段階を考慮し、外部講師を活用した性に関する指導を行うなどの工夫が必要です。

- ① 学校が主体となって企画・運営を行う。
- ② 核となる教員や授業を担当する教員だけでなく、すべての教職員の共通理解のもとに進める。
- ③ 学校での取組内容を保護者や関係機関などに周知・共有することにより、連携体制を構築する。
- ④ 年度当初の職員会議等で、「学校保健計画」に基づき外部講師を活用した性に関する指導の開催予定を周知するなど、情報を共有する。

## (2) 外部講師を活用した性に関する指導の手順

	学校内	関係者との調整
企画	保健主事、教科担当教諭、学級担任等を中心に核となる教員を決め、関係教職員と連携しつつ、外部講師を活用した性に関する指導を企画する。 ・どんなテーマで ・いつ ・誰を講師に	外部講師と連携した性に関する指導の企画に合わせて、関係機関に講師の派遣を依頼する。 ・事前打診 ・正式依頼状送付 ・打合せ日程調整
打合せ	外部講師と連携した性に関する指導の実施に向けて、教職員の共通理解を図り、実施内容等について話し合う。 また、教科書や性に関する指導に関わるビデオ、パンフレット等の資料を準備し、講師予定者との打合せに備える。	講師予定者と当日の指導内容や指導方法について打合せを行う。 ・詳細な日程 ・講師と学校の役割分担 ・準備品等 ・指導上の留意事項の確認
準備・事前指導	当日児童生徒に配布する資料や使用する視聴覚機材を準備する。必要な場合には事前学習・事前指導等を行う。	資料や視聴覚機材についての最終確認を行う。講師と教員との役割分担についても確認する。
外部講師と連携した性に関する指導	本時における性に関する指導の目的・ねらいの説明、講師の紹介等を行う。 外部講師と連携した性に関する指導を実施する。	講師との最終確認を行い、性に関する指導を実施する。
実施後の指導	学校の実情に応じて、各教科等の学習内容と関連付けた指導を行う。 児童生徒と外部講師との質疑応答の機会を設けるとともに、振り返りの時間を確保する。	外部講師に授業実施後の感想等を尋ねるとともに児童生徒からの質問や感想等を提供し、指導上の課題や児童生徒の実施後の指導等について話し合う。
評価・まとめ	成果や課題について担当者と話し合い、次年度の外部講師と連携した性に関する指導に生かす。 また、この結果はすべての教職員で共有する。	講師及び講師の所属先に礼状を出す。

参考：外部講師を活用したがん教育ガイドライン（令和3年3月一部改訂）

## 5 家庭・地域・関係機関との連携

性に関する指導を実施するに当たっては、学校と家庭、地域との連携を推進し、その意義や重要性を理解するなど、保護者や地域の理解を得ることが大切です。

「きのくに学び月間」等学校開放期間に授業を公開したり、学年だよりや保健だより等を通じて情報の提供をしたりするなどして、性に関する指導のねらいや学習内容を周知し、保護者や地域の理解を得た上で実施します。

### <家庭との連携>

- 各種の便り等による情報提供・啓発活動
- 保護者の意識調査の実施
- 文化祭等の行事での取組
- 授業参観の実施
- 保護者会、学級懇談会等における性の問題の提示
- 保護者向け講演会の実施
- 学校保健委員会での取組の充実

### <地域社会との連携>

- P T A主催による地域住民を対象とした家庭教育学級の開催
- 地域のコミュニティセンターと連携した事業への協力
- 青少年対策委員会等と連携した性に関する地域情報の収集
- 地域医療機関や保健所等との連携
- 学校運営協議会における地域・学校が一体となった活動

# 実 践 編

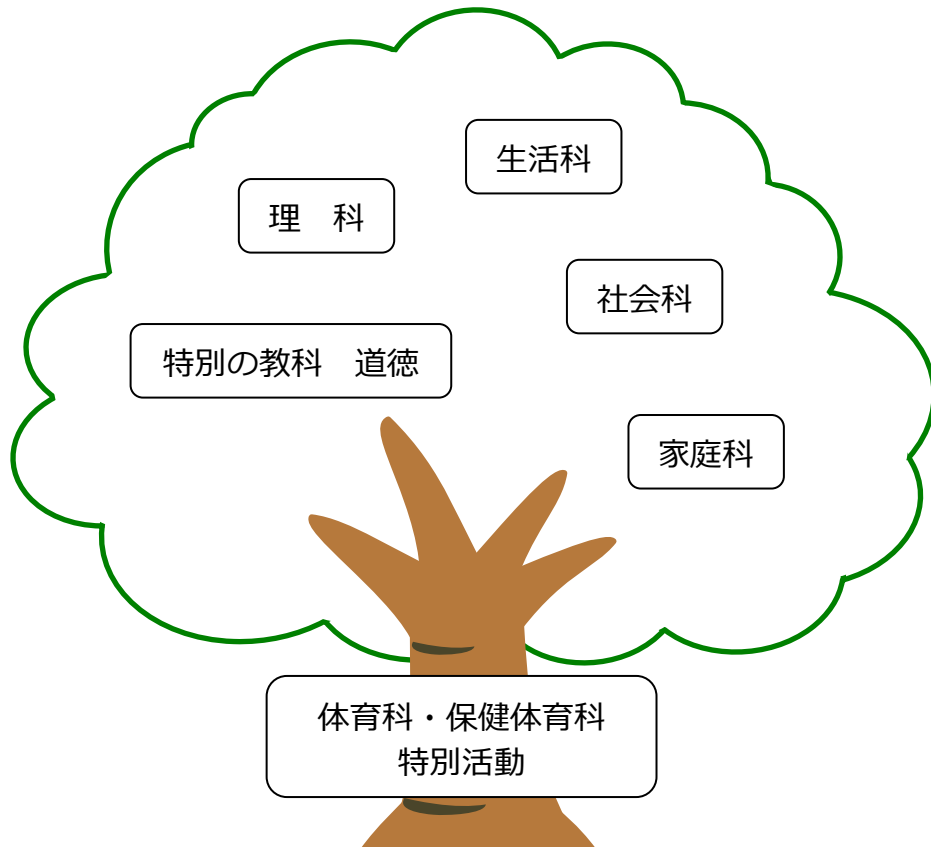


## 実践編の見方

【1】指導展開例は全体計画の①から順に並べています。

		小学校					
		1年	2年	3年	4年	5年	6年
生命尊重	「生命の尊さ」(道徳科)						
生物的側面	心身ともに健康で安全な生活態度の形成(特別活動) ・せいけつなからだ ①			健康な生活(体育科) ・健康な生活 ・1日の生活の仕方 ①	体の発育・発達(体育科) ・体の発育・発達 ・思春期の体の変化 ・体をよりよく発育・発達させるための生活 ②		病気の予防(体育科) ・病気の起こり方 ・病原体が主な要因となって起こる病気の予防 ・地域の様々な保健活動の取組 ①
				心身ともに健康で安全な生活態度の形成(特別活動) ・ごんにちはわたしたちの思春期 ②	動物の誕生(理科) ②	人の体のつくりと働き(理科)	

【2】学校教育活動全体を通じた指導とするため、体育科・保健体育科及び特別活動の中核に据えて、類似する内容について指導する教科をまとめています。



【3】中核となる指導展開例の右上に番号を記載しています。

②
<p><b>指導事例 4 体の成長とわたし</b></p> <p>対象：第4学年 <span style="float: right;">教科等：体育科保健領域</span></p> <p>★教育課程上の位置付け 体育科保健領域「体の発育・発達」</p> <p>(2) 体の発育・発達について、課題を見付け、その解決を目指した活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ア 体の発育・発達について理解すること。</p>

【4】②を中核となる教科とし、教科横断的な指導の工夫として、関連する内容を一覧表にしています。

学年	教科等	主な学習内容・学
4年	体育	<p style="text-align: center;"><b>体の発育・発達</b></p> <p>思春期の体の変化①</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 思春期になると次第に大人の体に近づき、人によって違いがあるものの、体つきに変化が起こり男女の特徴が現れること、変声や発毛が起こること等について理解する。</li> <li>・ 思春期の体の変化について、学習したことを、自己の体の発育・発達と結び付けて考える。</li> <li>・ 体の発育・発達について関心を持ち、健康の大切さに気付く。</li> </ul> <p>思春期の体の変化②</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 思春期になると人によって違いがあるものの、変声、発毛、初経、精通等が起こること、また、異性への関心が芽生えること等について理解する。</li> <li>・ 思春期の体の変化について、学習したことを、自己の体の発育・発達と結び付けて考える。</li> <li>・ 体の発育・発達について関心を持ち、健康の大切さに気付く。</li> </ul>

### 教科等横断的な指導の工夫

学年	教科等	主な学習内容・学
		<p style="text-align: center;"><b>自分自身の生活や成長に関する内容</b></p> <p>大きくなった自分をふりかえろう</p>



【5】関連する教科には指導展開例ではなく、授業において持っていたきたい「性に関する指導の視点」及び指導に当たっての「ワンポイントアドバイス」を示しています。

5年	理科	<p>ヒトの受精卵</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ヒトの受精卵が母親の体内で育つ様子について、自分の課題を持ち、調べ学習を進める。</li> <li>・ 調べたことをもとにして発表資料を作成し、発表したり聞いたりしながら、生命の連続性を感じる。</li> </ul> <p><b>性に関する指導の視点</b> ヒトも他の生物と同様に子が親になり、また、子を生むことによって生命を受け継いでいることに気付けるようにし、子供自身も長きにわたって受け継がれてきた命であることを捉えられるようにする。</p> <p><b>ワンポイントアドバイス</b> エコー写真や成長を記録した写真資料、また、映像資料や模型等を活用することで、「胎児」が成長していく様子を具体的に理解することができます。</p>
----	----	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【6】これらの学習を通して、期待すべきことを記載しています。

		<p><b>ワンポイントアドバイス</b> これまで家族が自分に対してしてきたこと、また、自分が家族に対してしてきたことを考えることで、「してもらう自分」から「できる自分」への成長を実感し、自己肯定感を高めることにつながります。</p>
<p>*****</p> <p>生命の誕生や体の発育・発達における個人差、思春期の体の変化、性への関心の芽生え、体をよりよく発育・発達させるための生活について理解することができる。</p> <p>また、自分の成長を見つめ、自他の生命の大切さについて考えることを通して、心身の発育・発達等を肯定的に捉え、自他の生命を大切にしようとする態度を育成することが期待できる。なお、性的マイノリティの児童にとって、思春期における体の変化は肯定的に捉えにくいことから、個別指導につなげるなど、きめ細やかに対応する必要がある。</p>		
<p>②を中核とした関連するすべての学習を通して、期待すべきこと</p>		

# 性に関する指導の全体計画

	小学校					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
生命尊重	「生命の尊さ」(道徳科)					
生物的側面			健康な生活 (体育科) ・健康な生活 ・1日の生活の仕方 ①	体の発育・発達 (体育科) ・体の発育・発達 ・思春期の体の変化 ・体をよりよく発育・発達させるための生活 ②		病気の予防 (体育科) ・病気の起こり方 ・病原体が主な要因となって起こる病気の予防 ・地域の様々な保健活動の取組 ①
	心身ともに健康で安全な生活態度の形成 (特別活動) ・せいけつなからだ ①			心身ともに健康で安全な生活態度の形成 (特別活動) ・こんにちはわたしたちの思春期 ②	動物の誕生(理科) ②	人の体のつくりと働き(理科) ①
心理的側面	「個性の伸長」(道徳科)					
				体の発育・発達 (体育科) ・体の発育・発達 ・思春期の体の変化 ・体をよりよく発育・発達させるための生活 ②	心の健康(体育科) ・心の発達 ・心と体との密接な関係 ・不安や悩みへの対処 ③	
社会的側面	「節度、節制」「相互理解、寛容」「家族愛、家庭生活の充実」(道徳科)					
	学校、家庭及び地域の生活に関する内容 (生活科) ④	自分自身の生活や成長に関する内容 (生活科) ②	「友情、信頼」(道徳科)			けがの防止 (体育科) ・交通事故や身の回りの生活の危険が原因となって起こるけがとその防止 ④
		心身ともに健康で安全な生活態度の形成 (特別活動) ・自分の体をまもろう ④			自分の成長と家族・家庭生活(家庭科) ②	よりよい人間関係の形成 (特別活動) ・いろいろな性について知ろう ③
生命の安全教育	自他の尊重、水着で隠れる部分			SNSの危険性		

中学校			高等学校		
1年	2年	3年	1年	2年	3年
			自他の個性の理解と尊重、よりよい人間関係の形成（特別活動） ・生まれる生命について考える ⑫		
心身の機能の発達と心の健康（保健体育科） ・身体機能の発達 ・生殖に関わる機能の成熟 ⑤		健康な生活と疾病の予防（保健体育科） ・感染症の予防 ・個人の健康を守る社会の取組 ⑧	現代社会と健康（保健体育科） ・現代の感染症とその予防 ⑩		
			生涯を通じる健康（保健体育科） ・生涯の各段階における健康 ⑫		
いろいろな生物とその共通点（理科） ⑤	生物の体のつくりと働き（理科）	生命の連続性（理科） ⑤			遺伝情報の発現と発生（生物） ⑫
向上心・個性の伸長（道徳科）					
心身の機能の発達と心の健康（保健体育科） ・欲求やストレスへの対処と心の健康 ⑥			公共的な空間における人間としての在り方生き方（公民・公共） ⑬		
思春期の不安や悩みの解決、性的な発達の対応（特別活動） ・思春期の不安や悩み ⑥				生命の尊重と心身ともに健康で安全な生活態度や規律ある習慣の確立（特別活動） ・青年期の欲求と葛藤について話そう ⑪	
			生涯を通じる健康（保健体育科） ・生涯の各段階における健康 ⑪		
			生涯を通じる健康（保健体育科） ・生涯の各段階における健康 ⑫		主体的な進路の選択決定と将来設計（特別活動） ・家族のかたちとこのからの人生 ⑬
心身の機能の発達と心の健康（保健体育科） ・成熟の変化に伴う適切な行動等 ⑦	傷害の防止（保健体育科） ・交通事故や自然災害などによる傷害の発生要因 ・交通事故などによる傷害の防止 ⑦	・私たちが生きる現代社会と文化の特色（社会科） ⑦ ⑧	男女相互の理解と協力（特別活動） ・よりよい人間関係について考えよう（デートDV） ⑪		青年期の悩みや課題とその解決（特別活動） ・多様な性について考えよう ⑩
	思春期の不安や悩みの解決、性的な発達の対応（特別活動） ・性情報への対応・性犯罪被害の防止 ⑦	男女相互の理解と協力（特別活動） ・自分らしく・共に生きる ⑨	子供と共に育つ（家庭総合） 生涯を見通す（家庭総合） 青年期の自立と家族・家庭及び社会（家庭総合） ⑫ ⑬		
自分の成長と家族・家庭生活（技術・家庭科） ⑨			情報（情報科） ・情報社会の問題解決		
目標にふさわしい探究活動（総合的な学習の時間）					
性暴力、デートDV JKビジネス、セクシュアルハラスメント、レイプドラッグ、酩酊に乗じた性暴力、AV出演強要					



小 学 校



## 指導事例 1 健康な生活

対象：第3学年

教科等：体育科保健領域

### ★教育課程上の位置付け

体育科保健領域「健康な生活」

- (1) 健康な生活について、課題を見付け、その解決を目指した活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
- ア 健康な生活について理解すること。
- (イ) 毎日を健康に過ごすには、運動、食事、休養及び睡眠の調和のとれた生活を続けること、また、体の清潔を保つことなどが必要であること。
- イ 健康な生活について課題を見付け、その解決に向けて考え、それを表現すること。

### 1 単元の目標

- (1) 健康の状態は、主体の要因や周囲の環境の要因が関わっていること、健康の保持増進には、運動、食事、休養及び睡眠の調和のとれた生活を続けることや体の清潔を保つこと、明るさの調節、換気等の生活環境を整えることについて、理解することができるようにする。
- (2) 健康な生活について課題を見つけ、その解決に向けて考え、それを表現することができるようにする。
- (3) 健康な生活について、健康の大切さに気付き、自己の健康の保持増進に進んで取り組むことができるようにする。

### 2 単元について

ここでは、児童が自主的に健康によい生活を送るための基礎として、健康の大切さを認識できるようにするとともに、毎日の生活に関心を持たせ、健康によい生活の仕方を理解できるようにする必要がある。そのため、日常の具体的な場面の中から「元気な様子の人（架空の人物であり、以下、「元気さん」とする。）」に注目し、毎日を元気に過ごすためにはどうしたらよいかを考えることから始める。そして、それらを主体の要因と環境の要因に分け、それぞれの要因について自分の生活に置き換えながら考え、自分の生活を見直すことを通して、健康によい一日の生活の仕方や生活環境を整えるために自分でできることを実践する意識を持つ。

特に、第3学年は保健領域の学習に最初に出会う学年である。伸び伸びとした元気いっぱいの子供が、健康は、明るく元気な毎日の生活のためにはかけがえのないものであることを実感し、今後の学習につながるよう配慮するものとする。

### 3 単元計画

時	学習内容
1	健康な生活とわたし ○心や体の調子がよいなどの健康の状態は、主体の要因や身の回りの環境の要因が関わっていること。

①

2	一日の生活の仕方 ○毎日を健康に過ごすためには、一日の生活のリズムに合わせて運動、食事、休養及び睡眠の調和のとれた生活をする必要があること。
3 (本時)	体の清潔 ○毎日を健康に過ごすためには、体の清潔を保つこと等が必要であること。
4	身の回りの環境 ○毎日を健康に過ごすためには、明るさの調節、換気等の生活環境を整えること等が必要であること

## 4 本時の指導（全4時間中の3時間目）

## (1) 目標

- ・健康の保持増進には、手や足等の清潔、ハンカチや衣服等の清潔を保つことが必要であることについて、理解したことを言ったり書いたりすることができるようにする。（知識）
- ・健康な生活について、運動、食事、休養及び睡眠、体の清潔等の学習したことと、自分の生活を比べたり関連付けたりして、健康に過ごすために考えた方法を学習カード等に行ったり、発表したりして友達に伝えることができるようにする。（思考力、判断力、表現力等）
- ・健康な生活について、課題の解決に向けての話合いや発表等の学習や教科書や資料等を調べたり、自分の生活を振り返ったりするなどの学習に進んで取り組もうとすることができるようにする。（学びに向かう力、人間性等）

## (2) 展開例

段階	主な学習内容・学習活動	○指導上の留意点 ◆評価
導入 (10分)	1 休憩時間の後には、どうして手洗いをする必要があるのかを考える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">汚れているように見えない時でも、手洗いをする必要があるでしょうか。</div>	○学校生活を振り返り、手洗いをしたことを想起しながら考えさせる。
	2 ぬれた脱脂綿で手を拭いて気付いたことを発表する。	○汚れているように見えなくても、汚れていることがあることを確認させる。 ○活動の趣旨を理解させ、中傷することがないよう配慮する。
	どうして体を清潔に保つ必要があるのかを考えよう	
	3 手以外に汚れやすい場所を考える。	○「元気さん」（人の絵）を掲示する。



展開 (30分)	<p>&lt;予想される反応&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・汗をかくから、頭や顔は汚れやすい。</li> <li>・大便や小便が出るから、お尻等は汚れやすい。</li> <li>・身にまとっている衣服も汚れているのではないだろうか。</li> </ul> <p>4 下着に付いた汚れの染め出し実験の結果を観察し、気付いたことを発表する。</p> <p>&lt;予想される反応&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・汗を吸収しやすい部分が濃い色になっている。</li> <li>・全体的に色が変わっている。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">       汗を吸収しやすい部分以外の場所は、どうして汚れているのでしょうか。     </div> <p>5 小さくて目に見えない菌について知る。</p> <p>6 汚れた体や衣服をそのままにするとどうなるのかを考え、「元気さん」にアドバイスをする。 (学習内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・汗をかいてそのままにすると、体が冷えて、風邪を引いたり、お腹を壊したりしやすくなる。</li> <li>・髪の毛や皮膚は汚れたままにしておくと、かゆくなることがある。</li> <li>・汚れたままにしておくと、細菌が増殖したり、嫌な臭いのもとになったりする。</li> <li>・病原体がついた手で食事をすると、病気のもとになる場合がある。</li> </ul>	<p>○「元気さん」の汚れやすい場所を示させるようにし、選んだ理由についても考えさせる。</p> <p>○授業前に実験を録画しておく。</p> <p>○襟や袖等の汚れやすい部分以外の汚れについて、どうして汚れているのかを考えさせる。</p> <p>○細菌が要因となり、病気になる場合もあることを説明する。</p> <p>○「元気さん」の様子を掲示する。</p> <p>○個人思考後にグループで話し合わせることで、意見を出しやすくさせる。</p> <p>○発表で足りない部分がある場合は、教師の話で捕捉する。</p> <p>◆【知識・技能】 健康の保持増進には、手や足等の清潔、ハンカチや衣服等の清潔を保つことが必要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。(発言・学習カード)</p>
-------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

①

<p>まとめ (5分)</p>	<p>7 学習のまとめをする。 ・学習カードに自身の生活を振り返って、体や衣服を清潔に保つために、どのようなことに気を付けたらよいのかを記入し、発表する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>あなたの生活を振り返って、体や衣服を清潔に保つためにできることは何ですか。学習カードにまとめましょう。</p> </div>	<p>○前時に学習した「けんこうな一日の生活」と関連付けて、学習カードに自分の言葉で書くように促す。</p> <p>◆【思考・判断・表現】 健康な生活について、運動、食事、休養及び睡眠、体の清潔等の学習したことと自分の生活を比べたり関連付けたりして、健康に過ごすために考えた方法を学習カード等書いたり発表したりして友達に伝えている。 (発言・学習カード)</p> <p>○児童の発表に対して補足説明を行う。</p>
---------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

## 5 指導のポイント

特別活動においては、学級活動（2）「ウ 心身ともに健康で安全な生活態度の形成」及び「エ 食育の観点を踏まえた学校給食と望ましい食習慣の形成」と関連を図ることができる。例えば、運動・食事・休養及び睡眠の調和のとれた生活、手洗いや衣服等の清潔、明るさの調節や換気の仕方等について、自分の生活の振り返りや対話等を通して見つけた課題を解決するために、改善しなければならないことを、具体的に実践できるように支援していくことが求められる。

また、現代的な諸課題に対応する横断的・総合的な課題として「健康」に焦点を当て、「毎日の健康な生活」を探求課題として設定し、具体的な学習内容としては、「健康な生活を送るためにできることを考えよう」や「これからの生活を健康に送るためのめあてを決めよう」等で、単元構成を考えることができる。

## 指導事例 2 病気の予防

対象：第6学年

教科等：体育科保健領域

### ★教育課程上の位置付け

体育科保健領域「病気の予防」

(3) 病気の予防について、課題を見付け、その解決を目指した活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 病気の予防について理解すること。

(イ) 病原体が主な要因となって起こる病気の予防には、病原体が体に入るのを防ぐことや病原体に対する体の抵抗力を高めることが必要であること。

イ 病気を予防するために、課題を見付け、その解決に向けて思考し判断するとともに、それらを表現すること。

### 1 単元の目標

- (1) 病気の起こり方、病原体が主な要因となって起こる病気の予防、生活行動が主な要因となって起こる病気の予防、喫煙、飲酒、薬物乱用と健康、地域の様々な保健活動の取組について、理解することができるようにする。
- (2) 病気を予防するために、課題を見つけ、その解決に向けて思考し判断するとともに、それらを表現することができるようにする。
- (3) 病気の予防について、健康や安全の大切さに気付き、自己の健康の保持増進や回復に進んで取り組むことができるようにする。

### 2 単元について

本単元では、病原体が主な要因となって起こる病気や生活行動が主な要因となって起こる病気を取り上げ、病気の起こり方の4つの要因と解決のための基礎的事項を理解させる。そして、病気の予防に関する課題を見つけ、よりよい解決に向けた方法を考え、適切に選択したことを友達に説明できるようにするとともに、生涯にわたって自己の健康を保持増進するために進んで取り組む態度につながる資質・能力を身に付けさせたい。

また、学習指導要領の内容の取扱いにおいて、「各領域の内容については、運動領域と保健領域との関連を図る指導に留意すること」と記述されていることから、特に全身を使った運動を日常的に行うことが、大人になってからの病気の予防方法としても重要であること、各運動領域で学習したことをもとに日常的に運動に親しむこととの関連を具体的に考えさせたい。

さらに、個人の健康と地域社会のつながりに関わって、地域の様々な保健活動の取組について理解させ、小学校の保健領域のまとめとして、中学校の保健分野への橋渡しとなるような指導を行いたい。

## ①

## 3 単元計画

時	学習内容
1	病気の起こり方 ○病気は、病原体、体の抵抗力、生活行動、環境が関わり合って起こること。
2 (本時)	病原体が主な要因となって起こる病気の予防 ○病原体が主な要因となって起こる病気には、インフルエンザや結核、麻疹、風疹等があること。 ○その予防には、病原体が体に入るのを防ぐことや病原体に対する体の抵抗力を高めることが必要であること。
3	生活行動が主な要因となって起こる病気の予防① ○生活行動が主な要因となって起こる病気には、心臓や脳の血管が硬くなったりつまったりする病気があること。 ○その予防には、日常的な運動習慣と望ましい生活習慣を身に付ける必要があること。
4	生活行動が主な要因となって起こる病気の予防② ○生活行動が主な要因となって起こる病気には、むし歯や歯ぐきの病気があること。 ○その予防には、望ましい生活習慣を身に付ける必要があること。
5	喫煙と健康 ○喫煙は、健康を損なう原因となること。
6	飲酒と健康 ○適量を超える飲酒は、健康を損なう原因となること。
7	薬物乱用と健康 ○薬物乱用は、健康を損なう原因となること。
8	地域の様々な保健活動の取組 ○保健所や保健センター等では、予防接種等保健に関わる様々な活動が行われていること。

## 4 本時の指導（全8時間中の2時間目）

## (1) 目標

- ・ 病原体が主な原因となって起こる病気の予防には、病原体の発生源をなくしたり、うつる道筋を断ち切ったりして病原体が体に入るのを防ぐことや体の抵抗力を高めておくことが必要であることについて、理解したことを言ったり書いたりすることができるようにする。(知識)
- ・ 病原体が主な原因となって起こる病気の予防について、学習したことを活用して、予防の方法を考えたり適切な方法を選んだりすることができるようにする。  
(思考力、判断力、表現力等)
- ・ 病気の予防について、課題の解決に向けての話合いや発表等の学習や教科書等を調べたり、自分の生活を振り返ったりするなどの学習に進んで取り組むことができるようにする。(学びに向かう力、人間性等)

## (2) 展開例

段階	主な学習内容・学習活動	○指導上の留意点 ◆評価
導入 (5分)	<p>1 「学級閉鎖」の事例から、その原因について考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>欠席者が一人いました。次の日、同じ理由で欠席者が増え、その後、学級閉鎖となりました。上記の事例で、学級閉鎖になった原因の病気は何だと思えますか。</p> </div> <p>&lt;予想される反応&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・インフルエンザ</li> <li>・コロナウイルス感染症</li> <li>・ノロウイルス感染症</li> </ul> <p>(学習内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・病原体に感染して病気になることを確認する。</li> </ul>	<p>○身近な問題として捉えられるように、「学級閉鎖」の事例を挙げる。</p> <p>○活動の趣旨を理解させ、差別や偏見につながることはないよう配慮する。</p> <p>○インフルエンザウイルス、ノロウイルス等の病原体の写真を提示する。</p>
展開 (30分)	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>病原体が主な原因となって起こる病気の予防方法を考えよう</p> </div> <p>2 インフルエンザにならなかつた人がいたことから、その理由について考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>インフルエンザにかからなかつた A さんの秘密を見つけよう。</p> </div> <p>&lt;予想される反応&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・マスクをしていた。</li> <li>・手洗いやうがいをしていた。</li> <li>・予防接種を打っていた。</li> </ul> <p>(学習内容)</p> <p>【病原体をなくす】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・加熱して殺菌する。</li> <li>・日光で消毒する。</li> <li>・薬品を使って消毒する。</li> </ul> <p>【体の抵抗力を高める】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・栄養のバランスがよい食事をとる。</li> <li>・適度な運動をする。</li> </ul>	<p>○ブレインストーミングにより、多様な考えが出るようにする。</p> <p>○Aさんは架空の人物とする。</p> <p>○全体で出た意見を整理する。</p> <p>○「病原体をなくす」、「体の抵抗力を高める」、「病原体のうつる道筋を断ち切る」等の項目に分けて整理する。</p>

①

	<p>【病原体のうつる道筋を断ち切る】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・マスクをする。</li> <li>・部屋の換気をする。</li> </ul> <p>3 インフルエンザ、結核、麻疹、風疹の感染経路について確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>様々な病原体を予防するために自分に何ができるかを考えましょう。</p> </div> <p>&lt;予想される反応&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人ごみを避ける。</li> <li>・マスクをつける。</li> <li>・手洗いやうがいをする。</li> </ul>	<p>○意見が出にくい場合は、Aさんの生活の様子分かる挿絵を用意し、「病原体をなくす」、「体の抵抗力を高める」、「病原体のうつる道筋を断ち切る」について理解を深めることができるようにする。</p> <p>○「接触感染」、「飛沫感染」、「空気感染」について、表にまとめたものを提示する。</p> <p>○エイズの感染経路を示す場合は、血液感染等についても触れる。</p> <p>◆【知識・技能】</p> <p>病原体が主な原因となって起こる病気の予防には、病原体の発生源をなくしたり、うつる道筋を断ち切ったりして、病原体が体に入るのを防ぐことや体の抵抗力を高めておくことが必要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 (発言・ワークシート)</p>
<p>まとめ (10分)</p>	<p>4 事例に対するアドバイスを考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>友達と映画館に行こうと考えていますが、インフルエンザが流行してきています。どのようなアドバイスをしてあげますか。</p> </div>	<p>◆【思考・判断・表現】</p> <p>病原体が主な原因となって起こる病気の予防について、自分の経験と学習したことを関連付けて考えたり、選んだりした方法がなぜ適切なのか、理由をあげて学習カードに書いたり、友達に伝えたりしている。 (発言・ワークシート)</p>

## 5 指導のポイント

本時の「思考・判断・表現」の評価は、学習したことを活用して、予防の方法を考えたり、適切な方法を選んだりして学習カードに記入している状況の評価する。

具体的には、本時ではインフルエンザを取り上げ、病原体が主な原因となって起こる病気の予防の学習を行う。展開の初めには、インフルエンザにならなかつた人がいたのはなぜかを予想させ、その理由については、前時の学習である「病気の起こり方」を想起させる。特に、全体で意見を出す際には、「抵抗力を高める」、「感染経路を断ち

切る」、「病原菌をなくす」等の項目に分けて整理することで、適切な予防方法が選びやすくなる。

続いて、インフルエンザ以外の病原体が主な要因となって起こる病気の予防について理解させるために、「感染経路」、「感染力」を表にまとめたものを提示する。

本時のまとめでは、インフルエンザに関する事例に対するアドバイスを考え、適切な予防方法を選んで学習カードに書かせるようにする。

また、本単元は、学級活動（2）「ウ 心身ともに健康で安全な生活態度の形成」及び、「エ 食育の観点を踏まえた学校給食と望ましい食習慣の形成」と関連を図ることができる。例えば、「望ましい生活習慣」や「一日に必要なカロリー」、「栄養のバランスがとれた食事のとり方」、「ウイルスから身を守ろう」等を取り上げ、生活全体を見直すことにつなげていくことが考えられる。また、自分の健康だけでなく、家族の健康も考えて、「健康な生活を送るために家の人にアドバイスしよう」という活動にも発展させることが可能である。

さらに、保健委員会の活動等とも関連させ、「感染予防に対する情報発信活動」等に取り組むことで、より一層の効果が期待できる。

①

学年	教科等	主な学習内容・学習活動
3年	体育	<p><b>健康な生活</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>健康の保持増進には、手や足等の清潔、ハンカチや衣服等の清潔を保つことが必要であることについて理解する。</li> <li>健康な生活について、運動、食事、休養及び睡眠、体の清潔等の学習したことと、自分の生活を比べたり関連付けたりして、健康に過ごすための方法を考える。</li> <li>健康な生活について、課題の解決に向けての話合いや発表等の学習、教科書や資料等を調べるとともに自分の生活を振り返る。</li> </ul>
6年	体育	<p><b>病気の予防</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>病原体が主な原因となって起こる病気の予防には、病原体の発生源をなくしたり、うつる道筋を断ち切ったりして病原体が体に入るのを防ぐことや体の抵抗力を高めておくことが必要であることについて理解する。</li> <li>病原体が主な原因となって起こる病気の予防について、学習したことを活用して、予防の方法を考えるとともに適切な方法を選ぶ。</li> <li>病気の予防について、課題の解決に向けての話合いや発表等の学習、教科書等を調べるとともに自分の生活を振り返る。</li> </ul>

### 教科等横断的な指導の工夫

学年	教科等	主な学習内容・学習活動
1年	特別活動★	<p><b>せいけつなからだ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自分の体の汚れやすいところに気付き、部位に応じて清潔を保つ方法が異なることを理解する。</li> <li>水着で隠れるところ（胸、性器、尻）と口については、自分だけの大切な場所として、清潔及び安全の両側面から守る方法を理解する。</li> </ul>

\*\*\*\*\*

体を清潔にすることは、よりよい健康を保つために大切であり、感染症の予防等にもつながる行為であることを理解することができる。

また、自分の生活を振り返り、体を清潔にすることの大切さや清潔に保つ方法について考えることを通して、健康の保持増進や感染症の予防のために、自分に合った方法で体をきれいにしていくための実践につながることを期待できる。



## 指導事例 3 せいけつな体

対象：第1学年

教科等：特別活動

### ★教育課程上の位置付け

特別活動 学級活動

#### (2) 日常生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全

##### ウ 心身ともに健康で安全な生活態度の形成

現在及び生涯にわたって心身の健康を保持増進することや、事件や事故、災害等から身を守り安全に行動すること。

#### 1 題材の目標

自分の体の汚れやすいところに気付き、体を清潔にする方法を考えるとともに、自分に合った体の清潔を保つ方法を見つけて実践することができるようにする。

#### 2 題材について

思春期に入る前の体を理解し、大切にするための習慣として、第1学年では、体を清潔にすることや下着を毎日変えることを含め、生活全般にわたって基本的な生活習慣を育成していくことが重要である。日常生活において、目に見える汚れは捉えやすい反面、目に見えない汚れは認識できないことにより、清潔を保つ行動につながりにくい。低年齢のうちから、自分の体の汚れやすい部位を理解し、部位に応じた清潔を保つための方法を生活の中で実践できるようにすることをねらいとする。その際、自分だけの大切なところについては、清潔のみならず、安全にも配慮しようとする気持ちを育むことができるよう指導する。

#### 3 事前の指導

児童の活動	指導上の留意点
給食の時間に手洗いの大切さについて話を聞く。	○手洗いをしていない手で食事をとることにより体調不良を引き起こす可能性があることを例示し、食事の前の手洗いの大切さと病気の予防について理解させる。
ワークシートを記入する。	○体の清潔を保つための方法を振り返るとともに、清潔を保つために日常生活で工夫していることを考えることを知らせる。



	<p>5 自分だけの大切なところを守る方法を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・他人に見せたり触らせたりしない。</li> <li>・他人を蹴ったり叩いたりしない。</li> </ul>	<p>○自分だけの大切なところを誰かが見ようとしたり、触ろうとしたら「嫌」と言うこと。また、むやみに人に見せたり、触らせたりしないことが大切であることをおさえる。</p>
決める	<p>6 「自分の体を大切にする方法」について、自分の目標を決めてワークシートに記入し、発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・清潔を保つ方法</li> <li>・安全に過ごす方法</li> </ul>	<p>○清潔と安全の両側面から自分の目標を考え、日常生活で実践できるよう支援する。 ※ワークシートは事後の指導につなげる。</p>

## 5 事後の指導

児童の活動	指導上の留意点
毎日の生活を振り返り、ワークシート「からだをたいせつに」に一週間記録する。	○毎日の生活を振り返り、清潔を保ち、安全を守るために実践したことをチェックリストに記録させる。
一週間の実践の成果を帰りの会で発表する。	○がんばったこと、気を付けたこと、発見したこと等について、ワークシートに記入し、発表の準備をするよう知らせる。

## 6 指導のポイント

家庭によって生活様式に違いがあるため配慮をするとともに、自分だけでなく、友達の清潔や安全についても関心を持てるように指導する。また、自分だけの大切なところについては、指導事例 9「自分の体を守ろう」につながることから、肯定的な雰囲気の中で指導し、今後の性に関する指導に対して前向きに取り組むことができるよう配慮する。

### まとめのワークシート

	<自分のもくひょう>	月	火	水	木	金	土	日	
きれいにする方法	かえったら、てをあらう。								
	はみがきをする。								
	あさ、かおをあらう。								
	お風呂で自分だけの大切なところをあらう。								
安全に過ごす方法	自分だけの大切なところを人にみせない。								
	自分だけの大切なところを人にさわらせない。								
「がんばったこと」、「きをつけたこと」、「はっけんしたこと」をかきましょう。									

②

## 指導事例 4 体の成長とわたし

対象：第4学年

教科等：体育科保健領域

### ★教育課程上の位置付け

体育科保健領域「体の発育・発達」

(2) 体の発育・発達について、課題を見付け、その解決を目指した活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 体の発育・発達について理解すること。

(イ) 体は、思春期になると次第に大人の体に近づき、体つきが変わったり、初経、精通などが起こったりすること。また、異性への関心が芽生えること。

イ 体がよりよく発育・発達するために、課題を見付け、その解決に向けて考え、それを表現すること。

### 1 単元の目標

- (1) 年齢に伴う体の変化と個人差、思春期の体の変化、体をよりよく発育・発達させるための生活について理解することができるようにする。
- (2) 体の発育・発達について、課題を見つけ、その解決に向けて考え、それを表現することができるようにする。
- (3) 体の発育・発達について、健康の大切さに気付き、自己の健康の保持増進に進んで取り組もうとすることができるようにする。

### 2 単元について

本単元では、思春期の体つきの変化や初経・精通を大人の体に近づく具体的な現象として捉えさせ、近い将来起こった時に不安にならないよう指導する。また、体つきに変化が現れていない児童は実感がなく、変化し始めている時期の児童は恥ずかしいと思いがちである。したがって、自分の体の変化や個人による発育の違い等については、自分のこととして実感させるとともに肯定的に受け止めさせるよう配慮するものとする。さらに、単元の最後に思春期の体の発育・発達には、適切な運動、食事、休養及び睡眠等が必要であることについて、学んだことを自分の生活と関連付けて考えることで、現在における自己の健康の保持増進に進んで取り組もうとすることができるようにする。

### 3 単元計画

時	学習内容
1	体の発育・発達 ○体は年齢に伴って変化すること。 ○体の発育・発達には個人差があること。
2 (本時)	思春期の体の変化① ○思春期になると次第に大人の体に近づき、体つきに変化が起こり、男女の特徴が現れること。

	○思春期には変声や発毛が起こること。 ○変化の起こり方は、人によって違いがあること。
3	思春期の体の変化② ○思春期には初経や精通が起こること。 ○異性への関心も芽生えること。 ○個人差はあるものの、大人の体に近づく現象であること。
4	体をよりよく発育・発達させるための生活 ○体をよりよく発育・発達させるためには、適切な運動、食事、休養及び睡眠等が必要であること。

#### 4 本時の指導（全4時間中の2時間目）

##### （1）目標

- ・ 思春期になると次第に大人の体に近づき、人によって違いがあるものの、体つきに変化が起こり男女の特徴が現れることや変声や発毛が起こること等について、理解したことを言ったり書いたりすることができるようにする。（知識）
- ・ 思春期の体の変化について、学習したことを、自己の体の発育・発達と結び付けて考えることができるようにする。（思考力、判断力、表現力等）
- ・ 体の発育・発達について関心を持ち、健康の大切さに気付き、自己の健康の保持増進に進んで取り組もうとすることができるようにする。  
（学びに向かう力、人間性等）

##### （2）展開例

段階	主な学習内容・学習活動	○指導上の留意点 ◆評価
導入 (5分)	<p>1 シルエットクイズを行い、男女の体つきの違いについて考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>どちらの写真が男子か女子か、わかるかな。</p> </div> <p>&lt;予想される反応&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1年生の時は、後ろ姿だと男女の区別が分かりにくい。</li> <li>・ 大人だと分かりやすい。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>思春期とは、どういうことか覚えていますか。</p> </div>	<p>○体つきの変化が分かるように、小1の男女及び大人の男女のシルエット姿の写真を用意しておく。</p> <p>○気付いた理由についても触れて聞く。</p> <p>○前時の身長伸びの学習を想起させ、「発育が盛んな時期」を思春期であると学習したが、「大人の体に変化していく時期」も「思春期」の特徴であることを伝える。</p>

思春期には、体にどのような変化が起こるのかを考えよう	
展開 ( 30 分 )	<p>2 思春期に起こる男女の体の変化について話し合う。</p> <p>①グループに配られた用紙に、男子の変化に当てはまるカードは男子のスペースに、女子の変化に当てはまるカードは女子のスペースに、両方の変化に当てはまるカードは両方のスペースに置いていく。</p> <p>②黒板にグループの考えを貼り全体で確認する。            (学習内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・思春期には、体つきに変化が起こり、男女の特徴が現れること。</li> <li>・思春期には変声や発毛が起こること。</li> <li>・男子は声が低くなること。</li> </ul> <p>○恥ずかしさを軽減するため、ゲーム感覚を持たせ、思春期になると、体つきや体になどのような変化があるのか、自分の生活をもとにグループで話し合うよう指示する。</p> <p>○それぞれのグループが考えた変化カードの結果を黒板に貼り、正答の多いところから全体で確認していく中で、意見が割れたところはなぜそう思ったのか理由を聞きながら進める。</p> <p>○発毛については、男女両方に起こる発毛や男子のひげ等の発毛があることを伝える。</p> <p>○体つきの変化以外の変化もあることを伝える。</p> <p>○全体の確認後、思春期は、大人の体に近づくことで体つきに変化が起こり、男女の特徴が現れることや変声や発毛等が起こること等をおさえる。</p> <p>◆【思考・判断・表現】            体の発育・発達について、身長や体重等の年齢に伴う体の変化や思春期の体の変化、体の発育・発達に関わる生活の仕方から課題を見つけている。(発言・学習カード)</p>

	<p>3 体の変化が起こる時期や起こり方について知る。 (学習内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・変化の起こり方は、人によって違いがあること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○思春期の体つきの変化が起こる時期は、前時の身長の時と同じように一般的に男女差があり、人それぞれ違うことを伝える。</li> <li>○ひげを例に、目立つ人がいたり、そうでない人がいたりするように、変化の起こり方も人それぞれ違うことを伝える。</li> </ul>
<p>まとめ (10分)</p>	<p>4 学習のまとめをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習カードに思春期に起こる体の変化について記入し、発表する。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>これから、みなさんも思春期を迎えます。思春期を迎えた自分の体はどのように変化していきますか。今日、学習した思春期に起こる変化を学習カードにまとめましょう。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学習カードにこれからの自分の体の変化を想像させ、思春期に起こる男女の体の変化や起こる時期、起こり方は人それぞれ違うこと等を自分の言葉でまとめるよう促す。</li> <li>○児童の発言に対して補足説明を行う。</li> <li>○学習をしてみて質問したいこと、不安や心配ごとがあればいつでも相談してよいことを伝える。</li> </ul> <p>◆【知識・技能】</p> <p>思春期には、体つきに変化が起こり、人によって違いがあるものの、男女の特徴が現れることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。(発言・学習カード)</p>

②

4 本時の指導（全4時間中の3時間目）

(1) 目標

- ・ 思春期になると人によって違いがあるものの、変声、発毛、初経、精通等が起こること、また、異性への関心が芽生えること等について、理解したことを言ったり書いたりすることができるようにする。(知識)
- ・ 思春期の体の変化について、学習したことを、自己の体の発育・発達と結び付けて考えることができるようにする。(思考力、判断力、表現力等)
- ・ 体の発育・発達について関心を持ち、健康の大切さに気付き、自己の健康の保持増進に進んで取り組もうとすることができるようにする。  
(学びに向かう力、人間性等)

(2) 展開例

段階	主な学習内容・学習活動	○指導上の留意点 ◆評価
導入 (5分)	<p>1 前時を振り返る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>大人に近づくにつれて、体はどのように変わっていったのかを覚えていますか。</p> </div> <p>(学習内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ わきの下や性器の周りに、毛が生えてくる。</li> <li>・ 男性は声が低くなる。</li> <li>・ 女性は胸が膨らんでくる。</li> </ul>	<p>○前時の学習を提示し、振り返る。</p>
展開 (35分)	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p>思春期には、体の変化のほかにもどのような変化が起こるのかを考えよう</p> </div> <p>2 思春期には、体の働きにどのような変化が起こるのかを調べる。</p> <p>3 初経、精通について知る。</p> <p>4 初経、精通について学習カードにまとめる。 (学習内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 女子は初経、男子は精通が起こる。</li> <li>・ これらの変化が起こる時期には個人差がある。</li> </ul>	<p>○思春期に見られる体の働きの変化を肯定的に受け止めることができる雰囲気をつくる。</p> <p>○資料から体の働きの変化を調べるよう知らせる。</p> <p>○初経と精通については、簡潔に現象を説明する。</p> <p>○初経や精通を経験している人がいることから、人によって時期は違うが、近い将来、自分にも起こることを自覚させる。</p>



<p>5 思春期の心の変化について経験したことや見たことを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・心の変化の例を参考に、思春期に起こる心の変化について考える。</li> </ul> <p>6 思春期の心の変化について学習カードにまとめる。 (学習内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・異性のことが気になる。</li> <li>・女子と男子で意見が合わない。</li> <li>・異性に冷たくしてしまう。</li> </ul> <p>7 思春期を迎えるに当たっての今の気持ちや思春期になって悩んでいる友達がいた時のアドバイスの仕方について考える。</p> <div data-bbox="312 1655 762 1930" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>これから、みなさんも思春期を迎えます。思春期を迎えるに当たっての今の気持ちと思春期になって悩んでいる友達にかけられる言葉を考えましょう。</p> </div>	<p>○個人で考える時間とグループで意見を交換する時間をとり、意見を出しやすくする。</p> <p>○少人数グループで話し合うことにより、安心して意見を出せるようにする。</p> <p>○異性とは、女子から見て男子のこと、男子から見て女子のことであるが、関心を持つ対象は異性だけに限らないことにも触れる。</p> <p>○人の体や心の変化には個人差があることを認め合い、支え合うことのできるよさを受け止められるようにする。</p> <p>◆【思考・判断・表現】 体の発育・発達について、自己の生活と比べたり、関連付けたりするなどして、体をよりよく発育・発達させるための方法を考えているとともに、考えたことを学習カード等に行ったり、発表したりして友達に伝えている。(発言・学習カード)</p> <p>○学習カードにこれからの自分の体の働きの変化や心の変化を想像させる。</p>
---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

②

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習カードに思春期に起こる心の変化と友達へのアドバイスについて記入し、ロールプレイをする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○悩んでいる役と相談役とのどちらも行わせることで、どちらの立場についても考えさせる。</li> </ul>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">まとめ (5分)</p>	<p>8 学習のまとめをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習カードに思春期に起こる体の変化を記入し、発表する。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>これから、みなさんも思春期を迎えます。思春期を迎えた自分の体はどのように変化していきますか。今日、学習した思春期に起こる変化を学習カードにまとめましょう。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○発表で足りない部分がある場合は、教師から補足する。</li> <li>○学習カードにこれからの自分の体の変化を想像させ、思春期に起こる男女の体の変化や起こる時期、起こり方は人それぞれ違うこと等を自分の言葉でまとめるよう促す。</li> <li>◆【知識・技能】 思春期には、初経、精通、変声、発毛が起こり、異性への関心も芽生えること、これらは個人差があるものの、大人の体に近づく現象であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。(発言・学習カード)</li> <li>○学習をしてみて質問したいこと、不安や心配ごとがあればいつでも相談してよいことを伝える。</li> </ul>

## 5 指導のポイント

本単元では、発達段階を考慮して、まだ自分のこととして捉えることができない児童にも、これから自分の体に起こることであるという意識を持たせるようにする。

また、特別活動においては、学級活動(2)「ウ 心身ともに健康で安全な生活態度の形成」及び「エ 食育の観点を踏まえた学校給食と望ましい食習慣の形成」と関連付けることができる。例えば、心身の発育・発達や発育・発達によい生活習慣、よりよく発育・発達するための望ましい食習慣等の指導につなげていくことも有効である。

さらに、「生命」の尊さを考える総合的な学習の時間の単元構成を考えることができる。人の生命のはじまりから奇跡的な自分の生命の誕生について知り、自分がかげがえのない存在であることに気付くことで自他の生命の大切さを考えさせる。また、自分史を作成させることを通して、かけがえのない生命は、多くの人に支えられ存在することを理解させ、未来の自分につながっていることに気付かせることも可能である。

学年	教科等	主な学習内容・学習活動
4年	体育	<p><b>体の発育・発達</b></p> <p>思春期の体の変化①</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 思春期になると次第に大人の体に近づき、人によって違いがあるものの、体つきに変化が起こり男女の特徴が現れること、変声や発毛が起こること等について理解する。</li> <li>・ 思春期の体の変化について、学習したことを、自己の体の発育・発達と結び付けて考える。</li> <li>・ 体の発育・発達について関心を持ち、健康の大切さに気付く。</li> </ul> <p>思春期の体の変化②</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 思春期になると人によって違いがあるものの、変声、発毛、初経、精通等が起こること、また、異性への関心が芽生えること等について理解する。</li> <li>・ 思春期の体の変化について、学習したことを、自己の体の発育・発達と結び付けて考える。</li> <li>・ 体の発育・発達について関心を持ち、健康の大切さに気付く。</li> </ul>

### 教科等横断的な指導の工夫

学年	教科等	主な学習内容・学習活動
2年	生活	<p><b>自分自身の生活や成長に関する内容</b></p> <p>大きくなった自分をふりかえろう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 入学してからの2年間の学習や生活を振り返り、自分自身の成長に関心を持つとともに、自分が大きくなったこと、自分でできるようになったこと、役割が増えたこと等に気付く。</li> </ul> <p>自分についてしらべよう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自分が小さかった頃のことを家の人や世話になった人に聞いたり、友達と良いところを認め合ったりして、自分の良さを自覚し、多くの人の支えにより、自分が成長したことに気付く。</li> </ul> <p>自分のせい長をまとめよう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自分の成長を表すのに適切な出来事を選び、その内容や伝えたい相手に合わせた表現方法でまとめる。</li> </ul> <p>ありがとうをとどけよう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自分の成長には、多くの人々の支えがあったことに気付き、それらの人々に感謝の気持ちを伝える。</li> </ul>

		<p><b>性に関する指導の視点</b>  自分の成長を支えてくれた人々がいることに気付き、感謝の気持ちを持つことで、これからの自分の生活や成長に願いを持って意欲的に生活しようとする態度を育むことができるようにする。</p> <p><b>ワンポイントアドバイス</b>  一人一台端末等を活用し、入学してから撮影した学校行事や授業風景等の写真や動画を集めて、スライドショーにすることでそれぞれの成長の様子を振り返ることができます。</p>
4年	特別活動★	<p><b>こんにちは わたしたちの思春期</b></p> <p>(男女共通)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 思春期における体の変化について正しく理解するとともに、誤解や不安を取り除き、自他の成長を肯定的に捉える。</li> </ul> <p>(男子編)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 思春期における体の変化のうち、男子の変化について理解するとともに、誤解や不安を取り除き、自他の成長を肯定的に捉える。</li> </ul> <p>(女子編)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 思春期における体の変化のうち、月経の役割を理解するとともに、月経時に正しい方法で手当を行う。</li> </ul>
5年	理科	<p><b>動物の誕生</b></p> <p>ヒトのたんじょう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ヒトの誕生について、調べ学習の見通しを持つ。</li> </ul> <p>ヒトの受精卵</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ヒトの受精卵が母親の体内で育つ様子について、自分の課題を持ち、調べ学習を進める。</li> <li>・ 調べたことをもとにして発表資料を作成し、発表したり聞いたりしながら、生命の連続性を感じる。</li> </ul> <p><b>性に関する指導の視点</b>  ヒトも他の生物と同様に子が親になり、また、子を生むことによって生命を受け継いでいることに気付けるようにし、子供自身も長きにわたって受け継がれてきた命であることを捉えられるようにする。</p> <p><b>ワンポイントアドバイス</b>  エコー写真や成長を記録した写真資料、また、映像資料や模型等を活用することで、「胎児」が成長していく様子を具体的に理解することができます。</p>

6年	家庭	<p style="text-align: center;"><b>自分の成長と家族・家庭生活</b></p> <p>家族や地域の一員として</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自分や家族が地域の人々とどのように関わっているかを考える。</li> <li>・ 私から地域につなげよう！広げよう！</li> <li>・ 2年間の学習を生かして、地域や家庭をよりよくする工夫を考える。</li> </ul> <p>もっとかがやくこれからの私たち</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 家族の一員として家庭や地域でできることを考える。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p><b>性に関する指導の視点</b></p> <p>家族の大切さや家庭生活が家族の協力によって営まれていることに気付くとともに、どのような家庭生活を送りたいのかを考え、家族に協力して生活を営むことができるようにする。</p> <p><b>ワンポイントアドバイス</b></p> <p>これまで家族が自分に対してしてきたこと、また、自分が家族に対してしてきたことを考えることで、「してもらう自分」から「できる自分」への成長を実感し、自己肯定感を高めることにつながります。</p> </div>
----	----	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

\*\*\*\*\*

生命の誕生や体の発育・発達における個人差、思春期の体の変化、性への関心の芽生え、体をよりよく発育・発達させるための生活について理解することができる。

また、自分の成長を見つめ、自他の生命の大切さについて考えることを通して、心身の発育・発達等を肯定的に捉え、自他の生命を大切にしようとする態度を育成することが期待できる。なお、性的マイノリティの児童にとって、思春期における体の変化は肯定的に捉えにくいことから、個別指導につなげるなど、きめ細やかに対応する必要がある。

②

## 指導事例 5 – ① こんにちは わたしたちの思春期（男女共通）

対象：第4学年

教科等：特別活動

### ★教育課程上の位置付け

特別活動 学級活動

(2) 日常生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全

ウ 心身ともに健康で安全な生活態度の形成

現在及び生涯にわたって心身の健康を保持増進することや、事件や事故、災害等から身を守り安全に行動すること。

### 1 題材の目標

自らの性についての誤解や不安を取り除き、体の変化や仕組みを理解することで自他の性を肯定的に捉え、落ち着いて思春期を迎えることができるようにする。

### 2 題材について

思春期になると大人への体の変化は基本的に誰もが経験することであり、第4学年になるとその入り口に差しかかる。体育科では「思春期にあらわれる体の変化」について学習するが、体の変化には性差や個人差があり、不安や悩みを抱えたり、友達との違いが気になったりする児童も多い。

性毛の発毛や精通・初経等の第二性徴、また、それに伴う悩みについて丁寧に指導し、自らの体の変化を受け止め、個人差があるそれぞれの成長を尊重することができる態度の育成を目指す。

### 3 事前の指導

児童の活動	指導上の留意点
事前アンケートに、体の変化についての意識や不安・悩みを記入する。	○第二性徴に関する児童の実態を把握する。

### 4 本時の指導

#### (1) 目標

思春期における体の変化について正しく理解し、誤解や不安を取り除くとともに、自他の成長を肯定的に捉えることができるようにする。

## (2) 展開例

段階	主な学習内容・学習活動	指導上の留意点
つかむ	1 思春期に起こる体の変化について知る。	○思春期は、男性ホルモンや女性ホルモンの分泌によって、体や心に様々な変化が起こり、子供から大人へ成長していく時期であることを説明する。
たぐひる          見つける	体の成長について悩んでいる友達への声掛けを考えよう	
	2 思春期の体の変化や仕組みを確認する。  3 体の変化が起きる理由を考える。	○体育科保健領域で学習した内容をもとに、アンケートから見えてきた実態を踏まえ、第二性徴について確認させる。  ○「精通」や「初経」は新しい命を作るための体の仕組みで、健康な発育の証であることを理解させる。 ※参考 ・月経の開始：12歳頃 ・月経血量：20～140g ・凝血：なし ・周期：25～38日（変動6日以内） ・持続日数：3～7日 「学校医と養護教諭のための思春期婦人科相談マニュアル」（公財）日本産婦人科医学会  ○月経困難症や月経前症候群（PMS）等についても簡単に触れる。
	4 それぞれのケースについて自分ならどう声を掛けるかを考え、ワークシートに記入する。  5 意見を交流する。	○事前アンケートから多くの児童が悩んでいると思われる内容を取り上げる。  ○体の成長には個人差があることを伝え、友達と自分の体を比べて不安になったり、友達の体の変化について指摘したりしないことを伝える。  ○自分だけの大切なところを守るルールについて確認する。

②

決める	8 思春期を迎えるに当たって、自分が心掛けたいことを決め、ワークシートに記入する。	○心配なことや困ったことがあれば、信頼できる大人に相談するよう伝える。
-----	-------------------------------------------	-------------------------------------

## 5 事後の指導

児童の活動	指導上の留意点
○授業を振り返り、ワークシートに感想や疑問に思ったことを記入する。	授業前後で思春期に対する気持ちにどのような変化があったかを個々に振り返らせる。

## 6 指導のポイント

第二次性徴については、体育科「育ちゆく体とわたし」において、男女共習で指導している。一方で、男女別を実施する指導は、異性を意識することなく、それぞれの不安や戸惑いに直接的に答える指導ができる。実施に当たっては、児童の実態を踏まえ、男女別か男女共習かを選択するとともに、家庭との連携を図るため、保護者会や学級だより等を通じて保護者に知らせる。また、性的マイノリティにとって、思春期における体の変化は肯定的に捉えにくいことから、個別指導につなげるなど、きめ細やかに対応する必要がある。さらに、「生命（いのち）の安全教育」と関連付けることで、指導の充実を図ることができる。



## 指導事例 5 - ② こんにちは わたしたちの思春期（男子編）

対象：第4学年

教科等：特別活動

## ★教育課程上の位置付け

特別活動 学級活動

## (2) 日常生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全

## ウ 心身ともに健康で安全な生活態度の形成

現在及び生涯にわたって心身の健康を保持増進することや、事件や事故、災害等から身を守り安全に行動すること。

## 1 題材の目標

自らの性についての誤解や不安を取り除き、体の変化や仕組みを理解することで自他の性を肯定的に捉え、落ち着いて思春期を迎えることができるようにする。

## 2 題材について

思春期になると大人への体の変化は基本的に誰もが経験することであり、第4学年になるとその入り口に差しかかる。体育科では「思春期にあらわれる体の変化」について学習するが、体の変化には性差や個人差があり、不安や悩みを抱えたり、友達との違いが気になったりする児童も多い。

男子の発育も個人差が大きいため、性毛の発毛や変声、射精等の男子特有の体の働き等成長に伴う悩みについて丁寧に指導し、自らの体の変化を受け止め、個人差があるそれぞれの成長を尊重することができる態度の育成を目指す。

## 3 事前の指導

児童の活動	指導上の留意点
事前アンケートに、体の変化についての意識や不安・悩みを記入する。	○第二次性徴に関する児童の実態を把握する。

## 4 本時の指導

## (1) 目標

思春期における体の変化について正しく理解し、誤解や不安を取り除くとともに、自他の成長を肯定的に捉えることができるようにする。

## (2) 展開例

段階	主な学習内容・学習活動	指導上の留意点
つかむ	1 思春期に起こる体の変化について知る。	○思春期は男性ホルモンの分泌によって、体や心に様々な変化が起き、子供から大人へ成長していく時期であることを説明する。

②

思春期の体の変化への不安や悩みについて考えよう		
さぐる	<p>2 男子の体の変化や仕組みを確認する。</p> <p>3 体の変化が起きる理由を考える。</p>	<p>○体育科保健領域で学習した内容をもとに、アンケートから見えてきた実態を踏まえ、第二性徴について確認させる。</p> <p>○それぞれの体の変化に触れ、感じ方や捉え方には個人差があることを説明する。</p> <p>○「精通」や「初経」は新しい生命を作るための体の仕組みで、健康な発育の証であることを理解させる。</p> <p>○出産は女子のみができる尊いものであることを伝える。</p> <p>※児童の実態を踏まえ、男子は、高まる性衝動のコントロールや男女が一緒に生活する上で、女性の辛さを理解する力が求められることについても触れる。</p>
見つける	<p>4 それぞれのケースについて、どのように声掛けをするかを考え、ワークシートに記入する。</p> <p>5 発表して意見を交流する。</p>	<p>○事前アンケートから多くの児童が悩んでいる内容を取り上げる。</p> <p>○体の成長には個人差があることを伝え、友達と自分の体を比べて不安になったり、友達の体の変化について指摘したりしないことを伝える。</p> <p>○自分だけの大切な場所を守るためのルールについて確認する。</p>
決める	<p>6 思春期を迎えるに当たって、自分が心掛けたいことを決める。</p>	<p>○体の変化を肯定的に捉えるために心掛けたいことをワークシートに記入させる。</p> <p>○心配なことや困ったことがあれば、信頼できる大人に相談するよう伝える。</p>

### 5 事後の指導

児童の活動	指導上の留意点
授業を振り返り、ワークシートに感想や疑問に思ったことを記入する。	○授業前後で思春期に対する気持ちにどのような変化があったかを個々に振り返らせる。

## 6 指導のポイント

第二次性徴については、体育科「育ちゆく体とわたし」において、男女共習で指導している。一方で、男女別に実施する指導は、異性を意識することなく、それぞれの不安や戸惑いに直接的に答える指導ができる。実施に当たっては、児童の実態を踏まえ、男女別か男女共習かを選択するとともに、家庭との連携を図るため、保護者会や学級だより等を通じて保護者に知らせる。また、性的マイノリティにとって、思春期における体の変化は肯定的に捉えにくいことから、個別指導につなげるなど、きめ細やかに対応する必要がある。さらに、「生命（いのち）の安全教育」と関連付けることで、指導の充実を図ることができる。

②

## 指導事例 5 – ③ こんにちは わたしたちの思春期（女子編）

対象：第4学年

教科等：特別活動

### ★教育課程上の位置付け

特別活動 学級活動

#### (2) 日常生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全

##### ウ 心身ともに健康で安全な生活態度の形成

現在及び生涯にわたって心身の健康を保持増進することや、事件や事故、災害等から身を守り安全に行動すること。

#### 1 題材の目標

自らの性についての誤解や不安を取り除き、体の変化や仕組みを理解することで他の性を肯定的に捉え、落ち着いて思春期を迎えることができるようにする。

#### 2 題材について

思春期になると大人への体の変化は基本的に誰もが経験することであり、第4学年になるとその入り口に差しかかる。体育科では「思春期にあらわれる体の変化」について学習するが、体の変化には性差や個人差があり、不安や悩みを抱えたり、友達との違いが気になったりする児童も多い。

初経を迎える女子も増えてくる時期であることから、月経時の手当の仕方や成長に伴う悩みについて丁寧に指導し、自らの体の変化を不安なく受け止め、個人差があるそれぞれの成長を尊重することができる態度の育成を目指す。

#### 3 事前の指導

児童の活動	指導上の留意点
事前アンケートに、体の変化についての意識や不安・悩みを記入する。	○第二次性徴に関する児童の実態を把握する。

#### 4 本時の指導

##### (1) 目標

思春期における体の変化のうち、月経について理解するとともに、月経時に正しい方法で手当を行うことができるようにする。

##### (2) 展開例

段階	主な学習内容・学習活動	指導上の留意点
つかむ	1 思春期に起こる体の変化について知る。	○思春期は女性ホルモンの分泌によって、体や心に様々な変化が起き、子供から大人へ成長していく時期であることを説明する。

月経時の正しい手当の仕方を知ろう	
たぐひる	<p>2 女子の体の変化や仕組みを確認する。</p> <p>3 月経の仕組みを知る。</p> <p>4 体の変化が起きる理由を考える。</p> <p>5 月経用ナプキンの使い方を知る。</p> <p>6 月経時の過ごし方について知る。</p> <p>7 学校で急に月経が始まったらどう対処したらよいか、話し合う。</p>
見つける	<p>○体育科保健領域で学習した内容をもとに、アンケートから見えてきた実態を踏まえ、第二次性徴について確認させる。</p> <p>○男子の体の変化にも触れ、男子が受けている指導の内容の概要を説明する。</p> <p>○正常な月経の目安について触れる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・月経の開始：12歳頃</li> <li>・月経血量：20～140g</li> <li>・凝血：なし</li> <li>・周期：25～38日（変動6日以内）</li> <li>・持続日数：3～7日</li> </ul> <p>「学校医と養護教諭のための思春期婦人科相談マニュアル」（公財）日本産婦人科医会</p> <p>○「初経」や「精通」は新しい命を作るための体の仕組みで、健康な発育の証であることを理解させる。</p> <p>○出産は女子のみができる尊いものであることを伝える。</p> <p>○ナプキンの使い方を説明する。</p> <p>○様々な種類のナプキンを用意し、用途等によって使い分けるとよいことを知らせる。</p> <p>○月経困難症や月経前症候群（PMS）等について触れる。</p> <p>○体の成長には個人差があることを伝え、友達と自分の体を比べて不安になったり、友達の体の変化について指摘したりしないことを伝える。</p>
決める	<p>8 思春期を迎えるに当たって、自分が心がけたいことを決め、ワークシートに記入する。</p> <p>○心配なことや困ったことがあれば、信頼できる大人に相談するよう伝える。</p>

②

## 5 事後の指導

児童の活動	指導上の留意点
授業を振り返り、ワークシートに感想や疑問に思ったことを記入する。	○授業前後で思春期に対する気持ちにどのような変化があったのかを個々に振り返らせる。

## 6 指導のポイント

第二性徴については、体育科「育ちゆく体とわたし」において、男女共習で指導している。一方で、男女別に実施する指導は、異性を意識することなく、それぞれの不安や戸惑いに直接的に答える指導ができる。実施に当たっては、児童の実態を踏まえ、男女別か男女共習かを選択するとともに、家庭との連携を図るため、保護者会や学級だより等を通じて保護者に知らせる。また、性的マイノリティにとって、思春期における体の変化は肯定的に捉えにくいことから、個別指導につなげるなど、きめ細やかに対応する必要がある。さらに、「生命（いのち）の安全教育」と関連付けることで、指導の充実を図ることができる。

## 指導事例6 心の健康

対象：第5学年

教科等：体育科保健領域

### ★教育課程上の位置付け

体育科保健領域「心の健康」

(1) 心の健康について、課題を見付け、その解決を目指した活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 心の発達及び不安や悩みへの対処について理解するとともに、簡単な対処をすること。

(ウ) 不安や悩みへの対処には、大人や友達に相談する、仲間と遊ぶ、運動をするなどいろいろな方法があること。

イ 心の健康について、課題を見付け、その解決に向けて思考し判断するとともに、それらを表現すること。

### 1 単元の目標

- (1) 心の発達、心と体との密接な関係、不安や悩みへの対処について、理解することができるようにするとともに、不安や悩みへの対処についての技能を身に付けることができるようにする。
- (2) 心の健康について、課題を見つけ、その解決に向けて思考し、判断するとともに、それらを表現することができるようにする。
- (3) 心の健康について、健康や安全の大切さに気付き、自己の健康の保持増進や回復に進んで取り組むことができるようにする。

### 2 単元について

本単元では、心の健康について課題を見つけ、その解決を目指した活動を通して、心は年齢に伴って発達すること、心と体には密接な関係があり、深く影響し合っていることについて理解できるようにする。また、不安や悩みへの対処には様々な方法があることを理解するとともに、不安や悩みを緩和するための対処の方法を実際に行うことができるようにすることを目指している。

不安や悩みは誰もが抱えるもので、その場合、人に相談したり、運動したりするなど、自分に合った適切な方法を選び、気持ちを楽にしたり、気分を変えたりすることで対処できることを理解できるようにする。その際、適切な方法を選んだり、それがなぜ適切なのかを説明したりする活動が大切である。また、体ほぐしの運動や呼吸法を指導するに当たっては、正しく行うだけでなく、その意味や目的を理解した上で主体的に取り組めるよう、発問や資料提示の工夫、対話的な活動を取り入れるなどの手立てを講じていく。また、体育科との関連において、体ほぐしの運動で取り扱った運動を用いることで、効率的なだけでなく、心と体との関係に改めて気付くことができ、学習が一層深まる。

③

### 3 単元計画

時	学習内容
1	心の発達 ○心は人との関わり、あるいは自然との触れ合い等様々な生活経験や学習を通して、年齢に伴って発達すること。
2	心と体との密接な関係 ○不安や緊張時には体調を崩しやすく、体調が悪い時は落ち込んだりし、体調がよい時は気持ちが明るくなったりするなど、心と体は深く影響し合っていること。
3 (本時)	不安や悩みへの対処①・② ○不安や悩みがあることは誰もが経験することであり、そうした場合、自分に合った適切な方法を選び、気持ちを楽にしたり、気分を変えたりすることで対処できること。
4	○体ほぐしの運動や深呼吸を取り入れた呼吸法等を行うこと。

#### 4 本時の指導（全4時間中の3時間目）

##### (1) 目標

- ・不安や悩みへの対処には、気持ちを楽にしたり、気分を変えたりするなど様々な方法があり、自分に合った適切な方法で対処できることについて、理解したことを言ったり書いたりすることができるようにする。(知識)
- ・不安や悩みへの対処について、自分の経験と学習したことを関連付けて考えたり、選んだりした方法がなぜ適切なのか、理由を挙げて学習カードに書いたり、友達に伝えたりすることができるようにする。(思考力、判断力、表現力等)
- ・心の健康について関心を持ち、学習活動に進んで取り組もうとすることができるようにする。(学びに向かう力、人間性等)

##### (2) 展開例

段階	主な学習内容・学習活動	○指導上の留意点 ◆評価
導入 (5分)	<p>1 アンケートから5年生が抱える不安や悩みを知る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>クラスメイトはどのような悩みを抱えていると思いますか。</p> </div> <p>&lt;予想される反応&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・友達に関すること。</li> <li>・勉強に関すること。</li> <li>・習い事に関すること。</li> <li>・自分の体のこと。</li> <li>・自分の心(性格)のこと。</li> </ul>	<p>○単元開始前に、不安や悩みに関するアンケートを実施しておく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケート項目に「自分の体や心(性格)のことで悩みがありますか」、「相手と話をしている、恥ずかしくて思い通りに話ができなかったことはありますか」等の質問を入れる。</li> <li>・事前にアンケートを行うことで、身近な問題として捉えられるようにする。</li> </ul>



	<p>(学習内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>不安や悩みは誰もが経験すること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○単元前に行ったアンケート結果を提示する。</li> <li>○自分の悩みを打ち明けたくない児童がいることを考え、提示には配慮する。</li> </ul>
<p>展開 (25分)</p>	<p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;">不安や悩みへの対処の仕方について考えよう</p> <p>2 事例を用いてどのような対処の仕方があるかを考え、話し合う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>友達関係について悩んでいる時に、どのような対処法があるかを考えましょう。</p> </div> <p>&lt;予想される反応&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家族に相談する。</li> <li>・好きなことをする。</li> <li>・直接友達に話してみる。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>自分の体や心のことで悩んでいる時に、どのような対処法があるかを考えましょう。</p> </div> <p>&lt;予想される反応&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・友達に相談する。</li> <li>・一人で考える。</li> <li>・気にしない。</li> </ul> <p>3 全体で出し合った意見を整理してまとめる。</p> <p>(学習内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>不安や悩みを抱えたら、自分に合った適切な方法を選び、気持ちを楽にしたり、気分を変えたりすることで対処すること。</li> </ul>	<p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;">不安や悩みへの対処の仕方について考えよう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○不安を感じて体の不調を訴えた時、どのような対処をしてきたかを想起するために前時の学習と関連付けて事例をおさえる。</li> <li>○様々なアイデアを出すために、自由な発想で意見を出させる。</li> <li>○「向き合う」、「発散する」、「リラックスする」、「相談する」等の項目に分けて整理する。</li> <li>○一人一人の感じ方の違いから、不安や悩みに応じて、自分に合った対処法を選ぶだけでなく、正しく行うことの大切さもおさえる。</li> <li>○必要に応じてLGBTQ等についても補足説明を行う。</li> </ul> <p>◆【知識・技能】</p> <p>不安や悩みへの対処には、気持ちを楽にしたり、気分を変えたりするなど様々な方法があり、自分に合った適切な方法で対処できることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。(発言・学習カード)</p>

③

ま と め （ 10 分）	4 自分の不安や悩みについて、学習をもとに適切な対処の仕方を選んで書くことで、学習のまとめをする。	○前時に扱った不安や悩みのまとめを再活用し、不安や悩みへの対処方法について、本時の活動を踏まえて書くようにする。 ・自分の不安や悩みへの対処について、書くことが難しい児童に対しては、事例内の児童に対するアドバイスを考えさせる。  <b>◆【思考・判断・表現】</b> 不安や悩みへの対処について、自分の経験と学習したことを関連付けて考えたり、選んだりした方法がなぜ適切なのか、理由を挙げて学習カードに書いたり、友達に伝えている。（発言・ワークシート）
------------------------------	---------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

## 5 指導のポイント

本時の「思考・判断・表現」の評価は、学習したことを活用して、不安への対処の方法を考えたり、適切な方法を選んだりして学習カードに記入している状況の評価する。

具体的には、子供たちにとって身近な問題である「友達関係」についての事例に対する対処の方法を考えさせる。ブレインストーミングで自由に意見を出し合った後、「向き合う」、「発散する」、「リラックスする」、「相談する」等の項目に分けて整理させることで、対処の方法を選びやすくさせる。

本時のまとめでは、自分の悩みについて学習したことをもとに適切な対処の仕方を選んで学習カードに書き出させる。その際、自分の悩みをもとにすると、書きにくい児童に対しては、事例内の児童にどのようなアドバイスをするとよいかを考えさせ、学習カードに書き出させる。また、本時の学習を踏まえて、本単元は学級活動（2）「イ よりよい人間関係の形成」や「ウ 心身ともに健康で安全な生活態度の形成」等と関連付けることができる。例えば、学級活動において、互いのよさを見つけ、互いを尊重し合い、仲よくしたり信頼したりして生活することを学習したり、児童会活動やクラブ活動での異学年の児童とのかかわり、学校行事での体験について実感を伴ったものにしたりするなど、本学習を通して特別活動の自分にとっての意義を再構築することにもつながる。

さらに、現代的な諸課題に対応する横断的・総合的な課題として「健康」に焦点を当て、保健の学習において身に付けた「知識や技能」、「心の健康との健康な生活」を学習対象とし、学習事項としては、「健康な生活を送るためにできることを考えよう」や「これからの生活を健康に送るためのめあてを決めよう」等で、単元構想を考えることができる。

本単元を自分や身の回りの心の健康に関する課題について課題解決を図る総合的な学習の時間の導入単元として位置付けることで、学習の成果をさらに高めていくことができる。

学年	教科等	主な学習内容・学習活動
5年	体育	<p><b>心の健康</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>不安や悩みへの対処には、気持ちを楽にしたり、気分を変えたりするなど様々な方法があり、自分に合った適切な方法で対処できることについて理解する。</li> <li>不安や悩みへの対処について、自分の経験と学習したことを関連付けて考える。</li> <li>心の健康について関心を持つ。</li> </ul>

### 教科等横断的な指導の工夫

学年	教科等	主な学習内容・学習活動
6年	特別活動 ★	<p><b>いろいろな性について知ろう</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>多様な性があることを知り、性に縛られない「その人らしさ」を尊重することで、互いのよさを見つけ、違いを尊重し合い、仲良くしたり信頼し合ったりして生活することのよさや大切さを理解する。</li> </ul>

\*\*\*\*\*

心の発達、心と体の相互の影響、不安や悩みへの対処の仕方、多様な性があることについて理解できるようにする。

また、自分の心を見つめることを通して、自他を大切にする心情を育むとともに、自分の心の状態に合った適切な行動の仕方を選択したり、考え方を変えたりする力を育成することが期待できる。

③

## 指導事例 7 いろいろな性について知ろう

対象：第6学年

教科等：特別活動

### ★教育課程上の位置付け

特別活動 学級活動

#### (2) 日常生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全

##### イ よりよい人間関係の形成

学級や学校の生活において互いのよさを見付け、違いを尊重し合い、仲良くしたり信頼しあったりして生活すること。

### 1 題材の目標

一人一人外見や性格が違うように性も多様であることを知り、個性を尊重し合う人間関係を形成することができるようにする。

### 2 題材について

性的マイノリティ当事者が自らのセクシュアリティを自覚するのは、小学生から高校生までの学齢期が多いとされており、学齢期におけるいじめ被害率は58%、自傷行為経験率は首都圏の男子中高生に比べて2～7倍の高さであることが国内研究で示されている。(LGBT当事者の意識調査「REACH Online 2016 for Sexual Minorities」：日高庸晴 2017)

児童は、知らず知らずのうちに「性別に応じた望ましい外見や言動がある」という考えを持たされ、多様な性の在り方について奇異の思いを抱いたり、否定的に捉えたりすることがある。そのため、性の多様性について学習し、自分たちに偏見や思い込みがあることに気付くとともに、多様な性が存在することを知り、性の在り方も「その人らしさ」の一つであることを理解した上で、自分のことや悩みを話しながら、誰もが自分らしく安心して過ごすことができるきっかけとなることをねらいとする。

### 3 事前の指導

児童の活動	指導上の留意点
ワークシートに記入する。	○「男らしさ」、「女らしさ」について、自由に思ったことを書いてよいことを知らせるとともに、他人を傷付けるような表現や内容は避けるよう留意させる。

### 4 本時の指導

#### (1) 目標

多様な性があることを知り、性に縛られない「その人らしさ」を尊重することで、互いのよさを見つけ、違いを尊重し合い、仲良くしたり信頼し合ったりして生活することのよさや大切さについて理解できるようにする。

## (2) 展開例

段階	主な学習内容・学習活動	指導上の留意点
つかむ	1 「男らしさ」「女らしさ」について様々な意見があることに気付く。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ワークシートに記入した「男らしさ」、「女らしさ」について発表させる。</li> <li>○発表された意見は、「男らしさ」、「女らしさ」に分けて板書する。</li> <li>○活動の趣旨を理解させ、中傷することがないよう配慮する。</li> <li>○それぞれの経験も発表させ、どう感じたか（感じているか）意見を聞く。</li> </ul>
<p data-bbox="228 891 268 992" style="text-align: center;">たぐひ</p> <p data-bbox="228 1552 268 1675" style="text-align: center;">見つける</p>	<p data-bbox="655 667 1075 707" style="text-align: center;">いろいろな性について知ろう</p> <p data-bbox="316 741 770 909">2 「男らしさ」、「女らしさ」を入れ替えるとどうなるかをグループで話し合い、全体で意見を交流する。</p> <p data-bbox="316 1104 770 1182">3 いろいろな性（「性のものさし」）について知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・心の性</li> <li>・体の性</li> <li>・好きになる性</li> <li>・表現する性</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○分けた意見の多くは「男らしさ」、「女らしさ」を入れ替えても当てはまるため、男女どちらにも当てはまる意見が多いことに気付かせる。</li> <li>○すべての意見は一人一人違っており、それぞれの意見は「その人らしさ」や「自分らしさ」であることを伝える。</li> <li>○①～⑤について科学的に分かりやすく伝える。</li> <li>①性の在り方は、「体の性」、「心の性」、「好きになる性」、「表現する性」の4つの「性のものさし」の組合せで考えることができること。</li> <li>②性は、男性か女性ではっきり分けられるものではなく、「性のものさし」上の位置は一人一人異なること。</li> <li>③好きになる性別も人によって異なり、恋愛感情を持たない人もいるが、どれも大切な気持ちであり、その人の個性の一つであること。</li> <li>④自分の性の在り方について悩みや困ったことがある場合は一人で抱え込まず、信頼できる身近な大人に相談すること。</li> <li>⑤誰にも言いたくない人は、自分の中にしまっておいてもよいこと。</li> </ul>

③

	4 身の回りにおける性別で区別しない取組について知る。 ・性別記入欄の削除 ・制服の選択自由化	○知っている取組がある場合は発言させる。 ○児童の意見を踏まえながら社会の動きを知らせる。
決める	5 その人らしさを大切にするために取り組むことを意思決定する。	○差別や偏見を生まないためには「違い」を理解すること、正しい知識を知っておくことが大切であることを知らせる。 ○十分に時間をとり、自由に書くことができるようにする。 ○内容は公表しないが、声を掛けてもらいたい時はそのように書いておくことを知らせる。

## 5 事後の指導

児童の活動	指導上の留意点
一週間を振り返り、「その人らしさを大切にする実践」を実践カードに記入する。	○児童の感想から、性的マイノリティについて誤った理解をしていないかを確認する。 ○意思決定した取組の実践状況を確認し、帰りの会等を利用して、お互いのがんばりを認め、実践の継続を図るようにする。

## 6 指導のポイント

性的マイノリティの説明に限定することなく、一人一人の個性を大切に、皆で助け合い、よりよい社会を築いていくことをねらいとして授業を進める。また、性的マイノリティの理解を深めるためには、和歌山県男女共同参画センター“りいぶる”や県内の性的マイノリティに関する既存の団体等が提供している資料等を活用する。

一般的には思春期に自分の性的指向を自覚し始め、早ければ小学生のうちに自分の性に違和感を覚えたり、自覚したりすることから、授業の感想等から、自らのセクシュアリティに悩んでいる児童がいることが分かった場合は、速やかに個別指導につなげるなど適切に対応する必要がある。

### <資料等>

- ・特定非営利活動法人チーム紀伊水道ホームページ
- ・「性のものさし」

心の性	男	← ○ →	女
体の性	男	⊙ →	女
好きになる性	男	← ○ →	女
表現する性	男	← ○ →	女

## 指導事例 8 けがの防止

対象：第5学年

教科等：体育科保健領域

### ★教育課程上の位置付け

体育科保健領域「けがの防止」

(2) けがの防止について、課題を見付け、その解決を目指した活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア けがの防止について理解するとともに、けがなどの簡単な手当をすること。

(ア) 交通事故や身の回りの生活の危険が原因となって起こるけがの防止には、周囲の危険に気付くこと、的確な判断の下に安全に行動すること、環境を安全に整えることが必要であること。

イ けがを防止するために、危険の予測や回避の方法を考え、それらを表現すること。

### 1 単元の目標

- (1) 交通事故や身の回りの生活の危険が原因となって起こるけがの防止には、周囲の危険に気付き、的確な判断の下に安全に行動すること、環境を安全に整えることが必要であることを理解できるようにする。また、速やかなけがの手当の必要性について理解し、自分でできる簡単な手当ができるようにする。
- (2) けがの防止やけがの手当について、課題を見つけたり、解決の方法を考えたり、判断したりしたことを表現できるようにする。
- (3) けがの防止やけがの手当について、資料で調べたり、進んで課題解決に取り組んだりすることができるようにする。

### 2 単元について

本単元では、けがの防止について交通事故や身の回りの生活の危険等を取り上げ、それらの課題を見つけ、その解決を目指した活動を通して、交通事故や身の回りの生活の危険が原因となって起こるけがの防止について理解するとともに、課題を解決するために、危険の予測や回避の方法を考え、それらを表現できること、また、自分でできる簡単なけがの手当ができることを目指している。

「けがの手当」は、けがの悪化を防ぐために、その種類や程度の状況をできるだけ速やかに把握して処理することや近くの人に知らせることが大切であることを理解できるようにする。また、「すり傷」や「鼻出血」、「やけど」、「打撲」等を適宜取り上げ、実習を通して簡単なけがの手当ができるようにする。その際、子供にとって身近な場所でのけがについて取り上げたり、保健室にある実際のデータを用いたりすることで、より実践的に理解できる工夫を行っていく必要がある。

また、本単元は中学校第2学年「交通事故の防止・犯罪被害の防止」と関連しており、中学校では、通学路を含む地域社会で発生する犯罪が原因となる傷害とその防止について取り上げることになっていることから、中学校の学習内容を踏まえた上で、系統立てた指導計画を立てることが大切である。

## ④

## 3 単元計画

時	学習内容
1	けがの発生 ○毎年多くの交通事故や水の事故が発生し、けがや死亡する人が少なくないこと、けがや事故は人の行動と環境が関わって発生していること。
2	交通事故によるけがの防止 ○交通事故によるけがの防止には、周囲の危険に気付いて、的確な判断のもとに安全に行動することが必要であること。
3 (本時)	身の回りの生活が原因となって起こるけがや犯罪被害の防止 ○学校生活の事故や犯罪被害の防止には周囲の危険に気付いて的確な判断のもとに行動すること、環境を安全に整えることが必要であること。
4	けがの手当 ○けがの状況をできるだけ速やかに把握して対処すること、近くの大人に知らせることが大切であること。 ○自分でできる簡単なけがの手当をすること。

## 4 本時の指導（全4時間中の3時間目）

## (1) 目標

- ・ 学校や地域でのけがの防止や犯罪被害の防止には、周囲の危険に気付くこと、的確な判断のもとに安全に行動すること、環境を安全に整えることが必要であることを理解することができるようにする。(知識)
- ・ 学校や地域でのけがの防止や犯罪被害の防止に関する課題を見つけ、その解決のための方法や活動の工夫をするとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。(思考力、判断力、表現力等)
- ・ けがの防止や犯罪被害の防止について、進んで課題解決に取り組もうとすることができるようにする。(学びに向かう力、人間性等)

## (2) 展開例

段階	主な学習内容・学習活動	○指導上の留意点 ◆評価
導入 (5分)	1 犯罪とはどのようなことなのかを考える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">犯罪被害とはどのようなことをいうでしょう。</div>	○防犯教室や安全教室等以前行った学習とつなげて考えさせる
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">犯罪被害はどのようにすれば防ぐことができるのかを考えよう</div>	
	2 不審者について知る。 (学習内容) ・ 誰かに危害を加えるかもしれない人のこと。 ・ 性別、外見では判断できない。	○不審者はどのような人か、どのように近づいてくるのかを考えさせる。  ○不審者の近づき方は様々であることを理解させる。



展開 (30分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の身の回りにもいるかもしれない。</li> </ul> <p>3 挿絵を見て、犯罪が起こりやすい場所や状況について考える。 (学習内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・犯罪が起こりやすい場所は、入りやすくて見えにくいところ、人の目が行き届かないところ</li> <li>・一人でいる時は犯罪被害に遭いやすい。</li> </ul> <p>4 犯罪被害に遭わないようにするためにはどうしたらよいか、また、巻き込まれそうになったらどうしたらよいかを考える。 (学習内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・周りの環境を点検し、犯罪が起こりやすい場所を避ける。</li> <li>・犯罪に巻き込まれそうになったら、すぐに助けを呼ぶ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地域の不審者情報と関連付けて、自分の身の回りにもいるかもしれないということを理解させる。</li> <li>○犯罪が起こりやすい場所や状況を選択させ、その理由について話し合いをさせる。</li> <li>○個人思考後にグループで話し合いをさせることで、意見を出しやすくする。</li> <li>○犯罪による被害が身近であることを意識させる。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>○すぐ助けを呼べるように、準備や練習をしておくことが必要であることを伝える。</li> <li>○「イカのおすし・一人前」についても想起させ、確認する。           <ul style="list-style-type: none"> <li>・イカ……行かない (知らない人について行かない。)</li> <li>・の……乗らない (知らない人の車に乗らない。)</li> <li>・お……大声で叫ぶ (連れて行かれそうになったら、大きな声で叫ぶ。)</li> <li>・す……すぐ逃げる (怖かったら、すぐ逃げる。)</li> <li>・し……知らせる (どんな人が、何をしたか、家の人に知らせる。)</li> <li>・一人前…一人で遊ばず、出掛ける前に、家の人に「誰と」、「どこへ」行くかを言う。)</li> </ul> </li> </ul> <p>◆【思考・判断・表現】</p> <p>学校や地域でのけがの防止や犯罪被害の防止に関する課題を見つけ、その解決のための方法や活動の工夫をするとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。 (発言・学習カード)</p>
-------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

## ④

ま と め （ 10 分）	<p>5 学習のまとめをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習カードの公園の絵に犯罪が起こりやすい場所や状況を書いたり、犯罪被害に遭わないためには、どのようなことに気を付けたらよいのかを記入したりして、発表する。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>今日の放課後に、この公園で遊ぶことになりました。犯罪被害に巻き込まれないようにするためにできることは何ですか。学習カードにまとめましょう。</p> </div>	<p>○犯罪から身を守るための方法を確認する。</p> <p>◆【知識・技能】</p> <p>学校や地域でのけがや犯罪被害を防止するには、身の回りに潜む危険の予測と的確な判断のもとに、危険を回避し安全に行動することや環境を安全に整えておくことが必要であることについて理解したことを、言ったり書いたりしている。（発言・学習カード）</p> <p>○発表で足りない部分がある場合は、教師から補足する。</p> <p>○地域にある「きしゅうくんの家」や防犯パトロールについても触れ、地域全体でみんなを守っていることを伝える。</p>
------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

## 5 指導のポイント

本時では、犯罪に巻き込まれそうになった時、確実に対処し、自分の身を守ることができるようにするとともに、他のけがの原因と異なり、犯罪行為はあくまでも犯罪者が悪いという視点に立ち、犯罪被害者にも落ち度があったという受け止め方にならないよう留意する。

また、学級活動（2）「ウ 心身ともに健康で安全な生活態度の形成」において、安全に関する指導と関連付ける。例えば、防犯を含めた身の回りの安全、交通安全、防災等、自分や他の生命を尊重し、危険を予測し、事前に備えるなど日常生活を安全に保つために必要な事柄を理解する内容があげられる。他にも、進んできまりを守り、危険を回避し、安全に行動できる能力や態度を育成するなどの内容が考えられる。

さらに、学校行事において、交通安全教室や防犯（セーフティ）教室、児童会活動としての保健委員会の活動等とも関連付けることで、より一層の効果が期待できる。他にも、地域でフィールドワークを行い「地域安全マップ」を作成する活動等が考えられる。保健で身に付けた知識を地域の様々な場所に当てはめ、隠れた危険を見つける活動は、学習内容をより確実に身に付けることにつながる。また、安全に関わってインタビューしたことを新聞にまとめ、地域に配布するなどの活動も効果的である。

指導に当たって、学校生活において、けがや事故につながりそうな事例が見られた場合は、個人に配慮しながら、その内容についても触れるようにする。

学年	教科等	主な学習内容・学習活動
5年	体育	<p><b>けがの防止</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学校や地域でのけがの防止や犯罪被害の防止には、周囲の危険に気付くこと、的確な判断の下に安全に行動すること、環境を安全に整えることが必要であることについて理解する。</li> <li>学校や地域でのけがの防止や犯罪被害の防止に関する課題を見つけ、その解決のための方法や活動の工夫をするとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える。また、けがの防止や犯罪被害の防止について進んで課題解決に取り組む。</li> </ul>

### 教科等横断的な指導の工夫

学年	教科等	主な学習内容・学習活動
1年	生活	<p><b>学校、家庭及び地域の生活に関する内容</b></p> <p>がっこうのまわりをあるいてみよう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>通学路にある自然や人々、安全を守るための施設等に気付く。</li> </ul> <p>みつけたことをしょうかいしよう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>見つけた物や気付いたことを教え合うことを通して、学校への愛着や学校生活への自信を深める。</li> </ul> <p><b>性に関する指導の視点</b></p> <p>安全のためのルールや約束事を守ったり、身の回りの危険に気付いたりすることができるようにする。また、危険な状態を発見した場合や事件・事故発生時には、近くの人に速やかに連絡し、指示に従うなど、適切な行動ができるようにする。</p> <p><b>ワンポイントアドバイス</b></p> <p>安全に気を付けながら学校の周りを歩き、交番や「きしゅう君の家」等安全・安心につながる場所を見つけることで、危険に遭遇しそうな際には、安全を確保するための行動をとることにつながります。</p>
2年	特別活動★	<p><b>自分のからだをまもろう</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自分だけの大切なところを狙う犯罪があることを知り、体を触られたり、見られたりすることで、少しでも嫌な気持ちになった際には、「イヤだ」「やめて」と叫んでその場から逃げ、そのことを安心できる大人に話した方が良いことを理解できるようにする。</li> </ul>

\*\*\*\*\*

犯罪被害に遭わないための行動の仕方を理解することができる。

また、犯罪被害に遭わないための危険の予測や回避の方法について考えることを通して、犯罪被害を防止するためには、犯罪が起こりやすい場所を避けることやすぐに助けを呼ぶこと等、自分の身は自分で守ろうとする態度を育成することが期待できる。加えて、意図せず加害者となることを防ぐため、法律等による規制があることを説明する。

## 指導事例 9 自分の体を守ろう

対象：第2学年

教科等：特別活動

### ★教育課程上の位置付け

特別活動 学級活動

#### (2) 日常生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全

##### ウ 心身ともに健康で安全な生活態度の形成

現在及び生涯にわたって心身の健康を保持増進することや、事件や事故、災害等から身を守り安全に行動すること。

### 1 題材の目標

自分だけの大切なところを狙う犯罪があることを知るとともに、自分の体を見られたり、触られたりして嫌な気持ちになる場合について考え、このような場面で身を守る方法を身に付けることができるようにする。

### 2 題材について

性被害・性暴力の加害者には、低年齢児を含めて子供を狙っている者もいる。また、実の親や義理の親等監護者や親族が加害者となる事例も多く、特に低学年の性被害は、性の認識がないために予防することができなかつたり、被害に遭ってもすぐに相談できなかつたりする問題が指摘されている。自分だけの大切なところについては、第1学年で自分にとっても、他人にとっても大切なものであることを学習した。

性被害・性暴力に巻き込まれないためにも、性別に関わらず自分だけの大切なところを狙った犯罪があることを知り、嫌なことをされた場合の対処方法を身に付けることをねらいとする。

### 3 事前の指導

児童の活動	指導上の留意点
自分だけの大切なところについて、ワークシートに記入する。	○第1学年の「せいけつなからだ」における学習内容を振り返り、自分だけの大切なところの清潔を保ち、安全を守るための方法について想起させる。

### 4 本時の指導

#### (1) 目標

自分だけの大切なところを狙う犯罪があることを知り、体を触られたり、見られたりすることで、少しでも嫌な気持ちになった際には、「嫌だ」、「やめて」と叫んでその場から離れ（逃げ）、そのことを安心できる大人に話した方が良いことを理解することができるようにする。



④

	4 グループで話し合い、全体で発表する。	○怖い思いをした時には、一人で我慢せず、必ず安心できる大人に話し、助けてもらう必要があることをおさえる。
決める	5 自分の命や体を守るために、これから気を付けようと思うことを決めて発表する。	○もし、大人に怖い思いをさせられても、あなたが悪いからではないことを伝える。

## 5 事後の指導

児童の活動	指導上の留意点
授業を振り返り、ワークシートに感想を記入する。	○一人一人の感想を確認し、誤って認識していたり、すでに被害に遭い、困っていたりする場合等には個人情報等に配慮しながら、迅速に対応する。

## 6 指導のポイント

児童が抵抗なく授業を受けるためには、導入で絵本等を活用すると効果的である。

また、家庭によって生活様式に違いがあるためそれぞれの様子を確認しながら必要に応じて配慮をするとともに、児童が発言しやすい肯定的な雰囲気の中で指導することが大切である。なお、被害に遭った子供がいるかもしれないことを前提に、授業の導入では、辛くなった場合は我慢せず、申し出るように伝える。

### <参考>

絵本「とにかくさけんでにげるんだ」

作：ベティー・ボガホールド 訳：安藤由紀 絵：河原まり子  
岩崎書店

中 学 校





## 指導事例 1 – ① 生殖に関わる機能の成熟

対象：第1学年

教科等：保健体育科

### ★教育課程上の位置付け

保健体育科「心身の機能の発達と心の健康」

(2) 心身の機能の発達と心の健康について、課題を発見し、その解決を目指した活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 心身の機能の発達と心の健康について理解を深めるとともに、ストレスへの対処をすること。

(ア) 身体には、多くの器官が発育し、それに伴い、様々な機能が発達する時期があること。また、発育・発達の時期やその程度には、個人差があること。

(イ) 思春期には、内分泌の働きによって生殖に関わる機能が成熟すること。また、成熟に伴う変化に対応した適切な行動が必要となること。

イ 心身の機能の発達と心の健康について、課題を発見し、その解決に向けて考え判断するとともに、それらを表現すること。

### 1 単元の目標

- (1) 思春期には、ホルモンの働きにより生殖器の発育とともに生殖機能が発達し、男子では射精、女子では月経が見られ、妊娠が可能となることや、異性の尊重、性情報への対処等、性に関する適切な態度や行動の選択が必要となることを理解することができるようにする。
- (2) 心身の機能の発達と心の健康に関わる事象や情報から課題を発見し、疾病等のリスクを軽減したり、生活の質を高めたりすること等と関連付けて、解決方法を考え、適切な方法を選択し、それらを伝え合うことができるようにする。
- (3) 心身の機能の発達と心の健康について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとすることができるようにする。

### 2 単元について

小学校では、体の発育・発達の一般的な現象や個人差、思春期の体つきの変化や初経、精通等について学習している。また、心も体と同様に発達し、心と体には密接な関係があること、不安や悩みへの対処等についても学習している。

ここでは、身体的な成熟に伴う性的な発達に対応し、個人差はあるものの、性衝動が生じたり、異性への関心等が高まったりすること等から、異性の尊重や性情報への対処等性に関する適切な態度や行動の選択が必要となることを理解できるように指導する。

⑤

### 3 単元計画

時	学習内容
1 2 (本時)	生殖に関わる機能の成熟 ○思春期には、内分泌の働きによって生殖に関わる機能が成熟すること。
3	成熟の変化に伴う適切な行動等 ○生殖に関わる機能の成熟に伴う変化に対応した適切な行動が必要となること。

### 4 本時の指導（全3時間中の2時間目）

#### (1) 目標

- ・ 思春期には、生殖器の発育とともに生殖機能が発達し、妊娠が可能となることを理解することができるようにする。(知識)
- ・ 心身の機能の発達について、習得した知識を自他の生活に適用したり、課題解決に役立てたりして、発達の状況に応じた健康を保持増進する方法を見出すことができるようにする。(思考力、判断力、表現力等)
- ・ 心身の機能の発達と心の健康について、課題の解決に向けた学習活動に主体的に取り組もうとすることができるようにする。(学びに向かう力、人間性等)

#### (2) 展開例

段階	主な学習内容・学習活動	○指導上の留意点 ◆評価
導入 (5分)	1 思春期の体の変化について前時を振り返る。  <予想される反応> ・ 体の変化はホルモンの影響による。 ・ 女性では排卵や月経が起こる。 ・ 変化の起こる時期には個人差がある。 ・ 月経は約4週間に一度ずつ繰り返される。	○前時までに、思春期の体の変化、排卵と月経の仕組みについて学習したことを確認する。  ○発表しやすい雰囲気となるよう配慮する。  ○体の変化は男女それぞれに起こることに関心をもたせ、本時の目標につなげるようにする。
	生殖機能の発達と妊娠について考えよう	
	2 射精の仕組みを知る。 (学習内容) ・ 男子の生殖器の仕組み ・ 射精が起こる仕組み	○男子の生殖器と射精の仕組みについて説明する。 ・ 精液は、精巣で作られた精子と精のうや前立腺から出る分泌液が混ざったもので

<p style="text-align: center;">展開 (35分)</p>	<p>3 受精と妊娠の仕組みを知る。 (学習内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・受精の仕組み</li> <li>・着床までの流れ</li> <li>・妊娠までの流れ</li> </ul> <p>4 月経や射精が起こる意味について考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>月経や射精が起こるのはどうしてでしょう。</p> </div> <p>&lt;予想される反応&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・身体が大人に近づいた。</li> <li>・生殖機能が成熟した。</li> </ul>	<p>あること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・射精は、精液が尿道を通過して体外に射出されること。</li> <li>・射精は周期的なものではなく、心身の性的な興奮や刺激によって起こること。</li> </ul> <p>○受精から妊娠について説明する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・精子が、膣から子宮を通過して卵管へと泳いでいき、この時に排卵された卵子が卵管に来ていれば、受精が起こる場合があること。</li> <li>・着床とは、受精卵が子宮内膜に潜り込むこと。</li> <li>・着床してから女性の体内に胎児が宿り、赤ちゃんが生まれるまでの状態を妊娠ということ。</li> </ul> <p>○心身の機能は生活経験等の影響を受けながら年齢とともに発達することについて気付くよう促す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生殖機能の成熟は、新しい生命を誕生させることが可能になったということ。</li> </ul> <p>◆【知識・技能】</p> <p>生殖器の発育とともに生殖機能が発達し、男子では射精、女子では月経が見られ、妊娠が可能となることについて、理解したことを言ったり、書いたりしている。</p> <p>(観察・ノート)</p>
<p style="text-align: center;">まとめ (10分)</p>	<p>5 本時の学習の振り返りとまとめをする。</p>	<p>○月経や射精が起こるようになったのは、生殖機能が成熟し、新しい生命を誕生させることが可能になったということを知らせる。</p>

⑤

## 5 指導のポイント

本単元では、思春期における性意識の変化を理解するとともに、身体的な成熟に伴う性的な発達に対応し、個人差はあるものの、性衝動が生じたり、異性への関心等が高まったりすること等から、異性の尊重、性情報への対処等性に関する適切な態度や行動の選択が必要となることを理解できるようにする。また、現在及び将来の生活において性意識や性衝動に関する課題に直面した場合に、適切に対処し改善していくための知識、技能や思考力、判断力、表現力等の資質・能力を育成することがねらいである。

総合的な学習の時間において、「健康」に関する現代的な諸課題に対応するために、探究的な活動に主体的・協働的に取り組み、互いの良さを生かしながら積極的に社会に参画する態度の育成を育むことが考えられる。例えば、総合的な学習の時間における課題解決的な学習の導入として、本授業を位置付けることができる。具体的には本単元での学びを基盤として、総合的な学習の時間において、思春期の性意識の変化と性に関する適切な態度や行動の選択について生徒が課題を設定し、その解決に向けた方針や方法を探求していくことが考えられる。

学年	教科等	主な学習内容・学習活動
1年	保健 体育	<p><b>心身の機能の発達と心の健康</b></p> <p>生殖に関わる機能の成熟</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 思春期には、生殖器の発育とともに生殖機能が発達し、妊娠が可能となることを理解する。</li> <li>・ 心身の機能の発達について、習得した知識を自他の生活に適用したり、課題解決に役立てたりして、発達の状況に応じた健康を保持増進する方法を見出す。</li> <li>・ 心身の機能の発達と心の健康について、課題の解決に向けた学習活動に主体的に取り組む。</li> </ul>

### 教科等横断的な指導の工夫

学年	教科等	主な学習内容・学習活動
1年	理科	<p><b>いろいろな生物とその共通点</b></p> <p>動物の体のつくりと生活</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 身の回りで見られる動物を観察・調査し、動物の体のつくりや生活のしかたとの関係を考察する。</li> <li>・ 肉食動物と草食動物の相違点について考える。</li> </ul> <p>骨のある動物</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 動物が背骨の有無によって、脊椎動物と無脊椎動物に分けられることを理解する。</li> <li>・ 脊椎動物を分類する特徴について話し合い、分類の観点を発表する。</li> <li>・ 動物の種類による産卵（子）数の違いについて考える。</li> </ul> <p>背骨のない動物</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 無脊椎動物の特徴となかまについて理解する。</li> </ul> <p>動物の分類</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学習した動物のなかまごとの特徴を手掛かりに、種類が分からない動物を分類する。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p><b>性に関する指導の視点</b></p> <p>哺乳類については胎生であるため、子は母親の子宮内で酸素や栄養分をもらい、ある程度成長してから生まれることから、ヒトについても母体内で成長してから生まれることを理解できるようにする。</p> <p><b>ワンポイントアドバイス</b></p> <p>生まれる子や卵の数に違いがある理由を考えることで、哺乳類や鳥類は子や卵の数は少ないが、親に大切に守られ、大人にまで育つことができることに気付くことができます。</p> </div>

<p>3年</p>	<p>理科</p>	<div style="background-color: #f0f0f0; padding: 5px; border: 1px solid black; margin-bottom: 10px;"> <p style="text-align: center;"><b>生命の連続性</b></p> </div> <p><b>生物のふえ方</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生物のふえ方の共通点と相違点や、親と子の特徴の関係性について話し合う。</li> <li>・ 無性生殖の特徴に気付く。</li> <li>・ 動物の有性生殖について、受精から発生の過程を理解する。</li> <li>・ 被子植物の有性生殖について、受精から発生の過程を理解する。</li> </ul> <p><b>細胞のふえ方</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生物が成長するときの細胞の変化について話し合う。</li> <li>・ 細胞分裂をするときの細胞の変化について、観察を通して考察する。</li> <li>・ 親と子の染色体の数が同じに保たれるしくみについて考察し、減数分裂と体細胞分裂の違いを理解する。</li> </ul> <p><b>親から子への特徴の伝わり方</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 遺伝子の受け継がれ方について、無性生殖と有性生殖の違いを理解する。</li> <li>・ メンデルの遺伝の実験内容や結果を知り、顕性形質と潜性形質の現れ方について考える。</li> </ul> <p><b>遺伝のしくみ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 遺伝子の伝わり方について、記号に置き換えて説明する。</li> <li>・ 遺伝子のモデル実験を行い、子や孫の形質の割合を確認する。</li> </ul> <p><b>遺伝子の本体</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ DNAや遺伝子に関する技術が様々な場面で利用されていることを理解する。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p><b>性に関する指導の視点</b></p> <p>有性生殖については、受精によって新しい個体が生じ、受精卵の体細胞分裂によって複雑な体がつくられることや生物がふえていく時に親の形質が子に伝わることを理解できるようにする。</p> <p><b>ワンポイントアドバイス</b></p> <p>生物のふえ方を観察し、有性生殖と無性生殖の特徴を考え、見出すことで、生殖によって、親から子へと生命はつながっていることを理解することができます。</p> </div>
-----------	-----------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

\*\*\*\*\*

思春期には、生殖器の発育とともに生殖機能が発達し、男子では射精、女子では月経が見られ、妊娠が可能となることを理解することができる。

また、生物は子が誕生することで、親から子へ生命が受け継がれることの素晴らしさに興味・関心を持ち、生命を尊ぶ態度を育成することが期待できる。

## 指導事例 2 欲求やストレスへの対処と心の健康

対象：第1学年

教科等：保健体育科

### ★教育課程上の位置付け

保健体育科「心身の機能の発達と心の健康」

(2) 心身の機能の発達と心の健康について、課題を発見し、その解決を目指した活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 心身の機能の発達と心の健康について理解を深めるとともに、ストレスへの対処をすること。

(I) 精神と身体は、相互に影響を与え、関わっていること。欲求やストレスは、心身に影響を与えることがあること。また、心の健康を保つには、欲求やストレスに適切に対処する必要があること。

イ 心身の機能の発達と心の健康について、課題を発見し、その解決に向けて思考し判断するとともに、それらを表現すること。

### 1 単元の目標

- (1) 精神と身体の相互影響、欲求やストレスの心身への影響と適切な対処について理解するとともに、ストレスへの対処の方法を身に付けることができるようにする。
- (2) 心の健康について、課題を発見し、その解決方法を考え、適切な方法を選択し、それらを伝え合うことができるようにする。
- (3) 心の健康について、自他の健康の保持増進や回復についての学習に主体的に取り組もうとすることができるようにする。

### 2 単元について

本単元では、心の健康についての課題を発見し、疾病等のリスクを軽減したり、生活の質を高めたりすること等と関連付けて、その解決を目指した学習活動を通して、精神と身体は相互に影響を与え関わっていること、心の健康を保つには、欲求やストレスに適切に対処する必要があることを理解できるようにする。また、ストレスへの対処には様々な方法があることを知り、その中からストレスの原因、自分や周囲の状況に応じた対処の仕方を選ぶことが大切であることを理解できるようにする。さらに、リラクセーションの方法等を取り上げ、ストレスによる心身の負担を軽くするような対処の方法ができることを目指している。

心の健康について、課題を発見し、その解決方法を考え、適切な方法を選択し、それらを伝え合うことのできる学習活動を展開することで、現在及び将来の生活における心の健康に関する課題に直面した場合に、的確な思考、判断、表現ができるよう、心の健康を適切に管理し、改善していく思考力、判断力、表現力等の資質・能力を育成していきたい。

## ⑥

## 3 単元計画

時	学習内容
1	精神と身体の間わり ○精神と身体には密接な関係があり、互いに様々な影響を与えていること、心の状態が体に現れたり、体の状態が心に現れたりするのは、神経等の働きによること。
2	欲求への対処 ○心の健康を保つには、適切な生活習慣を身に付けるとともに、欲求やストレスに適切に対処する必要があること、欲求には、生理的な欲求と心理的、社会的な欲求があること、精神的な安定を図るには、日常生活に充実感を持てたり、欲求の実現に向けて取り組んだり、欲求が満たされない時に自分や周囲の状況からより良い方法を見つけたりすること。
3	ストレスへの対処① ○ストレスとは、外界から様々な刺激により心と体に負担のかかった状態であり、適度なストレスは精神発達上必要なものであること、過度なストレスは、心身の健康や生命に深刻な影響を与える場合があること、ストレスへの対処には、様々な方法があり、その中からストレスの原因、自分や周囲の状況に応じた対処の仕方を選ぶことが大切であること。
4 (本時)	ストレスへの対処② ○ストレスへの対処には、様々な方法があり、その中からストレスの原因、自分や周囲の状況に応じた対処の仕方を選ぶことが大切であることを理解するとともに、リラクセーションの方法を取り上げ、ストレスによる心身の負担を軽くするための技能ができるようにすること。

## 4 本時の指導（全4時間中の4時間目）

## (1) 目標

- ・ ストレスの原因、自分や周囲の状況に応じた対処の仕方を選ぶことが大切であることを理解するとともに、ストレスによる心身の負担を軽くするようなリラクセーションの方法を身に付けることができるようにする。(知識及び技能)
- ・ 欲求やストレスへの対処について、課題の解決方法とそれを選択した理由等を、他者と話し合ったり、ノート等に記述したりして、筋道を立てて伝え合うことができるようにする。(思考力、判断力、表現力等)
- ・ 欲求やストレスへの対処について、課題の解決に向けての学習に主体的に取り組もうとすることができるようにする。(学びに向かう力、人間性等)

## (2) 展開例

段階	主な学習内容・学習活動	○指導上の留意点	◆評価
	1 前時の振り返りを行うとともに、好ましくない対処法を提示し、適切な対処法を考える。		



<p>導 入 （ 10 分）</p>	<p>事例のようなストレスの対処法は適切な対処法と言えますか。</p> <p>【事例①】 勉強をしなければならないが、思うようにはかどらない場面に対する好ましくない対処法の提示 「勉強に集中できず、家族に反抗したりして、イライラを発散する」 ＜予想される反応＞ ・人に当たっても何も解決しない。 ・余計にイライラする。 ・第三者を傷付けたりするかもしれない。 ＜予想される対処法＞ ・気分転換に体を動かす。 ・友達に相談する。 ・適度な休憩をとる。</p> <p>【事例②】 週末に、友達と遊ぶ約束と家族旅行の計画が重なった場面に対する好ましくない対処法の提示 「予定が重なったことを面倒に思い、自分一人でゲームをして過ごす。」 ＜予想される反応＞ ・約束を全部断ってしまったら、どんな予定も入れられずさらにストレスが溜まる。 ＜予想される対処法＞ ・友達に相談する。 ・どちらにも相談して、実行できるよう時間調整をする。</p>	<p>○教師が好ましくない対処法を示し、適切な対処法の必要性について考えるきっかけとする。</p> <p>○前時を振り返りながら発表させる。</p> <p>○どのようにすれば、そのストレスを適切に対処できるかを考えさせる。</p> <p>○自分の意思とは関係なく、心の働きが体の変化として、体に生じたことが心の反応として現れることを説明する。</p>
------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

どのようにストレスに対処すればよいかを考えよう	
<p style="text-align: center;">展開 （35分）</p>	<p>2 ストレスへの適切な対処法について知る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>ストレスの原因、自分や周囲の状況に応じた対処という視点でもう一度考えよう。</p> </div> <p>&lt;予想される反応&gt; 【事例①】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高い目標や詰め過ぎた計画にすると、さらにストレスを感じるから気を付けたい。</li> <li>・適度な息抜きは必要だ。</li> </ul> <p>【事例②】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・友達なら説明すれば分かってもらえるはずだから、家族を優先したい。</li> <li>・どちらにも説明して、両方とも実行できるように調整してみる。</li> </ul> <p>（学習内容）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ストレスの対処は、ストレスの原因、自分や周囲の状況に応じた対処の仕方を選ぶことが大切であること。</li> </ul> <p>3 ストレスによる心身の負担を軽くするようなリラクゼーションの技能を身に付ける。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>音楽でリコーダーのテストの際、学級の生徒の前に立った瞬間、どのような気持ちになりましたか。</p> </div> <p>&lt;予想される反応&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ドキドキした。</li> <li>・逃げ出したくなった。</li> </ul>
	<p>○グループになって、気付いたことを書き出させる。</p> <p>○いくつかのグループに発表させる。</p> <p>○事例①、②の対処の仕方について生徒から出されたものを「ストレスの原因に対処すること」、「友達や家族、教師、医師等の専門家等に話を聞いてもらったり、相談したりすること」、「コミュニケーションの方法を身に付けること」、「規則正しい生活をする」、「ストレスの原因について受け止め方を見直すこと」等の視点で整理しながら、板書する。</p> <p>○様々な対処の中から、ストレスの原因、自分や周囲の状況に応じた対処の仕方を選ぶことが大切であることを知らせる。</p> <p>○どの生徒も体験したことのある状況（場面）を振り返るように知らせることでストレスを感じた時の様子についてイメージしやすくする。</p> <p>○グループになって、気付いたことについて話し合いをさせる。</p> <p>○こうしたストレスの場面には、強いストレスが重なることがあることにも触れることで対処の必要性を実感させる。</p>

<p>その時、体には何か変化がありましたか。</p> <p>&lt;予想される反応&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・呼吸や脈拍が速くなった。</li> <li>・冷や汗をかいた。</li> </ul> <p>(学習内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・冷静な判断をするためにも、ストレスを感じた時には、まずは心や体の負担を軽くすることが大切であること。</li> </ul> <p>心も体もリラックスするためには、どのような方法があるでしょうか。</p> <p>&lt;予想される反応&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・呼吸法を意識する。</li> <li>・ストレッチを行う。</li> <li>・物を食べる。</li> <li>・音楽を聴く。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・簡単にできるリラクゼーションの方法を身に付ける。</li> </ul> <p>① 筋肉を緩める方法について知る。</p> <p>(学習内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・体の様々な部位に「わざと力を入れて抜く」ことを繰り返す、力が抜ける感覚をつかむ。</li> <li>・ストレッチは筋肉を伸ばすことであるが、リラクゼーションは筋肉を緩めるために行うものである。</li> </ul> <p>&lt;手順&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・二人組になり、一人は実践、もう一人は説明をしながら、正しく行えているかを確認し、チェック表にレ点を付ける。</li> </ul>	<p>○「心と体の関わり」の学習内容を振り返らせるなど、関連を図る。</p> <p>○ストレスを感じた時のセルフケアとして、リラクゼーションの方法を身に付け、心身の負担を軽くするような対処の方法を身に付けることの大切さについて説明する。</p> <p>○体育の授業で学習した内容を日常生活に生かしている子供を称賛し、子供が学校での学びと実生活のつながりを再認識できる機会を設定する。</p> <p>○資料や教師が見本を見せることにより、筋肉を緩める方法や手順を確認する。</p>
----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

## ⑥

	<p>・以下の㉖～㉙を2セット行い、交代する。</p> <p>1 椅子に浅く腰をかける。 2 ペアの話聞きながら、㉖～㉙を行う。 ㉖両手を握り、肘を曲げる。 ㉗身体を丸めて、脇をしめる。 ㉘一気に力を入れて目を閉じ、そのままペアが15秒数える。 ㉙一気に力を抜き、力が抜けるジワーンとした感じを体験する。 ㉚ペアが15秒数える間、背もたれに寄りかかりながら休む。</p> <p>②ペアで筋肉を緩める方法を繰り返す。</p>	<p>○最初は、ペアで行い（一人が2回ずつ）、その後、全体で1回行うなど、身に付けることができたかを確認させる時間を設定する。</p> <p>○必要に応じて教室の照明を消したり、ゆったりとした音楽を流すなどして、リラックスできる環境を整える。</p> <p>○筋肉を緩めるという感覚、ジワーンと身体が温くなる感覚が得られたかどうかを問いかける。</p> <p>◆【知識・技能】 リラクセーションの方法等がストレスによる心身の負担を軽くすることについて理解するとともに、その方法を身に付けることができる。（観察・ノート）</p>
まとめ (5分)	4 本時の学習の振り返りとまとめをする。	○自らの心身の健康を保つために、欲求やストレスに対処することやリラクセーションの方法を身に付けることの大切さについて確認する。

## 5 指導のポイント

本単元は、心の健康について課題を発見し、その解決方法を考え、適切な方法を選択し、それらを伝え合う学習活動である。現在及び将来の生活において、心の健康に関する課題に直面した場合に適切に対処することができるよう、心の健康を管理し、改善していくための資質・能力を育成することがねらいである。また、ストレスに対処するためのリラクセーションの意味や方法について理解し、その方法を身に付けることも目指している。

本時の学習を踏まえ、本単元は、学級活動の内容(2)「エ 心身ともに健康で安全な生活態度や習慣の形成」等と関連を図ることができる。例えば、ストレスの対処と自己の健康を管理できる実践力の育成等により、保健分野における学びを深めていくことが考えられる。

総合的な学習の時間において、「健康」に関する現代的な諸課題に対応するために、探究的な活動に主体的・協働的に取り組み、互いの良さを生かしながら積極的に社会に参画する態度の育成を育むことが考えられる。例えば、総合的な学習の時間における課題解決的な学習の導入として、本時を位置付けることができる。具体的には本単元での学びを基盤として、総合的な学習の時間では現代社会における心の健康問題について、生徒が課題を設定し、その解決に向けた方針や方法を探求していくことが考えられる。

⑥

学年	教科等	主な学習内容・学習活動
1年	保健 体育	<p><b>心身の機能の発達と心の健康</b></p> <p>欲求やストレスへの対処と心の健康</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ストレスの原因、自分や周囲の状況に応じた対処の仕方を選ぶことが大切であることを理解するとともに、ストレスによる心身の負担を軽くするようなリラクゼーションの方法を身に付ける。</li> <li>・ 欲求やストレスへの対処について、課題の解決方法とそれを選択した理由等を、他者と話し合ったり、ノート等に記述したりして、筋道を立てて伝え合う。</li> <li>・ 欲求やストレスへの対処について、課題の解決に向けての学習に主体的に取り組む。</li> </ul>

**教科等横断的な指導の工夫**

学年	教科等	主な学習内容・学習活動
1年	特別 活動 ★	<p><b>思春期の不安や悩み</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 思春期における不安や悩みについて理解するとともに、不安や悩みを受け止め、解決に向けた適切な対処法を選択する。</li> </ul>

\*\*\*\*\*

発育・発達の時期や程度には個人差があること、思春期は身体的には生殖に関わる機能が成熟し、精神的には自己形成の時期であること、精神と身体は互いに影響し合うことを理解することができる。

また、心身の機能は生活経験等の影響を受けながら年齢とともに発達することから、自らの心の健康に関する課題を発見し、その解決に向けて考えることを通して、欲求やストレスに適切に対処するための技能を身に付けることが期待できる。

## 指導事例 3 思春期の不安や悩み

対象：第1学年

教科等：特別活動

### ★教育課程上の位置付け

特別活動 学級活動

#### (2) 日常生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全

##### ウ 思春期の不安や悩みの解決、性的な発達への対応

心や体に関する正しい理解を基に、適切な行動をとり、悩みや不安に向き合い乗り越えようとする。

#### 1 題材の目標

思春期の心身の変化に伴う不安や悩みについて理解を深めるとともに、課題解決に向けた適切な行動を選択することができるようにする。

#### 2 題材について

思春期にある生徒たちは、急速に発育・発達していく心身の変化に戸惑い、不安や悩みを抱えることが多くなる。自我の目覚めとともに独立の欲求が高まり、自己を内省し始める時期である一方で、自我の発達は未熟な面もあり、自信を失ったり自己嫌悪に陥ったりすることも少なくない。そこで第二性徴が著しいこの時期に、正しい知識を与え、自己理解を深めることによって思春期特有の不安や悩みを受け止め、適切な行動を選択できる力を身に付けさせることをねらいとする。

#### 3 事前の指導

生徒の活動	指導上の留意点
思春期の心の変化について、事前アンケートに記入する。	○思春期における心の変化を自覚しているかを振り返らせ、学級の実態を把握する。

#### 4 本時の指導

##### (1) 目標

思春期における不安や悩みについて理解するとともに、互いの性への興味や悩みを共有することを通して、課題解決に向けた適切な対処法を選択することができるようにする。

## ⑥

## (2) 展開例

段階	主な学習内容・学習活動	指導上の留意点
つかむ	1 事前アンケートの結果をもとに、中学生になって心と体がどのように変化してきたのかを知る。	○自分の心や体の変化に気付かせるとともに、周囲の友人も同じように不安や悩みを抱えていることに気付かせ、安心感を得られるよう配慮する。 ○第二次性徴に伴う不安や悩みがあることは当たり前のこととして捉えさせる。
さぐる  見つける	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin-bottom: 10px;">思春期の心を見つめ、不安や悩みの対処法について考えよう</div> 2 アンケートについて、自分自身の結果と学級の結果を比較し、気付いたことをワークシートに記入する。  3 気付いた内容を発表する。 <予想される反応> ・悩んでいるのは自分だけではないとわかって安心した。 ・自分より悩んでいる人がいる。 ・様々な悩みがある。  4 思春期についての話を聞いた後、グループに分かれて対処法を話し合い、意見を発表する。	○学級全体の実態を確認し、自分の考えと比較することで現在の自分の状態に関心を持たせる。  ○不安や悩みには個人差があること、周りの大人も思春期には同じように悩んでいたことをおさえる。  ○自由に話合いができる雰囲気をつくる。生徒の体験や知識に問いかけながら、発言をできるだけ引き出すように工夫する。
決める	5 不安や悩みがある時に自分にできる対処法をワークシートに記入する。 <予想される反応> ・音楽を聴く。 ・体を動かす。 ・話を聞いてもらう。  6 学習を振り返り、ワークシートに感想を記入する。	○信頼できる大人に相談することも一つの対処法であることを知らせる。  ○違いを認め合い、互いに尊重することの大切さについておさえる。 ○自己の性や異性について、嫌悪感や受け入れにくさを感じる生徒もいることに触れる。  ○相談窓口についても紹介する。



## 5 事後の指導

生徒の活動	指導上の留意点
面談等でストレスの軽減方法を実践できているかを確認し、必要に応じて個別指導を行う。	○学習内容や授業中の様子については、学年通信に掲載し、保護者等とも情報を共有する。

## 6 指導のポイント

思春期の心と体の変化や性への関心の持ち方については、生徒の発達段階やおかれた状況等によって個人差が見られることから、事前に教職員が集団指導と個別指導の内容を整理し、計画性を持って実施することが重要である。また、性的マイノリティの当事者がいるかもしれないことを想定し、多様な生き方を認めることができるよう指導するとともに、必要に応じて個別指導につなげるなど、きめ細やかに対応する。

# 思春期の心についてのアンケート

中学生になり、皆さんは心身ともに大きく成長する時期でもあります。子供から大人への過渡期である「思春期」の自分を見つめてみましょう。



1年 組

**A**

▼以前の自分と比べてどのようなことが変わったと感じているでしょうか。  
当てはまるものすべてに○を付けましょう。

1	周りの人から自分がどう見られているか気になるようになった。
2	素直になれなかったり、イライラしたりすることが増えた。
3	誰かに好意を持つようになった。
4	家族より友人と過ごしたいと思うことが増えた。
5	体の成長についていけないと感じたり、戸惑うことが増えた。
6	周りの人（家族・友人・先生等）への不満が増えた。
7	周りの人（家族・友人・先生等）に反抗するようになった。
8	髪型や服装、外見を気にするようになった。
9	人と比べて自信をなくしたり、自己嫌悪に陥ったりすることが増えた。
10	理由もなく悲しくなったり、くよくよすることが増えた。
11	性的なことに興味を持つようになった。
12	一人になりたいと思うことが増えた。
13	自分のことは自分で決めたいと思うようになった。
14	人を好きになること、交際することに興味を持つようになった。
15	孤独だと感じたり、誰も自分を分かってくれないと思うようになった。

**B**

▼今現在、どのようなことに悩んでいますか。  
当てはまるものすべてに○を付けましょう。

1	家族関係のこと
2	友人関係こと
3	恋愛関係こと
4	勉強、成績のこと
5	部活動、スポーツ、習い事のこと
6	進路、将来のこと
7	自分の外見のこと
8	自分の健康のこと
9	自分の性格のこと
10	その他（ ）

**C**

▼自分の心や体について知りたいこと、不安に思っていること、相談したいことがあれば書いてください。

--

月 日 ( )

1年 組 番 氏名

## 思春期の心を見つめ、不安や悩みの対処法について考えよう

1 学校全体の結果のグラフと自分の結果を比べてみましょう。

質問項目 番号	アンケート結果から、気付いたことや感じたことを書きましょう。

2 グループで話し合い、悩んだ時や不安になった時の対処法を書きましょう。  
また、自分で実践できそうな対処法に○を付けましょう。

3 振り返り

①思春期について

理解することができた ← 5 ・ 4 ・ 3 ・ 2 ・ 1 → 理解することができなかった

②悩みや不安の対処法について

考えることができた ← 5 ・ 4 ・ 3 ・ 2 ・ 1 → 考えることができなかった

4 授業を受けた感想



<b>指導事例 1 – ② 生殖に関わる機能の成熟</b>		
<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%; border: none;">対象：第1学年</td> <td style="width: 50%; border: none; text-align: right;">教科等：保健体育科</td> </tr> </table>	対象：第1学年	教科等：保健体育科
対象：第1学年	教科等：保健体育科	

## ★教育課程上の位置付け

保健体育科「心身の機能の発達と心の健康」

<p>(2) 心身の機能の発達と心の健康について、課題を発見し、その解決を目指した活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p>
-----------------------------------------------------------------------------

<p>ア 心身の機能の発達と心の健康について理解を深めるとともに、ストレスへの対処をすること。</p>
-----------------------------------------------------

<p>(ア) 身体には、多くの器官が発育し、それに伴い、様々な機能が発達する時期があること。また、発育・発達の時期やその程度には、個人差があること。</p>
--------------------------------------------------------------------------------

<p>(イ) 思春期には、内分泌の働きによって生殖に関わる機能が成熟すること。また、成熟に伴う変化に対応した適切な行動が必要となること。</p>
--------------------------------------------------------------------------

<p>イ 心身の機能の発達と心の健康について、課題を発見し、その解決に向けて考え判断するとともに、それらを表現すること。</p>
------------------------------------------------------------------

## 1 単元の目標

- (1) 思春期には、ホルモンの働きにより生殖器の発育とともに生殖機能が発達し、男子では射精、女子では月経が見られ、妊娠が可能となることや異性の尊重、性情報への対処等、性に関する適切な態度や行動の選択が必要となることを理解することができるようにする。
- (2) 心身の機能の発達と心の健康に関わる事象や情報から課題を発見し、疾病等のリスクを軽減したり、生活の質を高めたりすること等と関連付けて解決方法を考え、適切な方法を選択し、それらを伝え合うことができるようにする。
- (3) 心身の機能の発達と心の健康について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとすることができるようにする。

## 2 単元について

小学校では、体の発育・発達の一般的な現象や個人差、思春期の体つきの変化や初経、精通等について学習している。また、心も体と同様に発達し、心と体には密接な関係があること、不安や悩みへの対処等についても学習している。

ここでは、身体的な成熟に伴う性的な発達に対応し、個人差はあるものの、性衝動が生じたり、異性への関心等が高まったりすること等から、異性の尊重や性情報への対処等、性に関する適切な態度や行動の選択が必要となることを理解できるように指導する。

## 3 単元計画

時	学習内容
1	生殖に関わる機能の成熟
2	○思春期には、内分泌の働きによって生殖に関わる機能が成熟すること。
3 (本時)	成熟の変化に伴う適切な行動等 ○生殖に関わる機能の成熟に伴う変化に対応した適切な行動が必要となること。

## 4 本時の指導（全3時間中の3時間目）

## (1) 目標

- ・ 異性の尊重、性情報への対処等性に関する適切な態度や行動の選択が必要となることについて理解することができるようにする。(知識)
- ・ 心身の機能の発達について、習得した知識を自他の生活に適用したり、課題解決に役立てたりして、発達の状況に応じた健康を保持増進する方法を見出すことができるようにする。(思考力、判断力、表現力等)
- ・ 心身の機能の発達と心の健康について、課題の解決に向けた学習活動に主体的に取り組もうとすることができるようにする。(学びに向かう力、人間性等)

## (2) 展開例

段階	主な学習内容・学習活動	○指導上の留意点 ◆評価
導入 (5分)	<p>1 性的なことに関心を持った経験について発表する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">           性的なことに関心を持った経験はありますか。その時、どのような気持ちになりましたか。         </div> <p>&lt;予想される反応&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 異性とうまく話せなくなった。</li> <li>・ 恋愛感情を抱くようになった。</li> <li>・ 性に関する言葉が出てくるとドキドキした。</li> </ul>	<p>○自分の経験と照らし合わせながら考えさせる。</p> <p>○グループになって、気付いたことを書き出させる。</p> <p>○いくつかのグループに発表させる。</p>

性に関する適切な態度や行動の選択について考えよう	
展開 (35分)	<p>2 性意識の変化と適切な態度や行動の仕方について知る。 (学習内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・性機能の成熟による性意識の変化</li> <li>・異性への関心や性的欲求の高まり</li> <li>・性意識の個人差や多様な考え方、感じ方</li> </ul> <p>3 性情報への対処と行動を考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">       正しくない情報が含まれる性情報に惑わされない方法について考えよう。     </div> <p>&lt;予想される反応&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報をすぐに信用しない。</li> <li>・情報が正しいかどうかをよく考える。</li> <li>・危険性があると思われるサイトは見ない。</li> <li>・自分の情報を知らない人に安易に明かさない。</li> </ul>
まとめ (5分)	<p>4 本時の学習の振り返りとまとめをする。</p>

○性意識の変化と適切な行動の仕方について説明する。

- ・思春期には身体機能の成熟に伴って、性意識に変化が現れ、性的欲求が強くなることがあること。

- ・性意識には個人差があること。

- ・LGBTQのことに触れ、多様な考え方や感じ方があることを理解することで、互いを尊重した関係を築くことができること。

◆【思考・判断・表現】

心身の機能の発達について、習得した知識を自他の生活に適用したり、課題解決に役立てたりして適切な方法を選択している。

○グループで話し合いを行い、グループごとに考えをまとめる。

○いくつかのグループに発表させる。

○フィルタリング機能も効果がある方法の一つであることを伝える。

◆【知識・技能】

異性の尊重、性情報への対処等性に関する適切な態度や行動の選択について、理解したことを言ったり、書いたりしている。(観察・ノート)

○性に関する意識には個人差があること、性情報に適切に対処するには、正しい情報を選択し、適切な行動をとることが必要であることをおさえる。

## 5 指導のポイント

本単元では、思春期における性意識の変化を理解するとともに、身体的な成熟に伴う性的な発達に対応し、個人差はあるものの、性衝動が生じたり、異性への関心等が高まったりすること等から、異性の尊重、性情報への対処等性に関する適切な態度や行動の選択が必要となることを理解できるようにする。また、現在及び将来の生活において性意識や性衝動に関する課題に直面した場合に、適切に対処し、改善していくための知識、技能や思考力、判断力、表現力等の資質・能力を育成することがねらいである。

総合的な学習の時間において、「健康」に関する現代的な諸課題に対応するために、探究的な活動に主体的・協働的に取り組み、互いの良さを生かしながら積極的に社会に参画する態度の育成を育むことが考えられる。例えば、総合的な学習の時間における課題解決的な学習の導入として、本授業を位置付けることができる。具体的には本単元での学びを基盤として、総合的な学習の時間において、思春期の性意識の変化と性に関する適切な態度や行動の選択について生徒が課題を設定し、その解決に向けた方針や方法を探求していくことが考えられる。

## 指導事例 4 交通事故等による傷害の防止

対象：第2学年

教科等：保健体育科

### ★教育課程上の位置付け 保健体育科「傷害の防止」

- (3) 傷害の防止について、課題を発見し、その解決を目指した活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
- ア 傷害の防止について理解を深めるとともに、応急手当をすること。
- (ア) 交通事故や自然災害などによる傷害は、人的要因や環境要因などが関わって発生すること。
- (イ) 交通事故などによる傷害の多くは、安全な行動、環境の改善によって防止できること。
- イ 傷害の防止について、危険の予測やその回避の方法を考え、それらを表現すること。

#### 1 単元の目標

- (1) 交通事故や自然災害等による傷害の発生要因、交通事故等による傷害の防止、自然災害による傷害の防止、応急手当の意義と実際について、理解することができるようにするとともに、心肺蘇生法等の技能を身に付けることができるようにする。
- (2) 傷害の防止に関わる事象や情報から課題を発見し、自他の危険の予測をもとに、危険を回避したり、傷害の悪化を防止したりする方法を考えるとともに、適切な方法を選択し、それらを伝え合うことができるようにする。
- (3) 傷害の防止について、自他の健康の保持増進や回復についての学習に主体的に取り組もうとすることができるようにする。

#### 2 単元について

小学校では、交通事故や身の回りの生活の危険が原因となって起こるけがの防止、すり傷や鼻出血等の簡単なけがの手当について学習している。

本単元では、傷害の発生には様々な要因があり、適切に対策することによって傷害の多くは防止できること、また、危険を予測し、その回避の方法を考えることで、SNS等のトラブルによる性被害等を含む犯罪被害を防止するための適切な対策を行うことができるような態度の育成を目指している。



## 3 単元計画

時	学習内容
1	交通事故の防止 ○交通事故等による傷害を防止するためには、人的要因や環境要因に関わる危険を予測し、それぞれの要因に対して適切な対策を行うこと。
2 (本時)	犯罪被害の防止 ○どのような要因が関係して犯罪が起こるのかを予測し、犯罪被害を防止するための方法について具体的な場面を想定し、危険を回避するための適切な対策を行うこと。

## 4 本時の指導（全2時間中の2時間目）

## (1) 目標

- ・ 傷害を防止するためには、人的要因や環境要因に関わる危険を予測し、それぞれの要因に対して適切な対策を行うこと、周囲の状況に応じ、安全に行動することが必要であることについて、理解したことを言ったり書いたりすることができるようにする。(知識)
- ・ 傷害の防止について、自他の危険の予測や回避の方法と、それを選択した理由等を、他者と話し合ったり、ノート等に記述したりして、筋道を立てて伝え合うことができるようにする。(思考力、判断力、表現力等)
- ・ 傷害の防止について、課題の解決に向けての学習に主体的に取り組もうとすることができるようにする。(学びに向かう力、人間性等)

## (2) 展開例

段階	主な学習内容・学習活動	○指導上の留意点 ◆評価
導入 (5分)	1 前時までに学習した「人的要因」、「環境要因」、「車両要因」の振り返りを行う。	○事故の原因となる「人的要因」、「環境要因」、「車両要因」について発表させる。  ○犯罪被害の発生においても、「環境要因」が大きく関わることをおさえる。
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">           犯罪被害の発生に関わる要因やそれを防ぐためには            どのようなものがあるかを考えよう         </div> 2 犯罪が起こりやすい状況について考える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">             資料を見て、犯罪が起こりやすい状況について考えてみよう。           </div> <予想される反応> (原因) ・遅い時間帯である。	資料（夜間の街の様子が描かれた絵）を見て考察する。 ○グループで意見を出し合い、気付いたことを話し合わせる。  ○グループでの話し合いを、ミニホワイトボード等にまとめて書かせる。  ○いくつかのグループに発表させる。

展開 （ 35 分）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人で歩いている。</li> <li>・暗い道を歩いている。 （主体の対策）</li> <li>・一人で帰らない。</li> <li>・スマホを使わない。</li> <li>・防犯ブザーを使用する。</li> <li>・道を確認してから出発する。 （環境の対策）</li> <li>・明るい道を通る。</li> <li>・明るいうちに帰る。</li> <li>・周りを気にする。</li> </ul> <p>3 犯罪被害から身を守るためにできることを知る。 （学習内容）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・被害者にならないための主体の対策</li> <li>・危険予測・危険回避の能力向上</li> <li>・監視の目が行き届くための環境の対策</li> <li>・犯罪が起こりにくい環境づくり</li> </ul> <p>4 ネットワーク利用犯罪の危険について知る。</p>	<p>○原因・主体の対策、環境の対策ごとに意見をまとめる。</p> <p>◆【知識・技能】</p> <p>犯罪が起きる状況について、「犯罪を起こそうとする人」、「被害者となりうる人」、「監視の目の欠如」の3つの要素が関係していることについて、理解したことを言ったり、書いたりしている。</p> <p>○犯罪が起きる状況について説明する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・危険が予測される場所に近付かないこと。</li> <li>・身に迫る危険に気付くこと。</li> <li>・身の危険を感じたら逃げたり、助けを求めたりすること。</li> </ul> <p>○SNSの書き込みが原因で起こった犯罪例について説明する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・あやしいサイトを開かないこと。</li> <li>・身に迫る危険に気付くこと。</li> <li>・もしもトラブルにあったら、助けを求めること。</li> </ul> <p>◆【思考・判断・表現】</p> <p>犯罪被害について、習得した知識を自他の生活に適用したり、課題解決に役立てたりして他者と話し合ったり、ノートに記述したりして伝えている。（観察・ノート）</p>
---------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

まとめ (10分)	5 本時の学習の振り返りとまとめをする。	○理解した内容を今後の自分の生活にどう生かせるかどうかをノートに記入することで、それぞれの考えを深め、実践へとつなげられるように支援する。
--------------	----------------------	-----------------------------------------------------------------------

## 5 指導のポイント

特別活動では「心身ともに健康で安全な生活態度や習慣の形成」において、安全に関して、学校の内外を含めた自分の生活行動を見直し、課題の発見、具体的な解決方法の選択を経て、自己の安全の確保のみならず、身の回りの人の安全を確保する態度を育むことが重要であるとされている。保健体育科の授業で身に付けた犯罪被害防止の基礎的・基本的な知識を特別活動の時間で活用する場面を設定することにより、犯罪被害を防止する場面に直面した場合、より適切に実践していくための思考力、判断力、表現力等の資質・能力の基礎を育成することにつながれると考える。

総合的な学習の時間において、情報に関する現代的な諸課題に対応するために探究的な活動に取り組み、中学生として自己を守る態度を育むことが考えられる。本単元で習得した知識や技能を活用しながら課題解決のために事象を比較したり、関連付けたりして考える能力、自らの行動について意思決定をする能力、実践する能力等を身に付けるため、地域に目を向けさせ、日常生活において起こり得る犯罪を想定するなどの工夫を行う。

⑦

学年	教科等	主な学習内容・学習活動
1年	保健 体育	<p><b>心身の機能の発達と心の健康</b></p> <p>成熟の変化に伴う適切な行動等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 異性の尊重、性情報への対処等性に関する適切な態度や行動の選択が必要となることについて理解する。</li> <li>・ 心身の機能の発達について、習得した知識を自他の生活に適用したり、課題解決に役立てたりして、発達の状況に応じた健康を保持増進する方法を見出す。</li> <li>・ 心身の機能の発達と心の健康について、課題の解決に向けた学習活動に主体的に取り組む。</li> </ul>
2年	保健 体育	<p><b>傷害の防止</b></p> <p>交通事故等による傷害の防止</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 傷害を防止するためには、人的要因や環境要因に関わる危険を予測し、それぞれの要因に対して適切な対策を行うこと、周囲の状況に応じて、安全に行動することが必要であることについて、理解する。</li> <li>・ 傷害の防止について、自他の危険の予測や回避の方法と、それを選択した理由等を、他者と話し合ったり、ノート等に記述したりして、筋道を立てて伝え合う。</li> <li>・ 傷害の防止について、課題の解決に向けての学習に主体的に取り組む。</li> </ul>

### 教科等横断的な指導の工夫

学年	教科等	主な学習内容・学習活動
2年	特別 活動 ★	<p><b>性情報への対応・性犯罪被害の防止</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ インターネット上にある情報の信頼性について理解するとともに、性犯罪被害から自分自身を守るための方法を考え、未然に防止することができる。</li> </ul>
3年	社会	<p><b>私たちが生きる現代社会と文化の特色</b></p> <p>少子高齢化 変わる人口構成と家族</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 人口ピラミッド等の統計資料をもとに、日本における少子高齢化の進行とその原因について理解する。</li> <li>・ 少子高齢化の進行や家族の多様化に伴う課題、解決に向けた取組について、自分の考えを説明する。</li> </ul> <p>情報化 情報が変わる社会の仕組み</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 情報化の進展で生活や社会が豊かで便利になった点について理解する。</li> <li>・ 情報化の進展による課題を挙げ、解決するために自分たちができることについて考察する。</li> <li>・ 現代日本の特色として少子高齢化、情報化、グローバル化等が見られることについて理解する。</li> </ul>

- ・ 既習内容を振り返り、位置や空間的な広がり、推移や変化等に着目して、少子高齢化、情報化、グローバル化等が現在と将来の政治、経済、国際関係に与える影響について多面的・多角的に考察する。
- ・ 私たちが生きる現代社会について、現代社会に見られる課題の解決に向けて自分たちができることについて考察する。

### **性に関する指導の視点**

情報化が進む現代においては、身近で情報も氾濫していることから、インターネット等に掲載されている性情報がすべて正しい情報であるとは限らないことを理解し、正しい情報であることを判断できる力を育む。

### **ワンポイントアドバイス**

性情報の情報源を確認するとともに、SNS等で知り合った人と会うことになった事例等を用いてケーススタディを行うことで、誤った情報で自他を傷つけないよう、行動を選択する力を身に付けることにつながります。

\*\*\*\*\*

中学生の時期は性に関する興味・関心が高まり、テレビやインターネット、雑誌等で自ら性情報を求めるようになる。

性の情報源には様々なものがあることを理解するとともに、誤った性情報が自分たちにどのような影響を及ぼしているのかについて考えることを通して、正しい情報を選択し、適切に対応しようとする態度を育成することが期待できる。

## 指導事例 5 性情報への対応・性犯罪被害の防止

対象：第2学年

教科等：特別活動

### ★教育課程上の位置付け

特別活動 学級活動

#### (2) 日常生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全

##### ウ 思春期の不安や悩みの解決、性的な発達への対応

心や体に関する正しい理解を基に、適切な行動をとり、悩みや不安に向き合い乗り越えようとする。

### 1 題材の目標

性犯罪被害の原因や背景について理解し、性犯罪被害から自分自身を守る方法や性トラブルに対処する方法を考え、未然に防止することができるようにする。

### 2 題材について

中学生の時期は思春期の訪れとともに、性に関する興味・関心が高まり、自ら性情報を求めるようになる。近年、情報化社会の進展により、情報の入手や発信が容易になり、特にスマートフォンを持参している生徒については、周囲の目が届かないところで不特定多数の人とコミュニケーションをとることが可能な状況となっている。その結果、SNS等を介した性被害が増加するなど、生徒を取り巻く環境が大きく変化している。

さらに、自撮り被害等新たな性被害が深刻化していることから、インターネット上の性トラブルについて理解するとともに、性に関する様々な危険から自分自身を守り、性情報に対して正しく判断し、適切な行動選択ができるよう指導する。

### 3 事前の指導

生徒の活動	指導上の留意点
「自他の人格を尊重した行動ができる～SNSトラブルを考える～」アンケートを記入する。	○ SNS に画像を投稿しているかを想起させながら、スマートフォンの使用方法について実態を把握する。

### 4 本時の指導

#### (1) 目標

性に関する情報には興味本位や悪意を持ったものがあることを知り、性犯罪被害から自分自身を守るための方法を考え、未然に防止することができるようにする。



⑦

決める	<p>6 性犯罪に巻き込まれないようにするためにはどうしたらよいかを考え、発表する。</p> <p>7 学習を振り返り、ワークシートに感想を記入する。</p>	<p>○子供でも性トラブルの加害者になりうることを示し、被害者にも加害者にもならないためにはどうしたらよいかを考えるよう促す。</p>
-----	---------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------

(3) 指導上の配慮事項

性差を問わず被害者になりうる可能性があることにも留意して指導する。特に、性犯罪被害の防止について考えさせる場面では、発達の段階を踏まえること、学校全体で共通理解を図ること、保護者の理解を得ること等に留意する。また、性犯罪被害の防止について生徒同士で考えたり、話し合ったりする場面では、他者の意見を受け入れ認め合うこと、正しい判断について生徒自らが導けるように配慮する。



月 日 ( )

2年 組 番 氏名

## 性トラブルについて考え、自他の人格を尊重した行動を目指そう

- 1 桃子のとした行動の問題点はいくつ挙げられるでしょうか。問題点を書いてみましょう。

自分の意見

他の人の意見

- 2 なぜ、桃子は頭が真っ白になったのでしょうか。

自分の意見

他の人の意見

- 3 グループで話し合っ、記入しましょう。

配られた資料  
( )

①どのような性トラブルが起きましたか。

②性トラブルの要因は何だと思えますか。

③予防するためにはどうしたらよいでしょうか。具体的に書きましょう。

- 4 性トラブルに巻き込まれないようにするためには、どうしたらよいでしょうか。

授業の感想と合わせて書きましょう。

## 【事例 A】

中学生のAは、どうしても行きたいコンサートがあった。ある掲示板を見たら、Bのコメントで「画像をくれたらチケットあげる」と記載されていた。どうしても行きたかったので、複数で写っている写真を送ってみたら、BからAの自宅にチケットが送られてきた。画像を送っただけでチケットがもらえたので、Aは得をした気分になった。後日、今度はBから「一人で写っている写真をくれたらチケットをあげる」と言われ、Aは一人で写っている写真を送った。また簡単にチケットがもらえた。数日後「大好きなグループのコンサートチケットが欲しい」とBに言うと、「下着姿の写真を送ってくれたら、チケットとお金をあげるよ。」と言われた。「チケットだけでなくお金までもらえるなんて」と思ったAは、Bに下着姿の画像を送ってしまった。

## 【事例 B】

中学生のCと同じ中学だったD先輩。中学のときは人気者で、多くの後輩から憧れられていた。Cは、D先輩の卒業式の日、自分の連絡先のIDを書いた手紙をD先輩に渡した。数日後D先輩からメッセージが届いた。憧れの先輩からのメッセージがすごく嬉しかった。毎日のように連絡をくれ、Cが想像していたとおりD先輩は優しくった。やがてメッセージアプリで連絡を取るようになった。なんでも話を聞いてくれる優しい先輩だった。ある日、D先輩から「Cの下着姿の画像を送れ」と言われた。もちろん断った。すると「どうなっても知らないぞ」というメッセージが来た。家の場所もすべて知られている。共通の友人もたくさんいる。CはD先輩に下着姿の画像を送ってしまった。

## 【事例 C】

中学生のEは、性に関する悩みを抱いていた。親はもちろん、学校の先生や友達にも言いづらい…。ある日掲示板を見ていたら、同じ悩みを持った同級生のFを見つけた。Eは同じ悩みを持っている人が同級生にいたのだと安心し、Fにコメントをした。それ以降、性に関する話題を中心に互いに連絡を取るようになった。お互い体の画像を送りあったこともある。ある日、Fから「直接会わない？」と誘われた。EはFから言われた待ち合わせ場所で待っていると、中年のおじさんから「Eだよね？」と声をかけられた。

## 指導事例 6 エイズ及び性感染症の予防

対象：第3学年

教科等：保健体育科

### ★教育課程上の位置付け

保健体育科「健康な生活と疾病の予防」

- (1) 健康な生活と疾病の予防について、課題を発見し、その解決を目指した活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
- ア 健康な生活と疾病の予防について理解を深めること。
- (イ) 感染症は、病原体が主な要因となって発生すること。また、感染症の多くは、発生源をなくすこと、感染経路を遮断すること、主体の抵抗力を高めることによって予防できること。
- イ 健康な生活と疾病の予防について、課題を発見し、その解決に向けて思考し判断するとともに、それらを表現すること。

### 1 単元の目標

- (1) 感染症は、病原体が主な要因となって発生すること。また、感染症の多くは、発生源をなくすこと、感染経路を遮断すること、主体の抵抗力を高めることによって予防できることを理解することができるようにする。
- (2) 感染症の予防について、課題を発見し、その解決に向けて思考し、判断するとともに、それらを表現することができるようにする。
- (3) 感染症の予防について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとすることができるようにする。

### 2 単元について

病原体が主な要因となって起こる病気の予防については、小学校体育科保健領域で学習している。それらを踏まえて、ここでは、病原体が主な要因となって発生する感染症、発生源、感染経路、主体への対策による感染症予防について理解できるようにする必要がある。また、感染症の予防に関する課題を発見し、その解決に向けて思考し、判断するとともに、それらを表現することができるようにすることが必要である。

本単元では、感染症の予防について理解させることにより、生涯を通じて感染症の予防に必要なことを考えることができるようにしていきたい。

### 3 単元計画

時	学習内容
1	感染症 ○感染症は、病原体が主な要因となって発生すること。
2	感染症の予防 ○感染症の多くは発生源をなくすこと、感染経路を遮断すること、主体の抵抗力を高めることによって予防できること。

⑧

3 (本時)	<p>性感染症の予防</p> <p>○性感染症の疾病概念や感染経路、感染のリスクを軽減する効果的な予防方法を身に付ける必要があること。</p>
4	<p>エイズの予防</p> <p>○エイズの疾病概念や感染経路や、感染のリスクを軽減する効果的な予防方法を身に付ける必要があること。</p>

4 本時の指導（全4時間中の3時間目）

(1) 目標

- ・ 性感染症の疾病概念や感染経路、感染のリスクを軽減する効果的な予防方法を身に付ける必要があることについて理解することができるようにする。  
(知識及び技能)
- ・ 感染症の予防について、習得した知識を自他の生活に適用したり、応用したりして、疾病等に係るリスクを軽減する方法を選択するとともに他者に伝えることができるようにする。(思考力、判断力、表現力等)
- ・ 性感染症の予防について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとすることができるようにする。(学びに向かう力、人間性等)

(2) 展開例

段階	主な学習内容・学習活動	○指導上の留意点 ◆評価
導入 (5分)	<p>1 性感染症報告数の資料を見て気付いたことを発表する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>これはある感染症の年齢別の年次変化を表した資料です。気付いたことを話し合ってみよう。</p> </div> <p>&lt;予想される反応&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 10代でも性感染症にかかることがある。</li> <li>・ 20代に多い。</li> <li>・ 検査や治療をせずに、他人に感染させていないか。</li> </ul>	<p>○性感染症に関する資料を見て考察する。</p> <p>○グループになって、気付いたことを書き出させる。</p> <p>○いくつかのグループに発表させる。</p>
	<p>性感染症について知り、予防法を考えよう</p>	
	<p>2 性感染症の疾病概念や種類を知る。 (学習内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 主な性感染症</li> <li>・ 主な感染経路</li> <li>・ 未治療によるリスク</li> </ul>	<p>○性感染症の増加傾向と青少年の感染が社会問題になっていること等について説明する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 主な感染症の病原体、潜伏期間、症状等</li> <li>・ 性的接触により感染すること。</li> <li>・ 若い世代で感染率が高いこと。</li> </ul>

<p>展開 (35分)</p>	<p>3 性感染症の予防と広がりを防ぐ方法を考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>性感染症に感染しないための方法や感染した時取るべき行動について考えよう。</p> </div> <p>&lt;予想される反応&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・性的接触をしない。</li> <li>・コンドームを使用する。</li> <li>・不安や症状がある時は、信頼できる人に相談して、病院へ行く。</li> <li>・相手が感染していれば、相手も自分も同時に治療を受ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・症状が出ないものや潜伏期間が長いものがあるため、感染に気付きにくく、感染が広がりやすい特徴があること。</li> <li>・未治療で放置すると、不妊の原因になることや母子感染の可能性があること。</li> </ul> <p>◆【知識・技能】</p> <p>性感染症の疾病概念や感染経路、感染のリスクを軽減する効果的な予防方法を身に付ける必要があることについて、理解したことを言ったり、書いたりしている。 (観察・ノート)</p> <p>○グループで話し合い、考えをまとめる。</p> <p>○性感染症の予防について正しい知識を持つこと、正しい判断力を持つことが大切であることを伝える。</p> <p>◆【思考・判断・表現】</p> <p>性感染症の予防について、習得した知識を自他の生活と関連付け、疾病等にかかるリスクを軽減する方法を選択しているとともにそれらを他者に伝えている。(発言・ノート)</p>
<p>まとめ (10分)</p>	<p>4 本時の学習の振り返りとまとめをする。</p>	<p>○性感染症は身近な問題であり、予防方法を身に付けることが必要であることを知らせる。</p>

⑧

## 5 指導のポイント

中学生の時期は性的な発達も著しく、情緒が不安定になるようなこともあり、様々な心の葛藤や遊びに傾倒する心と結び付き、性的な逸脱行動として表れることもあることから、性に対する正しい理解を基盤に、身体的な成熟に伴う性的な発達に対応し、適切な行動がとれるように指導を行うことが大切である。特に、性に関する情報があふれる現代社会にあっては、本単元での学習を踏まえ、自己の行動に責任を持って生きることの大切さや人間尊重の精神に基づく男女相互の望ましい人間関係の在り方等と結び付けて指導していくことが有効である。例えば、「思春期の心と体の発育・発達」、「性情報への対応」、「エイズや性感染症の予防」、「友情と恋愛と結婚」等について、生徒の発達の段階等を踏まえた題材を設定し、資料や専門家の講話等をもとにした話合いや討論、専門家の講話を聞くなどの活動の展開が考えられる。特に、性については、個々の生徒間で、発達の段階や置かれた状況の差異が大きいことから、事前に、集団指導として行う内容と個別指導との内容を区別しておくなど計画性を持って実施する必要がある。

学年	教科等	主な学習内容・学習活動
3年	保健 体育	<p><b>健康な生活と疾病の予防</b></p> <p>性感染症とその予防</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 性感染症の疾病概念や感染経路、感染のリスクを軽減する効果的な予防方法を身に付ける必要があることについて理解する。</li> <li>・ 感染症の予防について、習得した知識を自他の生活に適用したり、応用したりして、疾病等に係るリスクを軽減する方法を選択するとともに他者に伝える。</li> <li>・ 性感染症の予防について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組む。</li> </ul>

### 教科等横断的な指導の工夫

学年	教科等	主な学習内容・学習活動
3年	社会	<p><b>人間の尊重と日本国憲法の基本的原則</b></p> <p>平等権② 共生社会を目指して 男女平等を目指して 性の多様性への理解</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 共生社会を築いていくために、インクルージョンの考察等対話的な活動を通して様々な立場の人がいることを理解する。</li> <li>・ 共生社会を築いていくために、私たちにはどのような取組や努力が求められているか、インクルージョンの実現と関連付けて考察する。</li> </ul> <p><b>性に関する指導の視点</b></p> <p>共生社会を築いていくためには、一人一人が様々な立場の人がいることを理解し、尊重していくことが重要である。性は個人の生き方そのものに関わる問題であり、性の意識の違いによって差別されることは許されないことであるため、性的マイノリティを含め、自分らしく生きられるように配慮することを理解できるようにする。</p>

\*\*\*\*\*

性感染症やエイズ等の特性とその予防のための個人の行動選択、性的マイノリティに関する社会の対策について理解することができる。

また、「生命の尊重や望ましい人間関係の構築」と「性に関する知識」を相互に関連付けて指導を行うことで、多様な他者の価値観や個性を受け入れ、自分にふさわしい生き方を主体的に考えようとする態度を育成することが期待できる。

## 指導事例 7 自分らしく・共に生きる

対象：第3学年

教科等：特別活動

### ★教育課程上の位置付け

特別活動 学級活動

#### (2) 日常生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全

##### イ 男女相互の理解と協力

男女相互について理解するとともに、共に協力し尊重し合い、充実した生活づくりに参画すること。

#### 1 題材の目標

男女の特性やそれぞれの個性について理解し、互いに尊重し合いながら協力するためにできることを考えるとともに、自分のこれからの生き方と「性」を関連付けて考え、よりよい将来像に向けて自ら意思決定し、行動できるようにする。

#### 2 題材について

中学生の時期は身体的な特徴が顕著になるとともに、個人差はあるものの、異性に対する関心の高まりや性衝動が生じるなど心理面の変化も顕著となる。特に、中学3年生は、卒業という区切りを目前にし、自分の進路や将来について考える機会が多くなる時期である。自分の人生が「性」と密接に関わっていることを知り、異性に対する理解が進むことで、「性」を含んだこれからの生き方や望ましい人間関係の在り方について考え、よりよい意思決定や行動選択ができることをねらいとする。

#### 3 事前の指導

生徒の活動	指導上の留意点
保健センターにおいて、妊婦体験や地域の赤ちゃんとの触れ合い体験をする。	○参加した赤ちゃんの母親や保健師の話を聞くとともに、実際に赤ちゃんに触れ合うことで、命の尊さについて考えさせる。

#### 4 本時の指導

##### (1) 目標

「性」を含んだこれからの生き方を考え、よりよい将来像に向けて自分の行動を決定するとともに、生き方の多様性を認める中で、自分の考えを深めることができるようにする。



## (2) 展開例

段階	主な学習内容・学習活動	指導上の留意点
つかむ	1 性について考える (ブレインストーミング) <予想される反応> ・男女等の性別 ・性的接触 ・妊娠、出産、育児	○「性からイメージすること」をテーマに、グループでブレインストーミングをさせる。 ○事実ではない意見に対しては、助言する。 ○「性」という漢字が「心」と「生」から成り立っていることを伝える。
さぐる	自分らしく・共に生きるためにこれからの生き方を考えよう	
つかむ	2 これからの生き方を考え、ワークシートに記入する。  3 グループで自由に意見を交換させ、気付いたことや感想をワークシートに記入する。 <予想される反応> ・結婚したいかどうかや子供がほしいかどうかについての考え方は人それぞれ違う。  4 妊娠や出産の時期により、自分の人生がどのように変化するかを考える。	○具体的にイメージできない場合は、理想的な将来像でよいことを伝え、書きやすくなるように支援する。  ○それぞれの考え方や意見については、正解や間違いはないこと、価値観は多様でよいことを伝える。  ○妊娠や出産には適した年齢があることを伝える。
決める	5 自分が理想とする将来のために、今できることやどんな人と共に生きたいかを考えてワークシートに記入し、発表する。	○ワークシートには具体的に記入させる。

## 5 事後の指導

生徒の活動	指導上の留意点
「自分新聞」を作成する。	○出生時から30歳までの「自分新聞」の作成を通して、自分の思いや考えを表現させる。 ○他者の考えを知ることによって、多様な生き方があることを理解させ、他者の考えや願いを尊重する態度を育成する。

⑨

## 6 指導のポイント

「性的な発達への対応」と関連付け、生徒の実態や個人差にも配慮しながら適切な指導を行う。また、学習内容については、学校全体で共通理解を図るとともに、事前に保護者の理解を得るようにする。

性的マイノリティの当事者がいるかもしれないことを想定し、多様な生き方を認めることができるようきめ細やかに対応する。

月 日 ( )

2年 組 番 氏名

「自分らしく・共に生きる」～これからの生き方について考えよう～

1 自分の生き方について考えてみましょう。



①高校へ進学…

したい ・ したくない

したくない  
人は③へ



何を学ぶ？

②さらに進学…

したい ・ したくない



どのような仕事？

③就職は…

したい ・ したくない



④結婚は…

したい ( 歳ごろ) ・ したくない



どのような人と？

まだまだ人生の選択は続く☆彡

ペットは…飼いたい  
(犬・猫・ )  
・ 飼いたくない

2 グループで意見交換をした感想や気付いたことを書きましょう。

Large dashed-line box for group discussion notes.



3 自分の理想とする将来のために、今できることはどのようなことでしょうか。

また、どのような人と共に生きたいと思いますか。

Large dashed-line box for personal reflection notes.

⑨

学年	教科等	主な学習内容・学習活動
3年	特別活動	<p><b>自分らしく・共に生きる</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ブレインストーミングを用いて、性について考える。「性」を含んだこれからの生き方を考え、よりよい将来像に向けて自分の行動を決定するとともに、生き方の多様性を認める中で、自分の考えを深める。</li> </ul>

### 教科等横断的な指導の工夫

学年	教科等	主な学習内容・学習活動
3年	技術 家庭	<p><b>自分の成長と家族・家庭生活</b></p> <p>私たちの生活と家族・家庭の機能</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>家庭や家族の基本的な機能について考える。</li> <li>家庭や家族の大切さについて考える。</li> <li>自分の成長を振り返る。</li> </ul> <p>中学生としての自立</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自分と家族との生活を振り返り、学生としての自立について考える。</li> </ul> <p>家庭生活と地域の関わり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域の活動等を調べ、自分や家族がどのように関わっているかを考える。</li> </ul> <p><b>性に関する指導の視点</b></p> <p>家族・家庭に、子供を育てる機能や心の安らぎを得るなどの精神的な機能等があることを知るとともに、自立に向けて中学生の自分にできることを考え、家族や身近な人と協力してよりよい生活を営もうとする態度を育む。</p> <p><b>ワンポイントアドバイス</b></p> <p>家族と協力・協働して家庭生活を営むことの大切さについて考えることで、これからは自分が頼られる立場にもなり、互いに支え合って生活していくことが、地域や社会の一員として自立することにつながることに気付くことができます。</p>

\*\*\*\*\*

生活を支える家庭・家族の大切さや基本的な機能について理解することができる。  
 また、自分の成長を振り返り、一緒に生活をしてきた人にしてもらったことや感謝していることを想起すること、幼児との触れ合い体験を通して、自他を大切にする生き方をしようとする態度を育成することが期待できる。

高等学校



## 指導事例 1 エイズ・性感染症

対象：第1学年

教科等：保健体育科

### ★教育課程上の位置付け

保健体育科「現代の感染症とその予防」

(1) 現代社会と健康について、自他や社会の課題を発見し、その解決を目指した活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 現代社会と健康について理解を深めること。

(イ) 現代の感染症とその予防

感染症の発生や流行には、時代や地域によって違いがみられること。その予防には、個人の取組及び社会的な対策を行う必要があること。

### 1 単元の目標

- (1) 感染症の発生や流行には時代や地域によって違いが見られ、その予防には、個人の取組及び社会的な対策を行う必要があることを理解することができるようにする。
- (2) 現代の感染症とその予防について、課題を発見し、健康や安全に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し判断するとともに、それらを表現することができるようにする。
- (3) 生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養うことができるようにする。

### 2 単元について

小学校体育科保健領域では、病原体が主な要因となって起こる病気の予防について学習し、中学校保健体育科では、感染症は病原体が主な要因となって発生すること、感染症の多くは「発生源をなくすこと」、「感染経路を遮断すること」、「主体の抵抗力を高めること」によって予防できることを学習している。それらを踏まえて、高等学校においては、感染症の発生や流行には時代や地域によって違いが見られることやその予防のためには、個人の取組や社会的な対策を行う必要があることを学習する。

また、感染症の予防について、課題を発見し、健康や安全に関する原則が概念に着目して解決の方法を思考し、判断するとともに、それらを表現することができるようにすることが必要であることについて指導する。

本単元では、感染症の予防について理解することにより、生涯を通じて感染症の予防に必要なことを考えることができるようにしていきたい。

### 3 単元計画

時間	学習内容
1	現代の感染症 ○感染症について、様々な背景によって流行に影響していること。 ○新興感染症や再興感染症、さらに新たな感染症の出現に関すること。
2	感染症の予防
3	○感染症の予防には、個人の取組及び社会的な対策を行う必要があること。

4 (本時)	<p>エイズ・性感染症</p> <p>○エイズ及び性感染症について、その原因及び予防のための個人の行動選択や社会の対策に関すること。</p>
-----------	------------------------------------------------------------------------

#### 4 本時の指導（全4時間中の4時間目）

##### (1) 目標

- ・ エイズ及び性感染症について、その原因及び予防のための個人の行動選択や社会の対策について理解することができるようにする。(知識)
- ・ 感染症の予防について、事例を通して整理したり、感染のリスクを軽減するための個人の取組及び社会的な対策の適切な方法を選択したりするとともに、それらを他者に表現することができるようにする。(思考力、判断力、表現力等)
- ・ 感染症の予防について、課題の解決に向けた学習活動に主体的に取り組もうとすることができるようにする。(学びに向かう力、人間性等)

##### (2) 展開例

段階	主な学習内容・学習活動	○指導上の留意点 ◆評価
導入 (5分)	1 エイズの歴史や現在の感染状況を知る。	<p>○ I C T 機器を使用し、レッドリボンの写真や感染状況のグラフを見せる。</p> <p>○ レッドリボンがエイズのために使われた経緯を踏まえ、エイズの歴史や現在の感染状況を説明する。</p> <p>○ 新規 H I V 感染者・エイズ患者報告数、検査・相談件数推移について説明する。(厚生労働省、公益財団法人エイズ予防財団)</p>
展開① (10分)	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin-bottom: 10px;">エイズ・性感染症の原因や予防するための対策について考えよう</div> <p>2 エイズの発生動向から、その原因と人々の意識について知る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">グラフを見て、どのようなことに気づきましたか。</div> <p>&lt;予想される反応&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 感染者数は増え続けている。</li> <li>・ H I V 感染者は増えているがエイズ患者数は横ばい。</li> </ul>	<p>○ 数名の生徒に発表させる。</p> <p>○ I C T 機器を使用し、説明する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 厚生労働省エイズ動向委員会の近年の新規感染者数の推移</li> <li>・ エイズの主な感染経路、潜伏期間、症状等</li> <li>・ 現在のエイズの治療法</li> </ul>



展開② (20分)	<p>3 エイズ以外の性感染症について調べ、ワークシートに記入し、発表する。</p> <p>4 エイズ・性感染症について理解する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">       エイズ・性感染症を予防するための対策にはどのようなことがありますか。     </div> <p>〈予想される反応〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コンドームを使用する。</li> <li>・容易な判断で性的接触をしない。</li> </ul>	<p>○性感染症の病原体、潜伏期間及び主な症状をワークシートに記入させ、数名の生徒に発表させる。</p> <p>○梅毒、ヒトパピローマウイルス感染症、性器クラミジア感染症、淋菌感染症、性器ヘルペスウイルス感染症等について説明する。</p> <p>○対策をワークシートに記入させ、数名の生徒に発表させる。</p> <p>○ICT機器を使用し、説明する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・性感染症とは性的な接触によって感染する感染症のこと。</li> <li>・症状が出ないものや潜伏期間が長いものがあるため、感染に気がつきにくく、感染が広がりやすい特徴があること。</li> <li>・パートナーと一緒に検査と治療を行わなければ、感染を繰り返すこと。(ピンポン感染)</li> <li>・未治療で放置すると、不妊の原因になることや母子感染の可能性があること。</li> </ul> <p>〔個人ができる対策〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コンドームを正しく使うこと。</li> <li>・不特定多数の人との性的接触を避けること。</li> </ul> <p>〔社会における対策〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・適切な医療を受けられる環境を整備すること。</li> <li>・保健所では、HIV検査とエイズに関する相談を無料・匿名で行っていること。</li> <li>・保健所では、コンドームの正しい使用方法の説明を行っていること。</li> </ul> <p>◆【知識・技能】</p> <p>エイズ及び性感染症について、その原因及び予防のための個人の行動選択や社会の対策について、理解したことを言ったり書いたりしている。(観察・ワークシート)</p>
--------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

ま と め ( 5 分)	<p>6 本時の学習の振り返りとまとめをする。</p> <p>本時で学んだことを振り返り、エイズや性感染症を学習したことから、予防するためには何が必要であるかをまとめてみよう。</p>	<p>○各自でワークシートにまとめさせる。</p> <p>・エイズや性感染症について正しく理解することは、自分やパートナーを感染から守る適切な行動につながることをおさえる。</p>
-----------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------

## 5 指導のポイント

本単元の「現代の感染症とその予防」は、特別活動のホームルーム活動の内容項目(2)オ「生命の尊重と心身ともに健康で安全な生活態度や規律ある習慣の確立」と関連付けて指導することが考えられる。例えば、題材を「感染症の予防を考えよう」と設定し、本単元で身に付けた知識をもとにホームルーム内で話し合い、個人としての意思決定を経て、実践への動機付けを図ることができる。

また、総合的な探究の時間において、例えば、生徒の興味・関心に基づく課題として、「健康：心身の健康とストレス社会の問題（健康）」を探究課題として設定し、横断的・総合的な学習として、保健での「現代の感染症とその予防」に関する学習内容との関連を図った課題の解決や探究活動を行うことが考えられる。

教科等	主な学習内容・学習活動
保健 体育	<p style="text-align: center;"><b>現代社会と健康</b></p> <p>現代の感染症とその予防</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ エイズ及び性感染症について、その原因及び予防のための個人の行動選択や社会の対策について理解する。</li> <li>・ 感染症の予防について、事例を通して整理するとともに、感染のリスクを軽減するための個人の取組及び社会的な対策の適切な方法を選択する。</li> <li>・ 感染症の予防について、課題の解決に向けた学習活動に主体的に取り組む。</li> </ul>

### 教科等横断的な指導の工夫

教科等	主な学習内容・学習活動
特別 活動 ★	<p style="text-align: center;"><b>多様な性について考えよう</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ L G B T、S O G I（S O G I E）の意味や性には多様性があることを知り、誰もが暮らしやすい社会をつくるためには、差別や偏見なく互いを尊重することが大切であることについて理解する。</li> </ul>

\*\*\*\*\*

エイズ・性感染症等の原因及び予防のための個人の行動選択や社会の対策の必要性、性的マイノリティについて理解することができる。

また、他者の価値観や個性を受け入れ、自己の生き方について考えることを通して、多様な生き方を尊重し、人間関係を築くことができる態度を育成することが期待できる。

## 指導事例 2 多様な性について考えよう

対象：第3学年

教科等：特別活動

### ★教育課程上の位置付け

特別活動 ホームルーム活動

#### (2) 日常生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全

##### Ⅰ 青年期の悩みや課題とその解決

心や体に関する正しい理解を基に、適切な行動をとり、悩みや不安に向き合い乗り越えようとする事。

#### 1 題材の目標

性の多様性についての理解を深め、すべての人が暮らしやすい社会の在り方や社会の一員としての自己の在り方について考えることができるようにする。

#### 2 題材について

近年、性の多様性についての社会的関心が高まっている中で、全国の20～59歳を対象とした企業等によるインターネット調査においては、性的マイノリティの割合は3～9%という調査報告が挙げられている。また、性的マイノリティのうち、58%は学齢期においていじめ被害の経験があることが国内研究（LGBT当事者の意識調査「REACH Online 2016 for Sexual Minorities」：日高庸晴 2017）で示されている。

性の多様性について理解し、誰もが暮らしやすい社会の在り方について考えることを通して、一人一人の性の在り方を尊重する態度を育成することをねらいとする。

#### 3 事前の指導

生徒の活動	指導上の留意点
LGBTやSOGI（SOGIE）、法律や制度、活動等、各自で性の多様性に関するテーマを決めて調べ、まとめる。	○調べた内容によりグループを分ける。 ○性的マイノリティ当事者の心を傷付けることがないように、言動に配慮する。

#### 4 本時の指導

##### (1) 目標

LGBT、SOGI（SOGIE）の意味や性には多様性があることを知り、誰もが暮らしやすい社会をつくるためには、差別や偏見なく互いを尊重することが大切であることについて、理解することができるようにする。

##### (2) 展開例

段階	主な学習内容・学習活動	指導上の留意点
つかむ	1 LGBTに関するリーフレット等を見ながら、多様な性について考える。	○事前学習で調べた内容をいくつか紹介し、関心を持たせる。

性の多様性を理解し、誰もが暮らしやすい社会について考えよう	
さぐる	2 一人一人の性の在り方は多様であることを理解する。
見つける	3 グループワークを行う。 ・事前学習で調べた内容について一人ずつ発表する。  ・発表を聞いて分かったこと、もっと知りたいことについて話し合う。  ・社会に求めるもの、自分たちができることについて話し合う。
	4 グループごとに代表者が発表する。 ・発表を聞いた感想をワークシートに記入する。
決める	5 学習内容を振り返り、自分ができることについて考え、ワークシートに記入する。

- 性の在り方には主に4つの要素があり、誰もが「SOGI」というグラデーションの中にいる。一人一人の性は平等に尊重されるべきものであることを説明する。
- 性的マイノリティとされる人がこれまで自分の周りにいなかったのではなく、言えなかつただけかもしれないことに気付かせ、日頃から自分の言動を意識するよう伝える。
- 自分たちが気付いた課題についても話し合うよう促す。
- 多様な性への理解を深め、自他を尊重することが大切であり、一人一人が関心を持って自分たちにできることを考えることが、よりよい社会づくりにつながるということに気付かせる。
- 自分のこととして捉え、社会の一員としてできることは何かを考え続けることが大切であることを知らせる。
- 困ったことがあればいつでも相談することをさりげなく伝える。

### 5 事後の指導

生徒の活動	指導上の留意点
調べてまとめた内容をグループで模造紙に書き、校内に掲示する。	○性的マイノリティに関する社会の動き等に関心を持たせ、社会の一員としてできることについて考えさせる。
性の多様性に関する記事等を探し、学級や学校全体で紹介する。	

### 6 指導のポイント

性的マイノリティの当事者がいるかもしれないことを想定し、言動に配慮するとともに、理解者であることを発信し、必要に応じて個別指導につなげるなど、きめ細やかに対応する。また、相談を受けた場合は、組織的に取り組むことが重要である。

⑩



## 多様な性について考えよう

年 組 番 氏名

---

( ) 班          メンバー ( )

1  他の人の発表内容から新たに気付いたことについて記入しましょう。

--

2  発表を聞いて分かったことや気付いた課題について記入しましょう。

—自分の意見—	—グループの意見—
---------	-----------

3  1、2を踏まえて、社会に求めるものや自分たちができることについて話し合しましょう。

社会に求めるもの	
—自分の意見—	—グループの意見—
自分たちができること	
—自分の意見—	—グループの意見—

4  自分が望む社会の在り方やそれを実現するために、今後自分ができるところを考えて記入しましょう。

—自分が望む社会の在り方—	
—今後自分ができるところ—	

## 指導事例 3 思春期と健康

対象：第2学年

教科等：保健体育科

### ★教育課程上の位置付け

保健体育科「生涯を通じる健康」

#### (3) 生涯を通じる健康

生涯を通じる健康について、自他や社会の課題を発見し、その解決を目指した活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 生涯を通じる健康について理解を深めること。

##### (ア) 生涯の各段階における健康

生涯を通じる健康の保持増進や回復には、生涯の各段階の健康課題に応じた自己の健康管理及び環境づくりが関わっていること。

イ 生涯を通じる健康に関する情報から課題を発見し、健康に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し判断するとともに、それらを表現すること。

### 1 単元の目標

- (1) 生涯を通じる健康の保持増進や回復には、生涯の各段階の健康課題に応じた自己の健康管理及び環境づくりが関わっていることを理解することができるようにする。
- (2) 生涯を通じる健康に関する情報から課題を発見し、健康に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し、判断するとともに、それらを説明することができるようにする。
- (3) 生涯を通じる健康について、自他や社会の課題の解決方法とそれを選択した理由を話し合ったり、ノートに記述したりして、筋道を立てて説明するなどの学習活動に主体的に取り組むことができるようにする。

### 2 単元について

生涯を通じる健康については、自他や社会の課題を発見し、その解決を目指した活動を通して、理解を深める指導を行う単元である。

生涯の各段階においては、健康に関わる様々な課題や特徴があることから、生涯にわたって健康に生きていくためには、生涯の各段階と健康との関わりを踏まえて、適切な意思決定や行動選択及び社会環境づくりが不可欠であることを理解させる。

そのため、思春期、結婚生活、加齢の各段階において、健康、行動、生活等に課題や特徴があること、また、労働の形態や環境の変化に伴った健康及び安全の課題があることを踏まえ、自他の健康管理を行う必要があることについて学習していく。

なお、指導に当たっては、発達段階を踏まえること、学校全体で共通理解を図ること、保護者の理解を得ること等に配慮することが大切である。

⑪

### 3 単元計画

時	学習内容
1 2 (本時)	<p>思春期と健康</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○思春期における心身の発達や性的成熟に伴い、健康課題が生じること。</li> <li>○自分の行動や異性への理解及び尊重する態度、性に関する情報等への適切な対処が必要であること。</li> </ul>
3 4 5	<p>結婚生活と健康</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○結婚生活における受精、妊娠、出産とそれに伴う健康課題には年齢や生活習慣等が関わること。</li> <li>○結婚生活を健康に過ごすには、自他の健康に対する責任感等や母子の健康診査等の活用が必要であること。</li> <li>○家族計画の意義や人工妊娠中絶の心身への影響に関すること。</li> </ul>
6 7	<p>加齢と健康</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○中高年期を健やかに過ごすためには、若い時から、健康診断の定期的な受診等の自己管理を行うこと等が関係すること。</li> <li>○高齢期には、加齢に伴い、変化する心身の機能や形態には個人差があること。</li> <li>○疾病や事故のリスクが高まり、健康の回復が長期化する傾向にあること。</li> <li>○高齢社会では、保健・医療・福祉の連携と総合的な対策が必要であること。</li> </ul>

### 4 本時の指導（全7時間中の2時間目）

#### (1) 目標

- ・ 思春期には、自分の行動や異性への理解及び尊重する態度、性に関する情報等への適切な対処が必要であることについて、理解することができるようにする。  
(知識)
- ・ 思春期と健康について、健康に関わる原則や概念をもとに整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見することができるようにする。(思考力、判断力、表現力等)
- ・ 思春期と健康、結婚生活と健康、加齢と健康についての学習に、主体的に取り組むことができるようにする。(学びに向かう力、人間性等)

#### (2) 展開例

段階	主な学習内容・学習活動	○指導上の留意点	◆評価
導入 (5分)	1 単元の流れと学習内容を確認する。	○単元の流れを踏まえる。	
	自分の行動や異性への理解、性に関する情報等の適切な対処を考えよう		
	2 異性を尊重することへの配慮が欠けて起こること、男女の性意識に違いがあることを知る。		



展開 (40分)	<p>思春期は、異性に対する関心の高まりとともに、誤解やトラブルが生じやすくなります。背景には、どのような違いがあると思いますか。</p> <p>&lt;予想される反応&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 肉体関係を結びたい。</li> <li>・ ロマンチックな憧れがある。</li> <li>・ 個人差、年齢差を理解していない。</li> <li>・ 相手を尊重していない。</li> <li>・ ストーカー行為</li> <li>・ セクシュアルハラスメント行為</li> <li>・ 性的マイノリティ (LGBTQ)</li> </ul> <p>4 不正確な性情報にまどわされないようにすることを理解する。</p> <p>性に関する情報をどこから、どのように入手していますか。</p> <p>&lt;予想される反応&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 部活動の先輩から教えてもらう。</li> <li>・ スマートフォンで検索して、情報を得ている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 男女の違いをノートへ記入させ、内容をグループで共有し、グループごとに発表させる。</li> <li>○ ICT機器を使用し、説明する。       <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日本性教育協会『青少年の性行動』(2018年)の結果</li> <li>・ 性意識に違いがあることを理解していないことにより、性に関する様々なトラブルが起こる可能性があること。</li> <li>・ ストーカー行為とは、相手の気持ちを考えずに交際を迫ったり、相手を尾行し、付きまとう、待ち伏せしたりするなどの行為を指す。法律で規制されており、ストーカー行為をした者には罰則が適用されること。</li> <li>・ セクシュアルハラスメントとは、他の人を不快にする性的な言葉や行為で相手に苦痛を与えること。</li> <li>・ LGBTQに関すること。           <ul style="list-style-type: none"> <li>L : レズビアン → 女性の同性愛者</li> <li>G : ゲイ → 男性の同性愛者</li> <li>B : バイセクシャル → 両性愛者</li> <li>T : トランスジェンダー → 出生時と異なる性別で生きる人</li> <li>Q : クエスチョニング → 自分自身のセクシュアリティを決められない、分からない。</li> </ul> </li> </ul> </li> <li>○ 相談できる関係機関として、和歌山県男女共同参画センター“りいぶる”等を紹介する。</li> <li>○ 入手方法をノートへ記入させ、内容をグループで共有し、グループごとに発表する。</li> <li>○ ICT機器を使用し、性情報の主な情報源や入手方法は、「友達、先輩」に次いで「学校(先生、授業、教科書)」、「インターネット、アプリ、SNS」であることをおさえる。</li> <li>○ 意見をノートへ記入させ、グループで共有し、グループごとに発表する。</li> </ul>
-------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

	<p>・中学校の保健体育科の授業で学ぶ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>友人から「交際している人の誘いを拒んだら、相手に嫌われるのではないかと相談された場合、あなたはどのように答えますか。</p> </div> <p>&lt;予想される反応&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・わからない。</li> <li>・信頼できる先生に相談する。</li> <li>・信頼できる機関に相談する。</li> <li>・インターネットで情報を入手する。</li> <li>・相手に本当の自分の気持ちを伝える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○日本性教育協会『「若者の性」白書第8回 青少年の性行動全国調査報告』2019年の「性向についての情報源」、「避妊についての情報源」を確認する。</li> <li>○主な相談先となる関係機関を紹介する。             <ul style="list-style-type: none"> <li>・産婦人科、思春期クリニック、児童相談所</li> <li>・女性センター、チャイルドライン</li> <li>・子ども的人権110番</li> <li>・よりそいホットライン、よりそいチャット</li> <li>・相談ほっとLINE</li> </ul> </li> </ul> <p>◆【知識・技能】</p> <p>思春期には、自分の行動や異性への理解及び尊重する態度、性に関する情報等への適切な対処が必要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 (観察・ノート)</p> <p>◆【思考・判断・表現】</p> <p>思春期と健康について、健康に関わる原則や概念をもとに整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。(観察・ノート)</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">まとめ (5分)</p>	<p>5 本時の学習内容を振り返る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>本時で学んだことを振り返り、性意識の男女差、相手への理解と尊重の必要性、性行動の正しい選択には何が必要であるかをまとめてみましょう。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○各自でノートにまとめさせる。</li> <li>○性意識の男女差や不正確な性情報にまどわされず、正しい性行動を選択するとともに、相手を尊重し、多様な性の在り方を認めることの大切さについておさえる。</li> </ul>

教科等	主な学習内容・学習活動
保健 体育	<p><b>生涯を通じる健康</b></p> <p>思春期と健康</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 思春期には、自分の行動や異性への理解及び尊重する態度、性に関する情報等への適切な対処が必要であることについて理解する。</li> <li>・ 思春期と健康について、健康に関わる原則や概念をもとに整理するとともに、個人及び社会生活と関連付け、自他や社会の課題を発見する。</li> <li>・ 思春期と健康、結婚生活と健康、加齢と健康についての学習に主体的に取り組む。</li> </ul>

### 教科等横断的な指導の工夫

教科等	主な学習内容・学習活動
特別 活動 ★	<p><b>よりよい人間関係について考えよう（デートDV）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 性をめぐるトラブルの一つであるデートDVについて、正しく理解し、被害者や加害者になることのないよう、互いの人権を尊重した人間関係を築くための行動を考える。</li> </ul>
特別 活動 ★	<p><b>青年期の欲求と葛藤を話そう</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 性に関する様々な問題を踏まえ、青年期における興味や将来について話し合い、よりよい人間関係や対処方法を考え選択する。</li> </ul>

\*\*\*\*\*

性行動には責任が生じることや性意識の違いに伴うセクシュアルハラスメント等の問題について理解することができる。

また、個人で考えたり、グループで話し合ったりすることを通して、性差や個人差があることに気付き、相手を尊重した適切な意思決定や責任ある行動選択のための能力や態度の育成が期待できる。

## 指導事例4 よりよい人間関係について考えよう

対象：第1学年

教科等：特別活動

### ★教育課程上の位置付け

特別活動 ホームルーム活動

#### (2) 日常生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全

##### イ 男女相互の理解と協力

男女相互について理解するとともに、共に協力し尊重し合い、充実した生活づくりに参画すること。

#### 1 題材の目標

人間尊重の精神に基づく男女相互のよりよい人間関係の在り方について理解を深め、自他の人権を尊重した行動がとれるようにする。また、自ら状況を正しく判断し、対処できるようにする。

#### 2 題材について

高校生は、身体的な成熟に伴い性的な興味関心が高まる時期であり、交際をする生徒も少なくない。一方で、人間関係づくりが未熟であり、相手に対して強引に自分の思いを押しついたり、束縛したりするなど、デートDVが身近で深刻な問題となっている。男女交際の在り方を改めて考え、交際相手との間で、暴力の被害者にも加害者にもならずに対等な関係を築けるよう、互いの人権を尊重し、自他を大切にすることを育むことをねらいとした。

#### 3 事前の指導

生徒の活動	指導上の留意点
デートDVについてアンケートに記入する。	○自分たちがデートDVであると認識していないことであっても、デートDVに当てはまることに気付かせる。

#### 4 本時の指導

##### (1) 目標

性をめぐるトラブルの一つであるデートDVについて正しく理解し、被害者や加害者にならないよう、互いの人権を尊重した人間関係を築くための行動を考えることができる。

##### (2) 展開例

段階	主な学習内容・学習活動	指導上の留意点
つかむ	1 事前アンケートの結果を振り返る。	○デートDVは他人事ではなく、身近な問題であることに気付かせる。

	2 デートDVの事例を読み、本時のねらいを確認する。	
	デートDVの被害者や加害者にならないためにできることを考えよう	
たづねる	3 デートDVについて知る。	○実際に辛い思いをしている原因が暴力であることに気付いていないことも多いため、具体例を提示しながら説明する。
	4 事例を通してグループで考える。  ・DVに該当する部分にアンダーラインを引き、どのDVに当てはまるかを話し合う。  ・BのようにデートDVをしないために、AのようにデートDVをされないために気を付けることを考え、話し合う。	○活動の様子を見ながら、全体に問いかけ、理解できている部分や関心のある部分を確認しながら進める。  ○親密な間柄でも嫌なことは嫌と言う、相手が嫌と言うことはしないという対等な関係を築くことが大切であり、暴力は絶対に許されないことであることをおさえる。  ○誰もが加害者又は被害者になり得ることを確認する。
見つける	5 グループで話し合った内容を発表し、共有する。	○一人で解決することが難しい場合が多いため、信頼できる大人や関係機関に相談することが大切であることをおさえる。
決める	6 自分がデートDVの加害者や被害者にならないための行動について、ワークシートに記入する。	○自分にとって身近な問題として捉え、適切な行動ができるようにすることが大切であることを伝える。 ○配偶者暴力防止法について説明する。

## 5 事後の指導

生徒の活動	指導上の留意点
ワークで考えた吹き出しを紹介する。	○デートDVのみならず、性犯罪・性暴力を防止する社会を皆でつくるという意識を高められるようにする。
性犯罪・性暴力等に関する相談窓口等を調べ、情報を発信する。	

## 6 指導のポイント

授業の導入では、辛くなった場合は我慢せず、申し出るように伝えるとともに、授業終了後には、個別相談につなげることができる体制を整備する。その際、地域の相談機関等の情報についても提供する。デートDVが社会問題になっている状況を踏まえ、学校全体でデートDVに関する理解を深めることが重要である。

## 性に関する学習 事前アンケート(例)

このアンケートは、性に関する学習に役立てるために行います。自分の思っているとおりに答えてください。結果は人数等で集計しますので、個人が特定されることはありません。

あなた自身や周りの人と交際相手との関係として、以下の項目で思い当たるものにチェックを入れましょう。

- メールやLINE等の返信が遅いと言って怒ったり不機嫌になったりする。
- 勝手にスマホや携帯の中身をチェックする。
- GPS機能のあるアプリを入れて行動を監視する。
- 他の異性と話さないように約束させる。
- 束縛は愛情の証だと言う。
- デートのために友達との約束やアルバイト等大事な予定をキャンセルさせる。
- 自分の思うようにならないと不機嫌になったり怒ったりする。
- 怒ったり、優しくなったりを繰り返す。
- 自分の好みの服装や髪型を押しつける。
- 相手が傷付く言葉を言う。
- 体型や容姿についてけなしたり、嫌なことを言ったりする。
- 別れたら〇〇すると脅す。
- 腕等を強い力で握ったり、引っ張ったりする。
- 物を投げつける。
- つき飛ばしたり、引きずったりする。
- 無理矢理お金を出させる。
- アルバイトを辞めさせる。
- 嫌がっているのに体を触る。
- 避妊に協力しない。
- 裸の写真を送ってほしいと要求する。

★デートDVについて知っていますか？（○をつけましょう）

【 内容も知っている ・ 聞いたことがある ・ 全く知らない 】

## よりよい人間関係について考えよう（デートDV）

年 組 番 氏名

### ★事例

A（高校1年）は、先輩のB（高校2年）に片想いの未告白し、交際して3か月が経ちました。AはBからの連絡が待ち遠しく、メールにはすぐに返信をし、着信があるとすぐに出ていました。

ある日、Aは部室に携帯を忘れ、その晩はBから連絡があったのではないかと気が気ではありませんでした。翌日、学校へ行くとBの機嫌が悪く、「日曜の予定を決めようと思ったのに、なんでメールに返信しないだよ！」と言われました。「ごめん、携帯を忘れたの」と謝っても「なんで忘れるんだよ！」と机を蹴って怒鳴られました。

そしてある時、クラスの男子生徒と話していたら、Bに「おい！」と腕を引っ張られ、「いい気になるなよ！」と携帯を取り上げられ、メールのチェックもされるようになりました。

また、放課後にクラスの女子と話していてBを待たせた時もすごく不機嫌になり、一度機嫌が悪くなると数日間は機嫌が悪いBに対してAは、携帯を肌身離さず持ち歩くようになりました。

それからは、友達という時もメール等で呼び出されるとすぐにBのもとへ走って行くようになり、次第に友達とも疎遠になってしまいました。

毎日、放課後はBの家に行き、ずっと一緒に嬉しい反面、いつもBの顔色をうかがっている自分に嫌気がさし、Aを見下す言い方に傷つくこともあります。

しかし、Aは、二人でいる時は優しいBと別れることは考えられないし、友達にも今さら相談しづらく、教室でも一人でいることが増えてきました。

① デートDVだと思うところはどこですか？グループで話し合ってみましょう。

該当するところに線を引き、どの暴力に当たるのかを記入しましょう。



② BのようにデートDVをしないために、AのようにデートDVをされないために、どのようなことに気を付ければよいでしょうか、また、どのような行動をすればよいでしょうか。

デートDVをしないために・・・


デートDVをされないために・・・


⑪


③ 今日の学習で気付いたこと、自分が考える対処法について記入しましょう。


④ 次の会話で、Aさんはどのように答えたらよいでしょうか。


空白の吹き出しに入る言葉を考えてみましょう。

**B**  今度の土曜日に一緒に映画を見に行くから予定を入れるなよ。

えっ、もう友達と遊ぶ約束してしまったから無理だよ。 **A** 

**B**  それ、キャンセルしろよ。友達とどっちが大事なんだよ！！

**A** 

**B**  Aの気持ちは分かったよ。ごめん……。映画は別の日に行こう。

⑤ よりよい人間関係を築くために、今後、自分はどのように行動したいかを考えて記入しよう。



## デートDV（ドメスティック・バイオレンス）とは

若年層の男女における暴力のことを言い、相手を怖がらせたり、傷付けたりするなどして自分の思い通りに支配する行為です。身体的暴力、精神的暴力、社会的暴力、経済的暴力、性的暴力の5つの種類があります。

	暴力の種類	相手を尊重し、対等な関係になるため
身体的暴力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相手を叩いたり、蹴ったりする。</li> <li>・物を投げつける。</li> <li>・相手を部屋や家から出させない。</li> <li>・髪の毛をつかんで引っ張ったり、噛みついたりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・絶対に（どんなに軽い力であっても）殴らない。</li> <li>・物に当たったり、投げつけたりしない。</li> <li>・相手を拘束しない。</li> </ul>
言葉の暴力や心理的、精神的暴力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・腹が立つと、大声で怒鳴る。</li> <li>・相手を繰り返し批判したり、否定したりする。</li> <li>・いつも皮肉やいやみを言う。</li> <li>・気に入らないことがあると、無視し続ける。</li> <li>・友達の前で、批判したり、侮辱したりする。</li> <li>・相手の大切なものを壊す。</li> <li>・相手も秘密をばらすと言っておどす。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大声を出して怒らない。</li> <li>・絶対にえらそうにしない。</li> <li>・相手の話を否定せずに、聴き合う。</li> <li>・お互いが安心して自分の思いや「NO」が言える関係になる。</li> <li>・相手を攻撃するような話はやめる。</li> <li>・片方がびくびくし、気を遣ってばかりいる関係にしない。</li> <li>・別れ話の時には、辛くても怒らずに耐える。</li> </ul>
束縛などの社会的暴力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相手が他の人と仲良くしているのを見ると嫉妬し、責める。</li> <li>・二人一緒にいるのが当たり前で、相手が他の誰かと会うのを怒ったり、断らせたりする。</li> <li>・相手の行動等をチェックする。</li> <li>・携帯電話の履歴を勝手に見たり、電話番号やアカウントを削除する。</li> <li>・好きだったら、愛情表現として束縛してもよいし、嫌なことでも応じるべきだと思う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・嫉妬の感情があっても、相手の自己決定や自由な行動や成長を妨害しない。</li> <li>・恋愛していても異性の友人はOKであるため、友人関係の邪魔をしない。</li> <li>・恋愛以外の人間関係と活動を充実させ、それを応援し合う関係になる。</li> <li>・恋人を自分の「もの」と思わない。</li> <li>・束縛をしない。</li> <li>・恋人間でも隠し事はあってもよいので、プライバシーを大事にする。</li> </ul>
経済的暴力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・デートの費用等を相手に払わせる。</li> <li>・借りたお金を返さない。</li> <li>・お金を出して、えらそうにしたり、嫌なことを強制したりする。</li> <li>・バイトやお金を借りることを強制する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・対等でない金銭のやり取りはしない。</li> <li>・金銭をねだったり、搾取したりしない。</li> <li>・お金で相手を強制しない。</li> </ul>
性的暴力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・断っても強引に性関係をもとうとする。</li> <li>・避妊をしない。</li> <li>・応じないと不機嫌になったり、冷たくしたりする。</li> <li>・相手が嫌がるのに同意なく体を触ったりキスをしたりする。</li> <li>・ポルノ雑誌やDVD等を無理矢理見せる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分がよいと思っても、相手が嫌がったらしてはいけない。</li> <li>・同意のない性的行為は性暴力であり、性暴力は著しい人権侵害であるだけでなく、犯罪行為でもある。</li> </ul>

### <参考>

「もしかして、デートDV？「知ってほしいな、ホントに大切なこと」（和歌山県）

## 指導事例 5 青年期の欲求と葛藤について話そう

対象：第2学年

教科等：特別活動

### ★教育課程上の位置付け

特別活動 ホームルーム活動

#### (2) 日常生活や学習への適応と自己の成長および健康安全

オ 生命の尊重と心身ともに健康で安全な生活態度や規律ある習慣の確立  
節度ある健全な生活を送るなど現在及び生涯にわたって心身の健康を保持増進することや、事件や事故、災害等から身を守り安全に行動すること。

### 1 題材の目標

心身の発達や性に関する健康課題について適切に把握し、よりよい解決に向けて主体的に話し合い、自他の身を守り尊重する態度が必要であることを理解することができるようにする。

### 2 題材について

性情報が氾濫する現代社会においては、科学的なデータ等を活用しながら性に関する問題を的確に把握し、よりよく解決する資質や能力を育成する必要がある。これまで各教科で学習してきた性に関する指導内容を振り返り、青年期における欲求と葛藤や将来への展望について話し合い、よりよい人間関係について理解を深めるとともに、自己の行動に責任を持つことができる態度を育むことをねらいとする。

### 3 事前の指導

生徒の活動	指導上の留意点
性に関する指導に係る既習内容を振り返る。	○性感染症・妊娠、中絶、避妊の現状についてデータ等をもとに確認する。
テーマ「性」、「交際」、「将来」を設定し、各グループで話し合いたい内容等について事前アンケートを記入する。	○アンケート結果と実態に合わせて、グループワークのテーマを設定する。

### 4 本時の指導

#### (1) 目標

性に関する様々な問題を踏まえ、青年期における興味や将来について話し合うことを通して、よりよい人間関係や対処法について考え、適切に選択することができるようにする。



⑪

決める	5 授業全体を振り返り、今後、どうしていきたいかをワークシートに記入する。	○日常生活においても意識し、継続していくよう促す。
-----	---------------------------------------	---------------------------

#### 5 事後の指導

生徒の活動	指導上の留意点
発表後の感想等についてグループやクラス全体で交流する。	○出た意見は批判せず受容した上で、意見を踏まえ、考えるように促す。

#### 6 指導のポイント

学習内容について学校全体で共通理解を図るとともに、授業前には保護者の理解を得る。また、生徒の実態を確認し、個別相談の体制を整備する。さらに、グループワークを行う際には、テーマや方法等を十分検討し、人間関係を構築するためには、個々の意思を大切に互いに理解を深め、相手の人格を尊重することの大切さに気付くことができるような工夫が必要である。

## 指導事例 6 結婚生活と健康

対象：第2学年

教科等：保健体育科

### ★教育課程上の位置付け

保健体育科「生涯を通じる健康」

(3) 生涯を通じる健康について、自他や社会の課題を発見し、その解決を目指した活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 生涯を通じる健康について理解を深めること。

(ア) 生涯の各段階における健康

生涯を通じる健康の保持増進や回復には、生涯の各段階の健康課題に応じた自己の健康管理及び環境づくりが関わっていること。

イ 生涯を通じる健康に関する情報から課題を発見し、健康に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し判断するとともに、それらを表現すること。

### 1 単元の目標

- (1) 生涯を通じる健康の保持増進や回復には、生涯の各段階の健康課題に応じた自己の健康管理及び環境づくりが関わっていることを理解することができるようにする。
- (2) 生涯を通じる健康に関する情報から課題を発見し、健康に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し判断するとともに、それらを説明することができるようにする。
- (3) 生涯を通じる健康について、自他や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由を話し合ったり、ノートに記述したりして、筋道を立てて説明するなどの学習活動に主体的に取り組むことができるようにする。

### 2 単元について

生涯を通じる健康については、自他や社会の課題を発見し、その解決を目指した活動を通して、理解を深める指導を行う単元である。

生涯の各段階においては、健康に関わる様々な課題や特徴があることから、生涯にわたって健康に生きていくためには、生涯の各段階と健康との関わりを踏まえて、適切な意思決定や行動選択及び社会環境づくりが不可欠であることを理解させる。

そのため、思春期、結婚生活、加齢の各段階において、健康、行動、生活等に課題や特徴があること、また、労働の形態や環境の変化に伴った健康及び安全の課題があることを踏まえ、自他の健康管理を行う必要があることについて学習していく。

なお、妊娠のしやすさを含む男女それぞれの生殖に関わる機能については、必要に応じ関連付けて取扱う程度とする。

⑫

### 3 単元計画

時	学習内容
1 2	<b>思春期と健康</b> ○思春期における心身の発達や性的成熟に伴い健康課題が生じること。 ○自分の行動や異性への理解や尊重する態度、性に関する情報等への適切な対処が必要であること。
3 4 5 (本時)	<b>結婚生活と健康</b> ○結婚生活における受精、妊娠、出産とそれに伴う健康課題には年齢や生活習慣等が関わること。 ○結婚生活を健康に過ごすには、自他の健康に対する責任感等や母子の健康診査等の活用が必要であること。 ○家族計画の意義や人工妊娠中絶の心身への影響に関すること。
6 7	<b>加齢と健康</b> ○中高年期を健やかに過ごすためには、若い時から、健康診断の定期的な受診等の自己管理を行うこと等が関係すること。 ○高齢期には、加齢に伴い、変化する心身の機能や形態には個人差があること。 ○疾病や事故のリスクが高まり、健康の回復が長期化する傾向にあること。 ○高齢社会では、保健・医療・福祉の連携と総合的な対策が必要であること。

### 4 本時の指導（全7時間中の3時間目）

#### (1) 目標

- ・ 結婚生活における受精、妊娠、出産とそれに伴う健康課題には、年齢や生活習慣等が関わることを理解することができるようにする。(知識)
- ・ 結婚生活と健康について、自他や社会の課題の解決方法を考え、それらを話し合ったり、ノート等に記述したりして、筋道を立てて説明することができるようにする。(思考力、判断力、表現力等)
- ・ 思春期と健康、結婚生活と健康、加齢と健康についての学習に、主体的に取り組むことができるようにする。(学びに向かう力、人間性等)

#### (2) 展開例

段階	主な学習内容・学習活動	○指導上の留意点 ◆評価
導入 (5分)	1 単元の流れと学習内容を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">             受精、妊娠、出産と聞くと、どのようなことを連想しますか。           </div> <予想される回答> ・ 親になる。 ・ つわりや陣痛が怖い。 ・ 晩婚化によって、高年出産が増えている。	○単元の流れを踏まえる。  ○ブレインストーミングにより、多様な考えが出るようにする。

受精、妊娠、出産に伴う健康課題について考えよう	
展開 (40分)	<p>2 受精と妊娠について考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>妊婦とその家族が、妊娠中に注意すべきことはどのようなことですか。</p> </div> <p>&lt;予想される回答&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 飲酒</li> <li>・ 薬の服用</li> <li>・ 生活習慣の乱れ</li> </ul> <p>3 出産と母体の回復について考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>出産後、家族でできる母親へのサポートはどのようなことですか。</p> </div> <p>&lt;予想される回答&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 赤ちゃんの世話をする。</li> <li>・ 家事の分担をする。</li> <li>・ 相手の話を聞き、寄り添う。</li> </ul> <p>4 母子保健サービスについて知る。 (学習内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 母子健康手帳のこと。</li> <li>・ 妊婦健康診査のこと。</li> <li>・ 両親学級(母親学級)のこと。</li> <li>・ 保健医療サービスのこと。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 注意点をノートへ記入させ、グループで共有し、グループごとに発表させる。</li> <li>○ ICT機器を使用し、妊娠の過程と妊娠成立、妊婦と胎児の状況、健康被害について説明する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 妊娠が確認できる時期</li> <li>・ 妊婦が特に気を付けなければならない、喫煙・飲酒・食事・X線・薬の服用等のこと。</li> <li>・ 妊婦だけでなく、家族も理解しておかなければならないこと。</li> </ul> </li> <li>○ サポート内容をノートへ記入させ、グループで共有し、グループごとに発表させる。</li> <li>○ ICT機器を使用し、説明をする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 出産過程と産後の母体の回復のこと。</li> <li>・ マタニティブルー(産後うつ)とは、女性が妊娠中や出産直後に一時的に気分が落ち込んだり、不安になったりすること。</li> <li>・ 良好な人間関係や家族や周りの人からの支援が大切であること。</li> <li>・ 不妊治療のこと。</li> </ul> </li> <li>○ 妊娠のしやすさについては、必要に応じて関連付けて扱う程度とする。</li> <li>○ ICT機器を使用し、説明する。</li> </ul>

⑫

		<p>◆【知識・技能】</p> <p>結婚生活における受精、妊娠、出産とそれに伴う健康課題には、年齢や生活習慣等の関わりについて、理解したことを言ったり書いたりしている。(観察・ノート)</p>
<p>まとめ (5分)</p>	<p>5 本時の学習内容を振り返る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>出産後、本時で学んだことを振り返り、妊娠中や産後の結婚生活を健康に過ごすためには何が必要であるかをまとめてみよう。</p> </div>	<p>○各自でノートにまとめさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・妊娠の過程、妊婦の健康課題等を振り返る。</li> </ul>



## 4 本時の指導（全7時間中の4時間目）

## (1) 目標

- ・ 結婚生活における、家族計画の意義や人工妊娠中絶の心身への影響について、理解することができるようにする。（知識）
- ・ 結婚生活と健康について、自他や社会の課題の解決方法を考え、それらを話し合ったり、ノート等に記述したりして、筋道を立てて説明することができるようにする。（思考力、判断力、表現力等）
- ・ 思春期と健康、結婚生活と健康、加齢と健康についての学習に、主体的に取り組むことができるようにする。（学びに向かう力、人間性等）

## (2) 展開例

段階	主な学習内容・学習活動	○指導上の留意点 ◆評価
導入 (5分)	<p>1 単元の流れと学習内容を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">           自分がイメージする将来設計はどのようなものでしょうか。         </div> <p>&lt;予想される回答&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 20歳頃に働き始めてしばらく経ってから結婚</li> <li>・ 子供の数は2～3人くらい</li> <li>・ 子供の年齢は2～3歳差</li> </ul>	<p>○前時までに学習した内容を確認する。</p> <p>○将来設計をノートに記入させ、グループで共有し、グループごとに発表させる。</p>
展開 (35分)	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">           家族計画の意義や望まない妊娠を避けるためにとるべき行動を考えよう         </div> <p>2 家族計画を理解する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">           家族計画を行う上で、どのようなことに注意すればよいでしょうか。         </div> <p>&lt;予想される回答&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 夫婦で子供の人数等を話し合う。</li> <li>・ 仕事や経済的なことを踏まえて計画する。</li> <li>・ 年齢や健康面に考慮する。</li> </ul> <p>3 避妊法の特徴について知り、どの避妊法を選択すべきかを考える。</p>	<p>○注意点をノートに記入させ、グループで共有し、グループごとに発表させる。</p> <p>○ICT機器を使用し、母体の健康状態、出産年齢、出産間隔、生育環境、住居環境、仕事、ライフサイクル等も踏まえた計画の重要性を説明する。</p> <p>○ICT機器を使用し、避妊法の種類と特徴、望まない妊娠について説明し、ノートに記入させる。</p>

	<p>4 人工妊娠中絶について知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・母体保護法のこと。</li> <li>・女性の心身への負担のこと。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安全で確実な方法である、コンドームと低容量ピルの特徴</li> <li>・緊急避妊法のアフターピルやIUDの特徴</li> <li>・避妊を行わない不確かな避妊法によって望まない妊娠は、多くなっていること。</li> <li>・オギノ式、基礎体温、膣外射精については、不確実であること。</li> </ul> <p>○ICT機器を使用し、説明する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「厚生労働省『衛生行政報告例』2019年」の、妊娠満12週以降に人工妊娠中絶を実施した割合について</li> <li>・やむを得ない理由があり、限られた妊娠期間内に手術等により胎児を母体外に出すことが法律で認められていること。(母体保護法)</li> <li>・女性の心身に非常に大きな負担を与えること。</li> </ul> <p>◆【知識・技能】</p> <p>結婚生活における家族計画の意義や人工妊娠中絶の心身への影響について、理解したことを言ったり書いたりしている。(観察・ノート)</p> <p>◆【思考・判断・表現】</p> <p>結婚生活と健康について、自他や社会の課題の解決方法を考え、それらを話し合ったり、ノート等に記述したりして、筋道を立てて説明している。(観察・ノート)</p>
<p>まとめ (10分)</p>	<p>5 本時の学習内容を振り返る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>本時で学んだことを振り返り、結婚生活を健康に過ごすための家族計画には、何が必要であるかをまとめてみよう。</p> </div>	<p>○各自でノートにまとめさせる。</p> <p>○家族計画、避妊法、人工妊娠中絶を振り返り、ノートをまとめさせる。</p>

## 4 本時の指導（全7時間中の5時間目）

## (1) 目標

- ・ 結婚生活を健康に過ごすには、自他の健康に対する責任感等や母子の健康診査等の活用が必要であることを理解することができるようにする。（知識）
- ・ 結婚生活と健康について、自他や社会の課題の解決方法を考え、それらを話し合ったり、ノート等に記述したりして、筋道を立てて説明することができるようにする。（思考力、判断力、表現力等）
- ・ 思春期と健康、結婚生活と健康、加齢と健康についての学習に、主体的に取り組むことができるようにする。（学びに向かう力、人間性等）

## (2) 展開例

段階	主な学習内容・学習活動	○指導上の留意点 ◆評価
導入 (5分)	<p>1 単元の流れと学習内容を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">結婚できる年齢は何歳でしょうか。</div> <p>&lt;予想される回答&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 男性18歳、女性16歳</li> <li>・ 男女ともに18歳</li> </ul>	<p>○前時までに学習した内容を確認する。</p> <p>○数名の生徒に発表させる。</p> <p>○民法では、男女とも18歳になると結婚できるとされていることを確認する。</p> <p>○2022年に民法が改正〔改正前は男子18歳、女子16歳〕されたことをおさえる。</p>
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">自他の健康に対する責任感等や母子の健康診査等の必要性を考えよう</div> <p>2 初婚年齢と初産年齢の推移の傾向を考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">初婚年齢と初産年齢には、どのような傾向があると思いますか。</div> <p>&lt;予想される回答&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 結婚年齢（初婚年齢）が高くなっている。</li> <li>・ 出産（初産）年齢が高くなっている。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">女性の平均初婚年齢が29歳となっている背景は、何だと思えますか。</div>	<p>○傾向をノートへ記入させ、数名の生徒に発表させる。</p> <p>○「厚生労働省_人口動態統計：平均初婚年齢・母親平均出生時年齢推移」で、結婚生活において出産を考える場合、女性の晩婚化は出産（初産）年齢の上昇に大きく影響していることを説明する。</p> <p>○背景をノートへ記入させ、グループで共有し、グループごとに発表させる。</p> <p>○女性の平均初婚年齢は29歳とあるが、どのような背景（晩婚化となってきたのはなぜか）があるかを説明する。</p>

<p>展開 (40分)</p>	<p>&lt;予想される回答&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・働く女性の増加</li> <li>・価値観の多様化</li> <li>・子供を育てにくい社会</li> </ul> <p>3 良好な生活習慣、人間関係について考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>結婚生活を送ることは、夫婦や子供、家族の健康に対して、どのような影響があると思いますか。</p> </div> <p>&lt;予想される反応例&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生活習慣等を理解しないと体調を崩す。</li> <li>・アレルギー体質の確認をする。</li> <li>・共通の趣味を持って、休日を過ごし気分転換をする。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>これまでに学習した、結婚生活における受精、妊娠、出産に伴う心身の健康に対する不安、心配や悩みを緩和したりするものには、どのようなものがあると思いますか。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○影響をノートへ記入させ、グループで共有し、グループごとに発表させる。</li> <li>○ICT機器を使用し、ノートへ記入させる。</li> <li>・パートナーのアレルギー体質や生活習慣病の有無等を確認すること。</li> <li>・妊娠中のDV被害は特に注目されており、母体の被害だけでなく、早産や流産、胎児の低出生体重も報告されており、日本でもDV被害のリスクを有する妊産婦は全体の14%以上存在し、特に10代の妊産婦のDV被害が際立って高い頻度になっていること。(日本産婦人科医学会による調査)</li> <li>・虐待の子供への影響としては、死亡、頭蓋内出血・骨折・火傷等による身体的障害、暴力を受ける体験からトラウマ(心的外傷)を持ち、そこから派生する様々な精神症状(不安、情緒不安定)、栄養・感覚刺激の不足による発育障害や発達遅滞、安定した愛着関係を経験できないことによる対人関係障害(緊張、乱暴、ひきこもり)、自尊心の欠如(低い自己評価)等、様々な内容や程度があること(厚生労働省 第1章 子ども虐待の援助に関する基本事項)</li> </ul> <p>○数名の生徒に発表させる。</p>
---------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

	<p>&lt;予想される反応例&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医師等の診察や専門家の助言</li> <li>・ 夫婦のストレスを解消するためには話し合いや親・友人への相談</li> <li>・ 信頼できる病院の支援サイトでの情報収集</li> </ul>	<p>○ ICT機器を使用し、地域において家庭や育児の相談ができる専門機関や配偶者暴力相談支援センター、女性相談センター、児童相談所等のサービスをノートへ記入させる。</p> <p>◆【知識・技能】</p> <p>結婚生活を健康に過ごすには、自他の健康に対する責任感等や母子の健康診査等の活用が必要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。</p> <p>(観察・ノート)</p>
<p>まとめ (5分)</p>	<p>4 本時の学習の振り返りとまとめをする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>本時で学んだことを振り返り、妊娠・出産を迎える夫婦が、結婚生活を健康に過ごすためには何が必要であるかをまとめてみよう。</p> </div>	<p>○各自でノートにまとめさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学習活動を促す事例として、スポーツ選手の結婚、妊娠・出産や子育てについて、トピックスを紹介しながら、年齢や生活習慣の多様性と社会的課題について触れるようにする。</li> </ul>

## 5 指導のポイント

本単元の「結婚生活と健康」は、特別活動のホームルーム活動の内容項目(2)イ「男女相互の理解と協力」と関連付けて指導することが考えられる。例えば、題材を「家庭や地域社会における男女相互の理解と協力について考えよう」と設定し、本単元で身に付けた知識をもとにホームルーム内で話し合い、個人としての意思決定を経て、実践への意欲付けを図ることができる。

総合的な探究の時間において例えば、生徒の興味・関心に基づく課題として、「生命の尊厳と医療や介護の現実(生命・医療)」を探究課題として設定し、横断的・総合的な学習として、保健での「結婚生活と健康」に関する学習内容との関連を図った課題の解決や探究活動を行うことが考えられる。

教科等	主な学習内容・学習活動
保健 体育	<p style="text-align: center;"><b>生涯を通じる健康</b></p> <p>妊娠・出産と健康</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>結婚生活における受精、妊娠、出産とそれに伴う健康課題には、年齢や生活習慣等が関わることを理解する。</li> <li>結婚生活と健康について、自他や社会の課題の解決方法を考える。</li> <li>思春期と健康、結婚生活と健康、加齢と健康についての学習に、主体的に取り組む。</li> </ul>

### 教科等横断的な指導の工夫

教科等	主な学習内容・学習活動
生物	<p style="text-align: center;"><b>遺伝情報の発現と発生</b></p> <p>動物の配偶子形成と受精</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>配偶子形成と受精の過程について理解する。</li> </ul> <p>初期発生の過程</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>卵割から器官分化の始まりまでの過程について理解する。</li> </ul> <p>発生と遺伝子の発現</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>細胞の分化と形態形成のしくみを理解する。</li> </ul> <div style="border: 1px solid gray; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p><b>性に関する指導の視点</b></p> <p>動物の個体の始まりは卵と精子が受精して生じる受精卵という1個の細胞であり、受精卵から個体が形成される過程について理解できるようにする。</p> <p><b>ワンポイントアドバイス</b></p> <p>卵子、精子、受精卵それらの一つ一つの細胞の目的は、命をつなぐことであり、動物の発生に関する学習を通して、妊娠や出産が奇跡であると言われる理由について理解することができます。</p> </div>
家庭 総合	<p style="text-align: center;"><b>子どもと共に育つ</b></p> <p>命を育む</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>命に対する責任や社会の一員として次世代を育む責任を持つために、性と生殖に関する健康について理解する。</li> </ul> <p>子どもの育つ力を知る</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>子どもの発達に応じて適切に関われるようになるために、子どもが生まれつき持っている能力や心身の発達について理解する。</li> </ul> <p>子どもと関わる</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>子どもが健康・快適・安全に育つ環境を整えられるようになるために、子どもの生活習慣や衣食住について理解する。</li> </ul>

	<p>子どもとの触れ合いから学ぶ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>子どもや子育てに対する理解を深めるために、子どもとの触れ合いや、親や保育者と子どもの関わり方を観察する。</li> </ul> <p>これからの保育環境</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>社会全体で子育てを支援していくために、現代の子育て環境の変化や課題について理解する。</li> <li>子どもが健やかに育つ社会をどのように実現すればよいかを考える。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p><b>性に関する指導の視点</b></p> <p>青年期の課題である自立について理解を深めるとともに、命に対する責任や社会の一員として次世代を育む責任を持つために、性と生殖に関する健康について理解できるようにする。</p> <p><b>ワンポイントアドバイス</b></p> <p>乳幼児との触れ合い体験や交流活動、視聴覚教材等を活用し、命と向き合い、命の大切さについて考えることで、自他の命を尊重する態度を育むことができます。</p> </div>
家庭 総合	<div style="background-color: #333; color: white; padding: 5px; border-radius: 5px; margin-bottom: 10px; text-align: center;"> <b>生涯を見通す</b> </div> <p>人生を展望する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自立した生活を営むために、生涯発達の視点からライフステージの特徴と課題を理解しよう。</li> </ul> <p>目標を持って生きる</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生活課題に対して意思決定を行う重要性を理解し、歩みたい人生の目標を持つ。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p><b>性に関する指導の視点</b></p> <p>「結婚」、「出産」、「仕事」について、日本の現状や制度を知るとともに、自分らしく生きるためには、様々な人の生き方を尊重し、共に生きることの大切さを理解することができる。</p> <p><b>ワンポイントアドバイス</b></p> <p>「過去・現在・未来年表」を作成し、「結婚」、「出産」、「仕事」等自分の将来について考え、意見を共有することを通して、いろいろな人の生き方を尊重し、自分らしい生き方について考えることができます。</p> </div>
特別 活動 ★	<div style="background-color: #333; color: white; padding: 5px; border-radius: 5px; margin-bottom: 10px; text-align: center;"> <b>生まれる命について考える</b> </div> <p>自分は何にも代えがたい存在であることを自覚し、他人を思いやる気持ちを深め、性に関する様々な問題に気づき、協働して解決に向けて取り組む。</p>

総合的 な探求	<p style="text-align: center;"><b>生命の尊厳と医療や介護の現実（生命・医療）</b></p> <p>横断的・総合的な学習として、保健体育科「結婚生活と健康」に関する学習内容との関連を図った課題の解決や探究活動を行う。</p>
------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

\*\*\*\*\*

命はかけがえのないものであることに気付くとともに、自分の行動への責任感や相手異性を理解したり尊重したりすることが必要であることを理解することができる。

性に関する課題や受精、妊娠、出産についての課題を発見し、課題を解決するための方法について話し合うことを通して、多様な他者の価値観を受け入れるとともに、自分の生き方について主体的に考え、選択する態度を育むことが期待できる。



## 指導事例 7 生まれる生命について考える

対象：第3学年

教科等：特別活動

### ★教育課程上の位置付け

特別活動 ホームルーム活動

#### (2) 日常生活や学習への適応と自己の成長および健康安全

##### ア 自他の個性の理解と尊重、よりよい人間関係の形成

自他の個性を理解して尊重し、互いのよさや可能性を発揮し、コミュニケーションを図りながらよりよい集団生活をつくること。

### 1 題材の目標

人間としての在り方や生き方について考え、自他のよさを認め合い、夢や希望を持って共に協力し合える人間関係を築くことができるようにする。

### 2 題材について

第3学年は、卒業後に社会で生活していくための準備期間として、将来設計について深く考える時期である。また、生涯を通じて豊かな人間関係をつくり、差別のない社会づくりについて理解を深める必要がある。妊娠、出産・育児、流産・死産、不妊、障害等のテーマを通して、生命が生まれ亡くなるということについて考え、多様な意見をもとに自ら判断し、適切に行動できるようにすることをねらいとする。

### 3 事前の指導

生徒の活動	指導上の留意点
妊娠から出産までの経過と親の気持ちや生活の変化等について理解する。	○各教科における指導内容の振り返りやドキュメンタリー映像等の視聴により確認させる。

### 4 本時の指導

#### (1) 目標

自分は何にも代えがたい存在であることを自覚し、他人を思いやる気持ちを深めるとともに、性に関する様々な問題に気づき、協働して解決に向けて取り組むことができるようにする。

#### (2) 展開例

段階	主な学習内容・学習活動	指導上の留意点
つかむ	1 生まれる命から生き方を考える。	○過去と現在の人口動態統計等を比較させ、妊娠・出産が尊いものであることに気付かせる。

	2 前時の妊娠・出産についての学習を振り返り、ワークシートに記入する。	
	生まれ亡くなる命から人間の在り方や生き方を考えよう	
さぐる	3 流産や死産について理解を深める。	○人工妊娠中絶と流産・死産を経験した夫婦の気持ちを考えるよう促す。
	4 障害について考える。	○様々な障害があることに触れる。 ○出生前診断に触れる。
	5 不妊治療をしている人の思いを知る。	○妊娠には適した時期があることを確認する。 ○不妊には、加齢のみならず、男性が原因となることもあり、女性だけの問題ではないため、男女ともに関係があることをおさえる。 ○生命倫理と医療技術の高度化を確認する。
見つける	6 伝えたい対象を想定して、メッセージを書く。	○個々にかげがえのない命について振り返り、不安や感謝の気持ちを表現させるよう促す。
	7 グループワークを行う。 幸せに生きていくために必要なことやできることを話し合う。	○できるだけ多くの意見を出すよう促す。その際、出た意見を批判せず、他の人の考えに自分の考えを足してもよい。
	8 グループでまとめ、発表する。	○数人に発表させ、気づきがあった場合は追加して、発言させる。
決める	9 授業を振り返り、自分は将来、どのように過ごしていきたいかをワークシートに記入する。	○新たに気付いたことや将来設計を確認させ、意思決定を促す。

## 5 事後の指導

生徒の活動	指導上の留意点
メッセージポスターを作成する。	○伝えたいメッセージを含め、協働してポスターを作成し、文化祭等で展示発表をさせる。

## 6 指導のポイント

学習内容については、事前に学校全体で共通理解を図り、生徒の実態や個別相談の体制を確認するとともに、保護者の理解を得るようにする。各教科における指導内容やドキュメンタリー映像等を使用し、説明する。授業の導入では、自分の過去や将来を想起し、辛くなった場合には、我慢せず申し出るように伝える。

⑫

## 「生まれる生命について考えよう」

生まれてきたかけがえのない生命のつながりやパートナーシップ、  
自分と他人を大事にするということについて考えよう。



年 組 番 氏名

- 1 それぞれのテーマについて、問題点や課題、人の気持ち等を踏まえて、考えたことを書きましよう。

①「妊娠・出産 子供が生まれるということ」

②「流産・死産 子供を亡くすということ」

③「障害があるということ」

④「不妊 望んでも授からないということ」

- 2 1で書いたことを伝えたい対象をイメージして、今の自分の気持ちを表現しましょう。

伝えたい対象

メッセージ

3 1、2で書いたことを踏まえて、グループで話し合しましょう。

①すべての人が幸せに生きていくために、大切なことや必要なことは？

—自分の意見—

—グループの意見—

②そのために「自分たちができること」は？

—自分の意見—

—グループの意見—

—まとめ—（発表しよう）

4 各グループの発表や学習全体を振り返り、自分の将来をどうしていくのかを書きましょう。

5 授業を振り返り、生まれる命について深く考えることができましたか？当てはまるものに○を付けましょう。

【 とてもできた ・ よくできた ・ まあできた ・ あまりできなかった ・ できなかった 】

## 指導事例 8 家族のかたちとこれからの人生

対象：第3学年

教科等：特別活動

### ★教育課程上の位置付け

特別活動 ホームルーム活動

#### (3) 一人一人のキャリア形成と自己実現

##### Ⅱ 主体的な進路の選択決定と将来設計

適性やキャリア形成などを踏まえた教科・科目を選択することなどについて、目標を持って、在り方生き方や進路に関する適切な情報を収集・整理し、自己の個性や興味・関心と照らして考えること。

#### 1 題材の目標

社会の一員として未来に展望を持ち、多様性を尊重した共に生きる暮らしやすい社会について考え、自己実現に向けて取り組むことができるようにする。

#### 2 題材について

様々な家庭環境で育ってきた生徒たちが、自らの将来について具体的に考え、生き方を選択していくに当たっては、自己の家族の在り方のみならず日本社会の現状を客観的に理解する必要がある。ドキュメンタリー映像を通して、情報が氾濫し、価値観が多様化している現代社会において、ひとり親や里親、養子縁組、児童養護施設等様々な環境で育つ子供がいる背景や社会福祉制度等の在り方について考えさせたい。また、将来の生活における社会の一員としての役割や活動を知り、責任と自覚を持って主体的に判断し、行動できる態度を育むことをねらいとする。

#### 3 事前の指導

生徒の活動	指導上の留意点
自分自身のライフプランを考える。	○過去から未来についてその時々を描いていた夢も記述させ、心の変化を確認する。

#### 4 本時の指導

##### (1) 目標

家庭や地域社会における性に関する諸課題について理解を深め、性差や個人差を尊重した自分らしいよりよい生き方について考えることで、自ら意思決定や行動選択ができる態度を身に付けることができるようにする。

## (2) 展開例

段階	主な学習内容・学習活動	指導上の留意点
つかむ	1 本時のねらいを知る。	○基本的人権のもとで多様な価値観があってもよいことをおさえる。
さぐる	2 事例を通して、若者の性に関する現状と課題を知る。 ・未受診妊婦 ・育てられない親、育ての親 ・親のいない子供 ・梅毒の増加 等	○生まれた生命を守ることに確認する。 ○性交渉を持つことは、互いの人生や生命に大きな責任が伴うことを理解させる。
見つける	3 多様化する家族のかたちを知り、その背景についてグループで話し合う。  4 日本の保健サービスや社会福祉制度について、グループで話し合い、ワークシートに記入する。  5 社会の在り方と今後の自分の生き方についてグループで話し合う。	○結婚や離婚、ひとり親家庭、再婚、未婚等に係る男女別件数等のデータを提示する。 ○妊娠した場合、早期に相談することの重要性と生物学的男女差を踏まえた選択の自由について触れる。 ○各教科における既習内容を振り返らせ、社会には、生涯にわたって利用できる支援体制や相談体制があることを確認する。 ○レッドリボン運動やオレンジリボン運動、パープルリボン運動等様々な支援の輪や啓発活動があることを伝える。 ○高校生がポスターモデルや各種イベントに参加していることを知らせる。
決める	6 自分らしいよりよい生き方をワークシートに記入し、発表する。	○若い世代の意識や行動は、今後の未来に大きく影響することをおさえ、意思決定を促す。

## 5 事後の指導

生徒の活動	指導上の留意点
○啓発活動等について理解を深め、興味を持った活動を行う。	個人や集団で啓発活動ができるよう、実践の場を設ける。

⑬

## 6 指導のポイント

学校全体で共通理解を図り、生徒の家庭環境やこれまでの体験等の実態を把握するとともに、事前に保護者の理解を得る。また、男女の役割意識に偏らず、生き方については、誰もが自分で選択し、いつからでも決めることができることを押さえる。授業の導入では、自分の過去や将来を想起し、辛くなった場合には、我慢せず申し出るように伝える。



# ワークシート 「家族のかたちとこれからの人生」

年 組 組 氏名 ( )

メンバー氏名

進行 :

記録 :

発表 :

- 1 現代の社会にはどのような家庭や家族のかたちがあるのでしょうか。資料をもとにその件数等から男女差や個人差について考え、その背景にどのような理由や課題があるのかまとめてみましょう。



◎様々な家庭や家族	◎その背景 1 (理由)	◎その背景 2 (課題)

- 2 日本の社会にはどんな保健サービスや社会福祉があるのか整理してみましょう。

<p>① 保健行政 :</p> <p>② 医療制度 :</p> <p>③ 社会福祉 :</p>
-------------------------------------------------

- 3 国や民間企業が行っている啓発活動や個人が参加できる運動にはどんなものがあるのでしょうか。

--

⑬

4 学習を通して「わかったこと」についてグループで話し合い、これからの未来に向けて「社会に求めるもの」と「自分たちができること」というキーワードを用いて意見をまとめ、発表しましょう。

◎わかったこと（気付いたこと）	
◎社会に求めるもの	◎自分たちができること
◎まとめ（発表）	

5 学習全体を振り返って、「自分が求めるもの、これからの自分に期待すること」を書きましょう。

--

教科等	主な学習内容・学習活動
特別活動	<p data-bbox="336 248 863 309"><b>家族のかたちとこれからの人生</b></p> <ul data-bbox="336 315 1439 461" style="list-style-type: none"> <li>・ 家庭や地域社会にある性に関する諸課題について理解を深め、性差や個人差を尊重し自分らしいよりよい生き方について考え、自ら意思決定や行動選択を行う。</li> </ul>

## 教科等横断的な指導の工夫

教科等	主な学習内容・学習活動
公共	<p data-bbox="336 663 1107 723"><b>公共的な空間における人間としての在り方生き方</b></p> <p data-bbox="336 730 692 770">青年期と自己形成の課題</p> <ul data-bbox="336 777 1439 860" style="list-style-type: none"> <li>・ 青年期の特徴や発達課題としてのアイデンティティの確立の理解を手がかりに、青年期に生きる自己形成の課題について考察する。</li> </ul> <div data-bbox="352 887 1406 1384" style="border: 1px solid gray; border-radius: 15px; padding: 10px;"> <p data-bbox="384 920 711 960"><b>性に関する指導の視点</b></p> <p data-bbox="384 967 1358 1095">青年期は自立を図る重要な時期であることを理解し、自己形成の課題について考えることで、社会の一員としての自分の生き方を選択し、自己実現をめざすことができる。</p> <p data-bbox="384 1133 775 1173"><b>ワンポイントアドバイス</b></p> <p data-bbox="384 1180 1358 1352">青年期の課題を自らの人生の中に位置付け、家族や友人等周囲の人々との関わりから捉え、望ましい人間関係の構築を図ることに関連付けて考えることで、自らを成長させながら社会の中で主体的に生きていくための人生観の基礎を培うことにつながります。</p> </div>
家庭総合	<p data-bbox="336 1424 788 1485"><b>青年期の自立と家族・家庭</b></p> <p data-bbox="336 1491 528 1532">人生をつくる</p> <ul data-bbox="336 1538 1439 1621" style="list-style-type: none"> <li>・ 生涯を見通して自分のライフスタイルを考えることができるように、様々な生き方について理解する。</li> </ul> <p data-bbox="336 1628 655 1668">家族・家庭を見つめる</p> <ul data-bbox="336 1675 1439 1794" style="list-style-type: none"> <li>・ よりよい家庭生活を実現するために、家族・家庭と私たちの生活の結び付きを理解する。</li> <li>・ 社会制度としての家族や家族と法律を理解する。</li> </ul> <p data-bbox="336 1800 724 1841">これからの家庭生活と社会</p> <ul data-bbox="336 1848 1439 2011" style="list-style-type: none"> <li>・ 誰もが家庭や地域のよりよい生活を創造できるよう、仕事と家庭の両立や家庭生活と地域の結び付きについて理解する。</li> <li>・ 誰もが家庭や地域のよりよい生活を創造するにはどのような社会を実現すればよいかを考える。</li> </ul>

**性に関する指導の視点**

自己の意思決定に基づき、責任をもって行動することや男女が協力して、家族の一員としての役割を果たし家庭を築くことの重要性について考えることで、青年期の課題である自立や平等と協力、意思決定の重要性について理解を深めることができる。

**👉 ワンポイントアドバイス**

実例等を提示することで、家族形態の変化や将来の家庭の在り方、ワーク・ライフ・バランスの考え方を取り入れた職業選択の在り方についてより具体的に考え、ライフプランを意義あるものにするにつな갑니다。

\*\*\*\*\*

青年期は自立を図る重要な時期であること、平等と協力、意思決定の重要性について理解することができる。

また、青年期の発達課題について話し合うことを通して、様々な生き方を尊重し、共に生きることの大切さに気付くことで、適切な自己の意思決定に基づき、責任を持って行動し自分らしく生きる態度を育むことが期待できる。

# 特 別 支 援 学 校



## 指導事例 1 からだをきれいにしよう

対象：小学部 1 段階

教科等：体育科保健領域

### ★教育課程上の位置付け

体育科保健領域

特別支援学校小学部学習指導要領

#### G 保健

健康な生活に必要な事柄について、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 教師と一緒に、うがいなどの健康な生活に必要な事柄をすること。

イ 健康な生活に必要な事柄に気づき、教師に伝えること。

### 1 単元の目標

- (1) 体の部位を示す言葉に触れながら、清潔を保つことの大切さを知り、健康な生活に必要な事柄を理解することができるようにする。
- (2) 手や体を洗う動作について、教師と一緒に練習することができるようにする。
- (3) 日常生活において、手や体が汚れた際に、清潔にしようとすることができるようにする。

### 2 単元について

思春期に自分の身体的変化に気づき肯定的に受け止めるためには、思春期前から自分の体に興味を持ち、大切にすることが重要となる。思春期に入る前の体を理解し、大切にするための習慣としては、体を清潔にすること、栄養バランスのとれた食事をとること、早寝早起きをすることを指導していくことが大切である。特に清潔を保つための行動を学習する際には、体の部位を示す言葉に触れながら自分の体を意識したり、手洗いや歯みがき、入浴といった清潔を保つ行動の大切さや行動によって得られる心地よさを知ったりすることで行動を促すことにつながる。

体の部位については、リズムや歌に合わせて、遊びの中で言葉に触れるようにする。また、動作については、手順表等を用いて教師と一緒に練習をすることで、日常生活で習慣化できるような工夫を行っていく必要がある。

### 3 単元計画

時	学習内容
1	体の名称と自分だけの大切なところ ○体をタッチしながら体の部位の名称に触れるとともに、水着で隠れている部分については、自分だけの大切なところであることを知ること。
2	手洗いの大切さ ○手が汚れた時には、手洗いが必要であることを知り、手洗いの順番表を見ながら歌に合わせて手を洗うこと。

3 (本時)	<p>体を清潔にする方法</p> <p>○体の清潔を保つためには入浴することが大切であることを知り、音楽に合わせて体の部位の確認をしながら、洗う動作を練習するとともに、自分だけの大切なところを守るためのルールを知ること。</p>
-----------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

#### 4 本時の指導（全3時間中の3時間目）

##### (1) 目標

- ・ 清潔保持の必要性を知り、入浴の大切さと方法について理解する。(知識及び技能)
- ・ 教師の動きを見て、体を洗う動作ができる。(思考力、判断力、表現力等)
- ・ 日常生活において、体が汚れた際に清潔にしようとする。  
(学びに向かう力、人間性等)

##### (2) 展開例

段階	主な学習内容・学習活動	○指導上の留意点      ◆評価
導入 (5分)	<p>1 手洗いについて、前時を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 手洗いが必要な場面</li> <li>・ 手を洗う際の順番</li> </ul>	○日常生活を振り返り、手洗いが必要な場面や手を洗う際の順番を確認する。
展開 (35分)	お風呂ごっこで体をきれいに洗おう	
	<p>2 汚れた体をきれいにする方法を知る。 (学習内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ お風呂に入る。</li> <li>・ 体を拭く。</li> </ul> <p>3 汗や泥を放っておくとばい菌に変化することを知る。</p> <p>4 体の洗い方を確認する。</p>	<p>○日常生活を振り返りながら答えさせる。</p> <p>○きちんと体を洗わないと体がにおったり、皮膚がかゆくなったり、抵抗力が下がり病気にかかりやすくなるため、入浴し、体を清潔にすることが大切であることをイラストで説明する。</p> <p>○音楽に合わせて体を洗う動作を練習させる。</p> <p>○「きれい」「汚い」を視覚的に理解できるようにするため、イラストを貼り付けたマグネット教材を使用する。</p> <p>○動作ができた場合は、マグネットを「汚い」から「きれい」に変える。</p>



	<p>5 自分だけの大切なところを守るためのルールを知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人に見せない、さわらない</li> <li>・友達のを見ない、さわらない</li> </ul>	<p>◆【思考・判断・表現】</p> <p>教師の声かけや音楽に合わせて、体を洗う動作をしている。</p> <p>○黒板のイラストを見て、水着で隠れている部分が自分だけの大切なところであることを確認する。</p>
まとめ (5分)	<p>6 本時の学習の振り返りとまとめをする。</p>	<p>○汚れた体をきれいにするには、病気にならないようにするために必要であり、入浴し、きちんと体を洗うことが大切であることを知らせる。</p>

### (3) 指導のポイント

入浴については、学校生活の中で実践し、習慣化につなげることができないため、連絡帳や学級通信等を通して家庭と学習内容を共有することで、日常生活における習慣化を目指す。その際、体の部位については、日常生活の様々な場面で意識できるように呼称を統一するなどの工夫を行う。特に、自分だけの大切なところについては、児童が親しみやすくなるような用語等で名称を限定しても差し支えない。

また、動作の練習に関しては、自分の動作によって変化が起きることを可視化することで、清潔を保つ行動を実践することへの動機付けとなり、行動を促すことができる。さらに、「歯みがき指導」等と関連付けて指導を行うことも効果的である。

## 指導事例 2 健康や体の変化について知ろう

対象：小学部 3 段階

教科等：体育科保健領域

### ★教育課程上の位置付け

体育科保健領域

特別支援学校小学部学習指導要領

#### G 保健

健康な生活に必要な事柄について、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 健康や身体の変化について知り、健康な生活に必要な事柄に関する基本的な知識や技能を身に付けること。

イ 健康な生活に必要な事柄について工夫するとともに、考えたことや気付いたことなどを他者に伝えること。

### 1 単元の目標

- (1) 思春期の体の変化や人との適切な距離のとり方について理解することができるようにする。
- (2) 思春期における体の変化を肯定的に捉え、人との距離のとり方についてルールを守るために工夫できることを考えたり答えたりすることができるようにする。
- (3) 思春期における自他の体や心の変化に向き合うとともに、自他を尊重し、安全に安心して暮らすことができるようルールを守ろうとしている。

### 2 単元について

思春期には、身長や体重の変化に加え、性別の違いによる体の変化や初経・精通等今まで経験したことのない体の変化が起こる。また、性への関心が芽生え好意を持つ人ができるなど、心の変化も起こり始めることから、人との関わり方について理解することが大切である。児童の発達に個人差が大きい中で、思春期に起こる心と体の変化についても同様に個人差があるものの、大人へと成長する過程で誰にでも起こる自然なことであることを知ることができるようにする。

指導に当たっては、自分の体の変化や性への意識の芽生えに不安を抱えることのないよう、具体的な現象として捉えさせることが必要である。また、教師が経験を話したり、家庭の協力を得て保護者の経験等を児童に伝えたりすることで、成長に伴って起こる心と体の変化を、より身近なものであると感じることができるようにしていきたい。

### 3 単元計画

時	学習内容
1	体の成長 ○出生時から現在までの写真や入学時と現在の身長や体重を比較することで変化していることを気付くとともに、成長には時期や程度に個人差があることを知ること。

2	<p>思春期の体つきの変化と自分だけの大切なところ</p> <p>○思春期には大人に向けて体つきが変化することを理解するとともに、性被害防止の観点から、自分だけの大切なところやルール、不安や悩み、困ったことがあった時には先生や保護者等身近な大人に相談することを知ること。</p>
3	<p>人との距離のとり方</p> <p>○人には心地よい距離であるパーソナルスペースがあることを知るとともに、ロールプレイを通して、人に触れる際の「タッチのルール」を確認し、練習すること。</p>

#### 4 本時の指導（全3時間中の2時間目）

##### （1）目標

- ・ 思春期の男女に現れる体つきの変化と個人差、自分だけの大切なところを守るルールについて理解することができる。（知識及び技能）
- ・ 自分だけの大切なところについて知り、そのルールを考えたり答えたりすることができる。（思考力、判断力、表現力等）
- ・ 思春期における自他の体や心の変化に向き合おうとしている。（学びに向かう力、人間性等）

##### （2）展開例

段階	主な学習内容・学習活動	○指導上の留意点      ◆評価
導入 (5分)	1 体操服を着た子供のイラストを見て、男子か女子かを考える。	<p>○体操服を着用した男女のイラストを提示した後、体操服を脱がせて確認する。</p> <p>○男子と女子の体を比較すると、性器の部分に違いがあることに着目させる。</p> <p>○赤ちゃんが生まれた時には、医師も性器の形を見て男子か女子かを判断することを知らせる。</p>
展開 (30分)	<p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 2px;">思春期の男女の体つきの変化と自分だけの大切なところについて知ろう</p> <p>2 子供と大人のイラストを見て、違うと思うところに矢印と言葉カードを貼る。</p>	<p>○発言を受け、言葉カードと照らし合わせながら貼らせる。</p> <p><b>言葉カードの例</b></p> <p>がっしりした体、ふっくらした体、毛がはえる、喉ぼとけ、胸がふくらむ</p> <p>○射精や月経は、大人になると誰にでも起こる変化であることを知らせる。</p> <p>◆【思考・判断・表現】</p> <p>思春期の体つきの変化について、考えたことや気付いたことを他者に伝えている。</p>

	<p>3 体の変化には個人差があることを知る。</p> <p>4 自分だけの大切なところを知る。 ・水着のイラストを使用し、発表する。</p> <p>5 自分だけの大切なところを守るためのルールを知る。</p>	<p>○体の変化には個人差があり、悩んだ時は先生や親等身近な大人に相談することを知らせる。</p> <p>○ワークシートに自分だけの大切なところを記入させる。</p> <p>◆【知識・技能】 自分だけの大切なところが分かり、示している。</p> <p>○自分だけの大切なところについて確認する。 ○ルールを箇条書きにし、提示する。 <b>ルール</b> ・自分だけの大切なところは見せない、触らせない。 ・相手の大切なところは、見ない、触らない。 ・見られたり、触られたりして嫌だと感じた時は先生や親等身近な大人に相談する。</p>
<p>まとめ (10分)</p>	<p>6 本時の学習の振り返りとまとめをする。</p>	<p>○体の変化には個人差があることや自分だけの大切なところのルールを守ること、不安・悩み・困ったことがあった時には先生や親等身近な大人に相談することを知らせる。</p>

## 5 指導のポイント

体つきに変化が現れていない児童は実感がなく、変化し始めている時期の児童は恥ずかしいと思いがちであることから、恥ずかしがらずに発言できる雰囲気づくりを行う。また、「日常生活の指導」等における具体的な場面での指導と関連付けることで、性に関する理解を深めることができる。

性的マイノリティとされる児童がいるかもしれないということを踏まえ、内容の取扱いには十分注意する。

#### 4 本時の指導（全3時間中の3時間目）

##### （1）目標

- ・人との適切な距離のとり方について理解することができる。（知識及び技能）
- ・人との距離のとり方についてルールを守るために工夫できることを考えたり答えたりすることができるようにする。（思考力、判断力、表現力等）
- ・自他を尊重し、安全に安心して暮らすことができるよう、ルールを身に付け、守ろうとすることができる。（学びに向かう力、人間性等）

##### （2）展開例

段階	主な学習内容・学習活動	○指導上の留意点 ◆評価
導入 (5分)	1 自分だけの大切なところについて、前時を振り返る。	○自分だけの大切なところの意味、場所、約束を確認する。
展開 (30分)	人との距離のとり方を考えよう	
	2 パーソナルスペースについて知る。 ・生徒と教師で立って向かい合い、近付いていってお互いに心地よい位置で立ち止まり、二人の距離を確認する。  3 「いいタッチ」「嫌なタッチ」について知る。	○パーソナルスペースは、自分と周りの人が気持ちよく過ごせるための距離であることを説明する。 ○フラフープを用いたり、床にカラーテープを貼って位置を示したりするなど、児童が視覚的に分かるように工夫する。 ○距離感とは、相手との関係性やその時の体調、心境によって異なることを知らせる。  ○基本的には、人に触れないことが大切であり、どうしても触れる場合には、タッチをする前に相手に確認をすることを知らせる。 ・いいタッチ：うれしい、楽しい、安心、心が温かくなるタッチ <例> 握手、ハイタッチ、頭をなでる、手をつなぐ等  ・嫌なタッチ：痛い、怖い、悲しい、心が変な感じがするタッチ <例> 殴られる、蹴られる、自分だけの大切なところを触られる等

	<p>4 「いいタッチ」「嫌なタッチ」のどちらに当てはまるかを考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教員が行うロールプレイを見て、「いいタッチ」か「嫌なタッチ」の判断をする。</li> <li>○「嫌なタッチ」の後には、必ず「いいタッチ」の方法を示す。</li> <li>○判断し難い場合は、表情や言葉等で判断しやすいように示す。その際、表情カード等を使用しても良い。</li> <li>○「いいタッチ」「嫌なタッチ」を判断した理由を確認する。</li> </ul>
<p><b>【場面例】</b></p> <p>① 先生に会った時に握手をする。</p> <p>② 突然、後ろから抱きつく。⇒前から声をかけて、肩をトントンと叩く。</p> <p>③ 自分の強さを見せつけるために、人を殴る。</p> <p>④ サッカーでゴールを決めた時に、先生がハイタッチをして「がんばったね！」と言う。</p> <p>⑤ しんどい時に、お母さんや身近な大人が背中をさすってくれる。</p> <p>⑥ 人前で自分の大切な場所を触る。⇒触らない</p> <p>⑦ 診察のために医師が体を診る。</p>		
	<p>5 教師を相手に、ルールを確認しながら「いいタッチ」の練習をする。</p> <p>・「いいタッチ」 ⇒①、④、⑤、⑦</p> <p>6 「嫌なタッチ」をされた時の対処方法を知る。</p> <p>・逃げる。</p> <p>・相手に嫌だと伝える。</p> <p>・教師や保護者等身近な大人に相談する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆【思考・判断・表現】 人との適切な関わり方を知った上で、ロールプレイを見て判断している。</li> <li>○「いいタッチ」ができた時は賞賛する。できなかった時は、教師と一緒に練習をする。</li> <li>○見本は、具体的にわかりやすく示す。</li> <li>◆【主体的に学習に取り組む態度】 ロールプレイを通して、人との関わりの中で感じたことを伝えようとしている。</li> </ul>
<p>まとめ (10分)</p>	<p>7 本時のまとめをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自分と相手の関係性を考えた上で、友達であっても近すぎない一定の距離をとること、タッチをする前には相手に確認をしなければならないことの大切さをおさえる。</li> </ul>

## 5 指導のポイント

障害特性として、人との距離感や相手の気持ちを考えること等が難しい児童を考慮し、パーソナルスペースや「いいタッチ」「嫌なタッチ」に関する指導については、まずルールをおさえることが重要となる。ルールを守ることによって、「自分と相手を守ることができる」ことを伝える必要がある。

## 指導事例 3 大切ないのち

対象：小学部 3 段階

教科等：特別の教科道徳

### ★教育課程上の位置付け 特別の教科道徳

小学校学習指導要領

D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること

19 生命の尊さ

生命の尊さについて、その連続性や有限性なども含めて理解し、かけがえない生命を尊重すること。

#### 1 ねらい

生命は過去からつながっていることを知り、生命を大切にしようとする心情を育てる。

#### 2 教材名

「ヌチヌグスージ（いのちのまつり）」 サンマーク出版

#### 3 主題設定の理由

思春期には、人によって違いはあるものの、第二次性徴によって体つきに変化が起こり、性への関心が高まるとともに、「赤ちゃんはどこからくるのか」など、生命の始まりに興味を持つようになる。

生命が大切なものであることは多くの児童が言葉では理解しているが、普段の生活の中で心から実感する機会は少ないことから、繰り返し指導していく必要がある。

本授業では、今ある自分の生命は、遠い祖先から、祖父母、父母、そして自分へと受け継がれてきたものであり、その受け継いだ生命は、未来に向かってもつながっていくことへの不思議さや雄大さに気付かせたい。また、自分と同様に、生命あるものすべてが、生命をつなげていく尊い存在であるということも感じ取らせたい。

生命の誕生について学ぶ機会を通して、「生まれてきてよかった」という自尊感情を高め、自分の生命は周囲の人々に大切にされて育てられた尊いものであることや自分以外の人の生命も同じようかけがえないものであることに気付くことができるように指導する。

#### 4 本時の指導

##### (1) ねらい

生命のつながりに感謝するコウちゃんの気持ちを考えることを通して、生命は過去からつながっていることに気づき、自分の生命や人の生命を大切にしようとする道徳的心情を育てる。



(2) 展開例

段階	主な学習内容・学習活動	○指導上の留意点 ◆評価
導入 (5分)	1 本時の学習内容を知る。	○聴診器で自分の心臓の音を聞かせ、本時の学習内容に興味を持たせる。
展開 (30分)	いのちの大切さについて考えよう	
	2 読み聞かせを聞く。	○読み聞かせを通して、生命や家族等への関心を高めさせる。 ○教材は場面ごとに区切りながら提示する。
	3 物語の「コウちゃん」には、たくさんのご先祖様がいることを知り、感想を発表する。	
	4 「コウちゃん、がんばれ！」と呼びかけられた時、自分ならどんなことをがんばりたいかを考え、発表する。	○がんばりたいことが出しにくい児童には、日常生活等を振り返り、一緒に考える。
	5 「命をありがとう」と言った場面から、自分なら誰にありがとうと伝えたいかを考え、メッセージカードを作成する。	○メッセージカードは伝えたい相手を記入すれば完成できるように仕上げておく。
まとめ (10分)	6 自分や他人の命を大切にするためにできることを考え、発表する。	○児童の考えを読み上げる。 ○今ある生命は、どの生命も過去から数多くの祖先とつながり、未来へとつながる尊いものであるため、自分や友達、家族等すべての人を大切にしながら過ごしてほしいことを知らせる。

(3) 評価について

生命のつながりに気付き、自分の生命や人の生命を大切にしようとする気持ちを持つことができる。

5 指導のポイント

個々の児童又は生徒の知的障害の状態、生活年齢、学習状況及び経験等に応じて、適切に指導の重点を定め、指導内容を具体化し、体験的な活動を取り入れるなどの工夫を行う。

## 指導事例4 思春期の心と体

対象：中学部1段階

教科等：保健体育科

### ★教育課程上の位置付け

保健体育科

特別支援学校中学部学習指導要領

#### H 保健

健康・安全に関する事項について、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 体の発育・発達やけがの防止、病気の予防などの仕方が分かり、基本的な知識及び技能を身に付けること。

イ 自分の健康・安全についての課題を見付け、その解決のための活動を考えたり、工夫したりしたことを他者に伝えること。

### 1 単元の目標

- (1) 思春期における心と体の変化を知り、その時期や程度には個人差があることを理解できるようにする。
- (2) 身体的な成熟に伴う体の変化に合わせて、自身の体を清潔に保つ方法を身に付け、他者に不快感を与えないような適切な態度や行動ができるようにする。
- (3) 心身の状態の変化を捉え、その課題を解決するために自分から伝えることができるようにする。

### 2 単元について

体を清潔に保つこと等を通して、「プラスの感情」や「マイナスの感情」があることに気付くとともに、自らの心身の健康と安全を守る方法について学習する。その際、パーソナルスペースや自分だけの大切なところへの侵害のみを性被害と限定せず、体の他の部分であっても自分が「マイナスの感情」になった時は、その気持ちや状況を他者に伝える態度を身に付けることが大切である。

また、「プラスの感情」や「マイナスの感情」には個人差があることを理解し、ロールプレイを積み重ねることで性被害や性加害を防止できるよう、年齢や状況に応じた適切な行動やコミュニケーション方法等を身に付けようとする態度の育成を目指す。

### 3 単元計画

時	学習内容
1	思春期に起こる心と体の変化 ○ホルモンの作用により、心の変化（自己の認識等）や体の発育・発達（発毛・精通・初経等）が起こること。
2	パーソナルスペースと自分だけの大切なところ ○人との関係性によって適切な関わり方や具体的な距離感が異なること、自分だけの大切なところを守る方法について理解すること。

3	<p>「プラスの感情」・「マイナスの感情」</p> <p>○体の清潔については、健康の保持だけでなく、対人関係を円滑にするためにも重要であり、思春期に変化する体のおいや皮脂の処理の方法を通して身辺の清潔に気を付けたり、気候に応じて着衣を調節したりすることの必要性を理解し、日常生活において取り組むことができること。</p>
4 (本時)	<p>Let's レッスン!～「いいよ」「いや」「こうしてほしい」を伝えよう～</p> <p>○自分の心と体にとっての「プラスの感情」・「マイナスの感情」を他者へ伝える方法を知り、事例を通して友達や教師とロールプレイを積み重ねること、適切な対応方法を身に付けること。</p>

#### 4 本時の指導（全4時間中の4時間目）

##### (1) 目標

- ・人の感情には「プラスの感情」や「マイナスの感情」があり、個人差があることを理解することができる。(知識及び技能)
- ・事例を通して友達や教師とロールプレイを積み重ねることにより、状況に応じた適切な対応方法を判断することができる。(思考力、表現力、判断力等)
- ・適切な感情の伝え方に関心を持ち、自らの「プラスの感情」や「マイナスの感情」を他者に伝えようとするすることができる。(学びに向かう力・人間性等)

##### (2) 展開例

段階	主な学習内容・学習活動	○指導上の留意点 ◆評価														
導入 (5分)	<p>1 前時の学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・プライベートゾーン</li> <li>・パーソナルスペース</li> <li>・「プラスの感情」</li> <li>・「マイナスの感情」 等</li> </ul>	○前時で使用した絵カード等を使用する。														
展開 (35分)	「プラスの感情」・「マイナスの感情」に合った行動を身に付けよう															
	<p>2 事例を見て、自分の気持ちを考える。</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th>「誰が」</th> <th>「何した」</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>家族</td> <td>ハイタッチをする。</td> </tr> <tr> <td>友達</td> <td>握手をする。</td> </tr> <tr> <td>先生</td> <td>コチョコチョコをする。</td> </tr> <tr> <td>毎日会う人</td> <td>ハグをする。</td> </tr> <tr> <td>顔だけ知ってる人</td> <td>頭をなでる。</td> </tr> <tr> <td>知らない人 他</td> <td>隣に座る。 他</td> </tr> </tbody> </table>	「誰が」	「何した」	家族	ハイタッチをする。	友達	握手をする。	先生	コチョコチョコをする。	毎日会う人	ハグをする。	顔だけ知ってる人	頭をなでる。	知らない人 他	隣に座る。 他	○前時で考えた「プラスの感情」・「マイナスの感情」と関連付ける。
	「誰が」	「何した」														
家族	ハイタッチをする。															
友達	握手をする。															
先生	コチョコチョコをする。															
毎日会う人	ハグをする。															
顔だけ知ってる人	頭をなでる。															
知らない人 他	隣に座る。 他															
		<p>◆【主体的に学習に取り組む態度】</p> <p>自分の気持ちを受け止め伝えようとする。</p> <p>○最初に教師が対応方法の見本を見せる。</p>														

	<p>3 事例についてロールプレイを行う。</p>	<p>○絵カードや写真で言語化・視覚化する。  ○ロールプレイをしやすい雰囲気となるよう、声かけを行う。  ○全員が体験できるよう順番等を工夫する。</p> <table border="1" data-bbox="363 409 1342 824"> <thead> <tr> <th data-bbox="363 409 983 465">事例</th> <th data-bbox="983 409 1342 465">様々な感情</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="363 465 983 824"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・サッカーの試合に勝った！「友達」と「ハグ」をして喜びを分かち合う。</li> <li>・休憩時間に「○○先生」が「コチョコチョコ」をする。</li> <li>・悲しいことがあって落ち込んでいると「○○さん」が「背中をさすってくれた」等</li> </ul> </td> <td data-bbox="983 465 1342 824">           楽しかった            最高！            嬉しい            いいよ            いや            やめて            こうしてほしい            逃げ出したい 等         </td> </tr> </tbody> </table> <p>◆【思考・判断・表現】  相手との関係性や自分の状態によって感情が異なることを知り、その時の自身に合った方法で対応している。</p> <p>◆【知識・技能】  「プラスの感情」・「マイナスの感情」の感じ方には個人差があることを理解している。</p>	事例	様々な感情	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サッカーの試合に勝った！「友達」と「ハグ」をして喜びを分かち合う。</li> <li>・休憩時間に「○○先生」が「コチョコチョコ」をする。</li> <li>・悲しいことがあって落ち込んでいると「○○さん」が「背中をさすってくれた」等</li> </ul>	楽しかった 最高！ 嬉しい いいよ いや やめて こうしてほしい 逃げ出したい 等
事例	様々な感情					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・サッカーの試合に勝った！「友達」と「ハグ」をして喜びを分かち合う。</li> <li>・休憩時間に「○○先生」が「コチョコチョコ」をする。</li> <li>・悲しいことがあって落ち込んでいると「○○さん」が「背中をさすってくれた」等</li> </ul>	楽しかった 最高！ 嬉しい いいよ いや やめて こうしてほしい 逃げ出したい 等					
<p>まとめ (5分)</p>	<p>5 本時の振り返りをする</p>	<p>○自らの感情を伝えることは、心と体を守ることにつながることを知らせる。</p>				

### 5 指導のポイント

事例を提示する際は、「誰が」、「何した」、「プラスの感情？ マイナスの感情？」と教師が繰り返し問いかけることで、実際に性被害を受けた時に他者に伝えることができるよう意識する。（事例内容は、児童生徒や教師の人権に配慮し作成する。）

教師や友達と共に多くの場面を経験することのできるロールプレイを通して学びを深めることができる。触れ合いが必ずしも悪いということではないため、自分の気持ちや相手の気持ちを尊重するための手段を学び、適切に対応できるようにすることが大切である。デートDVや性被害の可能性も考慮し、事例を提示したい。また、医療機関における検査やけがの処置等でどうしても必要な場面があること、マイナスの感情が見られる場合は、検査や処置の方法を相談することができることを伝える。

## 指導事例5 家族・家庭生活を考えよう

対象：中学部2段階

教科等：職業・家庭科

### ★教育課程上の位置付け

職業・家庭科家庭分野

特別支援学校中学部学習指導要領

#### A 家族・家庭生活

##### ア 自分の成長と家族

自分の成長と家族や家庭生活などに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する

(ア) 自分の成長を振り返り、家庭生活の大切さを理解すること。

(イ) 家族とのやりとりを通して、家族を大切にす気持ちを育み、よりよい関わり方について考え、表現すること。

##### イ 家庭生活と役割

家庭生活での役割などに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

(ア) 家庭における役割や地域との関わりについて調べて、理解すること。

(イ) 家庭生活に必要なことに関して、家族の一員として、自分の果たす役割を考え、表現すること。

### 1 単元の目標

- (1) 様々な家族のかたちがあることを知るとともに、家族が果たしている役割に気付くことができるようにする。
- (2) 家族と自分との関係に目を向け、自分にとって支えとなっている点や、自分が担うことができる役割について考えることができるようにする。
- (3) 自分が将来築きたいと考えている家庭生活について、思いを巡らせることができるようにする。

### 2 単元について

近年、家族のかたちや規模は多様化しており、子供の誕生、別居、離婚、再婚、死別等によって時々に変化する。しかし、どのようなかたちであっても、家族はともに暮らす一人一人が健康で心豊かに生活していくために大きな役割を担っている。そのため、家族について学習するに当たっては、まず、多様な家族のかたちがあることを知り、それぞれの家族の在り方を尊重しようとする態度を育むことが出発点となる。また、自分と家族との関わりについて振り返る学習を通して、家族や家庭には生活を送る上でどのような働きがあるのかを理解できるようにするとともに、自分が家族の一員として果たせる役割について考えることができるようにする。

単元のおわりには、例えば、結婚や出産なども含めて、自分の将来について思いを巡らせ、どのような家庭生活を築いていきたいかを考える機会を設ける。

### 3 単元計画

時	学習内容
1 (本時)	多様な家族のかたち ○様々な家族のかたちがあることを知るとともに、家族はそのかたちに関わらず、それぞれによさがあり、どのような家族であっても時には悩みが生じることもあるということに気付くこと。
2	家族のはたらきと家事 ○家庭生活の中で、自分が担うべきことや周囲から期待されていることに気付くとともに、自分が家族に支えられていることなど、家族間の協力や支え合いについて理解すること。
3	私の将来の家庭生活 ○将来の家庭生活をイメージし、「よりよい生活」の実現に向けて、自分の生活についての希望や願いを家族や教師と共有すること。

#### 4 本時の指導（全3時間中の1時間目）

##### (1) 目標

- ・ 家族には多様なかたちがあることを知り、どのようなかたちであっても、大切なかけがえのないものであると気付くことができる。（知識及び技能）
- ・ 自分にとって家族がどのような存在なのかを考えることができる。（思考力、判断力、表現力等）
- ・ 多様な家族の在り方を尊重することができる。（学びに向かう力、人間性等）

##### (2) 展開例

段階	主な学習内容・学習活動	○指導上の留意点 ◆評価
導入 (10分)	1 アニメ作品に登場する家族の家族構成を考える。	○核家族や一人親世帯の家族、ペットを飼っている家族等が登場するいくつかのアニメ作品を取り上げて、家族構成の多様さに興味を向けさせる。
展開 (30分)	自分の家族について振り返ろう	
	2 様々な家族のかたちがあることを知る。  3 自分の家族構成について振り返り、ワークシートに記入する。	○核家族、拡大家族、一人親世帯、血縁関係にない家族等を例にあげる。なお、例にあげたもの以外にも多様な家族のかたちがあるということを確認する。  ○誰を家族と考えるかは決まった基準がないため、自分の思い浮かべる範囲を書けばよいことを知らせる。 ○知られたくない、書きたくないことは書かなくてもよいことを知らせる。

	<p>4 自分にとって家族がどのような点で支えとなっているかを考える。</p> <p>5 自分が家族と生活する中で困ったり、悩んだりしていることを考える。</p> <p>6 自分の家族について考えたことを伝え合う。</p>	<p>○衣・食・住に関することや心身の安定等、複数の選択肢を用意しておく。</p> <p>◆【思考・判断・表現】 自分にとって家族がどのような存在なのかについて考えている。</p> <p>○ケンカをしたり、自分の好きなことを我慢したりしなければいけないなど、複数の選択肢を用意しておく。</p> <p>○選択肢から選び、その選択肢を選んだ理由を伝え合うように促す。</p>
<p>まとめ (10分)</p>	<p>7 伝え合ったことを振り返り、気付いたことを発表する。</p>	<p>○一人一人家族構成は異なるということと関連付けて振り返るように促す。</p> <p>◆【知識・技能】 家族はそのかたちに関わらず、それぞれによさがあり、どのような家族であっても時には悩みが生じることもあるということに気付いている。</p>

## 5 指導のポイント

自分の家族について、よいイメージを持っていない生徒もいることが想定されるため、望ましい家族のかたちが決まっているわけではないということを予め提示しておくとともに、知られたくないことは発言したり、書き出したりしなくてもよいということを伝えておくようにする。

将来の家庭生活についても、「家族はいらない」や「一人で暮らしたい」などの考えを示す生徒が見られる可能性がある。どのような考えであっても、そう考えた理由を真摯に受け止め、多様な考え方があってよいことを生徒間で共有できるようにする。

## 指導事例6 心と体のお悩み相談

対象：中学部

教科等：特別活動

### ★教育課程上の位置付け 学級活動

#### 中学校学習指導要領

#### (2) 日常生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全

#### ウ 思春期の不安や悩みの解決、性的な発達への対応

心や体に関する正しい理解を基に、適切な行動をとり、悩みや不安に向き合い乗り越えようとする事。

### 1 題材の目標

- (1) 性に関する事柄は人によって様々な感じ方や捉え方があることを理解できるようにする。
- (2) 思春期の心と体に関わる不安や悩み、疑問への対応の仕方を考えることができるようにする。
- (3) 自らの性に関心を持ち、性の大切さに気付き、心身の健康の保持増進に進んで取り組もうとすることができるようにする。

### 2 題材について

思春期には男女ともに体が急速に発育し、大人の体つきへと変化する。また、同時に心も大きく変化する時期であり、好意を持つ人ができたり、自分の容姿のことで不安になったりするなど、気分の変動も大きくなりやすい。

特に、知的障害や発達障害のある生徒の場合、友達との間で性についての話をしたり、自分の気持ちを言葉にして誰かに相談したりすることに困難が生じやすくなる。中には自分が抱える気持ちの揺れの正体が分からないまま、不適切な行動として表面化させてしまう場合もある。

そのため、この時期には自分の心や体について悩みを抱きやすいこと、発育・発達の時期や程度には個人差があること、不安や悩みを抱えた時の対応の仕方等について理解できるように指導する。

### 3 事前の指導

生徒の活動	指導上の留意点
○子供の体と大人の体を比較し、どこがどのように変化しているのかを考える。	イラストを提示し、変化した部分を具体的に気付かせる。
○思春期に体の変化が起きるしくみを知る。	思春期の体の変化は性ホルモンによるものであり、自然な変化であることを伝える。また、体の変化には個人差があることも確認する。



○思春期には体とともに心も変化してきていることを知る。	どのような心の変化も、成長とともに起こり得る、当たり前で大切な変化であることに気付かせる。
-----------------------------	-----------------------------------------------

#### 4 本時の指導

##### (1) 目標

思春期の心と体に関わる不安や悩み、疑問について、対応の仕方を考え、他者に伝えることができる。

##### (2) 展開例

段階	主な学習内容・学習活動	指導上の留意点
つかむ	1 「思春期の心と体」について、これまで学んできた内容を振り返る。	○これまでの学習で用いたイラストや生徒がワークシートに書いた感想等を紹介し、具体的に振り返らせる。
さぐる	性についての不安や悩みに答えよう	
	2 思春期に抱えやすい悩みの相談に対して、答えを考える。  ・ペア又は3人程度のグループで、悩みに対する答えを相談し、ミニホワイトボードに記入する。  ・グループで記入した答えを見せ合い、そのように答えた理由を伝え合う。	○相談への答えを考える時には、これまでの学習で用いたワークシート等を参考にしてもよいことを知らせる。  ○適宜、質問を受け付ける。また、考えにくそうにしている時には、具体例をあげるなどして支援する。
見つける	<p>【提示する悩みの例】</p> <p>① 女の人を見るとなんだかドキドキします。どうしてでしょうか。</p> <p>② 性器の周りに毛が生えてきて、修学旅行でお風呂に入るのがはずかしいです。</p> <p>③ 何だか、男の人には話しかけづらいです。どうしたらよいですか。</p> <p>④ 自分には特に好きな人はいません。自分っておかしいのかな。</p> <p>⑤ 自分の顔って他の人と比べて変な気がする。カッコいい人がうらやましいです。</p>	

決める	3 これまでの学習を振り返り、自分の心や体の変化について考えたことや感じたことをワークシートにまとめる。	○授業を通して、初めて知ったことや考えたこと、自分の性のことで心配に思っていること、悩みを抱えた時にはどのように対応すればよいと考えているかなどについて、まとめさせる。
-----	------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------

## 5 事後の指導

生徒の活動	指導上の留意点
○自分の心と体や性について、悩んだり困ったりした時の具体的な対処法を知る。	保護者や教師以外にも、保健室、相談窓口等相談できる場所があることを伝える。また、些細なことでも相談できること、相談した際にはプライバシーは遵守されることについても知らせる。

## 6 指導のポイント

例としてあげる悩みの内容については、事前に生徒にアンケートをとるなどして、できる限り、生徒の実情に沿ったものにする。また、悩みとして取り上げる際には、誰の悩みかが分からないように配慮する必要がある。

相談に対する答えを考える際には、その答えを1つに決めることよりも、相談内容に対して共感を抱いたり、自分自身が少し楽になるような答えを探したりするといった過程を大切にして授業を進めるようにする。また、意図せず加害者となることを防止するため、相手への感情の表し方が適切でなく、犯罪行為につながる可能性のある行動については、法律等による規制があることを説明する。

## 指導事例 7 思春期と健康

対象：高等部 1 段階

教科等：保健体育科

### ★教育課程上の位置付け

保健体育科

特別支援学校高等部学習指導要領

#### I 保健

健康・安全に関する事項について、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 心身の発育・発達、傷害の防止及び疾病の予防等を理解するとともに、健康で安全な個人生活を営むための技能を身に付けること。

イ 健康・安全に関わる自他の課題を発見し、その解決のための方策を工夫したり、仲間と考えたりしたことを他者に伝えること。

### 1 単元の目標

- (1) 心身の発育・発達、傷害の防止及び疾病の予防等を理解するとともに、健康で安全な個人生活を営むための技能を身に付けることができるようにする。
- (2) 健康に関わる自他の課題を発見し、その解決のための方策を工夫したり、仲間と考えたりしたことを他者に伝えることができるようにする。
- (3) 思春期の心と体について興味や関心を持ち、自ら進んで学習に取り組むことができるようにする。

### 2 単元について

思春期には、脳の下垂体から分泌される性腺刺激ホルモンの働きにより性腺の働きが活発になる。その結果、男子では射精、女子では月経が見られ、妊娠することが可能な体へと成熟していく。また、身体的な成熟に伴う性的な発達に対して、個人差はあるものの、性衝動が生じたり、性への関心が高まったりすること等から、相手を尊重したり、性欲をコントロールしたりするなど、性に関する適切な態度や行動の選択が必要となる。知的障害や発達障害のある生徒の場合、思春期に起こる心と体の変化を言葉のみの説明で理解することに困難が生じやすく、思春期特有の心身の状態に戸惑い、不適切な行動として表面化させてしまうこともある。

本単元では、脳の仕組みや心と体の変化を視覚的に捉えたり、リラクゼーション等を通して心と体のつながりを体験したりすることを通して、自ら心身の健康の保持増進に向けて取り組む態度の育成を目指す。

### 3 単元計画

時	学習内容
1 (本時)	思春期の体がもたらす心への影響 ○思春期には性腺刺激ホルモンの分泌が急増し、心身の変化が起こることについて理解するとともに、心と体を一体として捉え、心身の健康の保持増進について考えること。

2	思春期の心がもたらす体への影響 ○痩身願望や恋愛感情、周囲の大人への苛立ち等思春期特有の心理的な変化が無理なダイエットや過食、不眠等につながり、生理不順や骨粗鬆症、肥満等の健康被害が起こること。
3	思春期の心と体を大切にする方法 ○心と体は互いに様々な影響を与え合っていることについて理解し、規則正しい生活を送るとともに、呼吸を整えたり、人に相談したりするなど、自分に合ったストレス対処方を考えること。

#### 4 本時の指導（全3時間中の1時間目）

##### （1）目標

- ・ 思春期には、性腺刺激ホルモンの分泌が急増することにより体の変化に伴い心の変化も起こること、また、体や心の変化には個人差があることを理解することができる。（知識及び技能）
- ・ 思春期における衝動性や不安定さ等心の変化について、気持ちを落ち着ける方法を考え、それらを表現することができる。（思考力、判断力、表現力等）
- ・ 心と体を一体として捉え、心身の健康の保持増進に向けて取り組むことができる。（学びに向かう力、人間性等）

##### （2）展開例

段階	主な学習内容・学習活動	○指導上の留意点 ◆評価
導入 (5分)	1 思春期における体の変化を発表する。	○小・中学部で使用した視覚支援教材等を活用し、既習内容を振り返る。
展開 (35分)	体の変化がもたらす心への影響について知ろう	
	2 体の変化が起こる理由を知る。 ・脳の働き ・ホルモンの働き ・生活習慣 (栄養・睡眠・運動・休息等)	○脳の模型や視覚支援教材を用いて説明する。 ○生理的欲求について説明する。
	3 思春期における心の変化を知る。	○好意を持つ人ができたり、体の変化に不安や悩みを持ったり、葛藤や焦りが生じたり衝動性が高まったりすることを知らせる。

	<p>4 気持ちを落ち着ける方法を考える。</p> <p>&lt;予想される反応&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・好きな音楽を聴く。</li> <li>・温かい飲み物を飲む。</li> <li>・大きな声で歌う。</li> <li>・体を動かす。</li> <li>・ペットと触れ合う。 等</li> </ul>	<p>◆【知識・技能】</p> <p>体や心の変化には個人差があることを理解している。</p> <p>○思春期までには見られなかった性欲等の感情を可視化し、提示する。</p> <p>○規則正しい生活を送ることや呼吸を整えるなど、自律神経を整えることが心の安定につながることを可視化し、提示する。</p> <p>◆【思考・判断・表現】</p> <p>気持ちを落ち着ける方法について考えたことを発表している。</p>
まとめ（10分）	<p>5 本時の振り返りをする。</p> <p>6 次時の内容を確認する。</p>	<p>○心（気持ち）が体に影響を与えた経験を振り返り、ワークシートに記入しておくよう知らせる。</p>

## 6 指導のポイント

思春期は、衝動性が高まる一方で、行動をコントロールする力は発達の上にある。そのため、危険で向こう見ずな行動や暴力、好奇心から喫煙、飲酒、薬物乱用、性の逸脱行動につながることもある。また、悩みやストレスにうまく対処できず、うつ状態に陥ることもある。このように思春期は、心身ともに不安定であることを理解した上で、気持ちを落ち着ける方法を身に付ける方法とともに、自分一人で抱え込まず、周囲の人に伝えることの大切さを指導することが重要である。

## 指導事例 8 生涯を通じる健康

対象：高等部 2 段階

教科等：保健体育科

### ★教育課程上の位置付け

保健体育科

#### 特別支援学校高等部学習指導要領

##### I 保健

健康・安全に関する事項について、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 心身の発育・発達、傷害の防止及び疾病の予防等の理解を深めるとともに、健康で安全な個人生活及び社会生活を営むための目的に応じた技能を身に付けること。

イ 健康・安全に関わる自他の課題を発見し、よりよい解決のために仲間と思考し判断したことを、目的や状況に応じて他者に伝えること。

#### 高等学校学習指導要領

(3) 生涯を通じる健康について、自他や社会の課題を発見し、その解決を目指した活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 生涯を通じる健康について理解を深めること。

##### (ア) 生涯の各段階における健康

生涯を通じる健康の保持増進や回復には、生涯の各段階の健康課題に応じた自己の健康管理及び環境づくりが関わっていること。

イ 生涯を通じる健康に関する情報から課題を発見し、健康に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し判断するとともに、それらを表現すること。

### 1 単元の目標

- (1) 生涯にわたって心身の健康の保持増進を図るためには、正しい知識を身に付け、自己管理することが大切であることを理解できるようにする。
- (2) 卒業後の生き方について、ライフイベントのうち、結婚・妊娠・出産について自らに引き寄せて考えることができるようにする。
- (3) パートナーとの生活を健康に過ごすために、良好な人間関係を築き家族や周りの人からの支援を受けながら、保健・医療サービスを活用しようとする態度を身に付けることができるようにする。

### 2 単元について

人生においては、個人差はあるものの、就学、就職、結婚、出産、育児等の様々な出来事が起こる。生涯を人生の段階に分けたものをライフステージといい、各段階において健康との関わりを踏まえて自分のライフプランを考えることは、生涯を通じて健康で安全な生活を送ることにかかわってくる。

本単元では、各段階における性に関する課題として、妊娠・出産、卒業後の恋愛やパートナーとの生活を取り上げ、正しい知識を身に付け、適切に意思決定や行動選択

ができるようにする。また、保健・医療サービスについても具体例を示しながら知らせることで、必要に応じて活用するよう促す。その際、性に関する課題を前向きに捉え、交際をしたり、家庭生活に関心を持ったりすることができる態度を身に付けさせたい。

### 3 単元計画

時	学習内容
1	ライフステージと健康 ○卒業後のライフプランを考えるとともに、各ライフステージにおける健康課題について知ること。
2	男女の体と心の健康 ○女性や男性の体の仕組みについて知るとともに、同世代の月経や射精の悩みについて考えること。
3	妊娠・出産と健康① ○妊娠の成立、胎児が成長する過程、出産の仕組みについて知ること。
4 (本時)	妊娠・出産と健康② ○妊娠中の健康課題を知り、解決方法や健康な過ごし方について考えるとともに、母子保健サービスを知り、活用できるようにすること。

### 4 本時の指導（全4時間中の4時間目）

#### (1) 目標

- ・ 妊娠中の健康課題について理解することができる。（知識及び技能）
- ・ 胎児と母体の健康を守るための方法を考え、行動することができる。（思考力、判断力、表現力等）
- ・ 自分の家族を持つことや妊娠に伴う悩みや不安を解決するために、信頼のおける人に相談したり、保健サービスを活用したりすることができる。（学びに向かう力、人間性等）

#### (2) 展開例

段階	主な学習内容・学習活動	○指導上の留意点 ◆評価
導入 (5分)	1 前時の学習を振り返る。 2 本時の学習活動を知る。	○胎児が大きくなる様子を提示する。 ○作成した自分のライフプランを確認させる。
展開 (40分)	3 妊娠中の健康課題を学習し、どのように行動すれば健康に過ごすことができるのかを考える。	○妊娠中の胎児の様子、母体に現れる変化や健康課題を時系列にまとめて提示する。

	<p>4 自分の住んでいる市町村の活用できる母子保健サービスを調べ、発表する。</p>	<p>◆【知識・技能】 母体の健康が胎児の成長に影響することを理解している。</p> <p>○タブレット端末を活用する。</p> <p>○病院・保健センターの場所やサービスの内容、必要な届けなどを学習できるようワークシートを用いる。</p> <p>○公的な機関だけでなく、民間機関や医療機関などからも健康情報が提供されていることを知らせる。</p>
<p>まとめ (5分)</p>	<p>5 本時の学習を振り返りまとめをする。</p>	<p>◆【主体的に学習に取り組む態度】 困った時や、悩みや不安がある時は一人で悩まず、どうすればよいかを理解し、相談しようとしている。</p>

## 5 指導のポイント

妊娠・出産に関する内容を取り扱うため、授業を行うに当たっては、授業内容について事前に保護者と連携し、情報を共有するとともに、生徒の実態によっては、適切な指導内容を設定し個別指導につなげる。その際、望まない妊娠を防ぐためには避妊が必要であることについて指導しておくことも必要である。



# 關係機關



# 事業名 思春期におけるピア・エデュケーション事業

対象：高校生等

和歌山県

## ★事業の目的

和歌山県では、学校との協働により、性についての正しい選択により予期せぬ妊娠や性感染症を防ぐための健康教育に取り組んでいる。

- ・思春期から性に関する正しい知識を学び、仲間同士で伝達し、正しい予防行動を起こすことで若年者の予期せぬ妊娠や性感染症を防ぐこと。
- ・将来の妊娠のために、思春期から妊娠・出産に関する正しい知識を普及・啓発すること。

## 1 題材について

### (1) 「性」に関する基本的な考え方

「性」を人間の身体としての性や性行動としてのみ捉えるのではなく、他人との人間的なつながり、思いやり、友情、愛情など、人それぞれの社会的・心理的な側面を含めた幅広い概念で捉えている。

### (2) 「性」の健康づくりにおける目標

学校・地域等様々な機会を捉えて性に関する教育を行うことで、次世代を担う子供達の生命を尊重できる豊かな人間形成を促していきたいと考えている。具体的には、男女の性差を理解し、相手に対する思いやりをもち、責任ある意志決定や性行動により、予期せぬ妊娠や性感染症を防ぐことを目指している。

また、様々な体験学習とグループワーク等の経験を踏まえて、家族のあり方を考え、生命を尊ぶところをもち、性に関する情報や産業が氾濫する現代社会においても、正しい選択ができる社会人へ成長することを目指している。

## 2 展開例（所要時間 90 分）

※ 設定時間や内容については、学校と打合せをして決定する。

段階	内容	主な学習内容・学習活動
導入	目的の説明  自己紹介 約束事の 確認	○学校の挨拶（教諭） ○生徒に対して目的の説明 ・正しい性知識を持ち、命の大切さを知ってもらう。 ・学習した内容を友達や周りの人に伝えてほしい。 ○保健所のスタッフ自己紹介 ○今日の約束事について確認 ・話したくないことは話さなくてよい。 (無理はしない)



使用テキスト

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・お互いのプライバシーを守る。 (友達の話を外に漏らさない)</li> <li>・人の話をよく聞く。 (話の腰を折らない)</li> </ul> <p>*会場は、講義が聴きやすい配置にする。</p>
展開	講義	<ul style="list-style-type: none"> <li>○思春期の身体とこころ(思春期の身体、女の子の性、男の子の性)</li> <li>○妊娠のしくみ(妊娠の成立と細胞分裂、妊娠週数、妊娠の経過)</li> <li>○避妊(思春期に適した避妊について、緊急避妊について) <ul style="list-style-type: none"> <li>・避妊しなくてもいい安全日はない。</li> <li>・膣外射精は避妊にはならない。</li> <li>・カウパー液にも精子は含まれる。</li> <li>・コンドームの二重付けは厳禁</li> </ul> </li> <li>○人工妊娠中絶(人工妊娠中絶とは、人工妊娠中絶ができる期間等)</li> <li>○気を付けたいこと(デートDVの被害、ネット犯罪の被害、思春期うつ、ダイエット)</li> <li>○その他の悩みQ&amp;A(性同一性障害等)</li> <li>○性感染症について <ul style="list-style-type: none"> <li>・性感染症とは、セクシュアルネットワーク</li> <li>・主な性感染症(クラミジア、梅毒等)</li> </ul> </li> <li>○H I V / A I D S <ul style="list-style-type: none"> <li>・H I V / A I D Sとは、感染のしくみ、感染の予防、エイズの発症</li> <li>・検査について (保健所でH I V検査を無料・匿名で受けられること等)</li> </ul> </li> <li>○子宮頸がんの予防(原因、ワクチン、子宮がん検診について)</li> </ul>
	コンドームワーク	<p>コンドームは「避妊」と「性感染症予防」の効果がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コンドームの選び方・持ち歩き方、コンドームの正しい使い方</li> <li>*前でスタッフ一人が実際に見せる。</li> <li>・男性用コンドーム装着実技 (ペニスの模型、男性用コンドーム使用)</li> <li>*嫌がる生徒には無理にさせない。</li> </ul>
	グループワーク	<ul style="list-style-type: none"> <li>○テーマ <ul style="list-style-type: none"> <li>・コンドーム交渉術 「つけて！」って説得できるようになる。</li> <li>その他、いろいろやってみよう。</li> </ul> </li> <li>・愛情表現ワーク コミュニケーションや触れ合いについて考える。</li> </ul>

		<p>愛情表現の手段は、性行為に限らず他にたくさんあることに気付くようにする。</p> <p>*生徒の意見を認め、ほめるようにする。</p>
ま と め	全体まとめ	<p>○将来のライフプランについて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・妊孕性について、妊娠・出産には、タイムリミットがある。</li> </ul> <p>○全体のまとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・性行為は男女のコミュニケーションとしての意味もあるが、愛情表現は性行為だけではない。</li> <li>・自分の身体、命を大切に、相手への思いやりの気持ちを忘れない。</li> <li>・自分の行動に責任を持つこと。</li> <li>・今日の学びを、他の生徒にも伝えてもらうことを願います。</li> </ul> <p>○思春期の相談窓口の紹介</p>
	アンケート	<p>○生徒にアンケートを記入してもらう。</p>



**Q & A**





**Q 1 : 小学校低学年で性器の名称はどのように教えるとよいでしょうか。**

性器の名称は、小学校4年生の体育科「体の発育・発達」において、初経や精通を理解させるために教科書で扱われています。平成17年度から教科書の性器の名称は、「ペニス」、「ワギナ」から「いんけい」、「ちつ」という表記になりました。

小学校低学年においては、集団指導で性器の名称まで学習する必要はなく、まだ幼児語等で名称を限定しても差し支えありません。

**Q 2 : 学校において、コンドームについての指導の取扱いはどのようにしたらよいでしょうか。**

中学校学習指導要領解説保健体育編では、保健分野の内容「健康な生活と疾病の予防」の「感染症の予防」の中の「エイズ及び性感染症の予防」で、「エイズの病原体はヒト免疫不全ウイルス（HIV）であり、その主な感染経路は性的接触であることから、感染を予防するには性的接触をしないこと、コンドームを使うことなどが有効であることにも触れるようにする。」ということが示されています。しかしながら、コンドームの着脱の仕方や性的接触についての内容は、学習指導要領には示されていません。中学生期の性的接触についての意識やコンドームに対する知識や意識は個人差が大きく、かつ保護者の意識も多様化しているので、集団指導による一律の実習や指導は適切とはいえません。

**Q 3 : 学校における性に関する指導で、性交についてはどのように取り扱えばよいでしょうか。**

小学校の学習指導要領及び同解説において「性交」は示されておらず、小学校の集団指導で「性交」を扱うことは、発達の段階からみて適切ではないと言えます。中学校の学習指導要領及び同解説においても「性交」は示されていませんが、同解説保健体育編において第3学年「感染症の予防」のところで「性的接触」という概念が出てきます。これは性交をはじめとして多様な性行動を含む概念といえます。高等学校の学習指導要領及び同解説いずれにおいても「性交」や「性的接触」は示されていませんが、教科書では「現代の感染症とその予防」や「結婚生活と健康」において「性交」や避妊が取り扱われています。

近年、性感染症予防の観点から、中学校及び高等学校では、多様な性行動を含んだ概念である「性的接触」を踏まえた指導が望まれます。このようなことから、「性交」や「性的接触」を取り扱う指導に当たっては、その内容について、単元のねらいや生徒の実態に応じて集団指導と個別指導の内容を十分に検討することが必要であり、人間尊重の精神に基づく男女相互の理解と協力やよりよい人間関係の在り方などと結び付けて指導していくことが大切です。

#### Q 4 : 性に関する個別指導及び集団指導はどのように考えたらよいでしょうか。

個別指導は、①集団の指導では十分でない点について、深化、補充を図るとともに、個別化を図るための指導、②性に関する悩みがある児童生徒を対象として問題行動等の早期発見や予防をねらいとする予防的な指導、③性の問題行動等を行った児童生徒や性的な被害を受けた児童生徒に対して、その立ち直りを支援する治療的な指導などがあります。

性に関する指導の具体的な実施に当たっては、個別指導と集団指導によって相互に補完することが必要です。

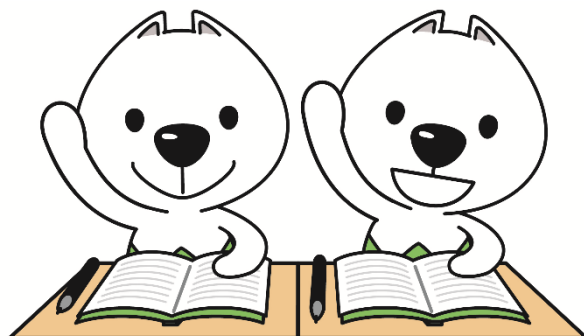
集団指導は、一つの集団が共通に身に付けるべき資質や能力を獲得するために効果的な方法です。集団指導の方法として、知識を教員が一方向的に解説するだけでなく、知識を生かして適切な意思決定や行動選択をすることができるように、ブレインストーミングやグループワーク、ロールプレイング、ディベート等の手法を用いることも有効です。

#### Q 5 : 個別指導と集団指導は、どのように関連付けて行えばよいでしょうか。

性に関する指導においては、教職員が事前に個別指導と集団指導の内容を整理しておくなど計画性を持って実施する必要があります。また、性的マイノリティや性被害・性暴力等の観点から、「集団指導において、誰かを傷付けているかもしれない」という認識を持って指導に当たることも重要です。

集団指導を実施するに当たっては、児童生徒一人一人の状況や授業前後の変化を把握しながら実施し、必要に応じて個別指導と関連付けることができるようあらかじめ学校保健計画や性に関する指導の全体計画に位置付けておきます。例えば、事前事後のアンケートで配慮が必要な児童生徒を把握することや学習後の到達度確認テスト等で十分な解答ができなかった児童生徒を確認し、状況に応じて組織的に個別指導等を実施することが考えられます。このようなことを想定して、組織的な取組となるよう、役割分担等を計画しておくことが大切です。

その際、家庭や関係機関等との連携を視野に入れ、理解や協力を得て取り組む必要があります。



## Q6：個別指導、集団指導を実施する上で留意しておくことがありますか。

個別指導での留意点は、児童生徒のプライバシーを保護することや、学校としての指導方針を明確にし、内容や方法等についての共通理解が得られるよう指導を行うことです。個別指導の時間の設定や場所の確保、役割分担等についても、可能な限り計画的、組織的に指導を進めます。個別指導を適切に実施するには、プライバシーに配慮しながらアンケート等を記名式で実施することも有効です。

特に、プライバシーに関しては、資料の取扱い等についてきめ細やかに配慮し、秘密の保持に万全の注意を払う必要があります。特定の児童生徒についての指導方針を検討するに当たっては、教員間の連携を図りつつ指導を行うことが大切であり、管理職への報告は欠かせません。

また、家庭との連絡を密にすることはもちろん、必要に応じて関係機関等との連携が必要な場合もありますが、このような場合にも、原則的に児童生徒本人の了承を得ることが大切です。とりわけ性の問題は、体の発育・発達の問題や男女間の問題等他人に知られたくない内容が多いため、教員は、児童生徒が相談しやすいように、日頃から児童生徒との信頼関係を築いておくことが大切です。

集団での指導において、内容によっては児童生徒が心を開くことに抵抗を示すことも少なくありません。指導の内容に応じて、編成を工夫した小グループによる話し合い活動等、小さな単位を対象とする指導も必要です。一人一人が主体的に学び、適切な意思決定や行動選択ができる力を身に付けられるようブレインストーミングやグループワークなどの手法を用いることも有効です。

## Q7：性に関する指導において、家庭・地域・関係機関との連携をどのように進めたらよいでしょうか。

学校が性に関する指導を実施するに当たり、保護者の理解と協力が必要であることは言うまでもありません。学校での取組内容を保護者や関係機関等に周知し共有することにより、連携体制の構築に努めましょう。

家庭との連携においては、学校だよりや保健だより等を通して、時期を捉えて性に関する内容を取り上げるなど、保護者への情報提供や啓発を行ったり、授業実施前後に発行する学級だより等に学習内容等を掲載し、保護者からの返信欄を設け、双方向のコミュニケーションを図ったりする工夫も有効であると考えます。また、個々の児童生徒の状況に応じて、保護者との個別面接等により連携が重要となる場合も考えられます。

さらに、地域における関係機関や組織等との連携も重要です。学校外の人材の活用は、性に関する指導の効果的な推進に大変有効です。各機関等と連携を図った指導をする場合は、事前に十分に打合せを行い、学校における「性に関する指導の全体計画」に基づいた指導内容を適切に実施できるよう調整することが必要です。



# 参 考 情 報



学習指導要領及び学習指導要領解説について

○ 小学校 体育科保健領域（第3学年）

G 保健

(1) 健康な生活

健康な生活について、課題を見付け、その解決を目指した活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 健康な生活について理解すること。

- (イ) 毎日を健康に過ごすには、運動、食事、休養及び睡眠の調和のとれた生活を続けること、また、体の清潔を保つことなどが必要であること。

(イ) 1日の生活の仕方

健康の保持増進には、1日の生活の仕方が深く関わっており、1日の生活のリズムに合わせて、運動、食事、休養及び睡眠をとることが必要であることを理解できるようにする。その際、日常生活に運動を取り入れることの大切さについても触れるようにする。

また、手や足などの清潔、ハンカチや衣服などの清潔を保つことが必要であることを理解できるようにする。

○ 小学校 体育科保健領域（第4学年）

G 保健

(2) 体の発育・発達

体の発育・発達について、課題を見付け、その解決を目指した活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 体の発育・発達について理解すること。

- (イ) 体は、思春期になると次第に大人の体に近づき、体つきが変わったり、初経、精通などが起こったりすること。また、異性への関心が芽生えること。

(イ) 思春期の体の変化

㊦ 思春期には、体つきに変化が起こり、人によって違いがあるものの、男子はがっしりした体つきに、女子は丸みのある体つきになるなど、男女の特徴が現れることを理解できるようにする。

㊧ 思春期には、初経、精通、変声、発毛が起こり、また、異性への関心も芽生えることについて理解できるようにする。さらに、これらは、個人差があるものの、大人の体に近づく現象であることを理解できるようにする。

なお、指導に当たっては、発達の段階を踏まえること、学校全体で共通理解を図ること、保護者の理解を得ることなどに配慮することが大切である。

○ 小学校 体育科保健領域（第5学年）

G 保健

(1) 心の健康

心の健康について、課題を見付け、その解決を目指した活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 心の発達及び不安や悩みへの対処について理解するとともに、簡単な対処をすること。

- (イ) 不安や悩みへの対処には、大人や友達に相談する、仲間と遊ぶ、運動をするなどいろいろな方法があること。

(ウ) 不安や悩みへの対処

不安や悩みがあるということは誰もが経験することであり、そうした場合には、家族や先生、友達などと話したり、相談したりすること、仲間と遊ぶこと、運動をしたり音楽を聴いたりすること、呼吸法を行うなどによって気持ちを楽にしたり、気分を変えたりすることなど様々な方法があり、自分に合った適切な方法で対処できることを理解できるようにする。その際、自己の心に不安や悩みがあるという状態に気付くことや不安や悩みに対処するために様々な経験をすることは、心の発達のために大切であることにも触れるようにする。

不安や悩みへの対処として、体ほぐしの運動や深呼吸を取り入れた呼吸法などを行うことができるようにする。

○ 小学校 体育科保健領域（第5学年）

G 保健

(2) けがの防止

けがの防止について、課題を見付け、その解決を目指した活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア けがの防止について理解するとともに、けがなどの簡単な手当をすること。

(ア) 交通事故や身の回りの生活の危険が原因となって起こるけがの防止には、周囲の危険に気付くこと、的確な判断の下に安全に行動すること、環境を安全に整えることが必要であること

(ア) 交通事故や身の回りの生活の危険が原因となって起こるけがとその防止

㊦ 毎年多くの交通事故や水の事故が発生し、けがをする人や死亡する人が少なくないこと、また、学校生活での事故や、犯罪被害が発生していることを理解できるようにするとともに、これらの事故や犯罪、それらが原因となるけがなどは、人の行動や環境が関わって発生していることを理解できるようにする。

㊧ 交通事故や身の回りの生活の危険が原因となって起こるけがを防止するためには、周囲の状況をよく見極め、危険に早く気付いて、的確な判断の下に安全に行動することが必要であることを理解できるようにする。その際、交通事故の防止については、道路を横断する際の一時停止や右左の安全確認などを、学校生活の事故によるけがの防止については、廊下や階段の歩行の仕方、運動場などでの運動や遊び方などを、犯罪被害の防止については、犯罪が起りやすい場所を避けること、犯罪に巻き込まれそうになったらすぐに助けを求めることなどを取り上げるようにする。なお、心の状態や体の調子が的確な判断や行動に影響を及ぼすことについても触れるようにする。

㊨ 交通事故、水の事故、学校生活の事故や、犯罪被害の防止には、危険な場所の点検などを通して、校舎や遊具など施設・設備を安全に整えるなど、安全な環境をつくることが必要であることを理解できるようにする。その際、通学路や地域の安全施設の改善などの例から、様々な安全施設の整備や適切な規制が行われていることにも触れるようにする。



○ 小学校 体育科保健領域（第6学年）

G 保健

(3) 病気の予防

病気の予防について、課題を見付け、その解決を目指した活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 病気の予防について理解すること。

(1) 病原体が主な要因となって起こる病気の予防には、病原体が体に入るのを防ぐことや病原体に対する体の抵抗力を高めることが必要であること。

(1) 病原体が主な要因となって起こる病気の予防

病原体が主な要因となって起こる病気として、インフルエンザ、麻疹、風疹、結核などを適宜取り上げ、その予防には、病原体の発生源をなくしたり、移る道筋を断ち切ったりして病原体が体に入るのを防ぐこと、また、予防接種や適切な運動、食事、休養及び睡眠をとることなどによって、体の抵抗力を高めておくことが必要であることを理解できるようにする。

○ 中学校 保健体育科保健分野（第1学年）

2 内容

(2) 心身の機能の発達と心の健康

心身の機能の発達と心の健康について、課題を発見し、その解決を目指した活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 心身の機能の発達と心の健康について理解を深めるとともに、ストレスへの対処をすること。

(イ) 思春期には、内分泌の働きによって生殖に関わる機能が成熟すること。また、成熟に伴う変化に対応した適切な行動が必要となること。

(I) 精神と身体は、相互に影響を与え、関わっていること。欲求やストレスは、心身に影響を与えることがあること。また、心の健康を保つには、欲求やストレスに適切に対処する必要があること。

【内容の取扱い】

妊娠や出産が可能となるような成熟が始まるという観点から、受精・妊娠を取り扱うものとし、妊娠の経過は取り扱わないものとする。また、身体の機能の成熟とともに、性衝動が生じたり、異性への関心が高まったりすることなどから、異性への尊重、情報への適切な対処や行動の選択が必要となることについて取り扱うものとする。

(イ) 生殖にかかわる機能の成熟

思春期には、下垂体から分泌される性腺刺激ホルモンの働きにより生殖器の発育とともに生殖機能が発達し、男子では射精、女子では月経が見られ、妊娠が可能となることを理解できるようにする。また、身体的な成熟に伴う性的な発達に対応し、個人差はあるものの、性衝動が生じたり、異性への関心などが高まったりすることなどから、異性の尊重、性情報への対処など性に関する適切な態度や行動の選択が必要となることを理解できるようにする。

なお、指導に当たっては、発達の段階を踏まえること、学校全体で共通理解を図ること、保護者の理解を得ることなどに配慮することが大切である。

(I) 欲求やストレスへの対処と心の健康

㊦ 精神と身体の間わり

精神と身体には、密接な関係があり、互いに様々な影響を与え合っていることを理解できるようにする。また、心の状態が体にあらわれたり、体の状態が心にあらわれたりするのは、神経などの働きによることを理解できるようにする。例えば、人前に出て緊張したときに脈拍が速くなったり口が渇いたりすること、身体に痛みがあるときに集中できなくなったりすることなどを適宜取り上げる。

㊧ 欲求やストレスとその対処

心の健康を保つには、適切な生活習慣を身に付けるとともに、欲求やストレスに適切に対処することが必要であることを理解できるようにする。欲求には、生理的な欲求と心理的、社会的な欲求があること、また、精神的な安定を図るには、日常生活に充実感をもてたり、欲求の実現に向けて取り組んだり、欲求が満たされないときに自分や周囲の状況からよりよい方法を見つけたりすることなどがあることを理解できるようにする。ここでいうストレスとは、外界からの様々な刺激により心身に負担がかかった状態であることを意味し、ストレスの影響は原因そのものの大きさとそれを受け止める人の心や身体の状態によって異なること、個人にとって適度なストレスは、精神発達上必要なものであることを理解できるようにする。

その際、過度なストレスは、心身の健康や生命に深刻な影響を与える場合があることに触

れるようにする。

ストレスへの対処にはストレスの原因となる事柄に対処すること、ストレスの原因についての受け止め方を見直すこと、友達や家族、教員、医師などの専門家などに話を聞いてもらったり、相談したりすること、コミュニケーションの方法を身に付けること、規則正しい生活をするなどいろいろな方法があり、それらの中からストレスの原因、自分や周囲の状況に応じた対処の仕方を選ぶことが大切であることを理解できるようにする。

また、リラクゼーションの方法等を取り上げ、ストレスによる心身の負担を軽くするような対処の方法ができるようにする。

○ 中学校 保健体育科保健分野（第2学年）

2 内容

(3) 傷害の防止

傷害の防止について、課題を発見し、その解決を目指した活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 傷害の防止について理解を深めるとともに、応急手当をすること。

(イ) 交通事故などによる傷害の多くは、安全な行動、環境の改善によって防止できること。

(イ) 交通事故などによる傷害の防止

交通事故などによる傷害を防止するためには、人的要因や環境要因に関わる危険を予測し、それぞれの要因に対して適切な対策を行うことが必要であることを理解できるようにする。人的要因に対しては、心身の状態や周囲の状況を把握し、判断して、安全に行動すること、環境要因に対しては、環境を安全にするために、道路などの交通環境などの整備、改善をすることがあることなどについて理解できるようにする。また、交通事故を防止するためには、自転車や自動車の特性を知り、交通法規を守り、車両、道路、気象条件などの周囲の状況に応じ、安全に行動することが必要であることを理解できるようにする。

その際、自転車事故を起こすことによる加害責任についても触れるようにする。

なお、必要に応じて、通学路を含む地域社会で発生する犯罪が原因となる傷害とその防止について取り上げることに配慮するものとする。

○ 中学校 保健体育科保健分野（第3学年）

2 内容

(1) 健康な生活と疾病の予防

健康な生活と疾病の予防について、課題を発見し、その解決を目指した活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 健康な生活と疾病の予防について理解を深めること。

(オ) 感染症は、病原体が主な要因となって発生すること。また、感染症の多くは、発生源をなくすこと、感染経路を遮断すること、主体の抵抗力を高めることによって予防できること。

【内容の取扱い】

後天性免疫不全症候群（エイズ）及び性感染症について取り扱うこと。

(オ) 感染症の予防

⑦ 感染症の予防

感染症は、病原体が環境を通じて主体へ感染することで起こる疾病であり、適切な対策を

講ずることにより感染のリスクを軽減することができることを、例えば、結核、コレラ、ノロウイルスによる感染性胃腸炎、麻疹、風疹などを適宜取り上げ理解できるようにする。

病原体には、細菌やウイルスなどの微生物があるが、温度、湿度などの自然環境、住居、人口密度、交通などの社会環境、また、主体の抵抗力や栄養状態などの条件が相互に複雑に関係する中で、病原体が身体に侵入し、感染症が発病することを理解できるようにする。その際、病原体の種類によって感染経路が異なることにも触れるものとする。

感染症を予防するには、消毒や殺菌等により発生源をなくすこと、周囲の環境を衛生的に保つことにより感染経路を遮断すること、栄養状態を良好にしたり、予防接種の実施により免疫を付けたりするなど身体の抵抗力を高めることが有効であることを理解できるようにする。また、感染症にかかった場合は、疾病から回復することはもちろん、周囲に感染を広げないためにも、できるだけ早く適切な治療を受けることが重要であることを理解できるようにする。

#### ① エイズ及び性感染症の予防

エイズ及び性感染症の増加傾向と青少年の感染が社会問題になっていることから、それらの疾病概念や感染経路について理解できるようにする。また、感染のリスクを軽減する効果的な予防方法を身に付ける必要があることを理解できるようにする。例えば、エイズの病原体はヒト免疫不全ウイルス（HIV）であり、その主な感染経路は性的接触であることから、感染を予防するには性的接触をしないこと、コンドームを使うことなどが有効であることにも触れるようにする。

なお、指導に当たっては、発達の段階を踏まえること、学校全体で共通理解を図ること、保護者の理解を得ることなどに配慮することが大切である。

○ 高等学校 保健体育科 科目保健（入学年次又はその次の年次）

2 内容

(1) 現代社会と健康

現代社会と健康について、自他や社会の課題を発見し、その解決を目指した活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 現代社会と健康について理解を深めること。

(イ) 現代の感染症とその予防

感染症の発生や流行には、時代や地域によって違いがみられること。その予防には、個人の取組及び社会的な対策を行う必要があること。

(オ) 精神疾患の予防と回復

精神疾患の予防と回復には、運動、食事、休養及び睡眠の調和のとれた生活を実践するとともに、心身の不調に気付くことが重要であること。また、疾病の早期発見及び社会的な対策が必要であること。

(イ) 現代の感染症とその予防

感染症は、時代や地域によって自然環境や社会環境の影響を受け、発生や流行に違いが見られることを理解できるようにする。その際、交通網の発達により短時間で広がりやすくなっていること、また、新たな病原体の出現、感染症に対する社会の意識の変化等によって、腸管出血性大腸菌（O 157 等）感染症、結核などの新興感染症や再興感染症の発生や流行が見られることを理解できるようにする。

また、感染症のリスクを軽減し予防するには、衛生的な環境の整備や検疫、正しい情報の発信、予防接種の普及など社会的な対策とともに、それらを前提とした個人の取組が必要であることを理解できるようにする。その際、エイズ及び性感染症についても、その原因、及び予防のための個人の行動選択や社会の対策について理解できるようにする。

(オ) 精神疾患の予防と回復

ア 精神疾患の特徴

精神疾患は、精神機能の基盤となる心理的、生物的、または社会的な機能の障害などが原因となり、認知、情動、行動などの不調により、精神活動が不全になった状態であることを理解できるようにする。

また、うつ病、統合失調症、不安症、摂食障害などを適宜取り上げ、誰もが罹患しうること、若年で発症する疾患が多いこと、適切な対処により回復し生活の質の向上が可能であることなどを理解できるようにする。

その際、アルコール、薬物などの物質への依存症に加えて、ギャンブル等への過剰な参加は習慣化すると嗜癖行動になる危険性があり、日常生活にも悪影響を及ぼすことに触れるようにする。

イ 精神疾患への対処

精神疾患の予防と回復には、身体健康と同じく、適切な運動、食事、休養及び睡眠など、調和のとれた生活を実践すること、早期に心身の不調に気付くこと、心身に起こった反応については体ほぐしの運動などのリラクゼーションの方法でストレスを緩和することなどが重要であることを理解できるようにする。

また、心身の不調時には、不安、抑うつ、焦燥、不眠などの精神活動の変化が、通常時より強く、持続的に生じること、心身の不調の早期発見と治療や支援の早期の開始によって回復可能性が高まることを理解できるようにする。その際、自殺の背景にはうつ病をはじめと

する精神疾患が存在することもあることを理解し、できるだけ早期に専門家に援助を求めることが有効であることにも触れるようにする。

さらに、人々が精神疾患について正しく理解するとともに、専門家への相談や早期の治療などを受けやすい社会環境を整えることが重要であること、偏見や差別の対象ではないことなどを理解できるようにする。

○ 高等学校 保健体育科 科目保健（入学年次又はその次の年次）

2 内容

(3) 生涯を通じる健康

生涯を通じる健康について、自他や社会の課題を発見し、その解決を目指した活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 生涯を通じる健康について理解を深めること。

(ア) 生涯の各段階における健康

生涯を通じる健康の保持増進や回復には、生涯の各段階の健康課題に応じた自己の健康管理及び環境づくりが関わっていること。

(ア) 生涯の各段階における健康

① 思春期と健康

思春期における心身の発達や性的成熟に伴う身体面、心理面、行動面などの変化に関わり、健康課題が生じることがあることを理解できるようにする。その際、これらの変化に対応して、自分の行動への責任感や異性を理解したり尊重したりする態度が必要であること、及び性に関する情報等への適切な対処が必要であることを理解できるようにする。

なお、指導に当たっては、発達の段階を踏まえること、学校全体で共通理解を図ること、保護者の理解を得ることなどに配慮することが大切である。

② 結婚生活と健康

結婚生活について、心身の発達や健康の保持増進の観点から理解できるようにする。その際、受精、妊娠、出産とそれに伴う健康課題について理解できるようにするとともに、健康課題には年齢や生活習慣などが関わることについて理解できるようにする。また、家族計画の意義や人工妊娠中絶の心身への影響などについても理解できるようにする。また、結婚生活を健康に過ごすには、自他の健康に対する責任感、良好な人間関係や家族や周りの人からの支援、及び母子の健康診査の利用や保健相談などの様々な保健・医療サービスの活用が必要であることを理解できるようにする。

なお、妊娠のしやすさを含む男女それぞれの機能については、必要に応じ関連付けて扱う程度とする。

○ 高等学校 保健体育科 科目保健（入学年次又はその次の年次）

2 内容

(4) 健康を支える環境づくり

健康を支える環境づくりについて、自他や社会の課題を発見し、その解決を目指した活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 現代社会と健康について理解を深めること。

(ウ) 保健・医療制度及び地域の保健・医療機関

生涯を通じて健康を保持増進するには、保健・医療制度や地域の保健所、保健センター、医療機関などを適切に活用することが必要であること。

また、医薬品は、有効性や安全性が審査されており、販売には制限があること。疾病からの回復や悪化の防止には、医薬品を正しく使用することが有効であること

(ウ) 保健・医療制度及び地域の保健・医療機関

㊦ 我が国の保健・医療制度

我が国には、人々の健康を支えるための保健・医療制度が存在し、行政及びその他の機関などから健康に関する情報、医療の供給、医療費の保障も含めた保健・医療サービスなどが提供されていることについて理解できるようにする。

その際、介護保険、臓器移植、献血の制度があることについても適宜触れるようにする。

㊧ 地域の保健・医療機関の活用

健康を保持増進するためには、検診などを通して自己の健康上の課題を的確に把握し、地域の保健所や保健センターなどの保健機関、病院や診療所などの医療機関、及び保健・医療サービスなどを適切に活用していくことなどが必要であることについて理解できるようにする。

その際、心身の健康の保持増進にとって、豊かなスポーツライフの実現が重要であることから、生涯スポーツの実践を支える環境づくりやその活用についても触れるようにする。

㊨ 医薬品の制度とその活用

医薬品は、医療用医薬品、要指導医薬品、一般用医薬品の三つに大別され、承認制度によってその有効性や安全性が審査されており、販売に規制が設けられていることについて理解できるようにする。また、疾病からの回復や悪化の防止には、個々の医薬品の特性を理解した上で、使用法に関する注意を守り、正しく使うことが必要であることについて理解できるようにする。その際、副作用については、予期できるものと、予期することが困難なものがあることにも触れるようにする。

○ 小学校 特別活動（学級活動）

2 内容

(2) 日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全

ウ 心身ともに健康で安全な生活態度の形成

現在及び生涯にわたって心身の健康を保持増進することや、事件や事故、災害等から身を守り安全に行動すること。

ウ 心身ともに健康で安全な生活態度の形成

（略）…心身ともに健康で安全な生活態度の形成は、教育活動全体を通して総合的に推進するものであるが、学級活動においてもその特質を踏まえて取り上げる必要がある。この内容には、保健に関する指導と安全に関する指導の内容があることから、学校における特別活動の全体計画等と関連付けながら学校保健計画及び学校安全計画を作成し、効果的な指導が行われなければならない。また、授業時数に限りがあることから、学級活動「(2) ウ 心身ともに健康で安全な生活態度の形成」については、体育科、家庭科はもとより、各教科、総合的な学習の時間等とも関連を図りながら指導することが大切である。

保健に関する指導としては、心身の発育・発達、心身の健康を高める生活、健康と環境との関わり、病気の予防、心の健康などがある。これらの題材を通して、児童は、自分の健康状態について関心をもち、身近な生活における健康上の問題を見つけ、自分で判断し、処理する力や、心身の健康を保持増進する態度を養う。さらに、性や薬物等に関する情報の入手が容易になるなど、児童を取り巻く環境が大きく変化している。こうした課題を乗り越えるためにも、現在及び生涯にわたって心身の健康を自分のものとして保持し、健康で安全な生活を送ることができるよう、必要な情報を児童が自ら収集し、よりよく判断し行動する力を育むことが重要である。

なお、心身の発育・発達に関する指導に当たっては、発達の段階を踏まえ、学校全体の共通理解を図るとともに、家庭の理解を得ることなどに配慮する必要がある。また内容によっては、養護教諭などの協力を得て指導に当たる必要がある。

○ 中学校 特別活動（学級活動）

2 内容

(2) 日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全

イ 男女相互の理解と協力

男女相互について理解するとともに、共に協力し尊重し合い、充実した生活づくりに参画すること。

ウ 思春期の不安や悩みの解決、性的な発達への対応

心や体に関する正しい理解を基に、適切な行動をとり、悩みや不安に向き合い乗り越えようとする事。

イ 男女相互の理解と協力

（略）…具体的には、男女相互の理解と協力、人間の尊重と男女の平等、男女共同参画社会と自分の生き方などの題材を設定し、アンケートやインタビューを基にしたり、新聞やテレビ等の資料を参考にしたりして、話し合うなど活動の工夫を行うことが考えられる。

また、社会科、保健体育科、技術・家庭科、道徳科などの学習とも関連させ、共に充実した学校生活を築くような主体的な意識や態度を育成するとともに、家庭や社会における男女相互



の望ましい人間関係の在り方などについても、幅広く考えていくことが大切である。

なお、この内容については、性に関する指導との関連を図ることが重要であり、内容項目のウとして挙げている「性的な発達への対応」とも関連付けて、生徒の発達の段階や実態、心身の発育・発達における個人差などにも留意して、適時、適切な指導を行うことが必要である。加えて、生徒の発達の段階を踏まえることや教育の内容について学校全体で共通理解を図るとともに保護者の理解を得ること、事前に集団指導として行う内容と個別指導との内容を区別しておくなど、計画性をもって実施することが求められるところであり、適切な対応が必要である。

#### ウ 思春期の不安や悩みの解決、性的な発達への対応

(略) …具体的な活動の工夫として、自分が不安に感じること、悩みやその解決方法、身近な人の青年時代等の題材を設定し、生徒が自由に話し合ったり、先輩や身近な大人にインタビューして発表したり話し合ったりするなど様々な方法が考えられる。また、思春期の心と体の発育・発達、性情報への対応や性の逸脱行動に関すること、エイズや性感染症などの予防に関すること、友情と恋愛と結婚などについての題材を設定し、資料をもとにした話合いや、専門家の講話を聞くといった活動が考えられる。なお、保健体育（保健分野）をはじめとした各教科、道徳科等の学習との関連、学級活動の他の活動との関連について学校全体で共通理解した上で、教育の内容や方法について保護者の理解を得ることが重要である。

また、思春期の心と体の発達や性については、個々の生徒の発達の段階や置かれた状況の差異が大きいことから、事前に、教職員が、集団指導と個別指導の内容を整理しておくなど計画性をもって実施する必要がある。また、指導の効果を高めるため養護教諭やスクール・カウンセラーなどの専門的な助言や協力を得ながら指導することも大切である。

#### ○ 高等学校 特別活動（ホームルーム活動）

##### 2 内容

##### (2) 日常生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全

##### イ 男女相互の理解と協力

男女相互について理解するとともに、共に協力し尊重し合い、充実した生活づくりに参画すること。

##### オ 生命の尊重と心身ともに健康で安全な生活態度や規律ある習慣の確立

節度ある健全な生活を送るなど現在及び生涯にわたって心身の健康を保持増進することや、事件や事故、災害等から身を守り安全に行動すること。

#### イ 男女相互の理解と協力

高校生の時期は、身体的にほぼ成熟し、男女それぞれの性的な特徴が明確になってくる。それにつれて、異性への関心も高まり、異性との交友を望むようになり、意識する異性の対象がかなり特定化される傾向も強まってくる。(略) …具体的には、男女相互の理解と協力、人間の尊重と男女の平等、男女共同参画社会と自分の生き方などの題材を設定し、アンケートやインタビューを基にしたり、新聞やテレビ等の資料を参考にしたりして、話し合うなど活動の工夫を行うことが考えられる。

なお、「男女相互の理解と協力」については、性に関する指導との関連を図ることが大切である。性に関する指導については、青少年の性意識の変化、性モラルの低下などが指摘されていることを十分に考慮し、特別活動全体を通して行う人間としての在り方生き方に関する指導との関連を重視するとともに、特に、保健体育科の「保健」との関連を図り、心身の発育・発

達における個人差にも留意して、生徒の実態に基づいた指導を行うことが大切である。

オ 生命の尊重と心身ともに健康で安全な生活態度や規律ある習慣の確立

(略) …また、性に対する正しい理解を基盤に、身体的な成熟に伴う性的な発達に対応し、適切な行動がとれるように指導することも大切であり、性的情報の氾濫する現代社会において、自己の行動に責任をもって生きることの大切さや、人間尊重の精神に基づく男女相互のよりよい人間関係の在り方などと結び付けて指導していくことが重要である。

(略) …なお、心身の健康と安全に関わる指導は、学校教育全体を通じて行われる保健や安全に関する指導等との関連を図る必要があり、教職員の共通理解を図るとともに、保護者や地域の理解と協力を得ながら実施することも必要である。内容によっては、養護教諭や関係団体などの協力を得ながら指導することも大切である。

## 和歌山県性に関する指導の手引作成委員会

### ○「性に関する指導の手引」作成委員（五十音順）

池田 八主雄	かつらぎ町教育委員会教育長
入駒 一美	作成委員会座長：東京医療保健大学和歌山看護学部教授
内川 さやか	和歌山県立南部高等学校校長
岡田 亜紀	菱岡工業株式会社代表取締役
奥田 美和子	和歌山県子ども・女性・障害者相談センター女性相談課主任
尾崎 有希子	和歌山市立河西中学校教諭（令和3年度）
木下 智弘	和歌山県医師会理事（学校医会長）
倉嶋 麻理奈	NPO法人チーム紀伊水道理事長
中畑 朋美	和歌山県立向陽中学校養護教諭
根来 孝夫	和歌山県医師会産婦人科医
林 千景	和歌山県福祉保健部健康局健康推進課母子保健班長（令和4年度）
平井 佳津	和歌山県福祉保健部健康局健康推進課母子保健班長（令和3年度）
藤本 眞利子	和歌山県議会議員
宮崎 泉	和歌山県教育委員会教育長

### ○性に関する指導の手引作成委員会ワーキング・グループ（五十音順）

小河 亜由子	和歌山市立楠見中学校教諭
神谷 絵美	和歌山県立和歌山盲学校養護教諭
北岡 大輔	和歌山大学教育学部附属特別支援学校教諭
高井 佑季	かつらぎ町立妙寺小学校養護教諭
戸田 糸保	和歌山県立箕島高等学校養護教諭
中畑 朋美	和歌山県立向陽中学校養護教諭
本岡 智里	和歌山県立紀北支援学校養護教諭
森脇 拓也	岩出市立根来小学校教諭
山崎 涼子	和歌山県立紀央館高等学校教諭
山本 奈津子	和歌山県立南部高等学校養護教諭

### ○和歌山県教育庁

（令和4年度）

川口 勝也	学校教育局教育支援課長（令和4年度）
西川 展子	学校教育局教育支援課副課長
鎌田 敦子	学校教育局教育支援課健康教育・食育班長
野田 裕子	学校教育局教育支援課指導主事
橋爪 信也	生涯学習局スポーツ課生涯スポーツ班長
増野 彰	生涯学習局スポーツ課指導主事
小川 泰伸	生涯学習局スポーツ課指導主事
山田 充洋	生涯学習局スポーツ課指導主事

（令和3年度）

青石 雅光	学校教育局教育支援課長（令和3年度）
大谷 清高	学校教育局教育支援課副課長
津村 孝幸	学校教育局教育支援課副課長
窪田 光利	学校教育局教育支援課主幹
稲垣 峰佳	学校教育局教育支援課健康教育班長
野田 裕子	学校教育局教育支援課指導主事





